高岡市埋蔵文化財調査報告第18冊

常国遺跡調査報告

―― 平成４・５年度、常国住宅団地造成事業に伴う調査 ――

2008年２月

高岡市教育委員会

序

高岡市域の南東側は、旧中田町の中田地域です。庄川水系の良質な水に恵まれ、歴史的遺産も多く、自然的条件も整った地域です。良田が開けたことより中田とされたとの伝承も肯けます。

奈良時代の中頃、大伴家持は越中国守として赴任し、天平20年春には部内巡行に出かけ、かつて雄神川と呼ばれた庄川あたりから神通川方向へ向かっています。交通路から推定して当地付近も通ったと想定されます。また、源平抗争期に戦乱の舞台となった般若野と当地とのかかわりが想定されます。

この地域の北東部、常国地区において、本市が住宅団地造成の計画を立案しました。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではありませんでしたが、文化財保護の立場より試掘調査を実施したところ、新たな遺跡が確認され「常国遺跡」と命名しました。

このため造成工事に先立って発掘調査を平成４・５年度の２箇年にわたり実施したところ、予想を超える数々の遺構、古墳や掘立柱建物址等が検出され、遺物も出土しました。

当地区も所属します砺波郡東部地区はこれまで古墳が所在しない地区とされてきましたが、この見解を覆すことになりました。また外形では窺えない平野部の埋もれた古墳の存在が注目されるに至りました。

奈良平安時代、中世の遺構では、掘立柱建物址や井戸址が検出されました。奈良平安時代については、古代荘園図に見える、砺波郡に設置された東大寺領荘園石粟荘との関連が論議を集めました。中世については、文献史料に見える徳大寺領般若荘に該当するものとの見解が出されました。

中田地域においては、これまで埋蔵文化財の発掘調査が実施されたことがなく、考古学的には重要視されてこなかった所です。この度の調査により、埋蔵文化財の面からも重要な所であることが認識されるに至りました。

最後になりましたが、長期間に亘るこの調査に御協力頂きました、関係各位、地元の皆様に感謝の意を表します。

平成20年２月

高岡市教育委員会
教育長　村井　和

例　言

1．本書は、常国住宅団地造成に伴う常国遺跡発掘調査の報告書である。

2．当調査は、高岡市建設部建築住宅課からの委託を受けて、高岡市教育委員会社会教育課が実施した。

3．調査地区は、富山県高岡市常国地内である。

4．現地調査は、平成４・５年度に実施した。

平成４年度：平成４年５月18日～同年12月18日

平成５年度：平成５年４月26日～同年９月30日

5．報告書作成作業は、平成11～13年度に行い、平成19年度に最終的な編集作業を実施した。担当は、組織改正により、文化財課である。

6．調査関係者は以下のとおりである。

［高岡市教育委員会社会教育課、平成４・５年度］

課長：野村一郎　　課長補佐：鹿島誠一（平成５年度）

文化係長：大石茂　　係員：牧長敏男、蒲田幸雄、山口辰一、榎木和代

［高岡市教育委員会文化財課、平成11～13年度］

課長：宮村勝博（平成11・12年度）、大石茂（平成13年度）

課長補佐：大石茂（平成11・12年度）

〈埋蔵文化財担当〉

主幹：石浦正雄（平成11年度）、天谷隆夫（平成12・13年度）

主査：山口辰一　　文化財保護主事：荒井隆

［高岡市教育委員会文化財課、平成19年度］

文化財課長：笹島千恵子

〈埋蔵文化財担当〉

主幹：本林弘吉　　副主幹：山口辰一　　主査：荒井隆

7．現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より御教示、御援助を得た。

〈順不同、敬称略〉

伊藤隆三、大橋康二、小島俊彰、西井龍儀、野原大輔、邑本順亮

8．個別的な指導・鑑定については、以下の通り御教示を得た。

岩石：邑本氏、縄文土器：小島氏、陶磁器：大橋氏

9．当調査及び本書の執筆は、山口が担当した。

凡　例

1．本書における遺構記号は、以下の通りである。

ＳＡ－柵址、ＳＢ－掘立柱建物址、ＳＤ－溝、ＳＥ－井戸址、ＳＩ－竪穴建物址

ＳＫ－土坑、ＳＰ－ピット、ＳＸ－凹地、ＳＺ－古墳

2．現地調査が実施された時の座標は日本測地系（旧座標）であるが、整理編集段階において座標変換ソフトを使用して世界測地系（新座標）に変換し記載した。

高岡市埋蔵文化財調査報告第18冊

常国遺跡調査報告

目　　次

序

例　言・凡　例

目　次

第１章　序　　説 …… 1

第１節　遺跡概観 …… 1

第２節　調査概観 …… 8

第２章　遺　　構 …… 13

第１節　古　　墳 …… 13

第２節　掘立柱建物址 …… 16

第３節　竪穴建物址 …… 19

第４節　柵　　址 …… 20

第５節　井戸址 …… 20

第６節　土　　坑 …… 21

第７節　溝 …… 22

第８節　その他の遺構 …… 22

第３章　遺　　物 …… 23

第１節　縄文土器 …… 23

第２節　古墳時代の土器 …… 23

第３節　奈良平安時代の土器類 …… 24

第４節　中世の土器類 …… 28

第５節　近世の陶磁器 …… 30

第６節　その他の遺物 …… 31

第４章　総　　括 …… 33

図　面　目　次

図面01　遺構実測図　調査地区全体図（１／600）
図面02　遺構実測図　調査地区北側全体図（１／400）
図面03　遺構実測図　調査地区南側全体図（１／400）
図面04　遺構実測図　調査地区遺構配置図（１／600）
図面05　遺構実測図　調査地区遺構図〔１〕（１／200）
図面06　遺構実測図　調査地区遺構図〔２〕（１／200）
図面07　遺構実測図　調査地区遺構図〔３〕（１／200）
図面08　遺構実測図　調査地区遺構図〔４〕（１／200）
図面09　遺構実測図　調査地区遺構図〔５〕（１／200）
図面10　遺構実測図　調査地区遺構図〔６〕（１／200）
図面11　遺構実測図　調査地区遺構図〔７〕（１／200）
図面12　遺構実測図　調査地区遺構図〔８〕（１／200）
図面13　遺構実測図　調査地区遺構図〔９〕（１／200）
図面14　遺構実測図　１．古墳ＳＺ01実測図（１／100）
　　２．古墳ＳＺ01主体部出土遺物配置図（１／100）
　　３．古墳ＳＺ02主体部出土遺物配置図（１／100）
図面15　遺構実測図　古墳ＳＺ02実測図（１／100）
図面16　遺構実測図　古墳ＳＺ03実測図〔１〕（１／100）
図面17　遺構実測図　１．古墳ＳＺ03実測図〔２〕（１／100）
　　２．古墳ＳＺ03主体部出土遺物配置図（１／100）
図面18　遺構実測図　古墳ＳＺ04実測図（１／100、１／40）
図面19　遺構実測図　古墳ＳＺ05実測図（１／100、１／40）
図面20　遺構実測図　古墳ＳＺ06実測図（１／100、１／40）
図面21　遺構実測図　１．古墳ＳＺ07実測図（１／100、１／40）
　　２．古墳ＳＺ08実測図（１／100）
図面22　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ01実測図〔１〕（１／80、１／40）
図面23　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ01実測図〔２〕（１／40）
図面24　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ01（甲）実測図（１／100）
図面25　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ01（乙）実測図（１／100）
図面26　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔１〕（１／80）
図面27　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔２〕（１／80）
図面28　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔３〕（１／40）
図面29　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ03実測図（１／80）
図面30　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ04実測図（１／80）

図面31　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ05実測図（１／80）
図面32　遺構実測図　１．掘立柱建物址ＳＢ06実測図（１／80）
２．掘立柱建物址ＳＢ07実測図（１／80）
図面33　遺構実測図　１．掘立柱建物址ＳＢ08実測図（１／80）
２．掘立柱建物址ＳＢ10実測図（１／80）
図面34　遺構実測図　掘立柱建物址ＳＢ09実測図（１／80）
図面35　遺構実測図　１．掘立柱建物址ＳＢ11実測図（１／80）
２．柵址ＳＡ01～04実測図（１／80）
図面36　遺構実測図　１．竪穴建物址ＳＩ01・03～05実測図（１／80）
２．竪穴建物址ＳＩ02実測図　（１／80、１／40）
図面37　遺構実測図　井戸址実測図〔１〕：ＳＥ01～04（１／80）
図面38　遺構実測図　井戸址実測図〔２〕：ＳＥ05～08（１／80）
図面39　遺構実測図　井戸址実測図〔３〕：ＳＥ09～11（１／80）
図面40　遺構実測図　溝ＳＤ02・03・04・07実測図〔１〕（１／300）
図面41　遺構実測図　溝ＳＤ02・03・04・07実測図〔２〕（１／300）
図面42　遺構実測図　溝ＳＤ15・16・17実測図〔１〕（１／100、１／40）
図面43　遺構実測図　溝ＳＤ15・16・17実測図〔２〕（１／100、１／40）
図面44　遺構実測図　土坑実測図〔１〕：ＳＫ01～06（１／80）
図面45　遺構実測図　土坑実測図〔２〕：ＳＫ07・08・10～12（１／80）
図面46　遺構実測図　土坑実測図〔３〕：ＳＫ14～19（１／80）
図面47　遺構実測図　土坑実測図〔４〕：ＳＫ20・21・23・25・26（１／80）
図面48　遺構実測図　土坑実測図〔５〕：ＳＫ27・28・30・32～34（１／80）
図面49　遺構実測図　土坑実測図〔６〕：ＳＫ35・37～41（１／80）
図面50　遺物実測図　縄文土器、古墳時代の土器類、奈良平安時代の土器類（１／３）
図面51　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面52　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面53　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面54　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面55　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面56　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面57　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面58　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面59　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面60　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器（１／３）
図面61　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　土師器、製塩土器（１／３）
図面62　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面63　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）

図面64　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面65　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面66　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面67　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面68　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面69　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面70　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器（１／３）
図面71　遺物実測図　奈良平安時代の土器類　須恵器、灰釉陶器（１／３）
図面72　遺物実測図　中世の土器類　土師器、瓦質土器（１／３）
図面73　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面74　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面75　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面76　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面77　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面78　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面79　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面80　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面81　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面82　遺物実測図　中世の土器類　珠洲（１／３）
図面83　遺物実測図　中世の土器類、近世の陶磁器類（１／３）
図面84　遺物実測図　土製品　瓦塔、土錘、鞴の羽口（１／２）
図面85　遺物実測図　木製品　皿、篦状具、板状品、木片（１／２）
図面86　遺物実測図　木製品　箸（１／２）
図面87　遺物実測図　鉄製品　刀子（１／２）
図面88　遺物実測図　鉄製品　鉄鏃（１／２）
図面89　遺物実測図　鉄製品　鉄剣、鉄釘、用途不明品（１／３、１／２）
図面90　遺物実測図　鉄製品　用途不明品（１／２）
図面91　遺物実測図　石製品　打製石斧、磨製石斧、勾玉？（１／２）
図面92　遺物実測図　石製品　砥石（１／２）
図面93　遺物実測図　石製品　砥石（１／２）
図面94　遺物実測図　石製品　砥石（１／２）

図　版　目　次

図版01　遺構写真　平成４年度調査地区全景（東）

図版02　遺構写真　平成４年度調査地区全景（西）

図版03　遺構写真　１．古墳群全景（北）

２．古墳ＳＺ01主体部全景（南西）

図版04　遺構写真　１．古墳ＳＺ02全景（南）

２．古墳ＳＺ03主体部全景（南）

図版05　遺構写真　１．古墳ＳＺ04全景（南）

２．古墳ＳＺ05全景（南）

図版06　遺構写真　１．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南）

２．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）

図版07　遺構写真　１．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（東）

２．掘立柱建物址ＳＢ02全景（東）

図版08　遺構写真　１．井戸址ＳＥ01全景（南）

２．井戸址ＳＥ01遺物出土状態（南）

図版09　遺構写真　１．遺跡遠景（東）

２．遺跡遠景（南東）

図版10　遺構写真　１．調査地区全景（北）

２．調査地区全景（北西）

図版11　遺構写真　１．調査地区全景（南西）

２．調査地区全景（直上）

図版12　遺構写真　１．平成４年度調査地区全景（西）

２．平成４年度調査地区全景（南）

図版13　遺構写真　１．平成５年度調査地区部分（西）

２．平成５年度調査地区部分（南東）

図版14　遺構写真　１．古墳ＳＺ01検出状態（南）

２．古墳ＳＺ01全景（西）

図版15　遺構写真　１．古墳ＳＺ02検出状態（東）

２．古墳ＳＺ02全景（南）

図版16　遺構写真　１．古墳ＳＺ03全景（北）

２．古墳ＳＺ03全景（直上）

図版17　遺構写真　１．古墳ＳＺ03主体部全景（西）

２．古墳ＳＺ03主体部遺物出土状態（南）

図版18　遺構写真　１．古墳ＳＺ01、02、03全景（南西）

２．古墳ＳＺ01、02、03全景（北西）

図版19　遺構写真　1．古墳ＳＺ04全景（南）
2．古墳ＳＺ05全景（南）
図版20　遺構写真　1．古墳ＳＺ06全景（南）
2．古墳ＳＺ07全景（南）
図版21　遺構写真　1．古墳ＳＺ08全景（南東）
2．古墳ＳＺ08全景（西）
図版22　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（東）
2．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南）
図版23　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ01全景（南）
2．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）
図版24　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（東）
2．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（南）
図版25　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ02全景（西）
2．掘立柱建物址ＳＢ02全景（東）
図版26　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ03全景（北）
2．掘立柱建物址ＳＢ03全景（南）
図版27　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ04全景（南）
2．掘立柱建物址ＳＢ04全景（西）
図版28　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ05全景（北）
2．掘立柱建物址ＳＢ05全景（東）
図版29　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ06全景（南）
2．掘立柱建物址ＳＢ06全景（東）
図版30　遺構写真　1．掘立柱建物址ＳＢ07、土坑ＳＫ03全景（南東）
2．掘立柱建物址ＳＢ07、土坑ＳＫ03全景（北東）
図版31　遺構写真　1．竪穴建物址ＳＩ01全景（西）
2．竪穴建物址ＳＩ01全景（南）
図版32　遺構写真　1．竪穴建物址ＳＩ02全景（西）
2．竪穴建物址ＳＩ02全景（北）
図版33　遺構写真　1．竪穴建物址ＳＩ03、土坑ＳＫ10全景（東）
2．竪穴建物址ＳＩ03、土坑ＳＫ10全景（北）
図版34　遺構写真　1．竪穴建物址ＳＩ04検出状態（東）
2．竪穴建物址ＳＩ04全景（東）
図版35　遺構写真　1．竪穴建物址ＳＩ05、土坑ＳＫ37検出状態（東）
2．竪穴建物址ＳＩ05、土坑ＳＫ37全景（東）
図版36　遺構写真　1．井戸址ＳＥ01全景（南）
2．井戸址ＳＥ01全景（東）

図版37　遺構写真　１．井戸址ＳＥ01近景（西）
２．井戸址ＳＥ01近景（西）
図版38　遺構写真　１．井戸址ＳＥ02全景（西）
２．井戸址ＳＥ02近景（南）
図版39　遺構写真　１．井戸址ＳＥ03全景（南西）
２．井戸址ＳＥ03近景（南）
図版40　遺構写真　１．井戸址ＳＥ04全景（南）
２．井戸址ＳＥ05全景（南）
図版41　遺構写真　１．井戸址ＳＥ06全景（北東）
２．井戸址ＳＥ07全景（西）
図版42　遺構写真　１．井戸址ＳＥ08全景（東）
２．井戸址ＳＥ09全景（東）
図版43　遺構写真　１．井戸址ＳＥ10全景（北西）
２．井戸址ＳＥ11全景（南）
図版44　遺構写真　１．土坑ＳＫ06全景（南）
２．土坑ＳＫ08全景（南東）
３．土坑ＳＫ21全景（東）
図版45　遺構写真　１．古墳ＳＺ03周溝遺物出土状態（北西）
２．古墳ＳＺ05周溝遺物出土状態（南西）
３．ピットＳＰ30遺物出土状態（北）
図版46　遺物写真　土器類
図版47　遺物写真　土器類
図版48　遺物写真　土器類
図版49　遺物写真　土器類
図版50　遺物写真　土器類
図版51　遺物写真　土器類
図版52　遺物写真　土器類
図版53　遺物写真　土器類
図版54　遺物写真　土器類
図版55　遺物写真　土器類
図版56　遺物写真　土製品、木製品
図版57　遺物写真　木製品
図版58　遺物写真　鉄製品
図版59　遺物写真　鉄製品
図版60　遺物写真　鉄製品、銅製品
図版61　遺物写真　石製品
図版62　遺物写真　石製品

図版63　遺物写真　石製品
図版64　遺物写真　石製品

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図〔１〕（１／15万）…… 1
第２図　遺跡位置図〔２〕（１／５万）…… 2
第３図　遺跡分布図（１／２万５千）…… 5
第４図　遺跡地図〔１〕（１／１万５千）…… 6
第５図　遺跡地図〔２〕（１／１万５千）…… 7
第６図　工事区域位置図（１／１万５千）…… 8
第７図　調査地区位置図（１／5,000）…… 9
第８図　調査地区位置図（１／2,000）…… 10
第９図　調査地区概略図（１／800）…… 12
第10図　古墳概略図（１／600）…… 15
第11図　掘立柱建物址概略図〔１〕（１／200）…… 16
第12図　掘立柱建物址概略図〔２〕（１／200）…… 17
第13図　掘立柱建物址概略図〔３〕（１／200）…… 18
第14図　竪穴建物址概略図（１／200）…… 19
第15図　井戸址ＳＥ01遺物出土位置図（１／80）…… 21
第16図　古代Ⅰ期遺構図（１／1,000）…… 34
第17図　古代Ⅱ期遺構図（１／1,000）…… 34
第18図　中世遺構図（１／1,000）…… 35

別　表　目　次

別表１　古墳一覧表 …… 37～38
別表２　掘立柱建物址一覧表 …… 39～41
別表３　柵址一覧表 …… 42
別表４　井戸址一覧表 …… 43～45
別表５　土坑一覧表 …… 46～49
別表６　溝一覧表 …… 50～52
別表７　土器類観察表 …… 53～69
別表８　その他の遺物観察表 …… 70～72

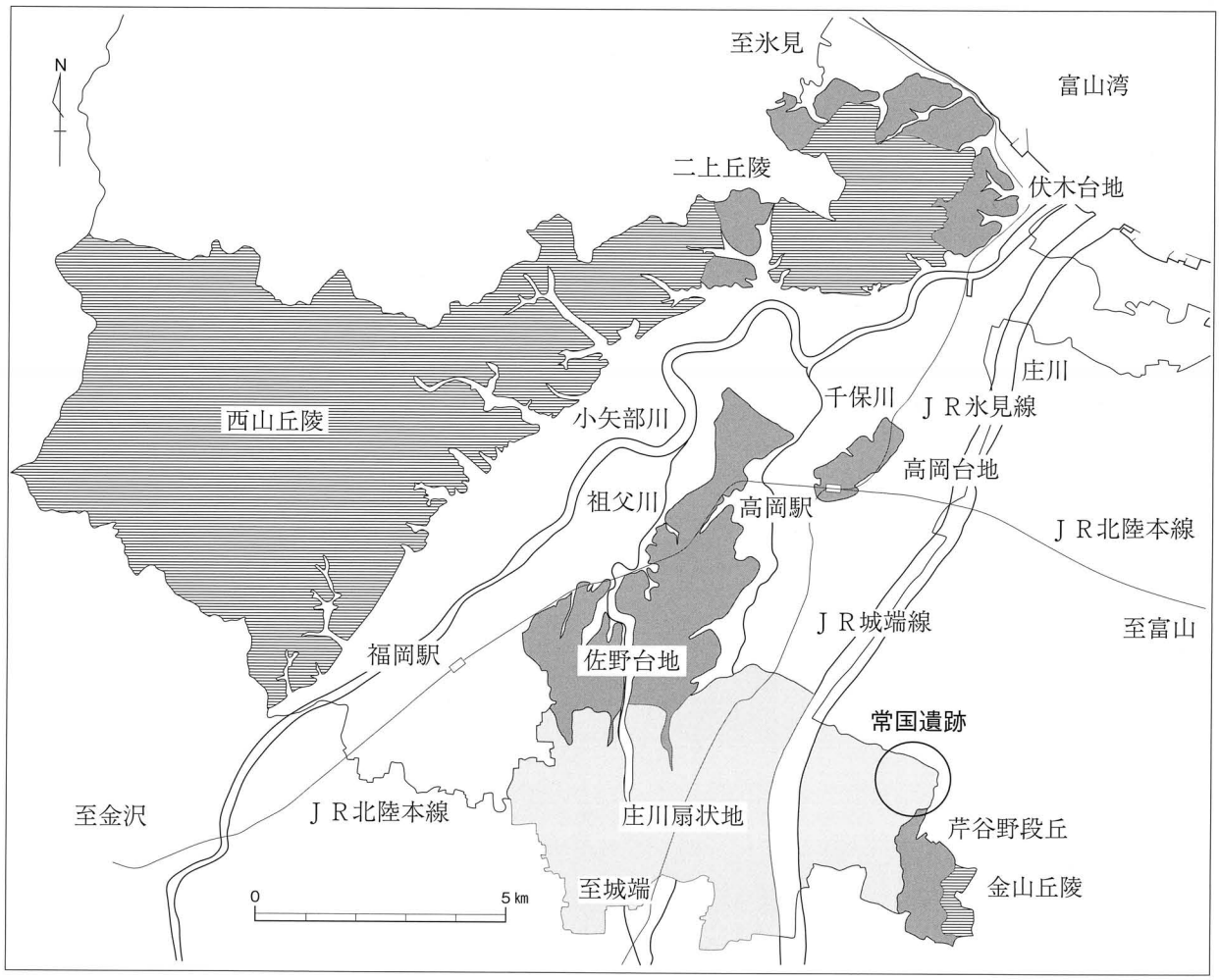
第１章　序　　説

第１節　遺跡概観

１．歴史的地理的概観

中田地区の概観

高岡市の中田地区（昭和29年に成立した中田町域）は、高岡市の南東部に位置する。北から東側は射水市（旧大門町・旧小杉町）との行政界となり、南側は砺波市の庄東地区（「庄東地区」は砺波市の庄川右岸＝東岸地区一帯を示すものとして使用する。砺波市庄川町三谷地区を含むものとする）となる。西側は、庄川を経て高岡市の戸出地区（昭和29年に成立した戸出町域）に至る。この中田地区は、北流して富山湾へ注ぐ庄川の右岸（東岸）で砺波平野の北東部にあたる。南北3.5km、東西2.9kmの拡がりである。



第１図　遺跡位置図〔１〕（１／15万）

中田地区の東側は芹谷野段丘と金山丘陵からなり、この間は和田川による侵食谷となっている。西側は平野部であり標高15～30mを測る庄川扇状地の扇側部末端となっている。庄川は現在中田地区の西側を画する大河となっているが、これは天正13年（1585）の地震による影響や、加賀藩による寛文10年（1670）から正徳４年（1714）までの大工事による流路の固定によるものである。

今回の調査対象地の中田地区は、昭和29年に成立し昭和41年に高岡市へ編入された所である。昭和29年に成立した新中田町は、それまでの旧中田町と般若野村が合併して成立したもので、西側に旧中田町が東側に般若野村が位置している。この旧中田町は、明治22年の町村制の施行により、江戸時代以来の中田町（中田村）に下麻生新村と上麻生・下麻生両村の各一部が合併して成立したものである。般若野村は、常国村・今泉村・下山田村・滝新村・中野若杉新村（若杉）・小泉新村・島新村・下山田新村・東保新村・今泉新村・滝村・射水郡円池又新村の12箇村が合併して明治22年に成立したものである。

「中田」の始まりについては天武天皇の代との伝承があり、良田が開けたことより中田とされたといわれている。確実な史料では奈良時代の東大寺領荘園関係のものから窺われるものといえる。

高岡市域は古代では射水郡と砺波郡に含まれる地域である。南部及び南西部が砺波郡に該当する。南部地区の東側に位置する中田地区は砺波郡域であり、ここと行政界で接し北東方向に位置する旧大門町は射水郡とされている。『和名抄』によれば砺波郡には12の郷があったとされている。これらの現地比定はいくつかの説が出されてはいるが、不明確である。中田地区に関しては最近になって「意悲郷」に当てる説が出されている。

８世紀第２四半期～中葉頃に律令政府による土地政策の変更がなされた。養老７年（723）の三世一身法、天平15年（743）の墾田永年私財法により、墾田所有が法令化され班田制が変質した。これによって大土地所有が基礎を得、天平勝宝元年（749）の官大寺への墾田地施入により初期荘園が成立するに至った。

第２図　遺跡位置図〔２〕（１／５万）

東大寺は天平勝宝元年に4,000町にのぼる墾田所有枠を確保し、新たな開拓や寄進、没官地の施入、買得により、寺田・寺領としての大土地所有を展開した。

この東大寺領の荘園は全体の約５割ほどが北陸道に設定された。越中国においては射水郡に４箇所、砺波郡に４箇所設定され、その時に荘園図が作成され現在に伝わっていることより、その内容が判明している。

砺波郡の東大寺領荘園は、石粟荘、伊加留岐荘、井山荘、杵名蛭荘であり、以前よりその比定地について研究がなされてきている。杵名蛭荘については、井波町の高瀬遺跡が該当するという説や高岡市の戸出地区に比定する説等があるが、明確ではない。残りの３荘については、庄川の右岸（東岸）地域に比定する説にほぼ固まってきているといってよいものである。高岡市の中田地区から、南側の砺波市庄東地区にかけて位置していたものとするのである。この３者の位置関係については、荘園図の記載内容により、北から南へ、石粟荘、伊加留岐荘、井山荘と位置付けられている。

当中田地区と関係するのは、「石粟荘」であり、中田地区から砺波市庄東地区の北部一帯へ比定するのが有力な説となっている。石粟荘については、天平宝字３年（759）の荘園図「越中国砺波郡石粟村官施入田地図」がある。野地に設定したわけではないので、これ以前から開拓され墾田があった所である。

天平勝宝２年（750）２月18日、越中国司大伴家持は砺波郡へ墾田地検察に出かけ、砺波郡主帳多治比部北里の家へ泊った。その時「夜夫奈美能佐刀……」と詠んだ歌があり、この「夜夫奈美能佐刀」は「荊波の里」と解されている。一方石粟荘の荘園図にも「荊波」の名が載っている。この比定地については、高岡市内（福田地区）、砺波市内、南砺市福光地区（旧西砺波郡福光町内）の各地があるが、最近、石粟荘付近に比定する説も出されている。

現在中田地区を東西に貫く進路として、主要地方道富山戸出小矢部線が通っている。東側へは射水丘陵の先端をかすめるように富山市方面へ延び、西側へは庄川を渡り戸出を経て小矢部市方面へと達する。富山市方面から県境の倶梨伽羅峠を越え、加賀方面へ向う最短ルートである。近世北陸道の本街道ないし脇街道であると共に中世にも同様なルートがあったとされている。院政期末～鎌倉期初期に軍勢が通ったと推定され、天正13年（1585）には豊臣秀吉が中田地区を通り富山城を攻めている。このルートについては古代まで遡るものであるとの説がある。また石粟荘の荘園図にはこの荘園の北側を砺波郡から婦負郡へ通じる道が描かれている。この荘園図の道については、一番北に設定した場合現行の主要地方道とほぼ同一の位置と考えられ、南側に設定した場合でも中田地区を通っていた可能性が高い。

石粟荘・伊加留岐荘・井山荘の東大寺領古代荘園は10世紀後半～11世紀にかけて荒廃し廃退していった。この跡地に中世荘園の徳大寺家領般若野荘が成立してくる。般若野荘の初見は文治２年（1186）だが、12世紀前半、大治元年（1126）～４年（1130）の成立が推定されている。

般若野とされている地は、現在の中田地区を含む高岡市の南東部から、砺波市庄川町三谷地区を含む所である。現在は庄川により分断されているが、往時の庄川主流の右岸地区一帯であり、東方の山地からの河川を灌漑用に利用し易い良好な土地であったといえる。

院政期末から鎌倉期初期には、この般若野が戦の舞台となった。これは当地が行政的及び交通上の要所であったことと理解される。

般若野荘は戦国時代まで存続した。一方、「中田」の名が勝興寺系図にみえる。文明13年（1481）に、康兼（蓮如上人第４子の蓮誓）が般若野荘中田村に徳成寺を建立と記されている。近世の村落としての加賀藩領の中田村の成立については、慶長10年（1605）に総検地が実施され村底がなされたとされる。さらに慶長20年（1615）に宿走人足伝馬の御印の受領があり宿場町となった。東側の常国村には元和６年（1620）に御旅屋が設置されている。

2．遺跡の分布状態

中田地区の考古学的知見は少ない。昭和47年発行の『富山県遺跡地図』では、かぞいろ塚、移田野塚、山下遺跡の３遺跡である。平成３年度に常国遺跡が発見され、これより数年前に砺波市の東保石坂遺跡が発見され行政界を越え高岡市街へも拡がっていることが判明したので、平成５年発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』段階では５遺跡となった。今回の分布調査により、常国北遺跡と滝遺跡が加わったので確認された遺跡は７遺跡である。

考古学的知見の少ない中田地区において考古資料のみで歴史を遡ることは難しい。しかし周辺地区の考古資料やこれ以外の歴史資料をはじめとする資料により、その豊かな歴史を知ることは可能といえる。

旧石器時代については、中田地区の北東側の射水丘陵や南東側の砺波市の丘陵部で該期の遺跡があり、これらのグループに含まれると共に当地区の段丘部における遺跡の存在を否定しきれない。

旧大門町の串田新遺跡は縄文時代中期初頭～後期初頭と後期後半の集落遺跡であり、特に中期後半の「串田新式」の標識遺跡である。芹谷野段丘の北端部にある標高40～45ｍの独立丘陵上に立地している。常国遺跡からは指呼の間に望むことができる。常国遺跡の東約1.3㎞、滝遺跡の北東約0.7㎞の位置である。旧大門町の小泉遺跡は縄文時代前期中葉と前期後葉～中期前葉の遺跡である。常国遺跡の北北東約２㎞、標高11～12ｍの沖積地に立地している。またこの付近の布目沢東遺跡や布目沢遺跡からも縄文土器が出土している。

一方南側の砺波市域では、行政界から約２㎞南側の芹谷野段丘西縁部に厳照寺遺跡が立地している。縄文時代中期前葉、新崎式期を中心とする遺跡で、ここの縄文土器は厳照寺Ⅰ～Ⅲ式として県内での指標となっている。砺波市庄東地区では、この遺跡をはじめ段丘上に縄文時代中期前半頃の遺跡が分布しており、縄文時代中期後半頃には平野部へも展開していく。中田地区周辺にはこのような縄文遺跡が所在している。常国遺跡では縄文時代中期後葉を中心に、縄文時代中期前葉、同じく中期中葉の土器が出土しており、滝遺跡では中期中葉の土器が出土している。これらによって中田地区においても縄文時代中期に平野部に遺跡が立地していることが判明した。縄文時代の遺跡としてはこの２遺跡のみであるが、段丘上及び平野部において僅かだが縄文土器の散布している所があり、該期の遺跡がまだ存在している可能性がある。

当地区及び南側～西側一帯の砺波平野では弥生時代の明確な遺跡は見つかっていない。北側の旧大門町域では多くの弥生時代の遺跡が確認されている。行政界の北側約1.7㎞に位置する布目沢北遺跡は代表的なもので、弥生時代に関しては、中期～後期の遺構・遺物がみられる。この遺跡をはじめ標高10ｍ前後の平野部にいくつかの弥生時代の遺跡が立地しており、さらに北側の標高７ｍぐらいの所にも立地している。これらの遺跡は弥生時代中期のものもあるが、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて本格的に展開していく。既述の串田新遺跡は弥生時代末～古墳時代初頭の集落遺跡でもあり、古墳（弥生墳墓）も確認されている。このように弥生時代～古墳時代初頭の遺跡は、串田新遺跡を別とすれば、当地区よりも標高が低い沖積地を中心に展開している。

弥生時代後期の墳墓を含むところの古墳は、当地区の北東方の射水丘陵に多く分布している。また旧大門町域の平野部からも弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓や古墳が検出されている。射水丘陵では飛鳥時代以降、須恵窯や瓦窯、製鉄関連の工房等が形成され、古代越中国の手工業生産の中心地となっていく。

庄川右岸の砺波郡域＝中田地区・砺波市庄東地区の平野部・丘陵部においては、古墳をはじめとして弥生時代～飛鳥時代の遺跡が明確ではない。古墳群の分布地域から外れ、弥生時代以降の開発が遅れた地域とされてきた。しかし常国遺跡において古墳時代後期、６世紀代の古墳が検出され、この空白期の様相が一部判明され始めた。

砺波郡の庄川右岸やこの周辺において、東大寺領の４荘園、石粟荘・伊加留岐荘・井山荘・杵名蛭荘が設

第３図　遺跡分布図（１／２万５千）

１．常国遺跡　２．常国北遺跡　３．かぞいろ塚遺跡　４．移田野塚遺跡　５．滝遺跡　６．串田新遺跡　７．山下遺跡

定されたのは８世紀中葉、749年以降である。伊加留岐荘は野地占定であり、杵名蛭荘の経緯は不明であるが、石粟荘は没官地施入であり、井山荘は在地豪族の寄進によるものであり、これ以前から開発が進んでいたことを窺わせる。

石粟荘の比定地について最近における代表的なものとして西井龍儀氏と金田章裕氏の説がある。西井説では石粟荘が中田地区にあり、常国遺跡が荘域の北西側に位置することになる。金田説は西井説より南側となるため中田地区の南西部の今泉地内が荘域に含まれることになる。常国遺跡はここより北側約２㎞の位置であるが、金田氏は石粟・伊加留岐・井山の３荘の荘所が常国遺跡とされる。

なお石粟荘の北側の砺波より婦負へ行く道が荘園図に記載されている。西井説では現在の主要地方道富山戸出小矢部線に沿って、中田地区を横断することになり、金田説でも中田地区の南端部付近を通ることになる。中田地区の位置的重要性を考慮すれば、この道が砺波郡衙と婦負郡衙とを結ぶ伝路・伝馬路であった可能性もあり得ると思われる。

奈良時代の集落跡や窯業遺跡については、砺波市庄東地内において高沢島Ⅱ～Ⅲ遺跡や梅檀野窯跡群等がある。これらの遺跡は８世紀前半はまだ少ないが、８世紀後半に増加する。荘園の設置との関連が注目され、これらと相俟って開発が進んだと思われる。梅壇野窯跡群については８世紀前半に形成され10世紀頃まで続いていく。最盛期は８世紀後半とされている。

中田地区及び南側一帯の平安時代末～室町時代頃の遺跡については、やはり般若野荘との関連が指摘されている。この時期の遺跡については段丘上ではなく、平野部に所在している。常国遺跡は荘域の北側に位置することになる。中田地区の南端の今泉地内付近には砺波市東保高池遺跡がある。中田地区の中世の明確な遺跡は常国遺跡のみであるが、般若野荘域に含まれていることや立地条件より、今後該期の遺跡が発見される可能性がある地区といえる。

第４図　遺跡地図〔１〕（１／１万５千）

１．常国遺跡　２．常国北遺跡　３．かぞいろ塚遺跡　４．移田野塚遺跡

第５図　遺跡地図〔２〕（１／１万５千）

１．常国遺跡　２．常国北遺跡　５．滝遺跡　６．串田新遺跡　７．山下遺跡

第２節　調査概観

１．調査に至る経緯

開発計画

高岡市の南端部、中田地区の常国地内に住宅団地造成計画が立てられた。「常国住宅団地」である。これは高岡市（担当：建設部建築住宅課）が事業主体で、市民の多様な住宅需要に対応するため、居住環境の良好な住宅団地を建設し、定住化を促進しようとするものである。昭和63年度に立案され、事業期間は平成３年度～平成６年度の４箇年とされた。総面積16haで、水田を250区画の住宅地に造成し建設するものである。住宅地は、東街区・西街区・南街区の３地区から構成されるものである。

造成地区は、東西に走る主要地方道・富山戸出小矢部線の北側と南側に拡がるものである。当地を小河川の鯰川が北流しているが、主要地方道の南側で鯰川の東側（右岸）が南街区である。北側は、鯰川を挟んで東側（右岸）が東街区、西側（左岸）が西街区である。

試掘調査の計画

平成３年７月末、高岡市の関係各課に対して、常国住宅団地造成事業の説明会が実施された。文化財の主管課である市教育委員会社会教育課（その後、組織改正により文化財課となる）の担当者も出席した。

当時の埋蔵文化財包蔵地に対する基本資料は、県教育委員会より昭和47年に発行された『富山県遺跡地図』であった。また、高岡市教育委員会では、市内の遺跡分布調査事業を実施中であり、昭和58年度～昭和

第６図　工事区域位置図（１／１万５千）

62年度の西山丘陵埋蔵文化財分布調査事業を完了し、平成元年度から高岡市埋蔵文化財分布調査事業を継続調査中であった。この２つの事業により、高岡全域の遺跡の分布状態が一応把握できることになっていた。開発行為の量や当時把握されていた遺跡が多い地区を優先していたため、中田地区は最後に実施する計画であった。

平成３年８月初め、社会教育課の担当者が、当該地の現地踏査を一応実施した。土器の細片が数点採取されたが、草が生い茂り、溜まり水も多く、埋蔵文化財の包蔵状態を確認する踏査を十分に行える状態ではなかった。このため、試掘調査を計画し、社会教育課と建築住宅課とで協議を行った。

試掘調査の実施

試掘調査は、平成３年10月16日～同年11月３日に実施した。当該地は圃場整備が行われ、１区画3,000㎡の水田から構成されている地区であった。周知の埋蔵文化財包蔵地ではないことや期間や調査体制等の問題もあり、やや粗い試掘調査とした。２つの区画に１本の割合で、幅２ｍの試掘坑を入れることにした。埋蔵文化財が存在すると仮定した場合、最も可能性が高いと判断した北西部（西街区）から実施することとした。そして、北東部（東街区）、南部（南街区）の順に進めていった。

最初に設定した試掘坑で、埋蔵文化財の存在の可能性を摑み、２本目の試掘坑で埋蔵文化財の包蔵地であることが確実になった。この試掘調査では、遺跡の有無に重点をおいたので、遺跡の内容の把握は不十分なものとならなざるを得なかった。遺跡は、北西部（西街区）の北側を中心に拡がっていることが判明した。試掘坑は合計22本設定し、試掘面積は2,429㎡となった。

試掘調査の結果を受けて、協議を行い、平成４年度に本調査を実施することになった。また、北西部（西街区）以外の、北東部（東街区）、南部（南街区）は工事が進められることになった。

第７図　調査地区位置図（１／5,000）

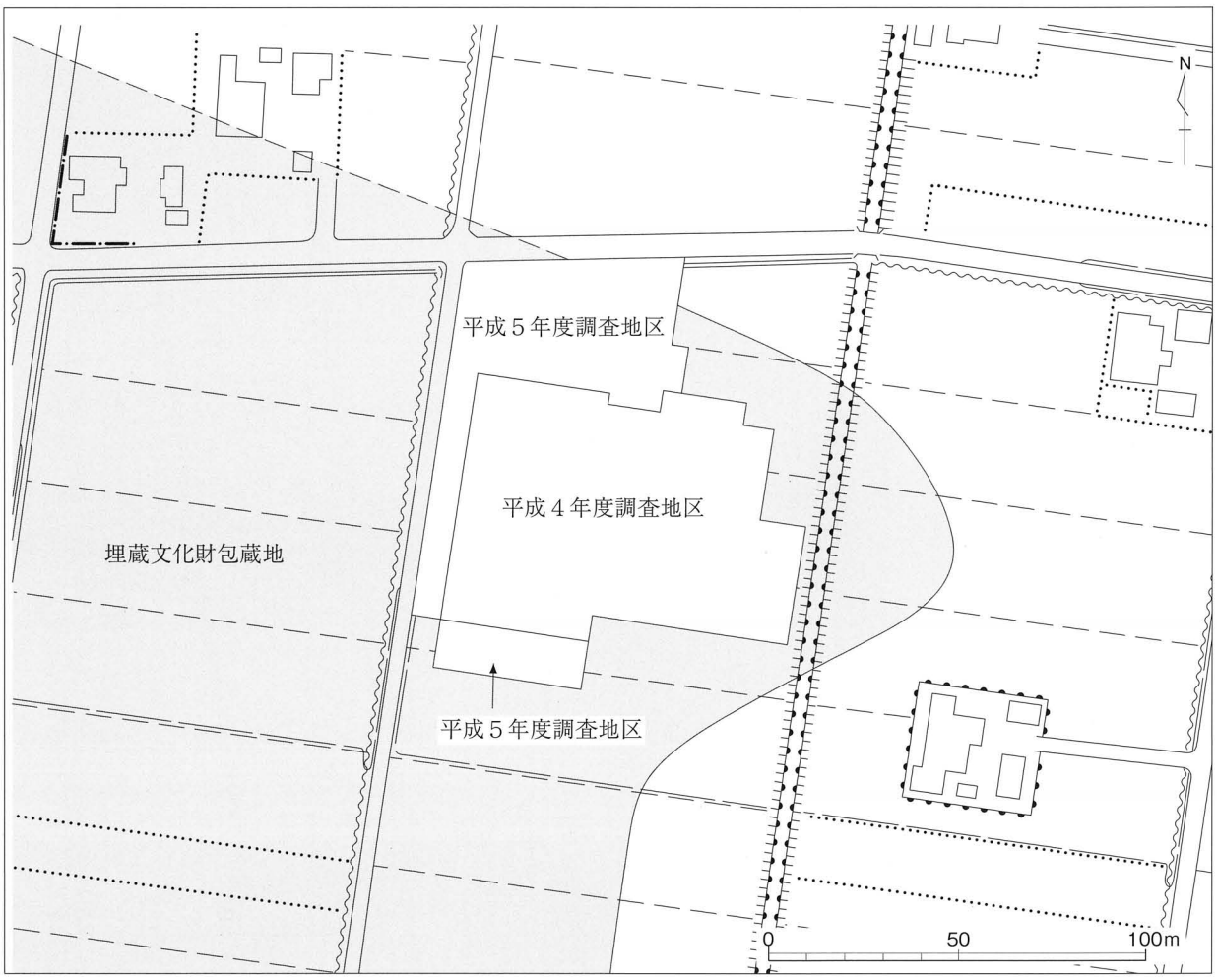
２．発掘調査の経過

平成４年度の調査

平成４年度の発掘調査（本調査）は、平成４年５月18日から開始した。表土は、バックフォーで除去し、運搬キャリーで、西街区内の調査地区外に搬出した。８月中は、当初から予定していた他の調査のため中断した。調査が進むにつれて、古墳、掘立柱建物址、井戸址等が検出され、予想していたより良好な遺跡であることが判明してきた。また、関係者や各研究者の関心を引き、公開（現地説明会）の要望が高まってきた。

調査が最終段階に入った12月頃から、調査成果の公開や調査範囲の拡張のことが論議された。現地調査は平成４年12月18日に終了した。調査面積は5,500㎡である。その後12月25日に記者発表を行った。一方、現地説明会開催や来年度（平成５年度）の調査について協議が続けられた。

富山考古学会からは、２月５日付けで、今後の遺跡の取り扱い等に対して要望書が提出された。これに対して３月25日付けで、遺跡の評価や来年度の調査計画等について回答した。また、３月27日には現地説明会を開催した。



第８図　調査地区位置図（１／2,000）

平成５年度の調査

平成５年度の発掘調査（本調査）は、平成５年４月26日から開始した。調査地区は、平成４年度調査地区の、北西側・西側・南西側の３箇所である。北西側と西側は、農道まですなわち造成地区の境界までの範囲とした。この調査は平成５年８月13日に終了した。調査面積は3,000㎡である。この調査は計画した範囲を調査したが、溝が調査地区外へ延び、古墳もさらに分布している可能性が高いため、追加調査を計画した。また、県埋蔵文化財センターからの調査範囲拡張についての指導があった。追加調査は北東部や南部において500㎡の調査を実施した。調査期間は、平成５年９月６日～同年９月30日である。

遺跡の名称について

遺跡の名称については、「常国住宅団地内遺跡」や、小字名を取り「常国狐塚遺跡」と称したこともあったが、その後「常国遺跡」に統一している。

３．調査の概要

基本層序

基本層序は次の通りである。

第Ⅰ層：暗褐色土（表土）

第Ⅱ層：黒褐色土

第Ⅲ層：黄色褐色土（基盤層）

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

古墳８基（ＳＺ01～08）

掘立柱建物址11棟（ＳＢ01～11）

竪穴建物址５軒（ＳＩ01～05）

井戸址11基（ＳＥ01～11）

柵址４棟（ＳＡ01～04）

土坑41基（ＳＫ01～41）

溝36条（ＳＤ01～36）

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器類：縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、灰釉陶器、瓦質土器、珠洲、中・近世陶磁器

木製品：漆器皿、箸、篦状具、板状品、木片

土製品：瓦塔、土錘、鞴の羽口

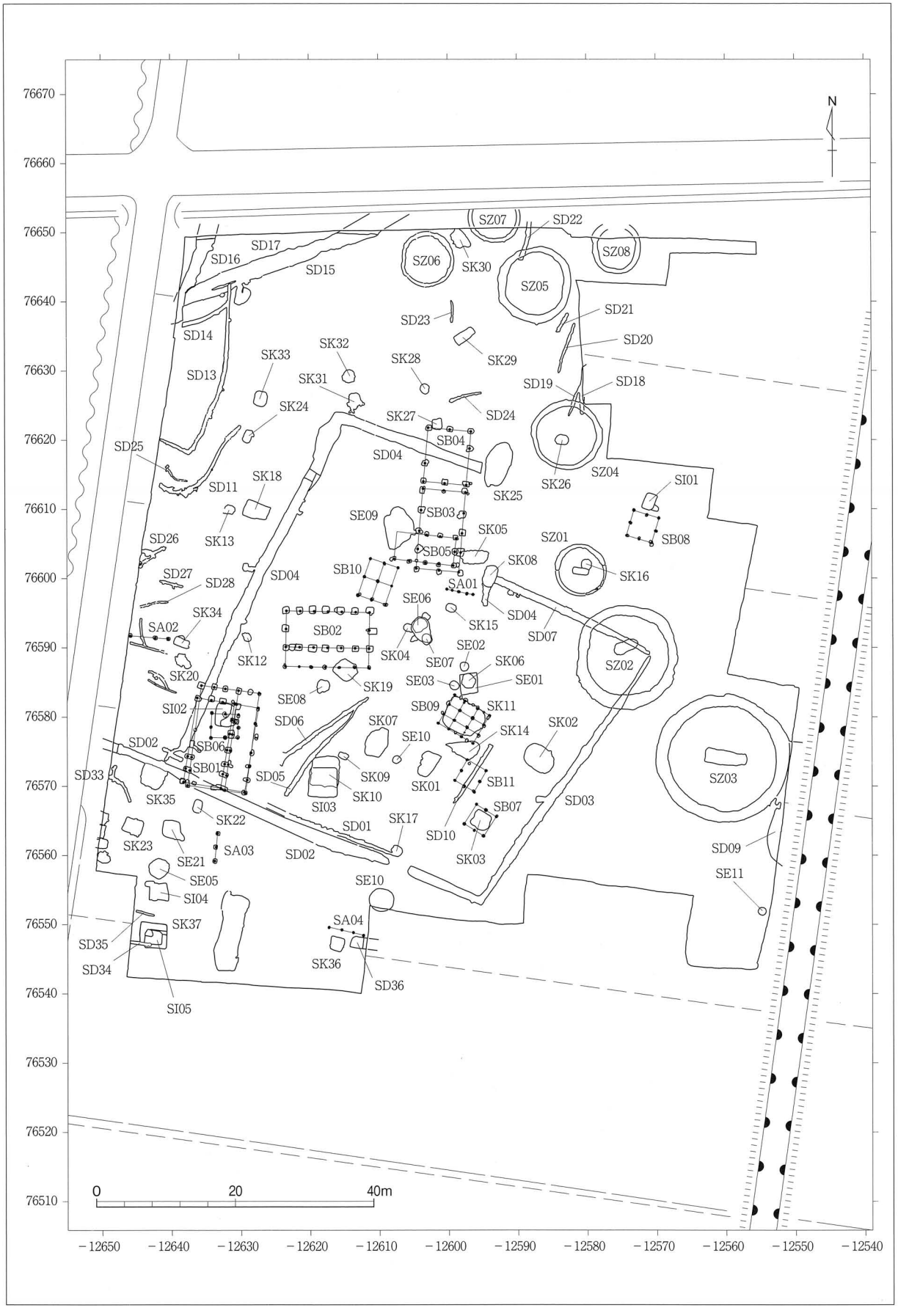
鉄製品：鉄剣、刀子、鉄鏃、鉄釘、紡錘車、用途不明品

銅製品：銅銭

石製品：打製石斧、磨製石斧、勾玉？、砥石

グリッド

調査地区のグリッドは、当初は日本測地系で、その後世界測地系の平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″、東経137°10′00″）に合わせた。東西軸をＸ軸、南北軸をＹ軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとした。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ12,655km、北へ76,535km向った位置である。一辺５ｍ四方を一区画としてグリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第９図　調査地区概略図（１／800）

第2章　遺　　構

第1節　古　　墳

古墳は8基検出された。調査地区の北西隅部より検出された。すべて封土が削平された円墳である。円形に溝が廻り、これを古墳の周溝としたものである。確認された順にＳＺ01から命名していったが、最初に確認されたＳＺ01～03において、中央部より土坑が検出され、これを主体部の土壙とし、この遺構を古墳として調査を進めた。ＳＺ07・08のように周溝が全周しないものも円形に廻るものとした。遺構名としては記号によるＳＺ01～08と、これら全体を「常国古墳群」とし、常国1号墳（ＳＺ01）等とも付することとした。

古墳ＳＺ01（常国1号墳）

円墳である。南東側にはＳＺ02（常国2号墳）が位置する。削平により封土は存在していない。主体部とした土壙と周溝とした円形に廻る溝が検出された。

周溝は全周するものと推定される。北側はほぼ全体が検出されたが、南側は南東側3分の1程度が検出されたに過ぎない。これは周溝の南側が浅かったことによる。古墳の規模は、周溝内径約6.38m、周溝外径約7.27mである。周溝の規模は上面幅0.3～0.8m、底面幅0.2～0.6m、深さ6～28cmである。

主体部は東西方向に延びる方形の土壙である。主軸方向は真北に対して8.4度東へ傾く。主体部の規模は長軸（東西）2.34m、短軸（南北）0.96m、深さ30cmである。北東側は一部中世の土坑ＳＫ16に切られている。

当古墳の出土遺物は、主体部とした土壙から出土した土師器細片と鉄製品である。図面87の刀子とした3点（7008・7009・7012）と図面90の用途不明品とした1点（7057）の計4点である。用途不明品7057は、刀子の3点の一部になる可能性がある。ここでは当古墳の副葬品は刀子3点と理解しておきたい。

古墳ＳＺ02（常国2号墳）

円墳である。北西側にはＳＺ01（常国1号墳）、南東側にはＳＺ03（常国3号墳）が位置し、この両古墳の間から検出された。削平により封土は存在していない。主体部とした土壙と周溝とした円形に廻る溝が検出された。

周溝は全周する。古墳の規模は、南北周溝内径約11.36m、南北周溝外径約15.08m、東西周溝内径11.63m、東西周溝外径14.62mである。周溝の規模は、上面幅1.21～2.23m、底面幅0.39～1.33m、深さ10～61cmである。周溝の南側を中世溝ＳＤ03に、北西側を中世溝ＳＤ07に切られている。中世溝の方が浅く、周溝は上部削平を受けている形となっている。

主体部は東北東～西南西方向に主軸を持つ長楕円形の土壙である。主軸方向は真北に対し25.0度西へ傾く。主体部の規模は長軸（東北東～西南西）3.65m、短軸（南南東～北北西）1.76m、深さ27cmである。東北東側は中世溝ＳＤ07に切られている。主体部の土壙の底面と中世溝の底面はほぼ同一の深さである。

当古墳の出土遺物は、主体部とした土壙から出土した鉄製品である。図面88の鉄鏃とした11点（7018・7020～7022・7025・7026・7028～7032）と図面90の用途不明品とした1点（7058）の計12点である。鉄鏃の鏃身部は4点（7018・7020～7022）あり、他の8点は、ほぼ完存品の7018以外の3つの鉄鏃（鏃身）の一部になる破片と考えられる。すなわち、当古墳の副葬品は4点と理解しておきたい。

古墳ＳＺ03（常国３号墳）

円墳である。北東側にはＳＺ02（常国２号墳）が位置する。削平により封土は存在していない。主体部とした土壙と周溝とした円形に廻る溝が検出された。今回検出された古墳では最大規模を有するものである。

周溝は全周する。古墳の規模は、周溝内径約15.41m、周溝外径約18.80mである。周溝の規模は上面幅1.60～2.25m、底面幅0.53～1.21m、深さ10～30cmである。周溝の東側は古代溝ＳＤ09に切られている。

主体部は東西方向に延びる方形の土壙である。主軸方向は真北に対して7.7度東へ傾く。主体部の規模は長軸（東西）6.09m、短軸（南北）2.24m、深さ25.5cmである。

出土遺物は、主体部から出土した図面89の鉄剣１点（7001）と周溝から出土した図面50の須恵器蓋１点（1202）と土師器の細片である。

古墳ＳＺ04（常国４号墳）

円墳である。北側約11m離れてＳＺ05（常国５号墳）が、南側約11m離れてＳＺ01（常国１号墳）が位置する。すなわちＳＺ05とＳＺ01の中間点に当ＳＺ04が所在している。封土は削平され存在していない。周溝とした円形に廻る溝が検出された。主体部は検出されていない。

周溝は全周する。古墳の規模は、周溝内径約8.54m、周溝外径約10.21mである。周溝の規模は上面幅0.48～1.00m、底面幅0.20～0.53m、深さ20～36cmである。周溝の北側を古代溝ＳＤ18とＳＤ19に切られている。古代溝の方が浅く、周溝は上部削平を受けている。周溝に囲まれた内部に、土坑ＳＫ26とピットが所在する。土坑は古代、ピットは中世のもので当古墳とは関係がない。

出土遺物は、周溝から出土した図面88の鉄鏃１点（7019）である。

古墳ＳＺ05（常国５号墳）

円墳である。ＳＺ04（４号墳）の北側約11mの地点である。近くには東北東側にＳＺ08（８号墳）が北西側にＳＺ07（７号墳）が位置する。封土は削平されて存在していない。周溝とした円形に廻る溝が検出された。主体部は検出されていない。

周溝は全周する。一応円形ではあるが、南北径がやや長く、東西径がやや短い楕円形となる。古墳の規模は、南北周溝内径約9.09m、南北周溝外径約11.37m、東西周溝内径約8.46m、東西周溝外径約10.56m、周溝の規模は、上面幅0.57～1.46m、底面幅0.21～0.77m、深さ12～40cmである。周溝の北西側は中世溝ＳＤ22に切られている。周溝の底面と中世溝の底面はほぼ同一の深さである。周溝に囲まれた内部に、土坑ＳＫ31が所在するが古代のもので当古墳と関係がない。また他にピットが２個あるが、これも関係がないものと推定される。

出土遺物は、周溝から出土した図面50の土師器椀１点（1201）である。

古墳ＳＺ06（常国６号墳）

円墳である。北東側にはＳＺ07（７号墳）が位置する。封土は削平されて存在していない。周溝とした円形に廻る溝が検出された。主体部は検出されていない。

周溝は全周する。古墳の規模は、周溝内径約6.78m、周溝外径約7.80m、周溝の規模は上面幅0.35～0.94m、底面幅0.09～0.41m、深さ９～23cmである。中央西寄りは、カクラン（現代溝）に切られている。

遺物は出土していない。

古墳ＳＺ07（常国７号墳）

円墳である。南東側にＳＺ05（５号墳）、南西側にＳＺ06（６号墳）が位置する。封土は削平されて存在していない。古墳推定域の大部分は調査地区外に位置し、弧状に廻る溝を検出したのみであるが、同様の溝が円形に廻り古墳と判断されたので、当遺構も同様な古墳とした。

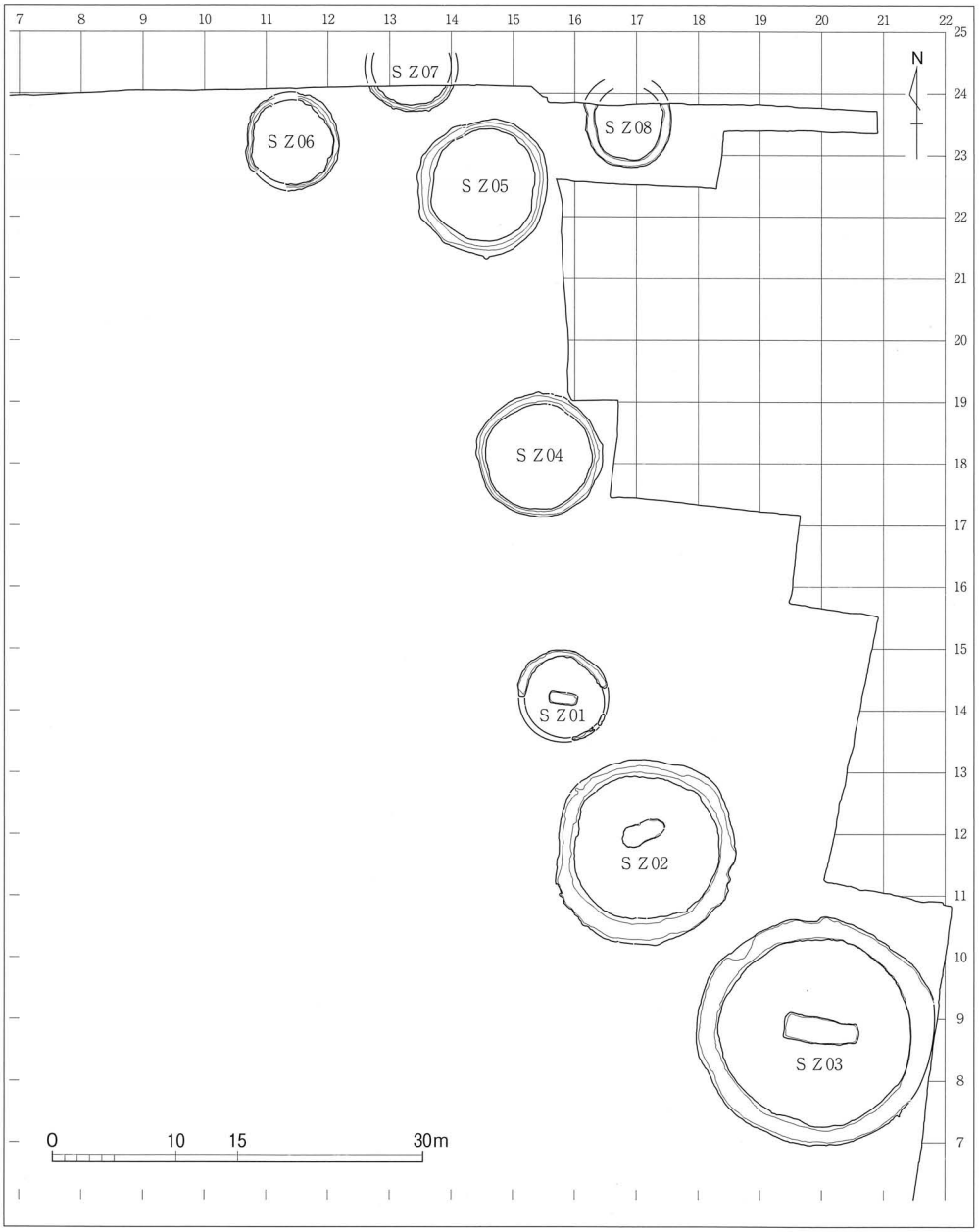
周溝の規模は、上面幅0.43～0.68m、底面幅0.14～0.33m、深さ13～26cmである。古墳の規模の推定値

は、周溝内径約6.35m、周溝外径約7.45mとなる。

遺物は出土していない。

古墳ＳＺ08（常国８号墳）

円墳である。南西側にＳＺ05（５号墳）が位置する。封土は削平されて存在していない。古墳推定域の４分の１程度は調査地区外に位置し、溝は環状に達していないが、同様の溝が環状に廻り古墳と判断されたので、当遺構も同様な古墳とした。



第10図　古墳概略図（１／600）

古墳の規模は東西方向を基準として、周溝内径約5.55m、周溝外径約7.07mとなる。周溝の規模は、上面幅0.55～1.16m、底面幅0.36～0.89m、深さ９～16cmである。

遺物は出土していない。

第２節　掘立柱建物址

掘立柱建物址は11棟検出された。掘り方（柱穴）についてはアルファベットの「Ｐ」で表した。各掘り方の表示は座標で示した。東西方向をＸ軸に、南北方向をＹ軸にとり、南西隅を基点とした。これにより南西隅の掘り方をＰ１－１とし、ここから東側と北側に向かって何番目の掘り方に当たるかで示した。例えば、東側へ３番目で、北側へ２番目の掘り方はＰ３－２となる。２間×４間の南北棟の場合、北妻中央の掘り方はＰ２－５となる。

掘立柱建物址ＳＢ01

調査地区南西側で検出された。南北棟で側柱の掘立柱建物址。桁行６間から桁行７間のものへ規模を拡大して建て替えられた建物址である。旧段階をＳＢ01甲とし、新段階をＳＢ01乙として記述する。

〔ＳＢ01甲〕

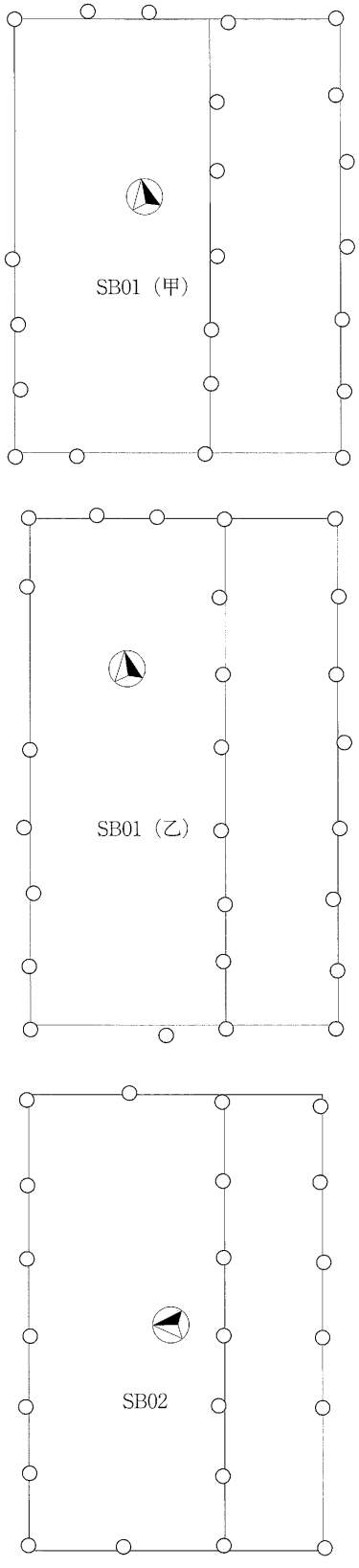
身舎桁行６間（12.0m）×梁行３間（5.4m）で東側に廂が付く。方位は真北に対して10.3度東偏する。身舎の掘り方は一辺70～80cmを基本とする方形で、深さ20.3～83.9cmを測る。廂の掘り方は、径0.35～1.00mの楕円形で、深さ18～45cmを測る。

ＳＢ06、ＳＩ02、ＳＤ02・04・12と重複する。Ｐ１－１はＳＤ02に切られている。Ｐ１－４、Ｐ１－７、Ｐ２－７はＳＤ04に切られている。Ｐ１－４は痕跡程度にしか残存していない。Ｐ１－５はこのＳＤ04に掘削されたため検出できなかったと推定される。南側にはＳＤ02を切る形でカクラン（現代溝）があり、Ｐ２－１は痕跡程度にしか残存していない。Ｐ３－１はこのカクランに掘削されたため検出できなかったと推定される。Ｐ４－６、Ｐ４－７はＳＩ02に切られている。ＳＢ06との掘方相互の切り合い関係はない。

〔ＳＢ01乙〕

身舎桁行７間（14.0m）×梁行３間（5.4m）で東側に廂が付く。方位は真北に対して8.3度東偏する。身舎の掘り方は一辺70～80cmを基本とする方形で、深さ50.2～85.2cmを測る。廂の掘り方は、径0.35～1.00mの楕円形で、深さ18～45cmを測る。

ＳＢ06、ＳＩ02、ＳＤ02・04・12と重複する。Ｐ１－１、Ｐ１－２はＳＤ02に切られている。Ｐ１－４、Ｐ１－５、Ｐ１－７、Ｐ２－８はＳＤ04に切られている。Ｐ１－５は痕跡程度にしか残存していない。南側にはＳＤ02を切る形でカクラン（現代溝）があり、Ｐ２－１はこのカクランに掘削されたため検出



第11図　掘立柱建物址概略図〔１〕
（１／200）

できなかったと推定される。Ｐ３－１はカクランに切られている。Ｐ４－６はＳＩ02に切られている。Ｐ４－７はＳＩ02とピットに切られている。Ｐ１－４はＳＤ12に切られている。ＳＢ06との掘方相互の切り合い関係はない。

掘立柱建物址ＳＢ02

調査地区中央西寄りで検出された。東西棟で側柱の掘立柱建物址。身舎桁行６間（12.6m）×梁行２間（5.4m）で南側に廂が付く。方位は真東に対して1.2度北へ偏っている。身舎の掘り方は一辺90～100cmを基本とする方形で、深さ31.0～73.6cmを測る。廂の掘り方は、径0.3～0.6mを基本とする円形で、深さ16～27cmを測る。

ＳＫ19と重複し、Ｐ５－１、Ｐ６－１はこのＳＫ19に切られている。建物内の西側をカクラン（現代溝）が南北に走り、Ｐ２－２、Ｐ３－４を切っている。Ｐ２－１はこのカクランに掘削されたため検出されなかったと推定される。Ｐ５－４、Ｐ７－３は西側の一部をピットに切られている。Ｐ７－４は南側の一部がピットに切られている。

掘立柱建物址ＳＢ03

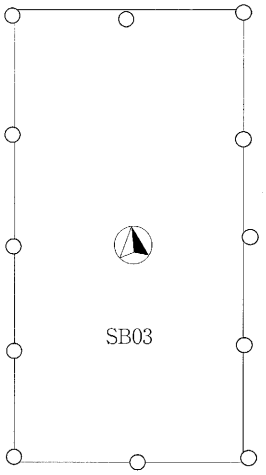
調査地区中央北寄りで検出された。南北棟の側柱の掘立柱建物址。桁行４間（12.0m）×梁行２間（6.0m）である。方位は真北に対して５度東へ偏っている。掘り方は一辺70～80cm程の方形を主としており、深さ28～68cmを測る。北妻中央の掘り方のみは円形で径50cmの小型のものである。建物内の南側においてＳＢ05と重複するが、掘り方相互の切り合い関係は明確ではない。Ｐ３－２はＳＫ05と重複するが、切り合い関係は明確ではない。

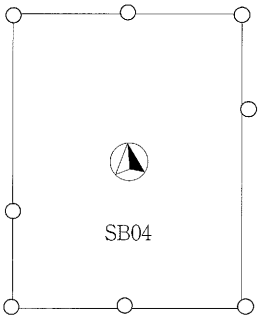
掘立柱建物址ＳＢ04

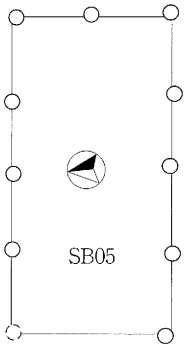
調査地区中央北寄りで検出された。南北棟の側柱の掘立柱建物址。桁行３間（7.8m）×梁行２間（6.0m）である。方位は真北に対して５度東へ偏っている。掘り方は方形を主としており、一辺70～80cm程、深さ28～43cmを測る。この建物を南北に分断するようにＳＤ04が走っている。Ｐ１－３、Ｐ３－２はこの溝に掘削されたために検出されなかったものと推定される。

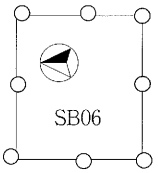
掘立柱建物址ＳＢ05

調査地区中央北寄りで検出された。東西棟で側柱の掘立柱建物址。桁行４間（8.4m）×梁行２間（4.2m）である。方位は真東に対して5.3度北へ偏っている。掘り方は方形を主としており、一辺40～50cm程、深さ25～47cmを測る。建物内の中央及び東側はＳＢ03と重複するが、掘り方相互の切り合い関係は明確ではない。北西側はＳＥ09と重複する。Ｐ２－３はＳＥ09に切られている。Ｐ１－２、Ｐ１－３はこの井戸址に掘削されたために検出さ









第12図　掘立柱建物址概略図〔２〕
（１／200）

れなかったものと推定される。Ｐ１－１、Ｐ５－２は一部をピットに切られている。

掘立柱建物址ＳＢ06

調査地区南西側で検出された。東西棟で側柱の掘立柱建物址。桁行２間（3.8m）×梁行２間（3.4m）である。方位は真東に対して1.5度北へ偏っている。掘り方は円形で、径30～70cm、深さ22.4～64.4cmを測る。ＳＢ01、ＳＩ02と重複する。ＳＢ01、ＳＩ02とは掘り方相互の切り合い関係はない。

掘立柱建物址ＳＢ07

調査地区中央南側で検出された掘立柱建物址。棟の方向は南東～北西である。桁行２間（3.4m）×梁行１間（3.2m）である。方位は真東に対して32.6度北へ偏っている。掘り方は円形で、径30～40cm、深さ15～23cmを測る。建物内にはＳＫ03が位置し、この建物に伴うものの可能性がある。

掘立柱建物址ＳＢ08

調査地区中央東側で検出された側柱の掘立柱建物址。桁行・梁行の長さがほぼ等しく、南北棟ないし東西棟になる。桁行２間（3.6m）×梁行２間（3.6m）である。東西棟とした場合、方位は真東に対して15.9度南へ偏っている。掘り方は円形で、径25～50cm、深さ17～39cmを測る。Ｐ３－１は他のピットと重複し、形態が不明確である。

掘立柱建物址ＳＢ09

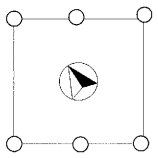
調査地区中央南側で検出された総柱の掘立柱建物址。棟の方向は南東～北西方向である。桁行３間（6.0m）×梁行３間（4.5m）を測る。方位は真東に対して30.5度北へ偏っている。掘り方は円形ないしは不整楕円形で、径30～80cm、深さ11～51cmを測る。建物内にはＳＫ11が位置し、この建物に伴うものの可能性がある。

掘立柱建物址ＳＢ10

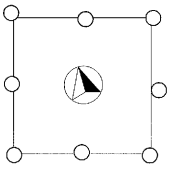
調査地区中央北寄りで検出された総柱の掘立柱建物址。棟の方向は南南西～北北東方向である。桁行２間（5.4m）×梁行２間（4.2m）を測る。方位は真北に対して19度東へ偏っている。掘り方は円形ないしは不整楕円形で、径30～50cm、深さ17～37cmを測る。Ｐ１－１とＰ３－２は一部をピットに切られている。

掘立柱建物址ＳＢ11

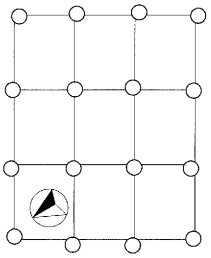
調査地区中央南側で検出された掘立柱建物址。棟の方向は南西～北東方向である。桁行２間（3.5m）×梁行１間（3.2m）を測る。方位は真北に対して31度東へ偏っている。掘り方は円形で、径30～50cm、深さ13～19cmを測る。Ｐ１－３はＳＫ14を切る。



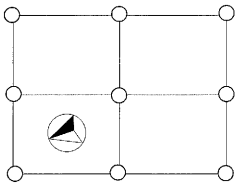
SB07



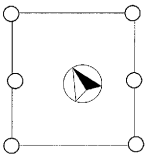
SB08



SB09



SB10



SB11

第13図　掘立柱建物址概略図〔３〕

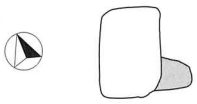
（１／200）

第３節　竪穴建物址

竪穴建物址は５棟検出された。いわゆる竪穴式住居址である。今回の５棟はいずれも掘り込みは浅いものである。後世の削平を受けて浅くなったものではなく、本来浅い形態の竪穴建物址と考えている。すべてカマドの痕跡とした焼土がある。

竪穴建物址ＳＩ01

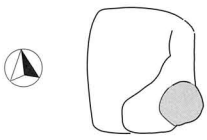
調査地区中央東側で検出した。長軸2.4m、短軸1.6mの隅丸長方形を呈し、深さ15.6cmを測る。長軸は真北に対し22度東に傾く。またピットは南西端で１基検出している。建物の南東には長さ幅共に１m程の張り出しがみられ、この張り出した部分には焼土が含まれていることからカマドの痕跡と考えられる。



ＳＩ01

竪穴建物址ＳＩ02

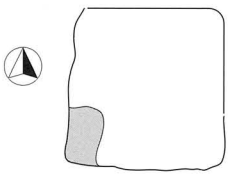
調査地区南西側で検出した。残存状態が悪く全体を把握することが出来なかったが、カマドの痕跡等から竪穴建物址とした。残存する規模は長軸2.8m、短軸1.9m、深さ９cmである。長軸方向は真北に対し7.4度東へ傾く。カマドの痕跡は建物の南東に長さ２m、幅1.2mの不整円形の焼土を含むもので、深さは21cmを測る。ＳＢ01を切り、ＳＢ06に切られる。



ＳＩ02

竪穴建物址ＳＩ03

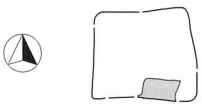
調査地区中央南寄りで検出した。建物北側の大部分をＳＫ10に切られており、カマドの痕跡を含む南側と西壁の一部を確認した。平面形は隅丸長方形と推測され、規模は長軸4.3m以上、短軸4.2m、深さ８cmを測り、長軸はほぼ南北方向である。建物の南西隅には焼土を含む長さ1.6m、幅約1.0mの不整長方形を呈したカマドの痕跡がみられる。



ＳＩ03

竪穴建物址ＳＩ04

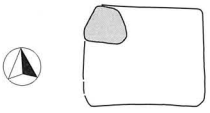
調査地区南西側で検出した。長軸2.7m、短軸2.5mの隅丸台形を呈し、深さ12cmを測る。長軸はほぼ東西方向である。建物の南東側には焼土がありカマドの痕跡と考えられる。この痕跡は長さ1.1m以上、幅0.7m、深さ12cmの隅丸長方形を呈する。建物の北西をカクランに、南西側と南東側をピットに切られる。カマドの痕跡もピットによって切られる。



ＳＩ04

竪穴建物址ＳＩ05

調査地区南西側で検出した。長軸3.2m、短軸2.7mの隅丸長方形を呈し、深さ６cmを測る。長軸は真東に対し3.9度北へ偏る。建物の北西隅に径1.1m程、深さ9cmの不整円形を呈した焼土があり、カマドの痕跡と考えられる。北側でＳＫ37を切り、南西側はＳＤ34に切られる。



ＳＩ05

第14図　竪穴建物址概略図
（１／200）

第4節　柵　　址

柵址ＳＡ01

調査地区中央で検出した西北西～東南東方向に延びる柵址である。規模は３間（5.6m）で、柱間寸法は西側から1.8、1.9、1.9mを測る。方位は真東に対して13.4度北へ傾く。掘り方の平面形は不整楕円形で径30～60cm、深さは16～22cmを測る。

柵址ＳＡ02

調査地区中央西側で検出した西北西～東南東方向に延びる柵址である。規模は３間（5.55m）で、柱間寸法は1.85mの等間を測る。方位は真東に対して4.6度北へ傾く。掘り方の平面形は不整方形で一辺40～60cm、深さ23～50cmを測る。西側は調査地区外へ延びる可能性がある。ＳＤ29を切る。

柵址ＳＡ03

調査地区南西側で検出した南南西～北北東方向に延びる柵址である。規模は２間（４m）で、柱間寸法は２mの等間を測る。方位は真北に対して5.8度東へ傾く。掘り方の平面形は不整方形で一辺50～70cm、深さ11～21cmを測る。

柵址ＳＡ04

調査地区南側中央で検出された西北西～東南東方向に延びる柵址である。規模は３間（5.2m）で、柱間寸法は西側から2.0、1.6、1.6mを測る。方位は真東に対し13.2度北へ傾く。掘り方の平面形は不整円形で径25～30cm、深さ11～22cmを測る。東側は調査地区外へ延びる可能性がある。

第5節　井戸址

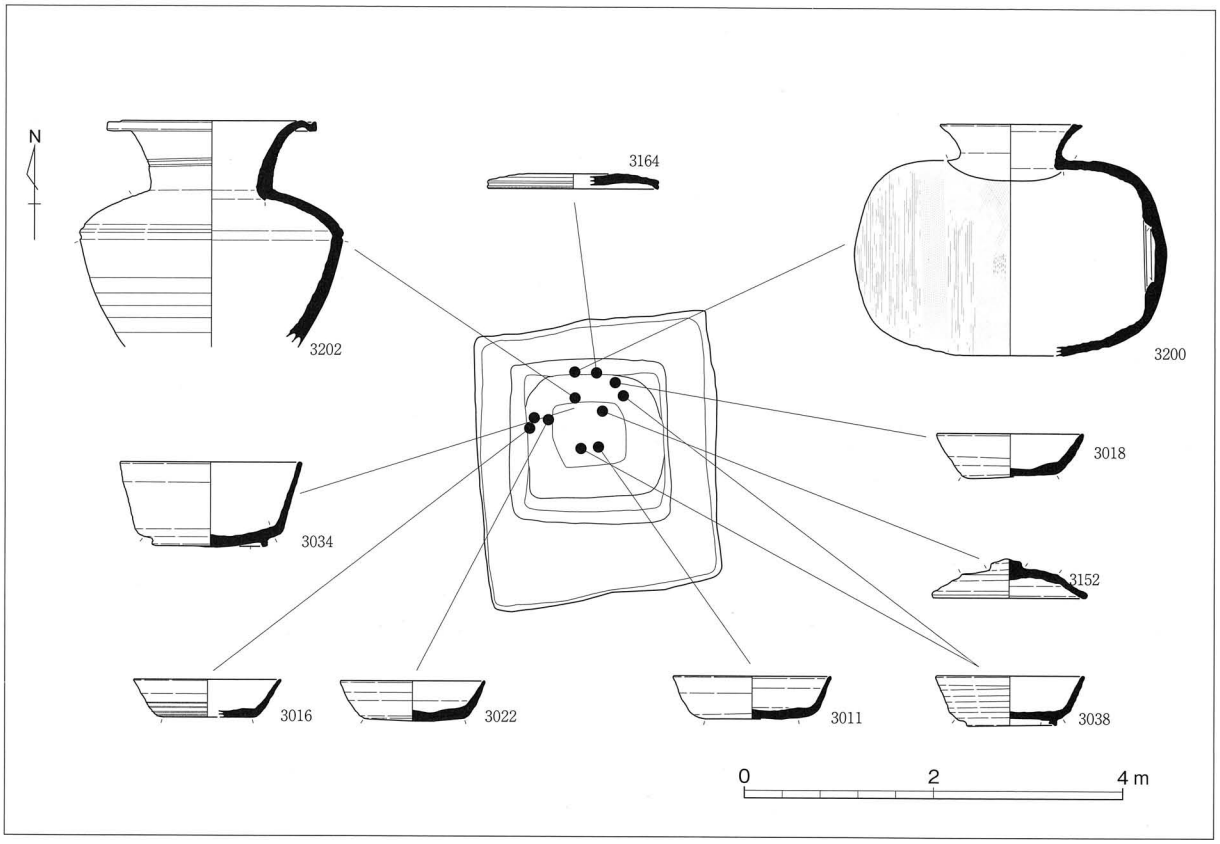
井戸址ＳＥ01

調査地区中央南寄りで検出された。板組み井戸であったと推定される大型の井戸址である。

検出面（上面形）は、南北に長い略長方形（平行四辺形気味）であり、基盤層を掘り込む形で黄褐色土がみられた。この方形部を切る形で円形の黒褐色土の落ち込みがあった。これは後に土坑ＳＫ06とするものである。また、北側と西側にも円形の黒褐色土の落ち込みがあり、これは後に井戸址と判明し、ＳＥ02・03とするものである。ＳＫ06を掘り上げた後、この遺構（ＳＥ01、当時は井戸址と認識していなかった）を南北に２分し、南側から掘り下げた。検出面から0.60～1.00m掘り下げた所で周囲がテラス状になり、中央部がさらに深くなっていることが判明した（この頃から井戸址と推定することになった）。1.60mほど掘り下げた所で南側のみの掘り下げを止め、北側も掘り下げるようにした。土層断面の観察では、幅1.10mの井戸側の痕跡が窺えた。

上段の上面形は平行四辺形気味の略長方形である。南北3.00×東西2.55mを測る。各辺の長さと傾きは次の通りである。北辺：長さ2.50m、座標東に対して7.7度北へ偏る。東辺：長さ2.80m、座標北に対して3.3度西へ偏る。南辺：長さ2.42m、座標東に対して9.2度北へ偏る。西辺：長さ3.00m、座標北に対して3.9度西へ偏る。上段はほぼ垂直に0.60～1.00m掘り下げられテラスを形成する。

下段の上面形は一辺1.65mの正方形となる。各辺はほぼ東西南北に走る。底面は東西にやや長い長方形となり、南北0.64×東西0.76mを測る。



第15図　井戸址ＳＥ01遺物出土位置図（１／80）

検出面からの深さは、上段底面：0.60～1.00m、下段上面：0.90～1.00m、下段底面：2.65mとなる。下段底面（井戸底）より須恵器が出土している。

井戸の掘り方の外壁にみる基盤層の土層は次のようになる。１．淡黄褐色粘質土、２．暗灰褐色粘質土、３．黄褐色粘質土、４．礫層、５．黄褐色粘質土、６．淡灰黄色砂層、７．礫層。上段は基盤層第２層の暗灰褐色粘質土の最下部まで掘り込んでいる。下段は下方の礫層を60cm程掘り込んでいる。

井戸址ＳＥ02～11

円形プランの素掘りの井戸址である。

ＳＥ02・03は調査地区中央南寄りで検出された。隣接してＳＥ01が位置する。

第６節　土　　坑

土坑は41基検出された。この中で奈良平安時代のものは19基（ＳＫ04・05・10・17・20～23・26・28・31～35・37・38・40・41）あり、中世のものは14基（ＳＫ01・02・06～08・11～14・16・18・19・25・39）である。これ以外の８基（ＳＫ03・09・15・24・27・29・30・36）は時期の特定には至らなかった。平面形は不整楕円形、不整方形を呈するものが多い。各土坑の個別内容については、別表５に「土坑一覧表」として取りまとめた。また性格が明確にならなかった遺構について、今回は土坑として取りまとめた。

第7節　溝

溝は36条検出された。この中で時期が特定できるものは17条あり、奈良平安時代のものは9条（SD05・09・10・13～15・17～19）で、中世のものは8条（SD02～04・06～08・11・16）である。各溝の個別内容については別表6に「溝一覧表」として取りまとめた。ここでは中世の区画溝であったと推定される溝（SD02～04・07）について記述する。

溝SD02

調査地区の南西側で検出した西北西～東南東方向に走る溝である。規模は長さ43.4m以上、幅1.0～1.8m、深さ17～40cmを測る。西北西側で調査地区外へ延び、溝中央部はカクランに切られる。北西側はSB01、SK35を切る。東南端から同軸線上にはSD03が存在し、北西側では軸線からほぼ直角方向に走るSD04が存在する。区画として南側の溝にあたると推定する。

溝SD03

調査地区の南東側で検出した北東～南西方向から東南東～西北西方向へ屈曲する溝である。規模は長さ北東～南西方向43.5m、東南東～西北西方向11.6m、幅0.4～1.6m、深さ7～41cmを測る。北東側でSZ02を切り、一部をピットに切られる。北東端部北側にはSD07が存在する。西北西端はSD02の東南東端から3m程離れた位置から始まり、SD02とほぼ同軸上に延びる。（12、4）区で屈曲した後やや東側に拡がるように走る。区画として東側と南東側の溝にあたると推定する。

溝SD04

調査地区西側から北西側で検出した南南西～北北東方向から西北西～東南東方向へ屈曲する溝である。規模は長さ南南西～北北東方向53.7m、西北西～東南東方向22.8m、幅1.2～2.0m、深さ36～71cmを測る。南南西側でSB01を切り、東南東側でSB04を切る。また一部をカクラン・ピットに切られる。南南西端部ではSD12と重複するが、切り合い関係は不明である。南南西端はSD02から約2.5m北東に離れた位置から始まる。SD02に対してほぼ直角に走り、（8、18）区で屈曲した後SD02とほぼ並行に走る。区画として西側と北西側の溝にあたると推定する。

溝SD07

調査地区中央東よりで検出した北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ24.8m、幅0.5～1.3m、深さ4～39cmを測る。南東側でSZ02の主体部と周溝を切る。北西端ではSK08と重複するが切りあい関係は不明である。南東端はSD03の北東端北側に位置し、SD02とほぼ並行に走る。区画として北側東よりの溝にあたると推定する。

第8節　その他の遺構

その他の遺構として凹地SX01を記述する。

凹地SX01

調査地区南西側で検出した。長軸11.2m、短軸3.1mの不整長方形を呈し、深さ7～25cmを測る。北西側でカクランに切られる。珠洲が出土しているが、遺構として明確な掘り込みが確認できなかったため、今回は凹地とした。

第３章　遺　　物

第１節　縄文土器

縄文土器の出土総数は178点で、その内13点を図面50で示した。未掲載のものでは、中期中葉と考えられる半裁竹管条工具により施文された胴部破片が２点あり、他は全て中期後葉～後期初頭（串田新Ⅱ式～前田式）に帰属すると考えられる。その内訳は口縁部片２点（沈線文）、胴部片115点（縄文57点・葉脈状文10点・沈線文10点・無文38点）、底部片２点、細片44点である。出土した土器は全て破片で、接合関係にも乏しい。また、当該期の遺構の検出はなく、いずれも遺物包含層、もしくは別の時代の遺構埋没土から出土したものである。

1101は頸部を刻みのある隆帯で区画し、胴部には縦位の条線を施文している。1102は頸部を棒状工具による太い横位沈線で区画し、胴部は縄文を施文する。２点とも平口縁で、口縁部は無文である。1103は頸部を刻みのある隆帯で区画し、胴部は葉脈状文を施文する。1110も頸部を刻みのある隆帯で区画し、胴部には縄文を施文する。２点とも口縁部を欠損しているが、残存部から1101・1102と同様、無文であったことが推測される。1109は頸部を棒状工具による２本の太い横位沈線で区画し、胴部は縦に縄文が施文される。1104は口縁端部で内側に屈曲する。波状口縁と考えられ、外面は数条の横位沈線で施文される。1105も、横位沈線により施文された頸部片である。1107は縦位の太い沈線による区画内を縦位の太い蛇行沈線（Ｓ字状沈線）で施文する。1111は粗製土器と考えられる。口縁部は平口縁で無文だが、指頭痕がみられる。内面端部には瘤状貼付文が施される。胴部は縄文が施文される。1112･1113は底部片で、２点とも平底である。残存している胴部には縄文が施文されており、底部外面には網代痕がみられる。

第２節　古墳時代の土器

古墳時代の土器として、古墳から出土した土師器・須恵器各１点を図面50で示した。

土師器・椀

土師器椀1201は古墳ＳＺ05から出土したものである。法量は、口径15.0cm、器高5.95cmを計る。偏球形の体・底部に外反して外上方へ短く拡がる口縁部が付く形態である。全体的に器表面が剝離・磨滅しており、調整手法は不明である。明赤褐色を呈する。口端部４分の３が欠損している。

須恵器・杯蓋

須恵器杯蓋1202は古墳ＳＺ03から出土したものである。法量は、口径14.0cm、器高4.3cmを計る。天井部は余りふくらみがないものである。口縁部はやや外方へ拡がる。口端部は内傾する口唇面を形作っている。口縁部内面の稜は弱いものである。外面には天井部と口縁部とを分ける弱い凹線が入る。天井部中央はヘラ削りする。ロクロ回転は逆回りである。灰色を呈する。ほぼ完形である。

第３節　奈良平安時代の土器類

「奈良平安時代の土器類」として報告するものは、奈良時代から平安時代前半期頃（８世紀から10世紀前半頃）に所属するものである。ここではこれらを次のように区分し、①土師器、②製塩土器、③須恵器、④灰釉陶器の順で紹介する。

１．土師器

土師器・椀

土師器の椀は230点（図面50～57－2001～2230）図示した。これらは器表面の処理により、赤彩や黒色処理を施すもの（Ａ類）と、施さないもの（Ｂ類）に２区分できる。それぞれさらに細分でき、以下のように５分類となる。

椀Ａａ；赤彩を施すもの。

椀Ａｂ；赤彩を施し、かつ黒色処理をするもの。

椀Ａｃ；黒色処理をするもの。

椀Ｂａ；赤彩や黒色処理を施さないもので、２次的調整を行うもの。

椀Ｂｂ；赤彩や黒色処理を施さないもので、２次的調整を行わないもの。

椀Ａａは2001～2004の４点である。いずれも破片で全体の形態が判明しない。内外面とも赤彩するのが基本と思えるが、2002は内面が赤彩されていない。

椀Ａｂは2005～2008の４点である。内面と口縁部外面を黒色処理し、体・底部外面を赤彩するのが基本となっている。ただし2008はやや変則的なものである。

椀Ａｃは2009～2029の21点である。内面と口縁部外面を黒色処理するのが基本である。2009・2013・2022は外面の黒色処理はない。2016は外面も全体が黒色処理されている可能性がある。

椀Ｂａは2030・2031の２点である。2030は体下部・底部外面が手持ちヘラ削りされている。2031は体下部外面が手持ちヘラ削りされている。

椀Ｂｂは2032～2230の199点である。残存状態より全体の形態が判明するもの34点（2032～2065）、口縁・体部のもの60点（2066～2125）、体・底部のもの105点（2126～2230）となる。形態的には、平底の底部より、口縁・体部はやや内弯して外上方へ拡がるものである。調整手法は、ロクロ調整の後、底部を糸切りして再調整を施さないものである。このように形態・調整とも斉一性の強いものである。

土師器を形態的にみれば、椀Ｂｂの形態である口縁・体部が直線的に外上方へ拡がるものがほとんどを占める。一方、椀Ａｂ・椀Ａｃと分類したものの中に、これとは違う形態のものがある。口縁・体部の内弯が比較的強く、口端部は直上方近くに立ち上がるものである。また口端部外面に凹縁が廻ることも特徴の１つとなっている。2005・2006・2009・2010が該当する。

土師器を調整手法からみれば、椀Ａ類とした赤彩や黒色処理を施したものは、ヘラ磨き、回転ヘラ削り、手持ちヘラ削りによる２次的調整を施したものが多い。これらを施している椀Ｂａとしたものは、２次的調整が極めて少ない。

土師器・皿

土師器の皿は６点（図面57－2231～2236）図示した。無高台の皿４点（2231～2234）と高台付の皿１点（2235）である。他の１点（2236）は底部を欠損している。形態的にはすべて類似し、口縁部が外反気味に

外上方へ開くものである。底部は糸切りのままで再調整を施さないものである。

土師器・鉢

土師器の鉢としたものは１点（図面57－2237）図示した。口縁部の破片である。口端部は内方へ巻き込むようになる。

土師器・甕

土師器の甕で全体の形態が判明するものは１点のみである。口縁部が残存しているものを中心に図化し、これに基づいて分類等を述べていく。主体になる甕（図面58～61－2238～2290）の形態は、頸部が緩く「くの字状」に折れ口縁部が外上方へ拡がるものである。規模からは、口径20～30cm前後を計る通有の甕と、口径10～15cm前後を計る小型の甕とに区分できる。

通有の甕は、図面58－2238～2249、図面59－2250～2257、図面60－2258～2267で、口縁部の形態より、以下のように分類できる。

A類．口端部に横ナデを施し外端に口唇面を形成するもの。

Ａａ類．口唇面が上方へつまみ上げたような形態になるもの。2238～2247。

Ａｂ類．口唇面が上下に肥厚する形態になるもの。2248・2249。

B類．口端部に弱い横ナデが加わるが、ほぼ丸く終わるもの。2250～2253。

C類．口端部が屈曲して立ち上がるもの。2254～2257。2254・2255が内傾して立ち上がるのに対して、2256・2257はほぼ直上方へ立ち上がる。

D類．口端部が内方へ巻き込まれたような形態で肥厚するもの。2258～2267。

小型の甕は、図面59－2268～2275、図面60－2276～2284で、口縁部の形態より、以下のように分類できる。なお、図面61－2285～2290は、小型の甕の底部を中心とした破片である。

A類．口端部に横ナデを施し外端に口唇面を形成するもの。2268。

B類．口端部が丸味をもって終わるもの。2269～2271。

C類．口端部が屈曲して立ち上がるもの。2272・2273。

D類．口端部が屈曲して内弯するもの。2274～2276。

E類．口端部が内方へ巻き込まれたような形態で肥厚するもの。

Ｅａ類．内面へ明確に巻き込まれた形態になるもの。2277～2279。

Ｅｂ類．内面に巻き込みによる段がないもの。2280～2283。

F類．口縁部は短く外反して、丸味をもって終わるもの。2284。

小型の甕の底部を中心とした破片である2285～2290は、ロクロ調整の後、底部を糸切りしている。2289は切り離し手法は不明である。2285は胴下部下半外面をヘラ削りしている。

図面61－2291・2292は一応甕に分類したが、須恵器甕を模したような特殊な形態をしている。口縁部は上端に口唇面を形成し、外面は突帯状に膨らむ。

土師器・鍋

土師器の鍋は４点（図面61－2293～2296）図示した。いずれも小破片であるが、器形が大型であることや口縁部の形態（傾き）より鍋とした。口端部は肥厚するものである。

２．製塩土器

製塩土器を５点（図面61－2901～2905）図示した。いずれも棒状尖底タイプの製塩土器の底部片である。底部末端まで残存しているのは2905のみである。棒状脚は短いものである。

3．須恵器

須恵器・杯

須恵器の杯は146点（図面62～66－3001～3146）図示した。形態的に大きく２つに分類した。１類と２類と称しておく。

１類は3001～3120（図面62～65）の120点で多数を占めるものである。体下部に丸味を持ち、口縁部の立ち上がりが急である。稜杯でやや特殊な3097（図面65）を一応除外すると、全体の形態が判明するものは53点を数える。これらは無高台の杯Ａ＝3001～3030の30点（図面62）と高台付杯の杯Ｂ＝3031～3053の23点（図面63）に区分される。杯Ａは口径13.8～10.6cmを計る。調整手法は、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、再調整を施さないものである。なお3009は底部外面に墨書「大」が付く。杯Ｂは、口径16.9～13.8cmを計る大型品（3031～3036）と口径11.6～10.2cmを計る通有のもの（3037～3053）がある。調整手法は、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、再調整を施さないものである。3054～3120（図面64・65）は3097以外は全体の形態が判明しないが、図面62・63で示したものと同様のものと判断した。3054～3067（図面64）は、杯Ａの体下・底部片である。底部はヘラ切りのままである。3068～3096（図面64・65）は、杯Ｂの体下・底部片である。底部はヘラ切りのままである。なお3078は底部外面にヘラ記号「×」が付く。3097（図面65）は外面に稜が付く高台付の杯である。この1類の杯Ｂの内に含めて考えた。3098～3120（図面65）は、口縁・体部片である。この１類の杯Ａないし杯Ｂの一部と考えたものである。

２類は3121～3146（図面66）の26点である。多数を占める１類と比べてやや異質なものである。形態的特珠として、口縁・体部が直線的に外上方へ開くものである。１類と比べて直線的に延び、外方への拡がりも大きいものである。3121・3122は無高台の杯Ａで、直線的な口縁・体部となる。底部はヘラ切りのままである。3123も無高台の杯Ａで、直線的な口縁・体部となる。器高が低く皿に近い形態である。底部をヘラ削りしている。3124は特徴的なものである。口縁部は欠損しているが、残存状態より深い杯（器高が高い）であることは確定である。底部は糸切りである。そして、外端部をつまみ出すように、体下部から底部外周を横ナデしている。3125～3129は高台付の杯Ｂで、直線的な口縁・体部となる。底部中央が欠損している3128は不明であるが、これ以外はヘラ切りである。3130・3131も高台付の杯Ｂである。口縁部は欠損しているが、体部は直線的に延びている。底部を糸切りしているのが特徴的である。3132は断面三角形で外方へ踏んばる高台が付く。底部中央は欠損しているが、底部の器壁は厚くなるようである。3133～3146は口縁・体部片で、この２類の特徴である口縁・体部が直線的に延び、外上方へ開く形態のものである。

須恵器・杯蓋

須恵器の杯蓋は51点（図面67・68－3147～3197）図示した。形態的に大きく２つに分類した。１類と２類と称しておく。

１類は3147～3182（図面67）の36点で多数を占めるものである。天井部中央に宝珠形ないしこれが変形した形のつまみが付く。口端部は下方へ短く屈曲するものである。天井部外面にはヘラ切りの痕跡が認められる。またヘラ削りするものもある。3147～3155は全体の形態が判明するもの、及びこれに準ずるものである。口径15.5～11.6cmを計る。3148・3154はつまみの痕跡が残存している。3156～3182は、口縁部片ないし口縁部と天井部外周が残存しているものである。形態的に3147～3155に類似し、天井部につまみが付くものと考えている。口径17.8～10.8cmを計る。

２類は3183～3196（図面68）の14点である。天井部中央につまみが付かないもの、ないしその可能性があるもの、そして口端部が丸味を持って終わるものを抽出した。3183は全体の形態が判明するものである。天井部につまみはなく、口端部が丸くなっている。これをこのグループの典型的なものとした。3187も全体の

形態が判明するものである。天井部につまみが付かないのでこの２類とした。しかし、口端部は下方へ短く折れるもので１類に該当する形態である。１類の亜種とした方がよいかもしれない。

須恵器・鉢

須恵器の鉢として１点（図面68－3198）図示した。鉄鉢形の内弯する口縁部を有する。

須恵器・壺瓶類

須恵器の壺瓶類として25点（図面68～70－3199～3223）図示した。小破片が多く全体の形態を分明にすることができないものがほとんどである。

3199（図面68）は耳付の瓶の肩部片である。耳部は１箇所確認できる。3200（図面68）は横瓶である。口縁部の一部と、胴部成形時の上部側（口縁部側）が残存している。胴部中央部外面は叩目、上部側外面はカキ目である。3201（図面68）は横瓶の口縁部片で、胴部の一部も残存している。胴部は、内面にあて具痕、外面にカキ目痕が付く。3202（図面68）は広口壺である。肩部がやや張る形態で、底部は欠損している。胴部外面はヘラ削りしている。

3203～3213（図面69）は口縁部片である。3212のみ肩部が一部残存している。口径は、3203が最大で29.0cmを計り、3213が最小である。その他は、24.0～21.0cmの比較的大きいものが７点、16.0cmの比較的小さいものが２点である。広口壺ないし双耳瓶になる可能性が高いと考えている。

3214～3222（図面69・70）は胴下・底部片である。広口壺ないし双耳瓶になる可能性が高いと考えている。

3223（図面68）は壺蓋である。天井部はヘラ削りされている。中央には宝珠形のつまみが付く。短頸壺と組み合う壺蓋と考えられる。

須恵器・甕

須恵器の甕として11点（図面70・71－3224～3234）図示した。口縁部片10点（3224～3233）と胴部片１点（3234）である。

口縁部片については、外面に波状文を持つもの（3224～3226）と持たないもの（3227～3233）に区分できる。前者については、凸帯が付いたり、凹線が入る。後者については、3230が全体的に鋭さがないものである。

４．灰釉陶器

灰釉陶器・椀

灰釉陶器の椀として３点（図面71－3901～3903）図示した。3901は全体の形態が判明するものである。体下部から底部外面はヘラ削りしている。施釉については、口縁部内外面への漬け掛けである。3902は口縁・体部片である。施釉については、口縁部内外面への漬け掛けである。3903は体下・底部片である。施釉については、底部内面中央部近くまで及ぶもので、刷毛塗りである。

灰釉陶器・瓶

灰釉陶器の瓶の注口部としたのが、3904（図面71）である。焼成は不良で灰褐色を呈している。

第４節　中世の土器類

「中世の土器類」として報告するものは、平安時代末から南北朝時代頃（12世紀から14世紀頃）に所属するものである。ここではこれらを次のように区分し、①中世土師器、②瓦質土器、③珠洲、④陶磁器（珠洲以外の中世陶磁器で、八尾、瀬戸美濃、青磁、白磁）の順で紹介する。

１．中世土師器

中世の土師器はすべて皿で、24点（図面72－4101～4124）図示した。成形手法はすべて非ロクロの製品である。法量より、Ⅰ類：大型品（大皿）、口径13.0～14.9cmとⅡ類：小型品（小皿）、口径6.6～10.0cmとに区分される。

Ⅰ類とした大型の皿は、4101～4107の７点である。4101は口縁部外面を２段に横ナデしている。上方の横ナデ部分の幅は狭く、そのまま口端部へ移行する。口端部が外面に鈍い稜をなして立ち上がる形態となっている。底部は弧状となりナデている。4102～4107の６点は口縁部外面を１段に横ナデしている。形態は弧状の底部より口縁部は外反気味に外上方へ拡がるものである。形態等より以下の通りに細分できる。

a類：4102. 口縁部が強く外反するもの。

b類：4103. 口縁部の外傾度が比較的強いもの、作りは鋭い。

c類：4104～4106. 口縁部の外傾度が弱く、比較的垂直近くに立ち上がるもの。

d類：4107. 口縁部の外反が弱いもの、作りは鈍い。

Ⅱ類とした小型の皿は、4108～4124の17点である。法量的には4122が口径6.6cmと最も小さく、4124が中皿とでも言うべく口径10.0cmとなっている。残りの15点は口径7.0～8.6cmとなっている。形態等より以下の通り細分できる。

a類：4108～4113. 口縁部外面を弱く２段に横ナデしている。下段の横ナデの方が強くなされている。底部は平底に近いもの及び弧状のものである。

b類：4114～4116. 口縁部外面に１段の横ナデを施している。横ナデは弱いものであり、口縁部は直線的に外上方へ拡がる。底部は平底に近いものである。

c類：4117・4118. 全体的に丸く、器壁が厚いものである。口縁部は１段の横ナデである。口端部も厚いままで丸味を持って終わっている。

d類：4119～4123. 口縁部が内弯するもので、器壁は比較的薄い。底部は弧状のものが多い。

e類：4124. 平底に近い底部より、直線的に外上方へ拡がり、口端部はややつまみ上げたようになる。

これらの土師器皿で口縁部に油煙が付着しており、灯明皿としての用途が窺えるものは、4113・4115・4116・4119・4123の５点である。

２．瓦質土器

中世の土師質土器で、器表が燻されて黒色を呈しているものである。大型の容器が中心で、火鉢やすり鉢等である。燻されていないもので、同質で同形のものもあり、これらも含めて１つの種類の焼き物として扱う場合もある。燻しが不十分なものや風化等により器表の残存状態が悪くて、燻しの状態を分明にすることができないものもあり、ここでは１つのものとしておく。

瓦質土器として、３点（図面72－4201～4203）図示した。いずれも深鉢の形態であり、在地産の火鉢である。4201は口縁・体上部片である。口縁部は内方へ屈曲している。口縁部は横ナデ、体上部は内面がナデ、外面がナデ及び指圧である。燻しは不十分である。4202は口縁・体部片である。口縁部は内弯している。体上部外面に印判による菊花文が付く。全体的に磨滅している。灰褐色を呈する。4203は底部片である。全体的に磨滅している。灰褐色を呈する。

３．珠洲

珠洲・鉢

珠洲の鉢として45点（図面73～78－4301～4345）図示した。全体の形態が判明するのは4330（図面77）の１点のみである。その他の44点は、口縁・体部片31点（図面73～77－4301～4329・4331・4332）、体部片１点（図面77－4333）、底部片２点（図面77－4334・4335）、体・底部片10点（図面77・78－4336～4345）である。

遺物実測図として復元的に図示したが、小破片であり法量や傾き等の精度には限界がある。この珠洲・鉢に限り、口径は口縁部外端部（口唇面の外端部）で計測したものである。

口縁部が残存している32点を法量から分類すると以下のようになる。

Ａ類：特大鉢・大鉢。口径38.6～28.2cmを示す4301～4328の28点。これらは、口径38.6～35.0cmの特大鉢９点（4302～4304・4307・4317～4320・4324）と口径33.6～28.2cmの大鉢19点（4301・4305・4306・4308～4316・4321～4323・4325～4328）に細分される。

Ｂ類：中鉢。口径25.9～22.8cmを示す4329～4332の４点。

珠洲・壺

珠洲の壺として８点（図面79・80－4346～4353）図示した。いずれも破片である。4346（図面79）は特徴的な底部を有し、瓶子である。4347（図面79）は肩部片である。外面に２条の波状文が廻る。紐ロクロ成形による小壺である。4348（図面80）は口径48.6cmを計る超大型の壺である。口縁・肩部片で、口縁部はやや外反して短く外上方へ拡がる。口縁部内外面と口唇部に波状文が廻る。4349～4353（図面79）は通有の大壺・中壺としてよいと思われる。4349は頸肩部片で、外面にヘラ記号が付く。4350～4353（図面79）は胴下・底部片で、胴下部外面に叩き目、底部外面に静止糸切り痕がみられる。

珠洲・鉢形部

珠洲の鉢ないし壺の底部を中心とする破片である。図面78・79に13点（4354～4366）図示した。紐ロクロ成形による鉢形部である。底部外面に静止糸切り痕がみられる。

珠洲・甕

珠洲の甕として20点（図面79～82－4367～4386）図示した。口縁・肩部片14点（図面80～82－4367～4380）、胴下・底部片３点（図面79・82－4381～4383）、底部片３点（図面79・82－4384～4386）である。

遺物実測図として復元的に図示したが、法量や器形、特に傾きは極めて不分明で、精度には限界がある。口縁・肩部片の14点については、法量からは以下の通りに分類できる。

大甕：口径70.0～58.0cmとなるもの。4368・4369・4379。

中甕：口径52.8～42.2cmとなるもの。4370～4378。

小甕：口径37.5～32.2cmとなるもの。4367・4380。

また、口端部の形態より以下の通り分類した。

Ａ類：口端部が嘴頭形になるもの。4367～4370。

B類：口端部が円形になるもの。4371～4376。

C類：口端部が方形になるもの。4377～4380。

胴下・底部片および底部片としたものについては、底部外面に砂が付着している。

4．中世の陶磁器

珠洲以外の中世の陶磁器として、八尾、瀬戸美濃、青磁、白磁が少量出土している。いずれも小破片で、図化できる程度のものは少なく、図面83に４点（4401～4404）図示した。

八尾　4401。八尾甕の口頸部片である。口縁はN字状に屈曲する。色調は内面が灰褐色、断面が灰色を呈し、外面には緑灰色の自然釉が付く。

瀬戸美濃　4402。瀬戸美濃壺の胴下・底部片である。底径3.1cmを計る小壺である。色調は全体的に明灰褐色を呈する。底部外面には回転糸切り痕が付く。

青磁　4403。中国産青磁碗の口縁・体部片である。直線的に延びる体部より、口縁部はやや外反して拡がる。外面は鎬蓮弁文となる。色調はやや青味がかった緑灰色となる。

白磁　4404。中国産白磁碗の体下・底部である。外下方へ短く延びる四角形の高台が削り出されている。外面の釉は、体下部で止っている。

第５節　近世の陶磁器

近世の陶磁器として、肥前、瀬戸美濃、越中瀬戸が少量出土している。いずれも小破片で、図化できる程度のものは少なく、図面83に13点（4501～4513）図示した。

肥前陶器　4501・4502。4501は肥前陶器の碗で、底部片である。高台部は欠損している。全体的に灰釉が掛かっている。4502は肥前陶器の皿で、底部片である。二彩手大皿である。内面は刷毛目による縞状の文様が付く。

肥前磁器　4503～4506。4503～4505は肥前磁器の染付である。4503は碗の体・底部片である。4504は全体の形態が判明する皿である。見込み中央にはコンニャク印判による五弁花文が付く。周囲は蛇の目釉剝ぎが施されている。発色が悪く、全体的に灰褐色を呈する。染付の文様も黒灰色となっている。4505は染付皿で８分の１程度残存の小破片である。4506は青磁皿で、波佐見系の製品である。内面は蛇の目釉剝ぎとなっている。

瀬戸美濃　4507。瀬戸美濃の底部である。呉須絵陶器である。

越中瀬戸　4508～4513。4508は皿の口縁・体部である。内弯して外上方へ拡がる形態である。底・高台部は欠損している。底部外面と高台部以外を施釉していると考えられる。釉は灰釉である。見込みには重ね焼の痕が付く。4509・4510は無高台の小皿になると考えられる体下・底部片及び底部片である。底部は回転糸切りされたままとなっている。錆釉が掛かっている。4509の底部外面に墨書「りあ」が付く。4511・4512はすり鉢である。4511は口縁・体上部片である。直線的に延びた体部より口縁部は外縁に口唇帯を形成している。口唇帯は直上下に延びるものである。錆釉が掛かる。内面にみられるオロシ目は密ではない。4512は底部片である。錆釉が掛かりオロシ目は密である。4513は匣鉢の底部片で底部外面には糸切り痕がみられる。

第６節　その他の遺物

１．土製品

瓦塔　図面84－5001。瓦塔の屋蓋部の破片である。軒端が僅かに残存している。屋蓋の瓦は、半截竹管状工具により丸瓦が表現されている。丸瓦は５条確認できる。軒裏は棰が表現されている。灰褐色を呈する。通常の須恵器と比べるとやや軟質である。

土錘　図面84－5002・5003。管状で土師質の土錘である。ほぼ完存品である。

鞴の羽口　図面84－5004。鞴の羽口の破片である。

２．木製品

皿　図面85－6001。漆器の小皿でほぼ完存品である。

箸　図面86－6002～6013。箸状の木製品で12点を数える。完存品は6002～6004・6008の４点である。残りの８点の内、５点（6005～6007・6010・6012）は片端が欠損している。３点（6009・6011・6013）は両端が欠損している。

篦状具　図面85－6014。長さ23.2cmを計る篦状の木製品である。一端が焦げている。

板状品　図面85－6015。長方形で長辺の一方以外やや弧状になる形態である。

木片　図面85－6016。棒状の木片で一端が焦げている。

３．鉄製品

鉄剣　図面89－7001。先端が僅かに欠損しており、他も部分的に欠損している。残存長65.7cmを計る剣身部は長さ50.0cm、元幅3.4cm、先幅2.7cmを計る。断面は菱形となり中央に稜が通る。厚さ0.8～0.9cmである。茎部は長さ15.7cmで、剣身側が幅3.4cmと最も広く、茎尻にかけてすぼまっていく。茎はやや偏りがある。茎尻から剣身側9.6cmの所に目釘が付く。

刀子　図面87－7002～7017。7002・7003は木質の柄部は残存していないが、金属部分の刀身部・茎部が完存している。他の14点はいずれも一部が欠損している。

鉄鏃　図面88－7018～7038。7018は有茎式の長頸鏃で茎部に木質部が付いている。茎部途中より欠損している。現存長14.5cm、身部長3.1cm、身部幅1.0cm、頸部長8.0cm、茎部残存長3.5cmを計る。7019は有茎式の鏃で身部が途中より欠損している。茎部に木質部が付いている。現存長10.0cm、身部残存長1.4cm、身部幅1.1cm、頸部長5.3cm、茎部長4.0cmを計る。7020～7038の19点はいずれも大部分が欠損し、残存しているのは一部分のみである。7026は茎部に木質部が付いている。

紡錘車　図面89－7039。鉄製の紡錘車で、紡輪部の径は4.1cmを計る。軸部はくの字に折れ両端が途中で欠損している。軸部現存長は6.6cmを計る。

鉄釘　図面89－7040～7050。7040～7044は完存品ないし大部分残存していて全体の形態が判明するものである。断面は方形を呈している。

用途不明品　図面90－7051～7067。7051は筒状の形態を持つ。直径約1.6cm、高さ1.4cm、厚さ0.4cmを計

る。7052・7053は環状に曲がったもので共に直径約1.6cmを計る。7054は半環状で断面が菱形を呈している。7055は端部に穴があき断面がへの字を呈する。長さ4.0cm、幅0.7cmを計る。7056～7058は刀子の一部になる可能性が、7059～7063は鉄釘の一部になる可能性が考えられる。7064は1.0×0.8cmの長方形の鉄板に1mm角の棒状のものが付く。7065・7066は片側で幅が狭くなる。7067は中央部分に膨らみを持つ。

4．銅製品

銅銭　図版60－8001～8004。4枚出土した銅銭で銭名が判明するものは2点（8001・8002）である。8001は唐銭の乾元重宝（758）で、8002は北宋銭の熙寧元宝（1068）である。8003・8004は銭名不明である。

5．石製品

打製石斧　図面91－9001・9002。9001は撥型の打製石斧である。刃部は一部欠損している可能性がある。片面は全体的に礫面が残っている。9002は頭部側の破片で、分明型の打製石斧と考えられる。一面は全体的に、他面は一部に礫面が残っている。

磨製石斧　図面91－9003。蛇紋岩製の磨製石斧である。

勾玉？　図面91－9004。勾玉の未製品に類似した形態を示している。

砥石　図面92～94－9005～9019。15点の内訳は凝灰岩製が5点（9005・9008・9015・9017・9019）、砂岩製が4点（9006・9012～9014）、流紋岩製が3点（9009・9016・9018）、安山岩製2点（9007・9011）、安山岩質集塊岩1点（9010）である。9005・9009・9011の3点は完存品であると判断される。

第4章　総　　括

はじめに

常国遺跡は周知の遺跡ではなく、住宅団地造成事業に際して実施した試掘調査によって発見された遺跡である。今回の調査は中田地域で実施した最初の埋蔵文化財発掘調査である。この調査では、当初の予測を超える遺構が確認され、考古学的に重要視されていなかった中田地域の認識を一変する結果となった。

当遺跡は古墳時代、古代（奈良平安時代）、中世の３つの時代を主とする複合遺跡であり、長期間にわたり、断続的に利用された地区であることが判明した。

遺跡の立地

常国遺跡は高岡市の南東部、庄川の東側に位置し、南北約470m、東西約250～290mの北側に拡がる形の遺跡範囲を有している。常国住宅団地造成計画に伴い発掘調査を行った平成４・５年度の調査地区は、当遺跡範囲の北東部、標高約19～20mの庄川扇状地扇側部末端に立地している。

縄文時代

縄文時代の遺物としては、縄文時代中期後葉～後期初頭を中心として、中期中葉の土器が数点出土した。いずれも遺物包含層や、他の時期の遺構埋没土からの出土で当該期に伴う遺構の検出には至っていない。しかし、本遺跡から南東へ約１kmの位置に所在する滝遺跡では平成13年度の発掘調査で縄文時代中期中葉の遺物が出土しており、該期の土坑が１基検出されている。このことから、今回の調査成果と併せて中田地区には、縄文時代中期中葉～後期初頭に関わる遺跡が立地していることが推測される。

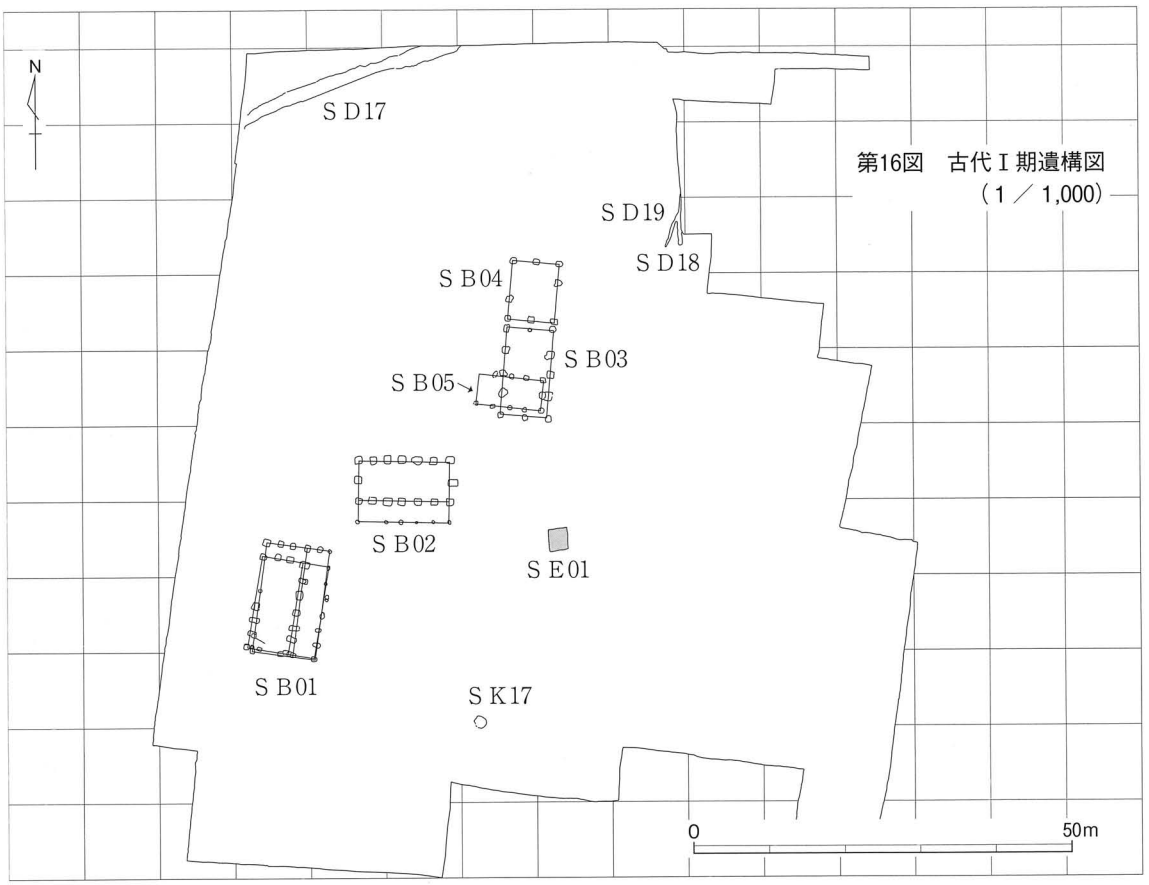
常国古墳群

古墳時代では古墳が８基（SZ01～08）検出されている。本調査区における当該期の遺構は古墳以外検出されていないことから、当地は墓域として使用されていたことが考えられる。帰属時期については、出土遺物及び墳墓形態から古墳時代後期と考えられる。主体部が検出された古墳は３基（SZ01～03）あり、それぞれ副葬品と考えられる鉄製品が出土している。SZ01では刀子が３点、SZ02では鉄鏃が４点、SZ03では鉄剣が１点出土している。この内、SZ03は今回検出された古墳の中で最大の規模を有するもので、副葬品についても鉄剣が出土するなど他の古墳と比較して優位にあることから、本古墳群の中核を成す古墳であったことが推察される。

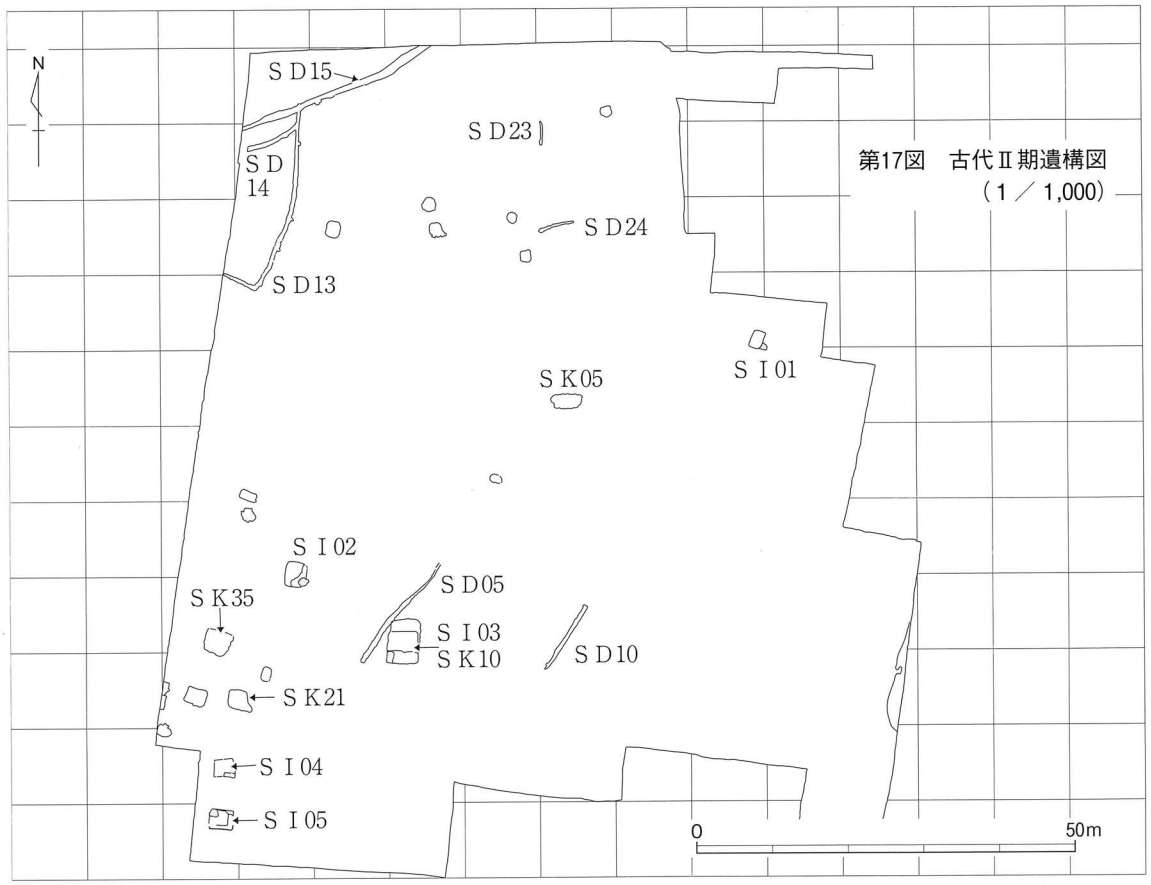
富山県内の平野部で古墳が確認されたのは発掘調査当時においては、小矢部市道林寺遺跡に続いて２例目であった（古墳時代初頭のものでは高岡市石塚遺跡で確認されている）。これまで、高岡市中田地区から砺波市庄東地区を経て南砺市井波地区にかかる範囲では、古墳が確認されておらず空白地域であった。今回の調査で検出された常国古墳群は、この地域における古墳文化を考える上で重要な発見であったといえよう。また、周辺には更に古墳が存在する可能性があり、それに伴う集落の存在も想定されることから、今後の調査で明らかになることを期待したい。

古代

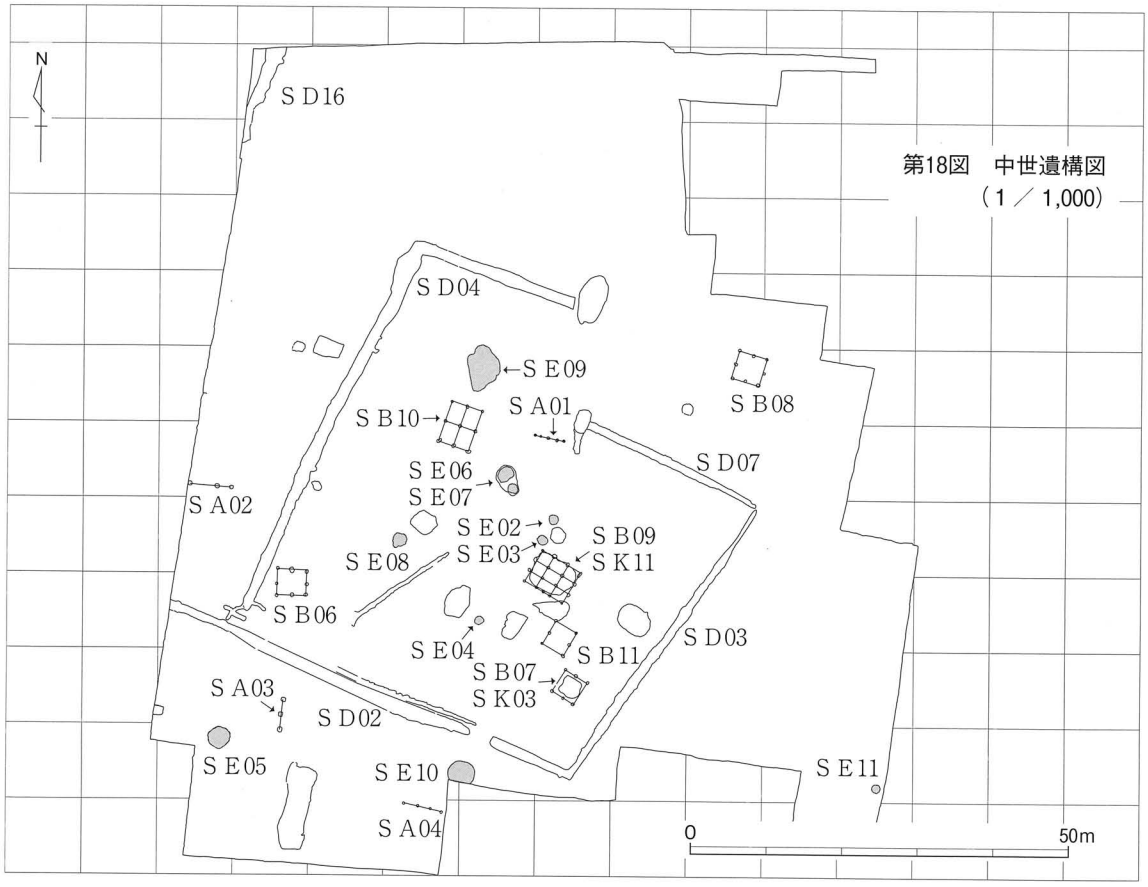
奈良・平安時代の遺構は、検出された遺構及び遺物から大きく２時期に区分される。大型の掘立柱建物址を中心とする古代Ⅰ期（８世紀後半～９世紀初頭）、竪穴建物址を中心とする古代Ⅱ期（９世紀～10世紀初頭）である。



第16図　古代Ⅰ期遺構図
（1／1,000）



第17図　古代Ⅱ期遺構図
（1／1,000）



第18図　中世遺構図
（1／1,000）

古代Ⅰ期

当該期の遺構として掘立柱建物址と井戸址を検出した。

掘立柱建物址は５棟（SB01～05）検出されており、位置関係から規格性を持って建てられた建物と考えられる。SB01・02は廂が付設された建物址で規模も大きい。また、SB01は土層観察の結果から、規模を拡大するために建て替えを行っていることが判明している。SB03・05は重複するが、新旧関係は明らかでない。SB03・04は同軸で南北に近接して並ぶことから同時期に建てられたものと考えられる。SB05については、SB01の規模の拡大に伴って、SB03へと建て替えられた可能性が考えられる。

井戸址（SE01）は２段に掘られた大型のものである。平面形は上段が長方形、中段で正方形となる。この平面形から、井戸が使用されていた当時には、木枠があった可能性が考えられるが残存していなかった。

SB01～05、及びSE01は、その規格性や軸方向が一致すること、また位置関係からほぼ同時期のものと考えられる。帰属時期については、掘立柱建物址から出土した遺物は小破片が僅かであったため、SE01から出土した土器を基に推定した。今回検出した大型で規格性を持つ建物址や、大型の井戸址などは一般的な集落遺跡ではみられない。また、村落内寺院を想定させる瓦塔が出土していることや、出土した遺物に対する食膳具の占める割合が高いことなどから勘案すると、古代Ⅰ期とした当地域は官衙的性格を有する地域であったことが推察される。

周辺における同時期の遺跡としては前出の滝遺跡において、製鉄に関連すると考えられる炉址を検出している。官衙遺跡周辺ではこういった生産に関わる遺跡も多く見つかっており、距離的にも近いことから本遺跡に関わる生産址であった可能性が考えられる。

古代Ⅱ期

本時期では、官衙的性格を有する古代Ⅰ期とは様相が変わり、竪穴建物を中心とした集落遺跡へと変貌する。

中世

当該期の遺構として掘立柱建物址６棟（SB06～11）、柵列４箇所（SA01～04）土坑14基（ＳＫ01・02・06～08・11～14・16・18・19・25・39）井戸址10基（SE02～11）、区画と考えられる溝（SD02～04・07）が検出された。検出された区画は北に対し25.7度東へ傾いている。また、西側の溝ＳＤ04が東側の溝ＳＤ03よりも北に10mほど延びたところで東に屈曲し、22.8mで途切れる。この開放した箇所は区画内への入り口施設と考えられる。また、区画の南及び南西角でも溝は途切れており、これらも同様のものと考えられる。区画内の面積は2,600㎡を測る。その他、調査区北西部で区画溝と軸方向や幅がほぼ一致する溝が検出されている。一部分のみの調査であるため詳細は不明である。しかし、南側を区画するSD02が調査区外に延びていることなどから勘案すると、本調査区で検出された区画と同様、もしくは類似した区画が存在する可能性も考えられる。

調査区周辺は、文献資料などの研究成果から、以前より徳大寺家荘園般若荘との関係が指摘されている地域である。中田地区において中世に帰属する遺構が検出されたのは今回の調査事例が初見であり、今後の調査と併せて般若荘との関連を考えていく必要がある。

常国遺跡と古代荘園

歴史地理学を中心とした研究成果により、古代東大寺領荘園のいくつかは高岡市域に比定されている。これと遺跡発掘調査を中心とした考古学研究の成果より、荘園比定地と遺跡との対応が指摘されている。すなわち、射水郡須加荘と須田藤の木遺跡、射水郡鳴戸荘と出来田南遺跡であり、そして平成４・５年度の現地調査の時より指摘されているのが、砺波郡石粟荘と常国遺跡である。また砺波郡杵名蛭荘と戸出古戸出遺跡との関連も検討の余地があると考える。

石粟荘の南側には伊加流伎荘・井山荘が設置され、この３荘の「荘所」の機能が石粟荘にあったとの指摘がある。今回検出の規格性をもった大型掘立柱建物址の存在は、荘所との関連を窺わせるものである。

また高岡市内の遺跡で官衙的様相を示し、荘園との関連も考慮に入れるべき遺跡として、東木津遺跡・中保Ｂ遺跡が挙げられる。特に東木津遺跡は荘園比定地から離れているが、主要な遺跡の時期が古代東大寺領荘園の存続期とほぼ一致することは、これとの関連で注目される遺跡である。

常国遺跡の消長と荘園

常国遺跡の主要時期の１つに奈良時代後半から平安時代前半がある。この主要時期は東大寺領荘園の消長と一致している。その後平安時代後半の遺構・遺物がほとんど無いことから衰退した可能性が推測できる。またその後の中世にも主要時期があり、これは徳大寺家荘園の成立時期と重なるものである。

当遺跡は前述の通り、古代荘園の東大寺領荘園と中世荘園の徳大寺家荘園の２時期の荘園との関係が指摘されているが、この２つの荘園が当遺跡の消長と関わりを持つ可能性が高いことがこの発掘調査で判明し、これらの指摘に沿う結果を得られたと考える。

おわりに

これまで中田地区で実施された埋蔵文化財発掘調査は当調査を含め２例にすぎない。その中で当調査は中田地区において大きな成果をあげたといえる。しかしあくまでも遺跡の一部分にすぎず、当調査では明確にならないことが多々ある。これまで軽視されがちだったこの地区での埋蔵文化財発掘調査の重要性が強くなったといえ、今後の発掘調査によって更なる発見が期待できる地域であると考える。

別表 1

古墳一覧表

ＳＺ01	図面14、図版03・14・18
グリッド	（15・16，13・14）区。
形態	円墳。
規模	直径：約7.3m。
主体部	平面形：方形。　方向：座標北に対し8.4度東へ傾く。
	長軸：2.34m。　短軸：0.96m。　深さ：30cm。
周溝	内径：6.38m。　外径：7.27m。
	上面幅：0.3～0.8m。　底面幅：0.2～0.6m。　深さ：６～28cm。
出土遺物	土師器、鉄製品。
図示遺物	図面87－7008・7009・7012、図面90－7057。
備考	主体部北東側をＳＫ16に切られる。遺物は全て主体部から出土している。
ＳＺ02	図面14・15、図版04・15・18
グリッド	（15～18，10～13）区。
形態	円墳。
規模	長軸：約15.1m。　短軸：約14.6m。
主体部	平面形：長楕円形。　方向：座標北に対し25.0度西へ傾く。
	長軸：3.65m。　短軸：1.76m。　深さ：27cm。
周溝	南北内径：11.36m。　南北外径：15.08m。　東西内径：11.63m。　東西外径：14.62m。
	上面幅：1.21～2.23m。　底面幅：0.39～1.33m。　深さ：10～61cm。
出土遺物	鉄製品。
図示遺物	図面88－7018・7020～7022・7025・7026・7028～7032、図面90－7058。
備考	主体部北東側、周溝北西側をＳＤ07に切られる。周溝南側をＳＤ03に切られる。
ＳＺ03	図面16・17、図版04・16～18・45
グリッド	（18～21，７～10）区。
形態	円墳。
規模	直径：約18.8m。
主体部	平面形：方形。　方向：座標北に対し7.7度東へ傾く。
	長軸：6.09m。　短軸：2.24m。　深さ：25.5cm。
周溝	内径：15.41m。　外径：18.80m。
	上面幅：1.60～2.25m。　底面幅：0.53～1.21m。　深さ：10～30cm。
出土遺物	土師器、須恵器、鉄製品。
図示遺物	図面50－1202、図面89－7001。
備考	周溝東側をＳＤ09に切られる。今回検出した古墳では最大規模を有する。

ＳＺ04	図面18、図版05・19
グリッド	（14～16，17～19）区。
形　態	円墳。
規　模	直径：約10.2m。
周　溝	内径：8.54m。　外径：10.21m。
	上面幅：0.48～1.00m。　底面幅：0.20～0.53m。　深さ：20～36cm。
出土遺物	鉄製品。
図示遺物	図面88－7019。
備　考	周溝北側をＳＤ18・19に切られる。
ＳＺ05	図面19、図版05・19・45
グリッド	（13～15，21～23）区。
形　態	円墳。
規　模	長軸：約11.4m。　短軸：約10.6m
周　溝	南北内径：9.09m。　南北外径：11.37m。　東西内径：8.46m。　東西外径：10.56m。
	上面幅：0.57～1.46m。　底面幅：0.21～0.77m。　深さ：12～40cm。
出土遺物	土師器。
図示遺物	図面50－1201。
備　考	周溝北側をＳＤ22に切られる。南北径がやや長い楕円形を呈する。
ＳＺ06	図面20、図版20
グリッド	（10～12，22～24）区。
形　態	円墳。
規　模	直径：約7.8m。
周　溝	内径：6.78m。　外径：7.80m
	上面幅：0.35～0.94m。　底面幅：0.09～0.41m。　深さ：９～23cm
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備　考	周溝中央西寄りの南北をカクランに切られる。
ＳＺ07	図面21、図版20
グリッド	（12～14，23・24）区。
形　態	円墳。
規　模	直径：約7.5m（推定値）。
周　溝	内径：6.35m（推定値）。外径：7.45m（推定値）。
	上面幅：0.43～0.68m。　底面幅：0.14～0.33m。　深さ13～26cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備　考	北側で調査地区外へ延びる。古墳推定域の大部分は調査地区外に位置する。
ＳＺ08	図面21、図版21
グリッド	（16・17，22～24）区。
形　態	円墳。
規　模	直径：約7.1m（東西方向）。
周　溝	内径：5.55m。　外径：7.07m。
	上面幅：0.55～1.16m。　低面幅：0.36～0.89m。　深さ：９～16cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備　考	北側で調査地区外へ延びる。

別表２

掘立柱建物址一覧表

ＳＢ01	図面22～25、図版06・22・23
基本形態	南北棟、平側の片方に廂が付く側柱の建物。
グリッド	（４～６，７～11）区。
規模	〔旧段階ＳＢ01甲〕身舎：桁行６間（12.0m）×梁行３間（5.4m）。
	〔新段階ＳＢ01乙〕身舎：桁行７間（14.0m）×梁行３間（5.4m）。
建物方向	〔旧段階ＳＢ01甲〕座標北に対して10.3度東へ偏る。
	〔新段階ＳＢ01乙〕座標北に対して8.3度東へ偏る。
柱間寸法	身舎：桁行2.0m等間、梁行1.8m等間。廂：桁行2.0m等間、梁行3.6m等間
掘り方平面形	身舎：方形。　廂：楕円形。
掘り方規模	身舎：一辺70～80cm、深さ20～85cm。廂：径35～100cm、深さ18～45cm。
出土遺物	土師器。
図示遺物	なし。
備考	ＳＢ06、ＳＩ02と重複し、ＳＤ02・04に切られる。規模を拡大して建て替えを行っている。

ＳＢ02	図面26～28、図版07・24・25
基本形態	東西棟、平側の片方に廂が付く側柱の建物。
グリッド	（７～9，11～13）区。
規模	身舎：桁行６間（12.6m）×梁行２間（5.4m）。
建物方向	座標東に対し1.2度北へ偏る。
柱間寸法	身舎：桁行2.1m等間、梁行2.7m等間。廂：桁行2.1m等間、梁行2.7m等間
掘り方平面形	身舎：方形。　廂：円形。
掘り方規模	身舎：一辺90～100cm、深さ31～74cm。廂：径30～60cm、深さ16～27cm。
出土遺物	土師器、須恵器。
図示遺物	図面56－2200、図面68－3197。
備考	ＳＫ19、カクラン、ピットに切られる。

ＳＢ03	図面29、図版26
基本形態	南北棟、側柱の建物。
グリッド	（11・12，14～16）区。
規模	桁行４間（12m）×梁行２間（６m）。
建物方向	座標北に対し５度東へ偏る。
柱間寸法	桁行３m等間。梁行３m等間。
掘り方平面形	方形ないし不整方形。Ｐ２－５のみ円形。
掘り方規模	一辺70～80cm、深さ28～68cm。
出土遺物	土師器、須恵器。
図示遺物	図面64－3078、図面69－3205。
備考	ＳＢ05、ＳＫ05と重複するが、切り合い関係は不明。

ＳＢ04	図面30、図版27
基本形態	南北棟、側柱の建物。
グリッド	（11・12，16～18）区。
規模	桁行３間（7.8m）×梁行２間（６m）。
建物方向	座標北に対し５度東へ偏る。
柱間寸法	桁行2.6m等間、梁行３m等間。
掘り方平面形	方形ないし不整方形。
掘り方規模	一辺70～80cm、深さ28～43cm。
出土遺物	土師器、須恵器。
図示遺物	図面65－3101、図面67－3162、図面68－3185。
備考	ＳＤ04、ＳＫ27と重複する。Ｐ１－３、Ｐ３－２はＳＤ04に掘削されたと推定する。
ＳＢ05	図面31、図版28
基本形態	東西棟、側柱の建物。
グリッド	（10～12，14・15）区。
規模	桁行４間（8.4m）×梁行２間（4.2m）。
建物方向	座標東に対し5.3度北へ偏る。
柱間寸法	桁行2.1m等間、梁行2.1m等間。
掘り方平面形	方形ないし不整方形。
掘り方規模	一辺40～50cm、深さ25～47cm。
出土遺物	土師器、須恵器、鉄製品。
図示遺物	図面64－3060、図面89－7039。
備考	ＳＢ03と重複するが、切り合い関係は不明。ＳＥ09に切られる。
ＳＢ06	図面32、図版29
基本形態	南北棟、側柱の建物。
グリッド	（５，９・10）区。
規模	桁行２間（3.8m）×梁行２間（3.4m）。
建物方向	座標東に対し1.5度北へ偏る。
柱間寸法	桁行1.9m等間、梁行南より1.6・1.8m。
掘り方平面形	円形。
掘り方規模	径30～70cm、深さ22～64cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	ＳＢ01、ＳＩ02と重複する。
ＳＢ07	図面32、図版30
基本形態	南東～北西棟、側柱の建物。
グリッド	（12・13，６・７）区。
規模	桁行２間（3.4m）×梁行１間（3.2m）。
建物方向	座標東に対し32.6度北へ偏る。
柱間寸法	桁行1.7m等間、梁行3.2m。
掘り方平面形	円形。
掘り方規模	径30～40cm、深さ15～23cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	ＳＫ03と重複、あるいは伴う可能性がある。

ＳＢ08	図面33
基本形態	南北ないし東西棟、側柱の建物。
グリッド	（17・18，14～16）区。
規模	桁行２間（3.6m）×梁行２間（3.6m）。
建物方向	東西棟とした場合、座標東に対し15.9度南へ偏る。
柱間寸法	桁行1.8m等間、梁行1.8m等間。
掘り方平面形	円形。
掘り方規模	径25～50cm、深さ17～39cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	

ＳＢ09	図面34
基本形態	南東～北西棟、総柱の建物。
グリッド	（11～13，９・10）区。
規模	桁行３間（6.0m）×梁行３間（4.5m）。
建物方向	座標東に対し30.5度北へ偏る。
柱間寸法	桁行２m等間、梁行1.5m等間。
掘り方平面形	円形ないし不整楕円形。
掘り方規模	径30～80cm、深さ11～51cm。
出土遺物	土師器。
図示遺物	図面72－4121・4123
備考	ＳＫ11と重複、あるいは伴う可能性がある。ＳＫ14を切る。

ＳＢ10	図面33
基本形態	南南西～北北東棟、総柱の建物。
グリッド	（９・10，13・14）区。
規模	桁行２間（5.4m）×梁行２間（4.2m）。
建物方向	座標北に対し19度東へ偏る。
柱間寸法	桁行2.7m等間、梁行2.1m等間。
掘り方平面形	円形ないし不整楕円形。
掘り方規模	径30～50cm、深さ17～37cm。
出土遺物	土師器、珠洲。
図示遺物	図面77－4333
備考	

ＳＢ11	図面35
基本形態	南西～北東棟、側柱の建物。
グリッド	（12・13，７・８）区。
規模	桁行２間（3.5m）×梁行１間（3.2m）。
建物方向	座標北に対して31度東へ偏る。
柱間寸法	桁行不同で、北東より1.8・1.7m、梁行3.2m。
掘り方平面形	円形。
掘り方規模	径30～50cm、深さ13～19cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	ＳＫ14を切る。

別表３

柵址一覧表

ＳＡ01	図面35
グリッド	（11・12，13）区。
規模	３間（5.6m）。
方向	柵列方向は座標東に対し13.4度北へ偏している。
柱間寸法	柱間不同、北西から、1.8・1.9・1.9m。
掘り方平面形	不整楕円形。
掘り方規模	径30～60cm、深さ16～22cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	

ＳＡ02	図面35
グリッド	（２・３，12）区。
規模	３間（5.55m）。
方向	柵列方向は座標東に対し4.6度北へ偏している。
柱間寸法	柱間1.85m等間。
掘り方平面形	不整方形。
掘り方規模	一辺40～60cm、深さ23～50cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	ＳＤ29を切る。西側で調査地区外へ延びる可能性がある。

ＳＡ03	図面35
グリッド	（５，５・６）区。
規模	２間（4.0m）。
方向	柵列方向は座標北に対し5.8度東へ偏している。
柱間寸法	柱間２m等間。
掘り方平面形	不整方形。
掘り方規模	一辺50～70cm、深さ11～21cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	

ＳＡ04	図面35
グリッド	（８・９，３）区。
規模	３間（5.2m）。
方向	柵列方向は座標東に対し13.2度北へ偏している。
柱間寸法	柱間不同、北西から、2.0・1.6・1.6m。
掘り方平面形	不整円形。
掘り方規模	径25～30cm、深さ11～22cm。
出土遺物	なし。
図示遺物	なし。
備考	東側で調査地区外へ延びる可能性がある。

別表４

井戸址一覧表

ＳＥ01	図面37、図版08・36・37
形態	板組井戸？
グリッド	（12，10・11）区。
上段	略長方形、南北3.00×東西2.55m。
下段	正方形、一辺1.65m。
底面	長方形、南北0.64×東西0.76m。
深さ	2.65m。
出土遺物	土師器、須恵器。
備考	ＳＫ06に切られる。
ＳＥ02	図面37、図版38
形態	素掘り井戸。
グリッド	（12，11）区。
上面形	楕円形、長軸1.32×短軸1.20m。
掘り方	中位：円形、径1.00m、下位：円形、径0.42m。
深さ	3.08m。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲、箸、篦状具、板状品、木片。
備考	
ＳＥ03	図面37、図版39
形態	素掘り井戸。
グリッド	（12，10・11）区。
上面形	楕円形、長軸1.45×短軸1.24m
掘り方	中位：円形、径1.00m、下位：円形、径0.60m。
深さ	3.36m。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲、漆器皿、箸。
備考	
ＳＥ04	図面37、図版40
形態	素掘り井戸。
グリッド	（10，８）区。
上面形	楕円形、長軸1.24×短軸1.14m。
掘り方	中位：円形、径0.92m、下位：円形、径0.60m。
深さ	2.74m。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲。
備考	
ＳＥ05	図面38、図版40
形態	素掘り井戸。
グリッド	（３，５）区。
上面形	不整円形、径2.60～3.00m。
掘り方	中位：円形、径1.20～1.30m、下位：円形、径0.90～1.00m。
深さ	3.00m。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲。
備考	

ＳＥ06	図面38、図版41
形態	素掘り井戸。
グリッド	（10・11，12）区。
上面形	ＳＥ07の上方を含む略達磨形、長軸4.00m。
掘り方	中位：円形、径1.35～1.40m。
深さ	2.40m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲、鉄釘。
備考	ＳＫ04を切る。

ＳＥ07	図面38、図版41
形態	素掘り井戸。
グリッド	（11，12）区。
上面形	ＳＥ06の上方を含む略達磨形、長軸4.00m。
掘り方	中位：円形、径1.40m。
深さ	2.40m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	土師器、須恵器、瓦質土器、珠洲、鉄釘、砥石。
備考	ＳＥ06と隣接する。

ＳＥ08	図面38、図版42
形態	素掘り井戸。
グリッド	（８，10・11）区。
上面形	不整形、長軸2.16×短軸1.88m。
掘り方	中位：円形、径約0.70m。
深さ	2.00m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	土師器、須恵器、珠洲、青磁。
備考	

ＳＥ09	図面39、図版42
形態	素掘り井戸。
グリッド	（10・11，14～16）区。
上面形	不整形、長軸6.20m
掘り方	中位：楕円形、長軸2.00×短軸1.40m。
深さ	2.44m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	土師器、須恵器、瓦質土器、珠洲、鉄釘、勾玉？。
備考	南東側はＳＢ05と重複する。Ｐ2－2を切っている。

ＳＥ10	図面39、図版43
形態	素掘り井戸。
グリッド	（９・10，４・５）区。
上面形	円形、径3.56～3.24m。
掘り方	中位：円形、径約2.56m。
深さ	1.64m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	珠洲、青磁。
備考	南側で調査地区外へ延びる。

ＳＥ11	図面39、図版43
形態	素掘り井戸。
グリッド	（20・21，４）区。
上面形	円形、径約1.10m。
掘り方	中位：円形、径約1.00m。
深さ	1.00m以上（掘りきっていない）。
出土遺物	珠洲
備考	

井戸址図示遺物一覧

ＳＥ01	図面62－3011・3016・3018・3022・3027、図面63－3034・3038、図面65－3087、図面67－3152・3164、図面68－3200・3202。
ＳＥ02	図面72－4115、図面81－4373、図面85－6014～6016、図面86－6004・6006～6008・6010・6012・6013。
ＳＥ03	図面55－2145、図面85－6001、図面86－6002・6003・6005・6009・6011。
ＳＥ04	図面81－4373。
ＳＥ05	図面70－3224、図面72－4104・4106、図面73－4303、図面78－4344、図面79－4346、図面81－4372。
ＳＥ06	図面62－3006、図面64－3062、図面67－3180、図面69－3210、図面72－4119、図面73－4301、図面81－4376、図面89－7050、図面94－9015・9016。
ＳＥ07	図面68－3195、図面70－3229、図面72－4203、図面74－4311・4312、図面75－4315・4320、図面77－4332、図面78－4356、図面79－4353・4382、図面80－4368、図面81－4376、図面92－9007、図面94－9013・9015・9016。
ＳＥ08	図面52－2058、図面76－4325、図面79－4350。
ＳＥ09	図面62－3010、図面65－3094、図面66－3130、図面67－3165、図面68－3196、図面69－3204・3208、図面72－4102・4103・4107・4109～4111・4114・4118・4201、図面73－4304・4308、図面74－4310・4311、図面77－4329・4331、図面78－4358・4363、図面79－4364・4382、図面80－4367・4370、図面82－4385、図面89－7046、図面91－9004。
ＳＥ10	図面79－4362、図面82－4379。

別表５

土坑一覧表

番　　号	グリッド	平面形	規　　模	備　　考
ＳＫ01	(11，８・９) 区	不整形	長軸　3.84m 短軸　2.48m 深さ　27cm	出土遺物；土師器、須恵器、珠洲、鉄製品。
ＳＫ02	(14・15，８・９) 区	不整楕円形	長軸　4.64m 短軸　3.40m 深さ　46cm	出土遺物；土師器、珠洲。
ＳＫ03	(12・13，６・７) 区	不整方形	長軸　2.79m 短軸　2.48m 深さ　11cm	ＳＢ07と重複する。
ＳＫ04	(10，12) 区	隅丸方形	長軸　1.62m 短軸　1.08m 深さ　26cm	ＳＥ06に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ05	(12・13，14) 区	不整形	長軸　3.84m 短軸　1.90m 深さ　25cm	ＳＢ03と重複。切り合い不明。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ06	(12，10・11) 区	不整楕円形	長軸　2.12m 短軸　2.05m 深さ　108cm	ＳＥ01を切る。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ07	(９・10，８・９) 区	不整形	長軸　4.74m 短軸　3.11m 深さ　32cm	出土遺物；珠洲、鉄製品。
ＳＫ08	(12・13，13・14) 区	不整楕円形	長軸　3.18m 短軸　1.80m 深さ　49cm	ＳＤ07・08と重複。切り合いは不明。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ09	(８・９，８) 区	不整長方形	長軸　1.44m 短軸　0.86m 深さ　12cm	出土遺物；須恵器。
ＳＫ10	(７・８，７・８) 区	不整方形	長軸　4.40m 短軸　4.04m 深さ　42cm	ＳＩ03、ＳＤ05を切る。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ11	(11～13，９・10) 区	不整方形	長軸　6.00m 短軸　4.34m 深さ　31cm	ＳＢ11と重複。 出土遺物；土師器、須恵器、瓦質土器 珠洲、鉄製品、石製品。
ＳＫ12	(６，12) 区	不整形	長軸　1.50m 短軸　1.10m 深さ　25cm	出土遺物；土師器、須恵器、珠洲、石製品。

番　　号	グリッド	平　面　形	規　　模	備　　考
ＳＫ13	（5，15・16）区	不整形	長軸　1.70m 短軸　1.30m 深さ　　87cm	カクラン、ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ14	（11・12，8・9）区	不整形	長軸　4.68m 短軸　2.89m 深さ　　34cm	ＳＢ07、ＳＢ11、ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ15	（11・12，13）区	不整楕円形	長軸　1.50m 短軸　1.20m 深さ　　9cm	出土遺物；縄文土器。
ＳＫ16	（15・16，14）区	円形	長軸　1.55m 短軸　1.43m 深さ　　14cm	ＳＺ01主体部を切る。 出土遺物；土師器。
ＳＫ17	（10，5・6）区	不整円形	長軸　1.62m 短軸　1.38m 深さ　　43cm	ＳＤ01に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ18	（6，15・16）区	隅丸長方形	長軸　3.58m 短軸　2.36m 深さ　　40cm	出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ19	（8・9，11）区	不整方形	長軸　3.04m 短軸　2.72m 深さ　　33cm	ＳＢ02を切る。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ20	（4，11）区	不整形	長軸　2.53m 短軸　1.57m 深さ　　88cm	ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ21	（3・4，6・7）区	不整方形	長軸　3.96m 短軸　2.88m 深さ　213cm	出土遺物；土師器、製塩土器、須恵器 珠洲、鉄製品。
ＳＫ22	（4，7）区	隅丸長方形	長軸　1.86m 短軸　1.38m 深さ　　4cm	カクランに切られ、痕跡程度残存。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ23	（2・3，6・7）区	隅丸長方形	長軸　2.72m 短軸　2.28m 深さ　　14cm	ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ24	（6，17・18）区	不整長方形	長軸　1.96m 短軸　1.14m 深さ　　79cm	出土遺物；なし。
ＳＫ25	（13，16・17）区	不整楕円形	長軸　6.90m 短軸　3.55m 深さ　　26cm	出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
ＳＫ26	（15，17・18）区	不整楕円形	長軸　2.00m 短軸　1.45m 深さ　　14cm	出土遺物；土師器。
ＳＫ27	（11，18）区	不整方形	長軸　1.63m 短軸　1.40m 深さ　　12cm	出土遺物；なし。

番　　号	グリッド	平　面　形	規　　模	備　　考
ＳＫ28	(11，19) 区	不整円形	長軸　1.50m 短軸　1.38m 深さ　 34cm	出土遺物；土師器、製塩土器、須恵器 鉄製品。
ＳＫ29	(12，20・21) 区	隅丸長方形	長軸　3.16m 短軸　1.41m 深さ　 31cm	出土遺物；なし。
ＳＫ30	(12，23・24) 区	不整長方形	長軸　3.35m以上 短軸　1.15m 深さ　 50cm	北西側で調査地区外へ延びる。 出土遺物；鉄製品。
ＳＫ31	(9，18・19) 区	不整形	長軸　1.62m 短軸　1.38m 深さ　 40cm	出土遺物；土師器。
ＳＫ32	(8・9，19・20) 区	不整形	長軸　1.70m 短軸　0.77m 深さ　 42cm	出土遺物；土師器、製塩土器、須恵器 灰釉陶器、鉄製品。
ＳＫ33	(6，18・19) 区	隅丸長方形	長軸　2.18m 短軸　1.83m 深さ　 26cm	出土遺物；土師器、須恵器、鉄製品。
ＳＫ34	(4，11・12) 区	不整長方形	長軸　2.18m 短軸　1.18m 深さ　 44cm	出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ35	(3，7・8) 区	隅丸長方形	長軸　3.40m 短軸　3.04m 深さ　 23cm	北側でＳＤ02に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ36	(8，3) 区	隅丸方形	長軸　1.98m 短軸　1.51m 深さ　 13cm	出土遺物；なし。
ＳＫ37	(3，3・4) 区	隅丸長方形	長軸　3.88m 短軸　2.92m 深さ　 7.6cm	出土遺物；土師器、須恵器、珠洲、 石製品。
ＳＫ38	(1・2，5・6) 区	不整形	長軸　1.32m 短軸　0.93m 深さ　 37cm	西南側で調査地区外へ延びる。 東側でピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ39	(1・2，6) 区	隅丸長方形	長軸　1.29m 短軸　1.21m 深さ　 52cm	西側で調査地区外へ延びる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲、 鉄製品。
ＳＫ40	(1・2，6・7) 区	不整形	長軸　1.88m 短軸　1.46m 深さ　 35cm	西側で調査地区外へ延びる。 ＳＫ41とは切り合い関係不明。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＫ41	(1・2，6) 区	不整形	長軸　1.90m 短軸　0.56m 深さ　 35cm	西側で調査地区外へ延びる。 ＳＫ40とは切り合い関係不明。 出土遺物；土師器、須恵器、土錘。

土坑図示遺物一覧

ＳＫ01	図面77－4330、図面90－7056。
ＳＫ04	図面65－3109、図面67－3151。
ＳＫ05	図面67－3175。
ＳＫ06	図面62－3029、図面63－3042、図面65－3115、図面81－4375。
ＳＫ07	図面75－4316、図面90－7063。
ＳＫ08	図面78－4361。
ＳＫ10	図面50－2004～2006、図面52－2056、図面55－2126、図面58－2247、図面59－2268、図面61－2289、図面62－3002・3005・3008・3009・3013・3017・3019・3026、図面63－3048、図面64－3072・3074、図面65－3098、図面70－3225、 図面88－7034。
ＳＫ11	図面56－2171、図面58－2239、図面64－3061・3066・3068・3070、図面65－3102・3108、図面67－3172・3182、図面69－3207、図面72－4116・4120・4122・4202、図面74－4313、図面75－4318・4322、図面76－4328、図面77－4330・4336、図面79－4353、図面87－7007、図面88－7036、図面90－7051・7059、図面92－9006、図面93－9010、図面94－9018。
ＳＫ12	図面91－9001。
ＳＫ14	図面53－2061、図面64－3063。
ＳＫ15	図面50－1102。
ＳＫ17	図面51－2009、図面62－3023・3024、図面63－3051、図面64－3081、図面67－3176。
ＳＫ18	図面71－3903、図面76－4319、図面77－4335、図面79－4366。
ＳＫ19	図面79－4360、図面89－7043。
ＳＫ20	図面68－3194。
ＳＫ21	図面51－2019～2024・2027・2031、図面52－2033・2035～2045・2047・2048・2050～2053・2056～2059、図面53－2060・2062～2064・2066・2067・2069・2070・2073・2074・2076・2077・2079～2082・2085～2088・2090・2091、図面54－2093～2099・2101・2102・2104・2106～2108・2110・2115～2118・2120・2122・2124・2125、図面55－2127～2129・2131・2135・2149・2150・2152・2154～2156・2158・2162・2163、図面56－2165・2166・2169・2177・2178・2180・2182・2184・2186・2192・2193・2195・2199・2201、図面57－2205・2211～2215・2219・2220・2223～2225・2227・2233、図面59－2269・2271～2274、図面60－2276・2278・2280～2284、図面61－2286～2288・2294・2903、図面66－3126・3132・3133・3135・3137・3140、図面69－3206・3212、図面70－3228、図87－7003・7005・7016、図面90－7064
ＳＫ25	図面73－4309。
ＳＫ26	図面51－2017、図面57－2208。
ＳＫ28	図面51－2013・2015・2016、図面52－2032、図面53－2068・2075・2089、図面54－2092・2112～2114・2121、図面55－2138～2143・2157・2160・2164、図面56－2168・2173・2175・2185・2187～2189・2194、2196～2198・2203、図面57－2204・2221・2222・2229・2231・2232、図面59－2254、図面60－2263、図面61－2901・2904・2905、図面64－3080、図面65－3106、図面66－3127・3134・3136・3142、図面67－3161、図面68－3187、図面71－3234、図面87－7004。
ＳＫ30	図面90－7054。
ＳＫ31	図面51－2018、図面56－2172、図面61－2295。
ＳＫ32	図面52－2054、図面54－2109、図面56－2179・2183、図面57－2207・2234、図面59－2275、図面61－2902、図面66－3125・3128、図面68－3183・3192、図面71－3234・3901、図面87－7014。
ＳＫ33	図面87－7010。
ＳＫ35	図面58－2240、図面62－3025。
ＳＫ37	図面61－2291。
ＳＫ39	図面72－4105、4108。
ＳＫ41	図面84－5003。

別表6

溝一覧表

番号	グリッド	方向	規模	備考
SD01	(7～10, 5～7) 区	西北西～東南東	長さ16.58m 幅0.32～0.69m 深さ11～46cm	SK17を切る。カクランに切られる。
SD02	(2～10, 5～9) 区	西北西～東南東	長さ43.4m以上 幅1.00～1.79m 深さ17～40cm	想定区画溝。SB01、SK35を切る。 カクランに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
SD03	(10～17, 4～11) 区	北東～南西 西北西～東南東 (屈曲する)	長さ55.10m 幅0.43～1.55m 深さ7～41cm	想定区画溝。SZ02周溝を切る。 出土遺物；珠洲。
SD04	(4～12, 9～18) 区	南南西～北北東 西北西～東南東 (屈曲する)	長さ76.48m 幅1.19～2.04m 深さ36～71cm	想定区画溝。SB01・04を切る。 カクラン、ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
SD05	(7～9, 7～10) 区	北東～南西	長さ16.78m 幅0.18～0.79m 深さ2～51cm	SD06に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
SD06	(7～9, 8～10) 区	北東～南西	長さ16.00m 幅0.33～0.77m 深さ2～41cm	SD05を切る。カクランに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
SD07	(13～17, 11～14) 区	北西～南東	長さ24.88m 幅0.48～1.30m 深さ4～39cm	SZ02主体部・周溝を切る。 SK08との切り合い不明。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
SD08	(12・13, 13) 区	ほぼ南北	長さ3.34m 幅0.56～1.40m 深さ7～16cm	SK08との切り合い不明。 出土遺物；珠洲。
SD09	(21, 5～9) 区	北北東～南南西	長さ17.62m 幅1.85m以上 深さ6～9cm	東側で調査地区外へ延びる。 SZ03を切る。 出土遺物；土師器、須恵器。
SD10	(12・13, 7～9) 区	北東～南西	長さ10.00m 幅0.33～0.61m 深さ8～23cm	出土遺物；須恵器。
SD11	(3～6, 16～18) 区	北東～南西 西北西～東南東 (湾曲する)	長さ16.45m 幅0.35～1.03m 深さ4～45cm	カクラン、ピットに切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、珠洲。
SD12	(3・4, 8・9) 区	南西～北東 北西～南東 (湾曲する)	長さ5.43m 幅0.37～0.64m 深さ16～21cm	SB01を切る。SD04との切り合い不明。

番　　号	グリッド	方　　向	規　　模	備　　考
ＳＤ13	（3～5，17～22）区	北～南西 南東～北西 （屈曲する）	長さ30.10m 幅0.28～0.76m 深さ７～28cm	カクランに切られる。ＳＤ14と合流しＳＤ15と交差する。切り合い不明。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ14	（4・5，21）区	北東～西南西	長さ7.26m 幅0.45～0.72m 深さ10～25cm	東側でＳＤ13と合流する。 出土遺物；土師器。
ＳＤ15	（4～10，21～24）区	東北東～西南西 （蛇行する）	長さ26.30m以上 幅0.63～1.01m 深さ６～14cm	ＳＤ17を切り、ＳＤ16に切られる。 ＳＤ13と交差するが切り合い不明。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ16	（4・5，21～23）区	北北東～南南西	長さ14.00m以上 幅0.91～2.57m 深さ47～76cm	両端が調査地区外へ延びる。 ＳＤ15・17を切る。 出土遺物；土師器、珠洲。
ＳＤ17	（4～10，21～24）区	東北東～西南西	長さ31.00m以上 幅1.52～2.26m 深さ21～39cm	東北東側で調査地区外へ延びる。 ＳＤ15・16に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ18	（15，18～20）区	南北	長さ6.85m以上 幅0.56m以上 深さ11～23cm	北東側で調査地区外へ延びる。ＳＺ04周溝を切り、ＳＤ19と合流する。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ19	（15，18～20）区	北北東～南南西	長さ5.00m以上 幅0.21～0.39m 深さ７～22cm	北東側で調査地区外へ延びる。ＳＺ04周溝を切り、ＳＤ18と合流する。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ20	（15，19～21）区	北北東～南南西	長さ7.25m 幅0.24～0.44m 深さ６～12cm	出土遺物；なし。
ＳＤ21	（15，21）区	北北東～南南西	長さ3.16m 幅0.39～0.58m 深さ５～10cm	出土遺物；なし。
ＳＤ22	（14，23・24）区	北北東～南南西	長さ4.95m以上 幅0.50～0.75m 深さ14～25cm	北側で調査地区外へ延びる。 ＳＺ05周溝を切る。
ＳＤ23	（12，21・22）区	南北	長さ3.16m 幅0.18～0.39m 深さ３～10cm	出土遺物；土師器。
ＳＤ24	（12，19）区	東北東～西南西	長さ4.80m 幅0.23～0.55m 深さ５～10cm	出土遺物；土師器。
ＳＤ25	（3・4，16・17）区	北西～東 （湾曲する）	長さ2.67m 幅0.14～0.31m 深さ９～17cm	カクラン、ピットに切られる。
ＳＤ26	（3，14）区	東北東～西 （湾曲する）	長さ3.60m以上 幅0.38～0.99m 深さ８～21cm	西側で調査地区外へ延びる。 ピットに切られる。 出土遺物；土師器。
ＳＤ27	（3・4，13）区	西北西～東南東	長さ3.46m 幅0.22～0.52m 深さ10～22cm	出土遺物；土師器、須恵器。

番　　号	グリッド	方　　向	規　　模	備　　考
ＳＤ28	（3，13）区	東～西南西 （湾曲する）	長さ3.67m 幅0.19～0.34m 深さ３～６cm	カクランに切られる。
ＳＤ29	（3，12）区	北～南南東 （湾曲する）	長さ4.26m 幅0.25～0.39m 深さ５～10cm	南側でＳＤ30と合流する。 ＳＡ02に切られる。
ＳＤ30	（2・3，11・12）区	西北西～東南東	長さ5.18m 幅0.26～0.34m 深さ５～13cm	カクランに切られる。 ＳＤ29と合流する。
ＳＤ31	（3，10・11）区	西～南東 （湾曲する）	長さ3.97m 幅0.26～0.68m 深さ２～４cm	カクランに切られる。
ＳＤ32	（3・4，10・11）区	北西～南東	長さ4.50m 幅0.16～0.27m 深さ５～13cm	出土遺物；土師器。
ＳＤ33	（2，7・8）区	西南西～南南東 （湾曲する）	長さ5.00m以上 幅0.29～0.64m 深さ５～15cm	西側で調査地区外へ延びる。 出土遺物；土師器。
ＳＤ34	（2・3，3）区	西北西～東南東	長さ2.64m以上 幅0.39～0.51m 深さ９～14cm	西側で調査地区外へ延びる。 ＳＩ05、ＳＫ37を切る。 出土遺物；土師器、須恵器。
ＳＤ35	（2・3，4）区	西北西～東南東	長さ2.70m 幅0.26～0.32m 深さ12～19cm	出土遺物；須恵器。
ＳＤ36	（9，3）区	西北西～東南東	長さ2.37m以上 幅1.66m 深さ19～29cm	東側で調査地区外へ延びる。

溝図示遺物一覧

ＳＤ02	図面68－3193、図面69－3215、図面70－3220、図面76－4326、図面77－4337。
ＳＤ03	図面74－4314、図面75－4317、図面78－4359。
ＳＤ04	図面50－2003、図面54－2100、図面60－2258、図面62－3020、図面64－3055・3065・3075、 図面67－3163、図面68－3189・3190、 図面70－3227、図面72－4124、図面78－4345、図面79－4350、 図面82－4384
ＳＤ05	図面65－3105。
ＳＤ07	図面69－3214、図面80－4369。
ＳＤ08	図面78－4342、図面82－4380。
ＳＤ09	図面63－3050、図面68－3223。
ＳＤ17	図面61－2285、図面62－3015、図面63－3036・3037・3039、図面64－3064・3077、 図面65－3103・3116、図面66－3129・3143・3145、図面67－3166。
ＳＤ18	図面59－2250、図面62－3030。
ＳＤ35	図面62－3012。

別表 7　　土器類観察表

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
1．縄文土器					
1101	50	縄文土器・深鉢	33.8	外面は頸部横位隆帯貼付後篦状工具による刻み、胴部縦位の条線。	包含層
1102	50	縄文土器・深鉢	—	摩滅著しい。口縁部横位沈線、胴部単節RL縄文。	SK15
1103	50	縄文土器・深鉢	—	頸部刻みのある細隆帯を横位貼付。胴部細隆帯で区画葉脈状文。	包含層
1104	50	縄文土器・深鉢	—	横位沈線。	表　土
1105	50	縄文土器・深鉢	—	横位沈線及び波状沈線。	SB02
1106	50	縄文土器・深鉢	—	葉脈状文。	包含層
1107	50	縄文土器・深鉢	—	縦位の太い沈線で区画し、区画内に縦位の太い蛇行沈線。	包含層
1108	50	縄文土器・深鉢	—	横位隆帯貼付後、隆帯基部を篦状工具による刺突。	包含層
1109	50	縄文土器・深鉢	—	単節RL縄文を縦に施文後、棒状工具による２本の横位沈線。	包含層
1110	50	縄文土器・深鉢	—	単節RL縄文施文後、篦状工具による刻みのある横位隆帯。	包含層
1111	50	縄文土器・深鉢	24.7	口縁部無文、指頭痕、胴部単節RL縄文。内面の口縁部瘤状貼付文。	包含層
1112	50	縄文土器・深鉢	—	胴部外面単節RL縄文、底部外面網代痕。	包含層
1113	50	縄文土器・深鉢	—	胴部外面無節Ｒ縄文、底部外面網代痕。	包含層
2．古墳時代の土器類					
1201	50	土師器・椀	15.0	磨滅・剝離のため調整手法は不明である。	SZ05周溝
1202	50	須恵器・杯蓋	14.0	ロクロ調整の後、天井部中央をヘラ削りする。	SZ03周溝
3．奈良平安時代の土器類、土師器					
2001	50	土師器・椀	12.3	口縁・体部、内外面赤彩。	包含層
2002	50	土師器・椀	—	体・底部、外面赤彩、内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削り。	包含層
2003	50	土師器・椀	—	体下・底部、内外面赤彩。	SD04
2004	50	土師器・椀	—	底部、内外面赤彩。	SK10
2005	50	土師器・椀	15.8	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、外面はヘラ磨き・ナデ。	SK10
2006	50	土師器・椀	17.3	口縁・体部、内面黒色外面赤彩。	SK10
2007	50	土師器・椀	12.0	口縁・体部、内面黒色外面赤彩。	包含層
2008	50	土師器・椀	—	体・底部、内面と外面体上部が赤彩、体下・底部外面が黒色。	カクラン
2009	51	土師器・椀	19.2	内面黒色、内面はヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	SK17
2010	51	土師器・椀	12.6	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	包含層
2011	51	土師器・椀	17.2	内面黒色、内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削り。	SP10
2012	51	土師器・椀	16.4	内面黒色、内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削り。	SP38
2013	51	土師器・椀	15.0	内面黒色、内面はヘラ磨き、体最下・底部外面はヘラ削り。	SK28
2014	51	土師器・椀	12.6	内面黒色、内面はヘラ磨き、底部外面は回転ヘラ削り。	包含層
2015	51	土師器・椀	20.8	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK28
2016	51	土師器・椀	17.8	口縁部、残存部分では内外面ヘラ磨き。	SK28

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2017	51	土師器・椀	18.0	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK26
2018	51	土師器・椀	17.2	口縁・体部、内面黒色、内外面ヘラ磨き。	SK31
2019	51	土師器・椀	16.4	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK21
2020	51	土師器・椀	16.0	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK21
2021	51	土師器・椀	14.8	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK21
2022	51	土師器・椀	14.0	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK21
2023	51	土師器・椀	14.0	口縁・体部、内面黒色、内面はヘラ磨き。	SK21
2024	51	土師器・椀	—	体・底部、内面黒色、内面はヘラ磨き、底部は糸切り。	SK21
2025	51	土師器・椀	—	体・底部、内面黒色、体下・底部外面は回転ヘラ削り。	SP38
2026	51	土師器・椀	—	体下・底部、内面黒色、内面はヘラ磨き、外面はヘラ削り。	包含層
2027	51	土師器・椀	—	体・底部、内面黒色、内面はヘラ磨き、底部は糸切り。	SK21
2028	51	土師器・椀	—	体・底部、内面黒色、内面はヘラ磨き、底部は糸切り。	包含層
2029	51	土師器・椀	—	体・底部、内面黒色、内面はヘラ磨き、底部は糸切り。	包含層
2030	51	土師器・椀	—	体・底部外面はヘラ削り。	包含層
2031	51	土師器・椀	—	体・底部、体下部外面はヘラ削り、底部は糸切り。	SK21
2032	52	土師器・椀	16.3	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2033	52	土師器・椀	14.3	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2034	52	土師器・椀	14.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2035	52	土師器・椀	13.6	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2036	52	土師器・椀	13.6	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2037	52	土師器・椀	13.5	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2038	52	土師器・椀	13.4	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2039	52	土師器・椀	13.3	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2040	52	土師器・椀	13.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2041	52	土師器・椀	13.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2042	52	土師器・椀	13.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2043	52	土師器・椀	12.9	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2044	52	土師器・椀	12.9	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2045	52	土師器・椀	12.9	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2046	52	土師器・椀	12.8	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP02
2047	52	土師器・椀	12.8	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2048	52	土師器・椀	12.8	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2049	52	土師器・椀	12.8	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2050	52	土師器・椀	12.7	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2051	52	土師器・椀	12.7	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2052	52	土師器・椀	12.6	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2053	52	土師器・椀	12.6	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2054	52	土師器・椀	12.5	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK32
2055	52	土師器・椀	12.4	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2056	52	土師器・椀	12.4	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK10・SK21
2057	52	土師器・椀	12.3	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2058	52	土師器・椀	12.2	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SE08・SK21

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2059	52	土師器・椀	12.2	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2060	53	土師器・椀	12.1	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2061	53	土師器・椀	12.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK14
2062	53	土師器・椀	12.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2063	53	土師器・椀	12.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2064	53	土師器・椀	12.0	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2065	53	土師器・椀	11.8	ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2066	53	土師器・椀	15.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2067	53	土師器・椀	15.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2068	53	土師器・椀	15.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2069	53	土師器・椀	14.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2070	53	土師器・椀	14.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2071	53	土師器・椀	14.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2072	53	土師器・椀	14.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2073	53	土師器・椀	14.7	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2074	53	土師器・椀	14.4	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2075	53	土師器・椀	14.4	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2076	53	土師器・椀	14.3	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2077	53	土師器・椀	14.2	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2078	53	土師器・椀	14.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2079	53	土師器・椀	14.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2080	53	土師器・椀	14.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2081	53	土師器・椀	13.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2082	53	土師器・椀	13.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2083	53	土師器・椀	13.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2084	53	土師器・椀	13.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2085	53	土師器・椀	13.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2086	53	土師器・椀	13.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2087	53	土師器・椀	13.6	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2088	53	土師器・椀	13.6	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2089	53	土師器・椀	13.2	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2090	53	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2091	53	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2092	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2093	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2094	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2095	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2096	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2097	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2098	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2099	54	土師器・椀	13.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2100	54	土師器・椀	12.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SD04

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2101	54	土師器・椀	12.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2102	54	土師器・椀	12.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2103	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2104	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2105	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2106	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2107	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2108	54	土師器・椀	12.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2109	54	土師器・椀	12.6	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK32
2110	54	土師器・椀	12.6	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2111	54	土師器・椀	12.4	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SP35
2112	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2113	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2114	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2115	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2116	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2117	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2118	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2119	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2120	54	土師器・椀	12.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2121	54	土師器・椀	11.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK28
2122	54	土師器・椀	11.9	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2123	54	土師器・椀	11.8	口縁・体部。ロクロ調整をする。	包含層
2124	54	土師器・椀	11.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2125	54	土師器・椀	11.0	口縁・体部。ロクロ調整をする。	SK21
2126	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK10
2127	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2128	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2129	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2130	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2131	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2132	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2133	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2134	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2135	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2136	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2137	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2138	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2139	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2140	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2141	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2142	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2143	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2144	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2145	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SE03
2146	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP34
2147	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2148	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	表　土
2149	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2150	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2151	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP15
2152	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2153	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2154	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2155	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2156	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2157	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2158	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2159	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2160	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2161	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	表　土
2162	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2163	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2164	55	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2165	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2166	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2167	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP14
2168	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2169	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2170	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2171	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK11
2172	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK31
2173	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2174	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2175	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2176	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2177	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2178	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2179	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK32
2180	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2181	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	表　土
2182	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2183	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK32
2184	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2185	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2186	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2187	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2188	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2189	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2190	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2191	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2192	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2193	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2194	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2195	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2196	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2197	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2198	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2199	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2200	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SB02
2201	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2202	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP18
2203	56	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2204	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2205	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2206	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2207	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK32
2208	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK26
2209	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2210	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2211	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2212	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2213	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2214	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2215	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2216	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2217	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2218	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2219	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2220	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2221	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2222	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2223	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2224	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2225	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2226	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2227	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2228	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	包含層
2229	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2230	57	土師器・椀	—	体・底部。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SP11
2231	57	土師器・皿	12.4	無高台。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2232	57	土師器・皿	12.7	無高台。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK28
2233	57	土師器・皿	11.5	無高台。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK21
2234	57	土師器・皿	11.7	無高台。ロクロ調整の後、底部を糸切りして、再調整を施さない。	SK32
2235	57	土師器・皿	12.2	高台付。ロクロ調整をする。	SP22
2236	57	土師器・皿	11.6	口縁部。ロクロ調整をする。	SP08
2237	57	土師器・鉢	28.2	口縁・体上部。外上方へ拡がり、口端部は巻き込んで終わる。	SP17
2238	58	土師器・甕	32.0	口頸部、口唇面を形成する。口縁部下半はカキ目。	SI01カマド
2239	58	土師器・甕	23.0	口頸部、口唇面を形成する。	SK11
2240	58	土師器・甕	22.9	口縁・胴上部、口唇面を形成する。胴上部はカキ目、下方に刷毛目。	SK35
2241	58	土師器・甕	22.0	頸・胴上部内面はカキ目、胴上部外面はカキ目・ヘラ削り。	SP31
2242	58	土師器・甕	20.2	口縁・胴上半部、胴上半部外面は、上方がカキ目、下方が刷毛目。	SI05
2243	58	土師器・甕	20.0	口縁部。口唇面を形成する。	包含層
2244	58	土師器・甕	19.8	口縁・胴上半部、胴上半部下方は、内面が刷毛目、外面がヘラ削り。	SI05カマド
2245	58	土師器・甕	20.0	口縁・胴上部、口唇面を形成、口縁部内面と胴上部外面はカキ目。	SI01
2246	58	土師器・甕	19.0	口縁・肩部、口唇面を形成する。口縁部内面と肩部外面はカキ目。	SI01
2247	58	土師器・甕	17.8	口縁・胴上部、口唇面を形成する。胴上部内面は刷毛目。	SK10
2248	58	土師器・甕	18.5	口縁・胴上部、胴上部は内面が刷毛目、外面がカキ目。	包含層
2249	58	土師器・甕	20.0	口縁・胴上部、口唇面を形成する。胴上部外面は刷毛目。	SI01
2250	59	土師器・甕	20.0	口縁・胴上半部、内面と胴上部外面の一部はカキ目。	SD18
2251	59	土師器・甕	22.7	口縁・胴上部、口端部は丸くなる。胴上部下半外面はカキ目。	包含層
2252	59	土師器・甕	20.0	口縁部、口端部は丸くなる。内面はカキ目。	表　土
2253	59	土師器・甕	24.0	口縁・胴上部、口端部は丸くなる。胴上部外面はカキ目。	SI02
2254	59	土師器・甕	26.0	口縁部、口端部が屈曲して立ち上がる。	SK28
2255	59	土師器・甕	23.0	口縁部、口端部が屈曲して立ち上がる。口縁部下半内面はカキ目。	包含層
2256	59	土師器・甕	20.0	口縁部、口端部が屈曲して立ち上がる。	包含層
2257	59	土師器・甕	19.0	口縁部、口端部が屈曲して立ち上がる。	表　土
2258	60	土師器・甕	29.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	SD04
2259	60	土師器・甕	27.8	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2260	60	土師器・甕	27.2	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2261	60	土師器・甕	27.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2262	60	土師器・甕	27.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2263	60	土師器・甕	26.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	SK28
2264	60	土師器・甕	22.4	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2265	60	土師器・甕	22.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2266	60	土師器・甕	21.6	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2267	60	土師器・甕	19.0	口縁部、口端部が内方へ巻き込んだように肥厚する。	包含層
2268	59	土師器・甕	14.5	小型甕の口縁・胴上部、胴上部外面はカキ目。	SK10

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
2269	59	土師器・甕	15.0	小型甕の口縁・肩部、口端部が丸味をもって終わる。	SK21
2270	59	土師器・甕	12.8	小型甕の口縁・胴上部、口端部が丸味をもって終わる。	包含層
2271	59	土師器・甕	11.3	小型甕の口縁・胴上半部、口端部が丸味をもって終わる。	SK21
2272	59	土師器・甕	11.8	小型甕の口縁・胴上部、口端部が屈曲して立ち上がる。	SK21
2273	59	土師器・甕	11.8	小型甕の口縁・胴上部、口端部が屈曲して立ち上がる。	SK21
2274	59	土師器・甕	13.3	小型甕の口縁・胴上部、口端部が屈曲して内弯する。	SK21
2275	59	土師器・甕	13.0	小型甕の口縁・胴上半部、口端部が屈曲して内弯する。	SK32
2276	60	土師器・甕	12.7	小型甕、口端部が屈曲して内弯する、底部は糸切り。	SK21
2277	60	土師器・甕	12.6	小型甕の口縁・胴上部、内方へ巻き込むような口縁部。	包含層
2278	60	土師器・甕	12.0	小型甕の口縁・胴上部、内方へ巻き込むような口縁部。	SK21
2279	60	土師器・甕	12.0	小型甕の口頸部、内方へ巻き込むような口縁部。	包含層
2280	60	土師器・甕	15.0	小型甕の口頸部、内方へ巻き込むような口縁部。	SK21
2281	60	土師器・甕	13.7	小型甕の口縁・胴部、内方へ巻き込むような口縁部。	SK21
2282	60	土師器・甕	12.6	小型甕の口縁・肩部、内方へ巻き込むような口縁部。	SK21
2283	60	土師器・甕	12.6	小型甕の口頸部、内方へ巻き込むような口縁部。	SK21
2284	60	土師器・甕	9.9	小型甕の口縁・胴上部、口縁部は短く外反する。	SK21
2285	61	土師器・甕	—	小型甕の胴下半・底部、底部は糸切り、胴下部下半外面はヘラ削り。	SD17
2286	61	土師器・甕	—	小型甕の胴下半・底部、底部は糸切り。	SK21
2287	61	土師器・甕	—	小型甕の胴下・底部、底部は糸切り。	SK21
2288	61	土師器・甕	—	小型甕の胴下・底部、底部は糸切り。	SK21
2289	61	土師器・甕	—	小型甕の胴下・底部、底部の切り離し手法は不明。	SK10
2290	61	土師器・甕	—	小型甕の底部、底部は糸切り。	SP32
2291	61	土師器・甕	26.0	特殊な形態の甕の口縁部、上端に口唇面を形成する。	SK37
2292	61	土師器・甕	29.8	特殊な形態の甕の口縁部、上端に口唇面を形成する。	包含層
2293	61	土師器・鍋	37.0	口縁部、口端部は屈曲して立ち上がる。	カクラン
2294	61	土師器・鍋	35.8	口縁部、口端部は外端に口唇面を形成して肥厚する。	SK21
2295	61	土師器・鍋	35.0	口縁部、口端部は肥厚して上方へ延びる。	SK31
2296	61	土師器・鍋	34.0	口縁部、口端部は内方へ巻き込んだように肥厚する。	SP19
				4．奈良平安時代の土器類、製塩土器	
2901	61	製塩土器	—	棒状突底。	SK28
2902	61	製塩土器	—	棒状突底。	SK32
2903	61	製塩土器	—	棒状突底。	SK21
2904	61	製塩土器	—	棒状突底。	SK28
2905	61	製塩土器	—	棒状突底。	SK28
				5．奈良平安時代の土器類、須恵器	
3001	62	須恵器・杯A	13.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP06
3002	62	須恵器・杯A	13.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3003	62	須恵器・杯A	13.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3004	62	須恵器・杯A	13.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP04

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3005	62	須恵器・杯A	13.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3006	62	須恵器・杯A	12.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE06
3007	62	須恵器・杯A	12.7	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP30
3008	62	須恵器・杯A	12.7	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3009	62	須恵器・杯A	12.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3010	62	須恵器・杯A	12.3	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE09
3011	62	須恵器・杯A	12.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3012	62	須恵器・杯A	12.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD35
3013	62	須恵器・杯A	12.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3014	62	須恵器・杯A	11.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3015	62	須恵器・杯A	11.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3016	62	須恵器・杯A	11.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3017	62	須恵器・杯A	11.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3018	62	須恵器・杯A	11.5	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3019	62	須恵器・杯A	11.5	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3020	62	須恵器・杯A	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD04
3021	62	須恵器・杯A	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3022	62	須恵器・杯A	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3023	62	須恵器・杯A	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK17
3024	62	須恵器・杯A	11.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK17
3025	62	須恵器・杯A	11.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK35
3026	62	須恵器・杯A	11.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3027	62	須恵器・杯A	11.1	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3028	62	須恵器・杯A	11.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3029	62	須恵器・杯A	10.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK06
3030	62	須恵器・杯A	10.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD18
3031	63	須恵器・杯B	16.9	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3032	63	須恵器・杯B	15.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3033	63	須恵器・杯B	14.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3034	63	須恵器・杯B	14.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3035	63	須恵器・杯B	14.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3036	63	須恵器・杯B	13.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3037	63	須恵器・杯B	11.5	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3038	63	須恵器・杯B	11.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3039	63	須恵器・杯B	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3040	63	須恵器・杯B	11.4	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3041	63	須恵器・杯B	11.3	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3042	63	須恵器・杯B	11.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK06
3043	63	須恵器・杯B	11.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3044	63	須恵器・杯B	11.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3045	63	須恵器・杯B	11.0	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SZ02周溝
3046	63	須恵器・杯B	10.9	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP27

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3047	63	須恵器・杯B	10.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3048	63	須恵器・杯B	10.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3049	63	須恵器・杯B	10.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3050	63	須恵器・杯B	10.8	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD09
3051	63	須恵器・杯B	10.7	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK17
3052	63	須恵器・杯B	10.6	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP30
3053	63	須恵器・杯B	10.2	ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3054	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3055	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD04
3056	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3057	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3058	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3059	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	カクラン
3060	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SB05
3061	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK11
3062	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE06
3063	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK14
3064	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3065	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD04
3066	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK11
3067	64	須恵器・杯A	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3068	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK11
3069	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3070	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK11
3071	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3072	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3073	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	表　土
3074	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK10
3075	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD04
3076	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SZ02周溝
3077	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SD17
3078	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SB03
3079	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3080	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK28
3081	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SK17
3082	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP33
3083	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3084	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SZ02周溝
3085	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3086	64	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3087	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE01
3088	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SP29

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3089	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3090	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SZ02
3091	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3092	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3093	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3094	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	SE09
3095	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3096	65	須恵器・杯B	—	体・底部、ロクロ調整の後、底部はヘラ切りをして、調整をしない。	包含層
3097	65	須恵器・稜杯	11.2	外面に稜をもつ高台付杯（稜椀）、底部はヘラ切り。	包含層
3098	65	須恵器・杯	16.6	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK10
3099	65	須恵器・杯	16.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3100	65	須恵器・杯	12.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3101	65	須恵器・杯	12.8	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SB04
3102	65	須恵器・杯	12.6	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK11
3103	65	須恵器・杯	12.3	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SD17
3104	65	須恵器・杯	12.1	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SP37
3105	65	須恵器・杯	12.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SD05
3106	65	須恵器・杯	11.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK28
3107	65	須恵器・杯	12.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SI04カマド
3108	65	須恵器・杯	11.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK11
3109	65	須恵器・杯	11.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK04
3110	65	須恵器・杯	11.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3111	65	須恵器・杯	11.8	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3112	65	須恵器・杯	11.4	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3113	65	須恵器・杯	11.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3114	65	須恵器・杯	11.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3115	65	須恵器・杯	10.8	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK06
3116	65	須恵器・杯	10.7	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SD17
3117	65	須恵器・杯	10.4	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3118	65	須恵器・杯	10.4	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3119	65	須恵器・杯	10.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SI05
3120	65	須恵器・杯	10.0	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3121	66	須恵器・杯A	13.8	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3122	66	須恵器・杯A	12.2	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3123	66	須恵器・杯A	12.8	口縁・体部、ロクロ調整をする。	包含層
3124	66	須恵器・杯A	—	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SP10
3125	66	須恵器・杯B	16.6	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK32
3126	66	須恵器・杯B	12.2	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK21
3127	66	須恵器・杯B	11.9	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK28
3128	66	須恵器・杯B	11.6	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK32
3129	66	須恵器・杯B	11.2	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SD17
3130	66	須恵器・杯B	—	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SE09

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3131	66	須恵器・杯B	—	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SP01・SP13
3132	66	須恵器・杯B	14.2	口縁・体部、ロクロ調整をする。	SK21
3133	66	須恵器・杯	17.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK21
3134	66	須恵器・杯	17.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK28
3135	66	須恵器・杯	16.8	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK21
3136	66	須恵器・杯	15.6	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK28
3137	66	須恵器・杯	15.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK21
3138	66	須恵器・杯	14.2	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	包含層
3139	66	須恵器・杯	14.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SP02
3140	66	須恵器・杯	13.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK21
3141	66	須恵器・杯	12.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SP39
3142	66	須恵器・杯	11.8	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SK28
3143	66	須恵器・杯	11.5	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SD17
3144	66	須恵器・杯	11.0	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	包含層
3145	66	須恵器・杯	10.9	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	SD17
3146	66	須恵器・杯	10.8	口縁・体部、口縁部は外上方へ開く、ロクロ調整をする。	包含層
3147	67	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く。	SP30
3148	67	須恵器・杯蓋	13.6	つまみは欠損している。	包含層
3149	67	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く。	包含層
3150	67	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	SZ02
3151	67	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く。	SK04
3152	67	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く。	SE01
3153	67	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く。	包含層
3154	67	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く。	包含層
3155	67	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	カクラン
3156	67	須恵器・杯蓋	17.8	口縁部。	包含層
3157	67	須恵器・杯蓋	16.8	口縁部。	包含層
3158	67	須恵器・杯蓋	17.4	口縁部。	SP24
3159	67	須恵器・杯蓋	16.3	天井部中央は欠損している。	表　土
3160	67	須恵器・杯蓋	15.8	口縁部。	カクラン
3161	67	須恵器・杯蓋	14.0	口縁部。	SK28
3162	67	須恵器・杯蓋	13.6	口縁部。	SB04
3163	67	須恵器・杯蓋	13.6	天井部中央は欠損している。	SD04
3164	67	須恵器・杯蓋	13.4	天井部中央は欠損している。	SE01
3165	67	須恵器・杯蓋	13.0	天井部中央は欠損している。	SE09
3166	67	須恵器・杯蓋	13.0	口縁部。	SD17
3167	67	須恵器・杯蓋	12.8	天井部中央は欠損している。	包含層
3168	67	須恵器・杯蓋	12.6	天井部中央は欠損している。	包含層
3169	67	須恵器・杯蓋	12.4	口縁部。	SP23
3170	67	須恵器・杯蓋	12.4	口縁部。	包含層
3171	67	須恵器・杯蓋	12.4	口縁部。	SI02
3172	67	須恵器・杯蓋	12.2	口縁部。	SK11

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3173	67	須恵器・杯蓋	12.0	天井部中央は欠損している。	SZ02
3174	67	須恵器・杯蓋	12.0	天井部中央は欠損している。	SB02
3175	67	須恵器・杯蓋	11.9	天井部中央は欠損している。	SK05
3176	67	須恵器・杯蓋	11.8	天井部中央は欠損している。	SK17
3177	67	須恵器・杯蓋	11.8	天井部中央は欠損している。	包含層
3178	67	須恵器・杯蓋	11.4	天井部中央は欠損している。	SI01カマド
3179	67	須恵器・杯蓋	11.6	天井部中央は欠損している。	包含層
3180	67	須恵器・杯蓋	11.0	天井部中央は欠損している。	SE06
3181	67	須恵器・杯蓋	10.9	口縁部。	包含層
3182	67	須恵器・杯蓋	10.8	天井部中央は欠損している。	SK11
3183	68	須恵器・杯蓋	16.0	つまみは付かない。	SK32
3184	68	須恵器・杯蓋	16.0	つまみは付かない。	包含層
3185	68	須恵器・杯蓋	16.0	つまみは付かない。	SB04
3186	68	須恵器・杯蓋	14.8	つまみは付かない。	カクラン
3187	68	須恵器・杯蓋	15.6	つまみは付かない。	SK28
3188	68	須恵器・杯蓋	14.8	つまみは付かない。	表　土
3189	68	須恵器・杯蓋	14.0	つまみは付かない。	SD04
3190	68	須恵器・杯蓋	14.0	つまみは付かない。	SD04
3191	68	須恵器・杯蓋	12.8	つまみは付かない。	包含層
3192	68	須恵器・杯蓋	12.6	つまみは付かない。	SK32
3193	68	須恵器・杯蓋	12.5	つまみは付かない。	SD02
3194	68	須恵器・杯蓋	12.4	つまみは付かない。	SK20
3195	68	須恵器・杯蓋	11.8	つまみは付かない、口端部は下方へ折れ曲がる。	SE07
3196	68	須恵器・杯蓋	11.0	つまみは付かない、口端部は下方へ折れ曲がる。	SE09
3197	68	須恵器・杯蓋	—	宝珠形のつまみが付く。	SB02
3198	68	須恵器・鉢	22.0	口端部は内傾する。	包含層
3199	68	須恵器・瓶壺類	—	双耳瓶の肩部。	包含層
3200	68	須恵器・瓶壺類	10.0	横瓶。	SE01
3201	68	須恵器・瓶壺類	11.8	横瓶の口縁部。	包含層
3202	68	須恵器・瓶壺類	16.4	広口壺、底部は欠損。	SE01
3203	69	須恵器・瓶壺類	29.0	口縁部。	包含層
3204	69	須恵器・瓶壺類	24.0	口縁部。	SE09
3205	69	須恵器・瓶壺類	23.0	口縁上半部。	SB03
3206	69	須恵器・瓶壺類	23.0	口縁上半部。	SK21
3207	69	須恵器・瓶壺類	22.0	口縁上半部。	SK11
3208	69	須恵器・瓶壺類	22.0	口縁上半部。	SE09
3209	69	須恵器・瓶壺類	21.0	口縁上部。	SP19
3210	69	須恵器・瓶壺類	21.0	口縁上部。	SE06
3211	69	須恵器・瓶壺類	16.0	口縁部。	カクラン
3212	69	須恵器・瓶壺類	16.0	口縁上部。	SK21
3213	69	須恵器・瓶壺類	12.2	口縁上部。	包含層
3214	69	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	SD07

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3215	69	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	SD02
3216	69	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	SP04
3217	69	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	SP19
3218	69	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	カクラン
3219	70	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	カクラン
3220	70	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	SD02
3221	70	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	包含層
3222	70	須恵器・瓶壺類	—	胴下・底部。	包含層
3223	68	須恵器・壺蓋	12.0	宝珠形のつまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	SD09
3224	70	須恵器・甕	50.2	口縁上部、外面に波状文が廻る。	SE05
3225	70	須恵器・甕	36.4	口縁部、外面に波状文が廻る。	SK10
3226	70	須恵器・甕	42.0	口縁部、外面に波状文が廻る。	包含層
3227	70	須恵器・甕	32.0	口縁部。	SD04
3228	70	須恵器・甕	23.0	口頸部。	SK21
3229	70	須恵器・甕	27.8	口縁・肩部。	SE07
3230	70	須恵器・甕	30.0	口頸部。	SP12
3231	71	須恵器・甕	47.6	口頸部。	包含層
3232	71	須恵器・甕	37.0	口縁上部。	包含層
3233	71	須恵器・甕	35.8	口縁上部。	包含層
3234	71	須恵器・甕	—	胴部。	SK28・SK32
6．奈良平安時代の土器類、灰釉陶器					
3901	71	灰釉陶器・椀	14.6	体・底部外面はヘラ削り、口縁部内外面に漬け掛けによる施釉。	SK32
3902	71	灰釉陶器・椀	13.6	口縁・体部、口縁部内外面に漬け掛けによる施釉。	包含層
3903	71	灰釉陶器・椀	—	体下・底部、体下部内面に施釉。	SK18
3904	71	灰釉陶器・瓶	—	注口部、灰褐色を呈する、一部に施釉を確認。	SP07
7．中世の土器類、土師器					
4101	72	土師器・皿	14.0	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は２段の横ナデ。	SP22
4102	72	土師器・皿	14.0	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SE09
4103	72	土師器・皿	13.0	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SE09
4104	72	土師器・皿	13.2	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SE05
4105	72	土師器・皿	14.0	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SK39
4106	72	土師器・皿	13.8	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SE05
4107	72	土師器・皿	14.9	非ロクロの土師器大皿、口縁部外面は１段の横ナデ。	SE09
4108	72	土師器・皿	8.0	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ。	SK39
4109	72	土師器・皿	8.4	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ。	SE09
4110	72	土師器・皿	8.6	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ。	SE09
4111	72	土師器・皿	8.4	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ。	SE09
4112	72	土師器・皿	8.6	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ。	包含層
4113	72	土師器・皿	7.6	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は弱い２段の横ナデ、油煙付着。	包含層

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
4114	72	土師器・皿	8.0	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	SE09
4115	72	土師器・皿	7.4	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ、油煙付着。	SE02
4116	72	土師器・皿	7.8	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ、油煙付着。	SK11
4117	72	土師器・皿	8.3	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	包含層
4118	72	土師器・皿	8.0	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	SE09
4119	72	土師器・皿	7.4	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ、油煙付着。	SE06
4120	72	土師器・皿	8.6	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	SK11
4121	72	土師器・皿	8.0	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	SB09
4122	72	土師器・皿	6.6	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ。	SK11
4123	72	土師器・皿	7.0	非ロクロの土師器小皿、口縁部外面は1段の横ナデ、油煙付着。	SB09
4124	72	土師器・皿	10.0	非ロクロの土師器小皿（中皿）、口縁部直線的に拡がる。	SD04
8．中世の土器類、瓦質土器					
4201	72	瓦質土器・鉢	21.0	口縁部、口縁部は内弯する。	SE09
4202	72	瓦質土器・鉢	32.4	口縁部、口縁部は内弯する。口縁部外面は印花文。	SK11
4203	72	瓦質土器・鉢	—	底部。	SE07
9．中世の土器類、珠洲					
4301	73	珠洲・鉢	28.8	口縁・体部、口唇面は水平になる。	SE06
4302	73	珠洲・鉢	38.4	口縁・体部、口唇面はやや外傾する。	SP21
4303	73	珠洲・鉢	36.2	口縁・体部、口唇面はやや外傾する。	SE05
4304	73	珠洲・鉢	36.0	口縁・体部、口唇面は外傾する。	SE09
4305	73	珠洲・鉢	32.9	口縁・体部、口唇面は外傾する。	SZ02周溝
4306	73	珠洲・鉢	31.7	口縁・体部、口唇面は外傾する。	包含層
4307	74	珠洲・鉢	37.2	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。	包含層
4308	73	珠洲・鉢	32.8	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。	SE09
4309	73	珠洲・鉢	31.2	口縁・体部、口唇面は外傾する。	SK25
4310	74	珠洲・鉢	30.0	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。	SE09
4311	74	珠洲・鉢	28.8	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。	SE07・SE09
4312	74	珠洲・鉢	33.3	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。	SE07
4313	74	珠洲・鉢	32.0	口縁・体部、口唇面は外傾する、オロシ目が粗く付く。片口部。	SK11
4314	74	珠洲・鉢	30.0	口縁・体部、口唇面はやや外傾する、オロシ目が粗く付く。	SD03
4315	75	珠洲・鉢	31.5	口縁・体部、口唇面は外傾する。	SE07
4316	75	珠洲・鉢	29.2	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目が付く。	SK07
4317	75	珠洲・鉢	37.2	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目がやや密に付く。	SD03
4318	75	珠洲・鉢	36.4	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目がやや密に付く。	SK11
4319	76	珠洲・鉢	36.0	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目がやや密に付く。	SK18
4320	75	珠洲・鉢	36.0	口縁・体部、口唇面は水平になる、オロシ目がやや密に付く。	SE07
4321	75	珠洲・鉢	30.3	口縁・体部、口唇面は外傾する。	カクラン
4322	75	珠洲・鉢	28.8	口縁・体部、口唇面は水平になる、オロシ目がやや密に付く。	SK11
4323	76	珠洲・鉢	28.0	口縁・体部、口唇面はやや内傾する。	包含層

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
4324	76	珠洲・鉢	34.6	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目密に付く。	包含層
4325	76	珠洲・鉢	32.6	口縁・体部、口唇面はやや内傾する、オロシ目が密に付く。	SE08
4326	76	珠洲・鉢	31.6	口縁・体部、口唇面はやや内傾する。オロシ目が付く。	SD02
4327	76	珠洲・鉢	32.0	口縁・体部、オロシ目が究めて密に付く、片口部、内面にヘラ記号。	包含層
4328	76	珠洲・鉢	30.4	口縁・体部、口唇面はほぼ水平になる、オロシ目が密に付く、片口。	SK11
4329	77	珠洲・鉢	25.8	口縁・体部、中型品、口唇面はやや外傾する。	SE09
4330	77	珠洲・鉢	23.4	中型品、口唇面は外傾する、底部静止糸切り。	SK11・SK01
4331	77	珠洲・鉢	22.8	口縁・体部、中型品、口唇面はやや外傾する。	SE09
4332	77	珠洲・鉢	24.5	口縁・体部、中型品、口唇面は水平になる。オロシ目やや密に付く。	SE07
4333	77	珠洲・鉢	—	体部、破片を２次的に加工している、オロシ目が付く。	SB10
4334	77	珠洲・鉢	—	底部、底部は回転糸切り。	表　土
4335	77	珠洲・鉢	—	低部、波状のオロシ目が付く。	SK18
4336	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	SK11
4337	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り。	SD02
4338	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	包含層
4339	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	包含層
4340	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	包含層
4341	77	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	包含層
4342	78	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	SD08
4343	78	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	包含層
4344	78	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	SE05
4345	78	珠洲・鉢	—	体・底部、底部は静止糸切り、オロシ目が付く。	SD04
4346	79	珠洲・瓶	—	底部、尖った後やや外方へ拡がる末端部となる。	SE05
4347	79	珠洲・瓶	—	肩部、波状文が廻る。	表　土
4348	80	珠洲・壺	48.6	口縁・肩部、口唇部と口縁部内外面に波状文が廻る。	表　土
4349	79	珠洲・壺	—	口縁・肩部、肩部外面は叩目、ヘラ記号。	包含層
4350	79	珠洲・壺	—	胴下・底部、胴下部外面に叩目、底部静止糸切り。	SE08・SD04
4351	79	珠洲・壺	—	胴下・底部、胴下部外面に叩目、底部静止糸切り。	表　土
4352	79	珠洲・壺	—	胴下・底部、胴下部外面に叩目、底部静止糸切り。	包含層
4353	79	珠洲・壺	—	胴下・底部、胴下部外面に叩目、底部静止糸切り。	SE07・SK11
4354	78	珠洲・鉢形	—	低部、底部は静止糸切り。	包含層
4355	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	包含層
4356	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SE07
4357	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	包含層
4358	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SE09
4359	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SD03
4360	79	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SK19
4361	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SK08
4362	79	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SE10
4363	78	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SE09
4364	79	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SE09
4365	79	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	包含層

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
4366	79	珠洲・鉢形	—	底部、底部は静止糸切り。	SK18
4367	80	珠洲・甕	32.2	口縁・肩部、口端部は嘴頭形になる、肩部外面は叩目。	SE09
4368	80	珠洲・甕	59.6	口縁・肩部、口端部は嘴頭形になる、肩部外面は叩目。	SE07
4369	80	珠洲・甕	58.0	口縁・肩部、口端部は嘴頭形になる、肩部外面は叩目。	SD07
4370	80	珠洲・甕	51.4	口縁・肩部、口端部は嘴頭形になる、肩部外面は叩目。	SE09
4371	80	珠洲・甕	44.0	口縁・肩部、口端部は円頭形になる、肩部外面は叩目。	包含層
4372	81	珠洲・甕	43.2	口縁・肩部、口端部は円頭形になる、肩部外面は叩目。	SE05
4373	81	珠洲・甕	52.8	口縁・肩部、口端部は円頭形になる、肩部外面は叩目。	SE02・SE04
4374	81	珠洲・甕	51.0	口縁・肩部、口端部は円頭形になる、肩部外面は叩目。	包含層
4375	81	珠洲・甕	44.0	口縁・肩部、口端部は円頭形になる、肩部外面は叩目。	SK06
4376	81	珠洲・甕	42.2	口縁・肩部、口端部は方頭形になる、肩部外面は叩目。	SE06・SE07
4377	81	珠洲・甕	43.7	口縁・肩部、口端部は方頭形になる、肩部外面は叩目。	包含層
4378	82	珠洲・甕	47.0	口縁・肩部、口端部は方頭形になる、肩部外面は叩目。	包含層
4379	82	珠洲・甕	70.0	口縁・肩部、口端部は方頭形になる、肩部外面は叩目。	SE10
4380	82	珠洲・甕	37.5	口縁・肩部、口端部は方頭形になる、肩部外面は叩目。	SD08
4381	82	珠洲・甕	—	胴下・底部、胴下部外面は叩目。	包含層
4382	79	珠洲・甕	—	胴下・底部、胴下部外面は叩目、底部外面に砂付着。	SE07・SE09
4383	82	珠洲・甕	—	胴下・底部、胴下部外面は叩目、底部外面に砂付着。	SP26
4384	82	珠洲・甕	—	底部、底部外面に砂付着。	SD04
4385	82	珠洲・甕	—	底部、底部外面に砂付着。	SE09
4386	79	珠洲・甕	—	底部、底部外面に砂付着。	カクラン
10. 中世の土器類、珠洲以外の陶磁器					
4401	83	八尾・甕	40.0	口縁・肩部、口縁はN字状に屈曲する。	包含層
4402	83	瀬戸美濃・壺	—	小壺の胴下・底部。底部は糸切り。	包含層
4403	83	青磁・碗	14.8	口縁・体部、蓮弁文が付く。	包含層
4404	83	白磁・碗	—	体下・底部。外下方へ高台を削り出す。	包含層
11. 近世の陶磁器類					
4501	83	肥前陶器・碗	—	底部、高台部欠損。	包含層
4502	83	肥前陶器・皿	—	底部、二彩手大皿。	包含層
4503	83	肥前磁器・碗	—	体・底部。	カクラン
4504	83	肥前磁器・皿	—	見込み中央にコンニャク印判による五弁花文が付く。	カクラン
4505	83	肥前磁器・皿	12.6	小破片。	包含層
4506	83	肥前磁器・皿	13.1	波佐見系の青磁皿、内面蛇の目釉剝ぎ。	包含層
4507	83	瀬戸美濃・碗	—	底部、呉須絵陶器。	包含層
4508	83	越中瀬戸・皿	—	口縁・体部、内弯して外上方へ拡がる形態、底・高台部欠損。	カクラン
4509	83	越中瀬戸・皿	—	体下・底部、無高台の小皿、底部外面に「りあ」の墨書。	包含層
4510	83	越中瀬戸・皿	31.3	底部、無高台の小皿、底部は回転糸切り。	カクラン
4511	83	越中瀬戸・鉢	—	口縁・体上部、口縁部外縁に口唇帯を形成、オロシ目密ではない。	カクラン
4512	83	越中瀬戸・鉢	—	底部、オロシ目密に付く。	カクラン
4513	83	越中瀬戸・鉢	—	底部、底部外面に糸切り痕。	包含層

別表８　その他の遺物観察表

番号	図面	図版	種類	特徴	出土位置
１．土製品					
5001	84	56	瓦塔	屋蓋部の破片。	包含層
5002	84	56	土錘	長さ5.6、最大径3.3、孔径1.2cm。管状、土師質。ほぼ完存品。	包含層
5003	84	56	土錘	長さ2.8、最大径1.0、孔径0.3～0.4cm。管状、土師質、ほぼ完存品。	SK41
5004	84	56	鞴の羽口	復原径5.8、復原孔径2.5cm。	SI03
２．木製品					
6001	85	56	皿	漆器皿。口径8.4、器高1.3、底径5.8cm。ほぼ完存品。	SE03
6002	86	57	箸	長さ24.3、幅0.7、厚さ0.4cm。やや折れている。完存品。	SE03
6003	86	57	箸	長さ21.0、幅0.4、厚さ0.4cm。完存品。	SE03
6004	86	57	箸	長さ17.0、幅0.5、厚さ0.6cm。完存品。	SE02
6005	86	57	箸	現存長14.1、幅0.4、厚さ0.4cm。一端が途中より欠損。	SE03
6006	86	57	箸	現存長14.1、幅0.5、厚さ0.4cm。一端が途中より欠損。	SE02
6007	86	57	箸	現存長13.4、幅0.6、厚さ0.4cm。一端が途中より欠損。	SE02
6008	86	57	箸	現存長13.3、幅0.6、厚さ0.4cm。一端が途中より欠損。	SE02
6009	86	57	箸	現存長10.1、幅0.4、厚さ0.3cm。両端が途中より欠損。	SE03
6010	86	57	箸	現存長8.9、幅0.4、厚さ0.4cm。一端が途中より欠損。	SE02
6011	86	57	箸	現存長6.4、幅0.6、厚さ0.3cm。両端が途中より欠損。	SE03
6012	86	57	箸	現存長6.2、幅0.4、厚さ0.3cm。一端が途中より欠損。	SE02
6013	86	57	箸	現存長5.0、幅0.4、厚さ0.4cm。両端が途中より欠損。	SE02
6014	85	56	篦状具	長さ23.2、幅1.3、厚さ0.7cm。完存品？	SE02
6015	85	57	板状品	長さ19.0、幅10.8、厚さ0.5cm。完存品？	SE02
6016	85	56	木片	長さ14.9、幅1.4、厚さ0.5cm。完存品？	SE02
３．鉄製品					
7001	89	59	鉄剣	現存長65.7、身50.0、茎15.7cm。	SZ03主体部
7002	87	58	刀子	全長24.0、身16.9、茎7.1、身部元幅1.8cm。木質部以外完存品。	SA01
7003	87	58	刀子	全長18.3、身10.1、茎8.2、身部元幅1.2cm。木質部以外完存品。	SK21
7004	87	58	刀子	現在長13.3、身11.8、茎1.5、身部元幅1.2cm。茎部途中より欠損。	SK28
7005	87	58	刀子	現在長8.0、身部最大幅1.1cm。身部先端側が残存。	SK21
7006	87	58	刀子	現在長7.5、身長4.9、茎2.6、身部元幅1.1cm。茎部途中より欠損。	包含層
7007	87	58	刀子	現在長5.8、身部最大幅1.3cm。身部の一部が残存。	SK11
7008	87	58	刀子	現在長15.2、身9.2、茎5.6、身部元幅2.0cm。身部途中より欠損。	SZ01主体部
7009	87	58	刀子	現在長8.4、身4.2、茎4.2、身部元幅1.4cm。木質残存、身部途中より欠損。	SZ01主体部
7010	87	58	刀子	現在長4.6、身0.5、茎4.1、身部元幅1.1cm。木質残存、身部途中より欠損。	SK33
7011	87	58	刀子	現在長8.8、身4.8、茎4.0、身部元幅1.9cm。身・茎とも途中より欠損。	SI02

番号	図面	図版	種　　類	特　　徴	出土位置
7012	87	58	刀　子	現存長8.8、身4.8、茎4.0、身部元幅1.9cm。身・茎とも途中より欠損。	SZ01主体部
7013	87	58	刀　子	現存長6.7、身2.0、茎4.7、身部元幅0.9cm。身部途中より欠損。	包含層
7014	87	58	刀　子	現存長9.9、身3.1、茎6.8、身部元幅1.0cm。身部途中より欠損。	SK32
7015	87	58	刀　子	現存長5.8、身4.6、茎1.2、身部元幅1.8cm。身・茎とも途中より欠損。	包含層
7016	87	58	刀　子	現存長7.3、身1.5、茎5.8、身部元幅1.0cm。身・茎とも途中より欠損。	SK21
7017	87	58	刀　子	現存長9.7cm。身部の一部のみ残存。	包含層
7018	88	59	鉄　鏃	現存長14.5、身3.1、頸8.0、茎3.5cm。茎部途中より欠損。	SZ02主体部
7019	88	59	鉄　鏃	現存長10.0、身1.4、頸5.3、茎4.0cm。身部途中より欠損。	SZ04
7020	88	59	鉄　鏃	現存長3.5、身3.1、頸0.6cm。頸部途中より欠損。	SZ02主体部
7021	88	59	鉄　鏃	現存長3.1、身2.8、頸0.6cm。身先端部、頸部途中より欠損。	SZ02主体部
7022	88	59	鉄　鏃	現存長1.9、身1.2、頸1.2cm。身基部を中心に残存。	SZ02主体部
7023	88	59	鉄　鏃	現存長5.2、身5.0、頸0.2cm。身先端部欠損、頸部は僅かに残存。	包含層
7024	88	59	鉄　鏃	現存長3.5cm。身部と頸部の一部が残存。	SP25
7025	88	59	鉄　鏃	現存長4.4、頸2.3、茎4.1cm。頸・茎とも途中より欠損。	SZ02主体部
7026	88	59	鉄　鏃	現存長8.1、頸4.4、茎3.7cm。頸部途中より欠損。	SZ02主体部
7027	88	59	鉄　鏃	現存長6.9cm。身基部と頸部の大半が残存。	SP25
7028	88	59	鉄　鏃	現存長3.6cm。頸部残存。	SZ02主体部
7029	88	59	鉄　鏃	現存長3.0cm。頸部残存。	SZ02主体部
7030	88	59	鉄　鏃	現存長2.4cm。頸部残存。	SZ02主体部
7031	88	59	鉄　鏃	現存長1.7cm。頸部残存。	SZ02主体部
7032	88	59	鉄　鏃	現存長2.4cm。頸部残存。	SZ02主体部
7033	88	59	鉄　鏃	現存長3.3cm。頸部残存。	包含層
7034	88	59	鉄　鏃	現存長4.2cm。頸部残存。	SK10
7035	88	59	鉄　鏃	現存長2.6cm。頸部残存。	SP36
7036	88	59	鉄　鏃	現存長3.8cm。茎部残存。	SK11
7037	88	59	鉄　鏃	現存長8.0cm。茎部残存。	包含層
7038	88	59	鉄　鏃	現存長6.6cm。茎部残存。	包含層
7039	89	59	紡錘車	紡輪部径4.1cm。軸部現存長6.6cm。	SB05
7040	89	59	鉄　釘	現存長6.2、皿部長1.3、皿部幅0.9cm。幹部先端欠損。	包含層
7041	89	59	鉄　釘	現存長5.8、皿部長1.4、皿部幅0.9cm。幹部先端欠損。	包含層
7042	89	59	鉄　釘	現存長4.9、皿部長0.7、皿部幅0.9cm。幹部先端欠損。	SP28
7043	89	59	鉄　釘	現存長4.6、皿部長0.5、皿部幅0.7cm。幹部先端欠損。	SK19
7044	89	59	鉄　釘	現存長3.4、皿部長1.0、皿部幅1.1cm。ほぼ完存品。	SP03
7045	89	59	鉄　釘	現存長2.4、皿部長0.9、皿部幅1.1cm。幹部途中より欠損。	包含層
7046	89	59	鉄　釘	現存長2.7。皿部途中より欠損、幹部先端欠損。	SE09
7047	89	59	鉄　釘	現存長5.1。皿部欠損。	包含層
7048	89	59	鉄　釘	現存長3.7cm。幹部一部残存。	SP28
7049	89	59	鉄　釘	現存長3.7cm。幹部一部残存。	カクラン
7050	89	59	鉄　釘	現存長6.1cm。皿部欠損。	SE06
7051	90	60	用途不明品	筒状の形態。	SK11
7052	90	60	用途不明品	環状に曲げられている。	包含層
7053	90	60	用途不明品	環状に曲げられている。	包含層

番号	図面	図版	種　　類	特　　徴	出土位置
7054	90	60	用途不明品	半環状のもの、断面は菱形。	SK30
7055	90	60	用途不明品	断面が「へ」の字状になる、端部に穴があく。	包含層
7056	90	60	用途不明品	刀子の一部か？	SK01
7057	90	60	用途不明品	刀子の一部か？	SZ01主体部
7058	90	60	用途不明品	刀子の一部か？	SZ02主体部
7059	90	60	用途不明品	鉄釘の一部か？	SK11
7060	90	60	用途不明品	鉄釘の一部か？	SP19
7061	90	60	用途不明品	鉄釘の一部か？	表　土
7062	90	60	用途不明品	鉄釘の一部か？	SP16
7063	90	60	用途不明品	鉄釘の一部か？	SK07
7064	90	60	用途不明品	方形の鉄板に角棒状のものが付く。	SK21
7065	90	60	用途不明品	片側で幅が狭くなる形状。	包含層
7066	90	60	用途不明品	片側で幅が狭くなる形状。	包含層
7067	90	60	用途不明品	中央に膨らみを持つ。	包含層
４．銅製品					
8001	—	60	銅　銭	唐銭の乾元重宝（758）の銭名が付く。	SE07
8002	—	60	銅　銭	北宋銭の熙寧元宝（1068）の銭名が付く。	SE07
8003	—	60	銅　銭	劣化が激しく銭名不明。	SE07
8004	—	60	銅　銭	劣化が激しく銭名不明。	表　土
５．石製品					
9001	91	61	打製石斧	長さ18.9、刃部幅8.4、頭部幅6.8cm。片面に礫面。玢岩。	SK12
9002	91	61	打製石斧	現存長7.9、中央幅4.4、頭部幅5.8cm。両面に礫面。石英安山岩。	包含層
9003	91	61	磨製石斧	長さ5.2、刃部幅3.6、頭部幅2.3、中央厚1.0cm。蛇紋岩。	包含層
9004	91	61	勾玉？	長さ3.7、中央幅2.2、厚さ1.2cm。めのう？	SE09
9005	92	62	砥　石	長さ15.1、幅4.3、厚さ1.5cm。凝灰岩。	カクラン
9006	92	62	砥　石	現存長9.8、幅7.8、厚さ7.2cm。砂岩。	SK11
9007	92	62	砥　石	現存長8.7、幅3.6、厚さ3.0cm。安山岩。	SE07
9008	92	62	砥　石	現存長4.0、現存幅4.8、厚さ0.6cm。凝灰岩。	SZ02
9009	93	63	砥　石	長さ12.5、幅6.0、厚さ7.1cm。流紋岩。	カクラン
9010	93	63	砥　石	現存長7.2、幅8.2、現存厚1.8cm。安山岩質集塊岩。	SK11
9011	93	63	砥　石	長さ15.5、幅10.6、厚さ2.2cm。安山岩。	包含層
9012	93	63	砥　石	現存長3.7、現存幅3.1、厚さ1.2cm。砂岩。	カクラン
9013	94	64	砥　石	現存長8.4、幅3.6、厚さ2.6cm。砂岩。	SE07
9014	94	64	砥　石	現存長7.5、幅3.0、厚さ2.7cm。砂岩。	カクラン
9015	94	64	砥　石	現存長8.3、現存幅5.2、現存厚3.3cm。凝灰岩。	SE06・SE07
9016	94	64	砥　石	現存長9.1、現存幅2.6、現存厚2.5cm。流紋岩。	SE06・SE07
9017	94	64	砥　石	現存長4.5、幅2.8、厚さ1.6cm。凝灰岩。	SI05
9018	94	64	砥　石	現存長5.0、現存幅4.7、現存厚1.4cm。流紋岩。	SK11
9019	94	64	砥　石	現存長4.2、現存幅4.2、厚さ2.0cm。凝灰岩。	包含層

参考文献

上野　章他　1990　『布目沢北遺跡』　大門町教育委員会

河合久則他　1965　『砺波市史』　砺波市役所

河合久則他　1990　『砺波市史　資料編１　考古、古代・中世』　砺波市

木下秀夫他　1968　『中田町誌』　中田町誌刊行会

金田　章裕　1985　『条理と村落の歴史地理学研究』　大明堂

金田章裕他　1996　『日本古代荘園図』　東京大学出版会

金田　章裕　1998　『古代荘園図と景観』　東京大学出版

金田　章裕　1999　『古地図から見た古代日本－土地制度と景観』　中央公論社

坂井誠一他　1974　『角川日本地名大辞典16－富山巻』　角川書店

神保孝造他　1977　『富山県砺波市厳照寺遺跡緊急発掘調査概要』　富山市教育委員会

神保孝造他　1978　『富山県砺波市栴壇野遺跡群予備調査概要』　砺波市教育委員会

高瀬重雄他　1994　『富山歴史地名大系第11巻－富山県の地名』　平凡社

高橋修宏他　1982　『小泉遺跡』　大門町教育委員会

田中　道子　1990　『秋元遺跡発掘調査報告書』　砺波市教育委員会

西井　龍儀　1985　「砺波平野進出の足跡」『砺波散村地域研究所研究紀要』第２号　砺波散村地域研究所
（後に「古代砺波平野の開発と遺跡」と改題して『日本海地域史研究』第12輯・1994に再録）

西井龍儀他　1993　『シンポジウム古代荘園遺跡が語るもの』　富山考古学会

橋本　正他　1973　『串田新遺跡発掘調査概報』　富山県教育委員会

藤井　一二　1986　『初期荘園史の研究』　塙書房

藤井　一二　1997　『東大寺開田図の研究』　塙書房

舟崎　久雄　1973　『砺波市東保高池遺跡発掘調査概報』　砺波市教育委員会

山本正敏他　1991　『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(1)』　大門町教育委員会

山本正敏他　1991　『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2)』　大門町教育委員会

吉岡　康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

調査参加者名簿

発　掘　油谷太四郎、油谷勇吉、稲場由美子、大島成子、大谷知可子、岡島敏雄、楠友栄
小林茂、小林幹、佐藤紀子、沢田宣亮、篠田鉄次、神代豊二、杉本広政、専徒一夫
高倉鶴蔵、高田えみ子、高田幸治、高田富雄、高田弘義、田中あけみ、道谷美奈子
中島清嗣、姫野さおり、前田武国、松原忠敬、松村孟、三島幸代、水外一郎
三谷正雄、明神源三、横田充弘

整　理　安藤誠吾、稲場由美子、太田好美、大谷知可子、岡田幸子、桶谷潤、押川栄美
尾山久美子、金田あゆみ、木村宏次、楠友栄、神埜友里、小島智子、小林央
新谷晴紀子、菅谷万須美、杉恵理子、高田えみ子、瀧律子、竹部光希、寺井久子
土合良子、中三希子、野雅貴、橋真理子、放生千絵、三島幸代、村田智恵子
室崎真弓、横田充弘

協力者　伊藤順一、上野あかね、高木奈美

報告書抄録

ふりがな	つねくにいせきちょうさほうこく
書名	常国遺跡調査報告
副書名	平成４・５年度　常国住宅団地造成事業に伴う調査
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第18冊
編著者名	山口辰一
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-0057　富山県高岡市広小路７番50号　TEL 0766-20-1463
発行年月日	西暦　2008年２月29日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つねくにいせき 常国遺跡	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 つねくに 常国	016202	202194	36° 12′ 10″	137° 01′ 45″	920518 〜 930930	8,600㎡	住宅団地の造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
常国遺跡	古墳群 集落跡	古墳時代 〜 中世	古墳　８基 掘立柱建物址　11棟 竪穴建物址　５軒 井戸址　11基 柵址　４基	縄文土器、土師器 須恵器、珠洲、瓦塔 鉄刀、刀子、鉄鏃 紡錘車、打製石斧 磨製石斧、砥石	平野部での古墳の検出 奈良時代の大型掘立柱建物址の検出

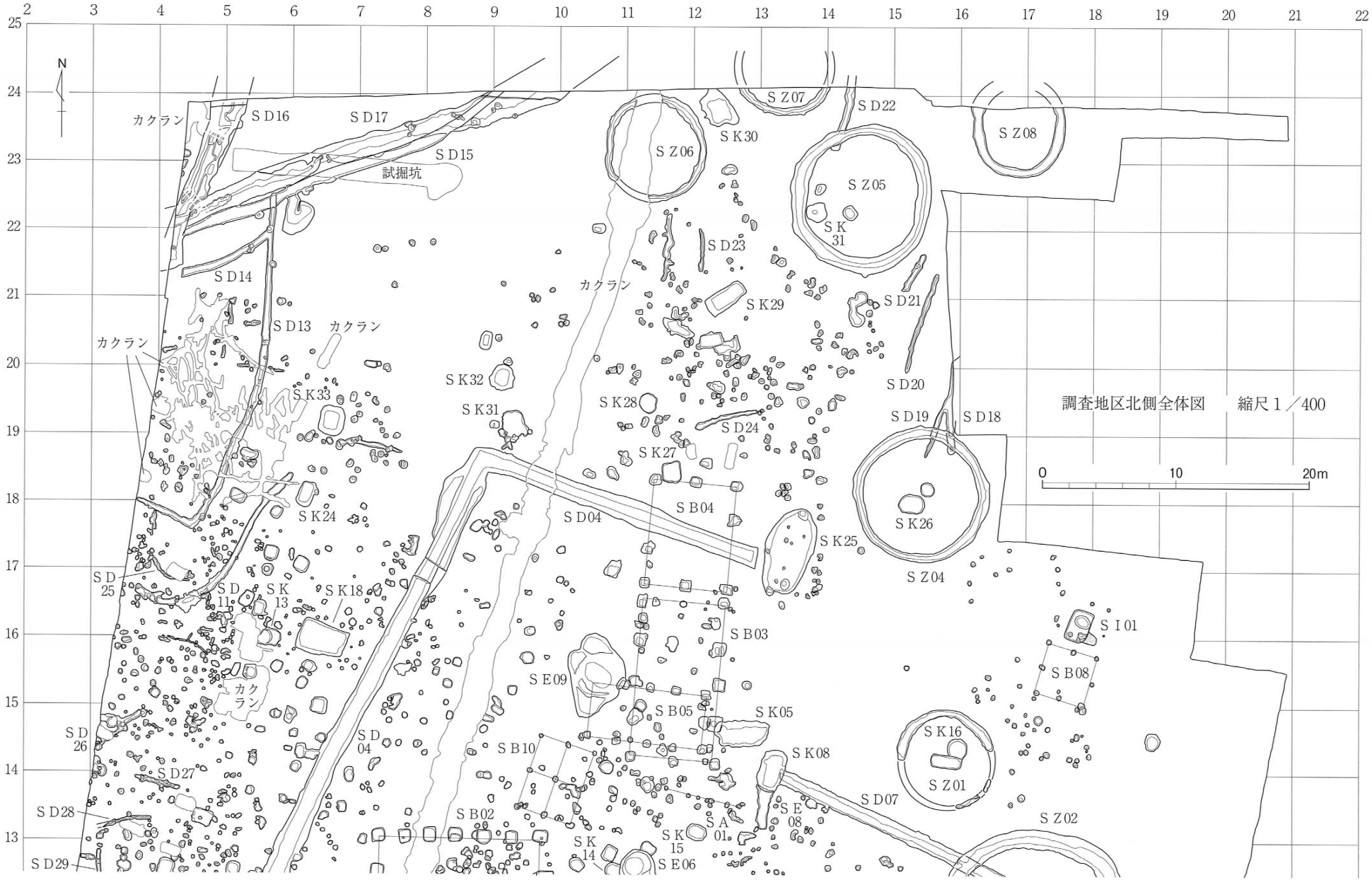
図　　面

図面〇一　遺構実測図

調査地区全体図

縮尺１／600

図面〇二　遺構実測図

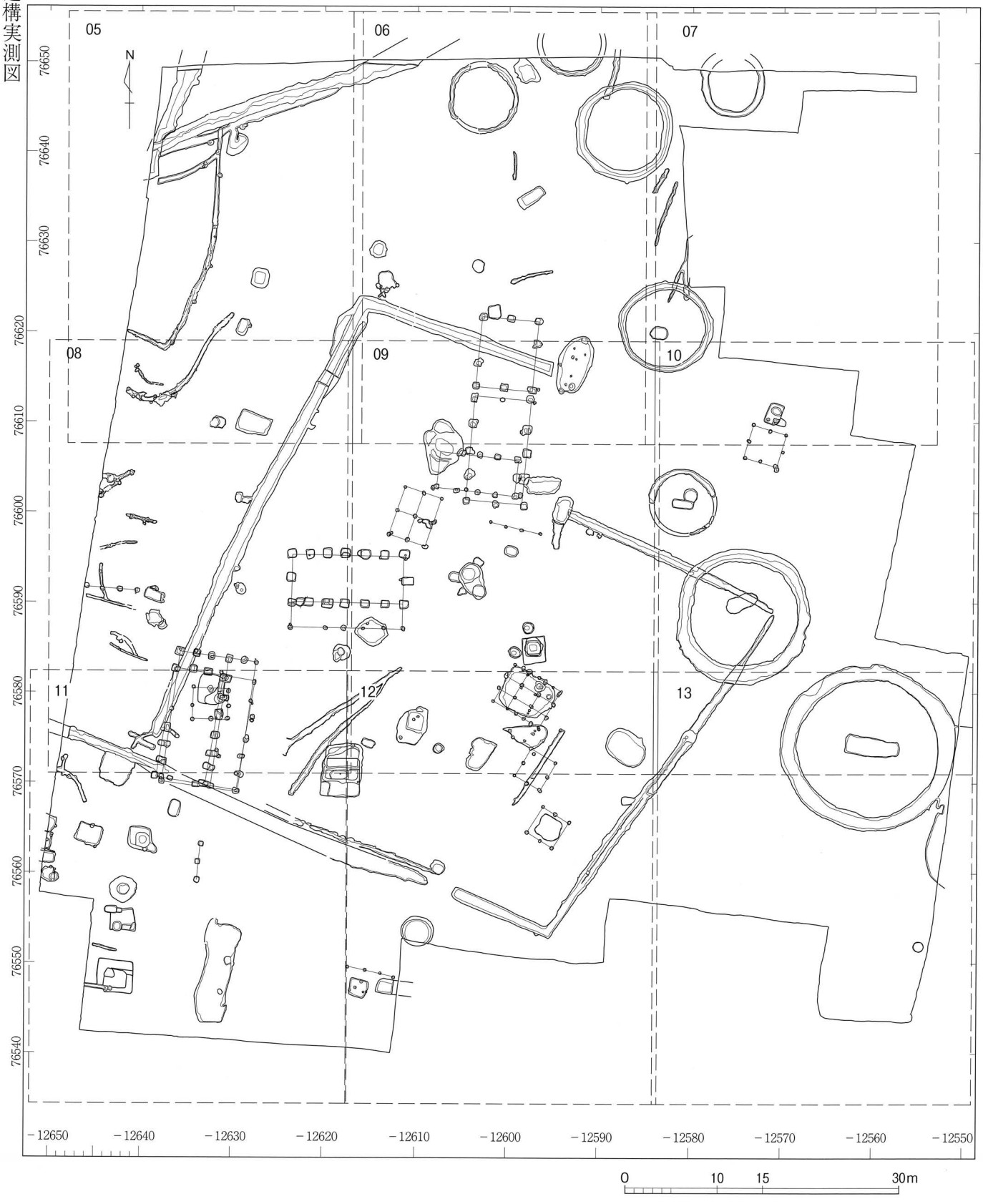


調査地区北側全体図　縮尺１／400
0
10
20m
N
カクラン
試掘坑
SD16
SD17
SD15
SD14
SD13
SD22
SD23
SD21
SD20
SD19
SD18
SD04
SD25
SD26
SD27
SD28
SD29
SD11
SD07
SD08
SK30
SK31
SK32
SK33
SK24
SK18
SK13
SK28
SK27
SK29
SK25
SK26
SK16
SK08
SK05
SK15
SK14
SK01
SK08
SZ01
SZ02
SZ04
SZ05
SZ06
SZ07
SZ08
SB02
SB03
SB04
SB05
SB08
SB10
SE06
SE08
SE09
SI01

SD28
SD29
SA02
SD 30
SK 34
SD 31
SD 32
SK 20
SD 04
SK 12
SB10
SK 15
SE06
SK04
SE07
SB02
SD07
SZ02
SE02
SE 03
SK06
SE01
SK19
SE08
カクラン
SK11
SB09
SD06
SK07
SK09
SE 04
SK 14
SD10
SB11
SK02
SZ03
SD 12
SB06
SI 02
SD02
SD 33
SK 35
SB01
SD 05
SK10
SI03
SK01
SD03
SK 22
SA03
SB07
SK03
SK 42
SK 41
SK 23
SK 21
SK 39
SK 38
SD01
SK17
SD09
SE05
SE10
SI04
SD35
SA04
SE11
SD34
SX01
SK36
SD36
SI05
0
10
20m
N
調査地区南側全体図　縮尺１／400

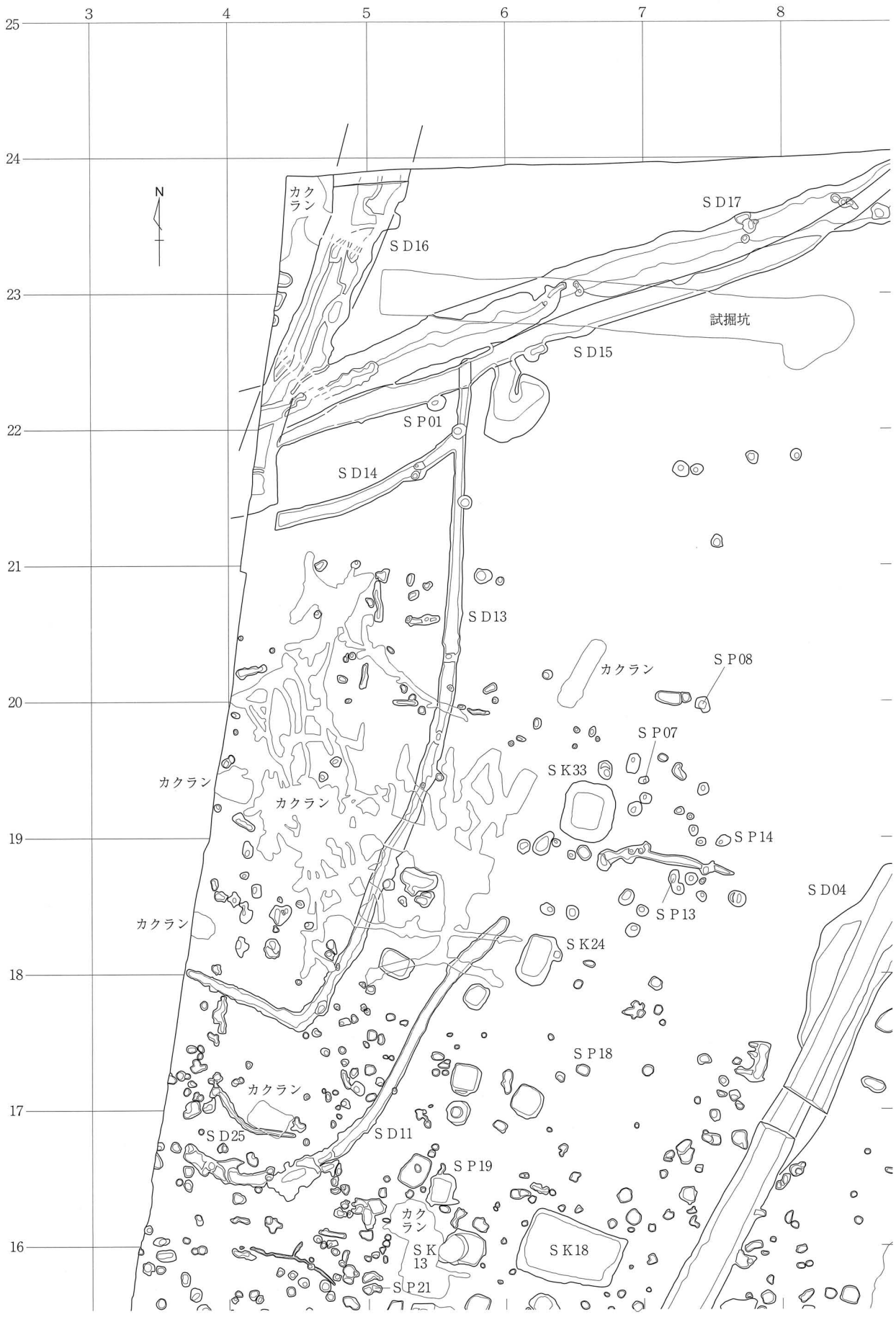
図版〇Ⅱ　遺構実測図

図面〇四　遺構実測図



調査地区遺構配置図

縮尺１／600



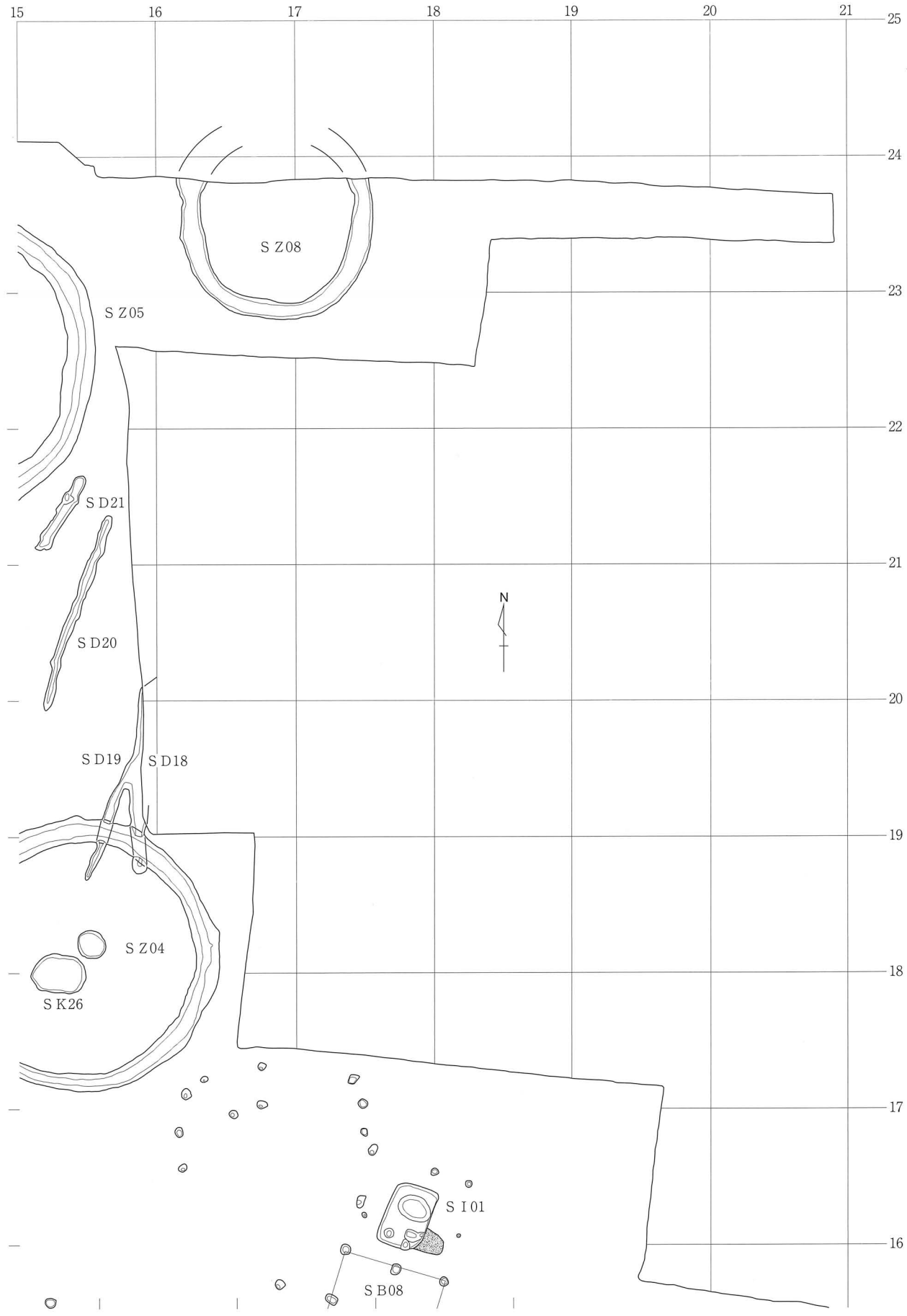
調査地区遺構図〔1〕　縮尺1／200

0　5　10m

図面〇六　遺構実測図

調査地区遺構図〔2〕　縮尺1／200

0　5　10m



調査地区遺構図〔3〕　縮尺1／200

図面〇八　遺構実測図

調査地区遺構図〔4〕　縮尺1／200

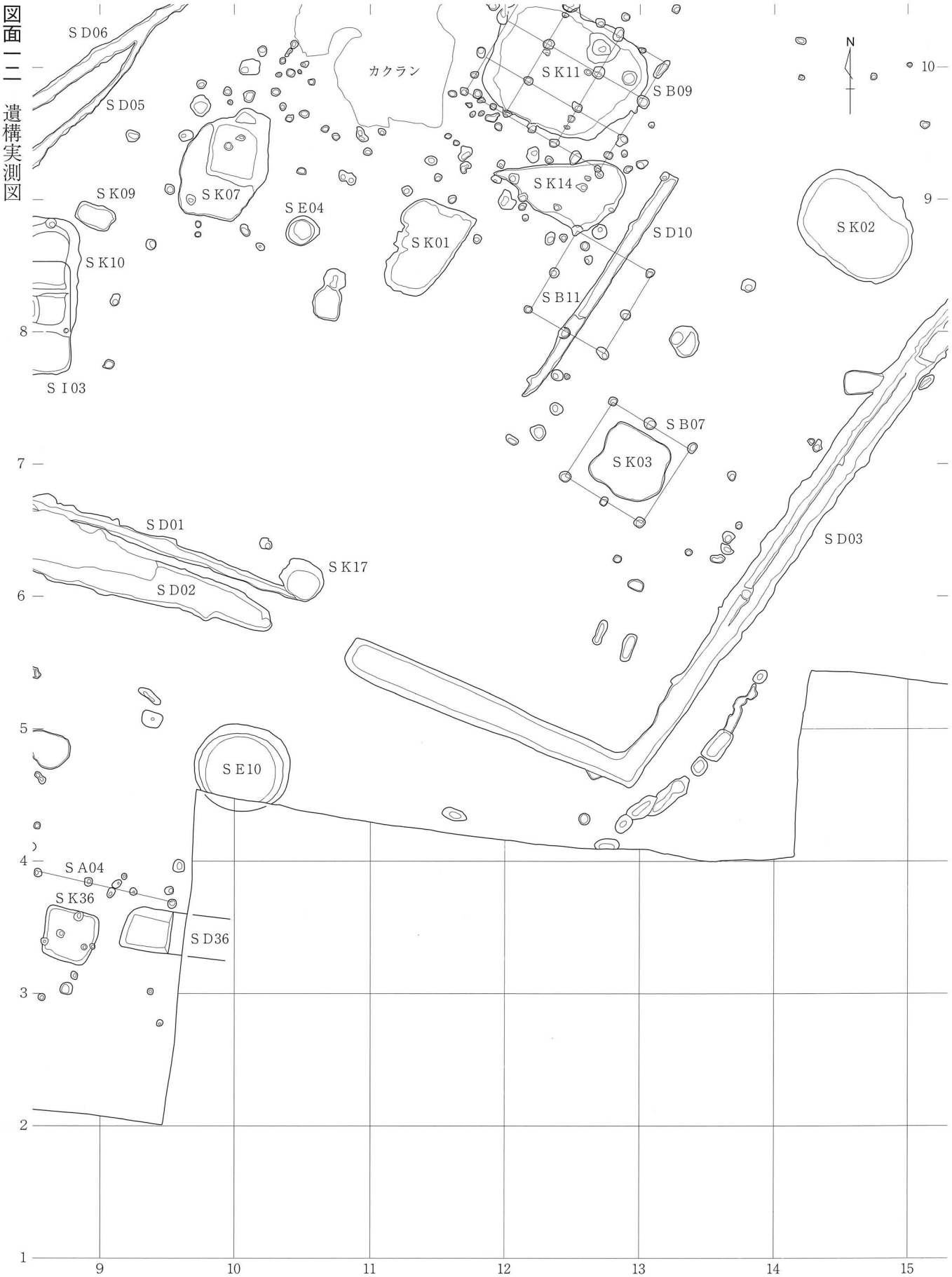
調査地区遺構図〔5〕　縮尺1／200

図面一〇　遺構実測図

調査地区遺構図〔6〕　縮尺1／200

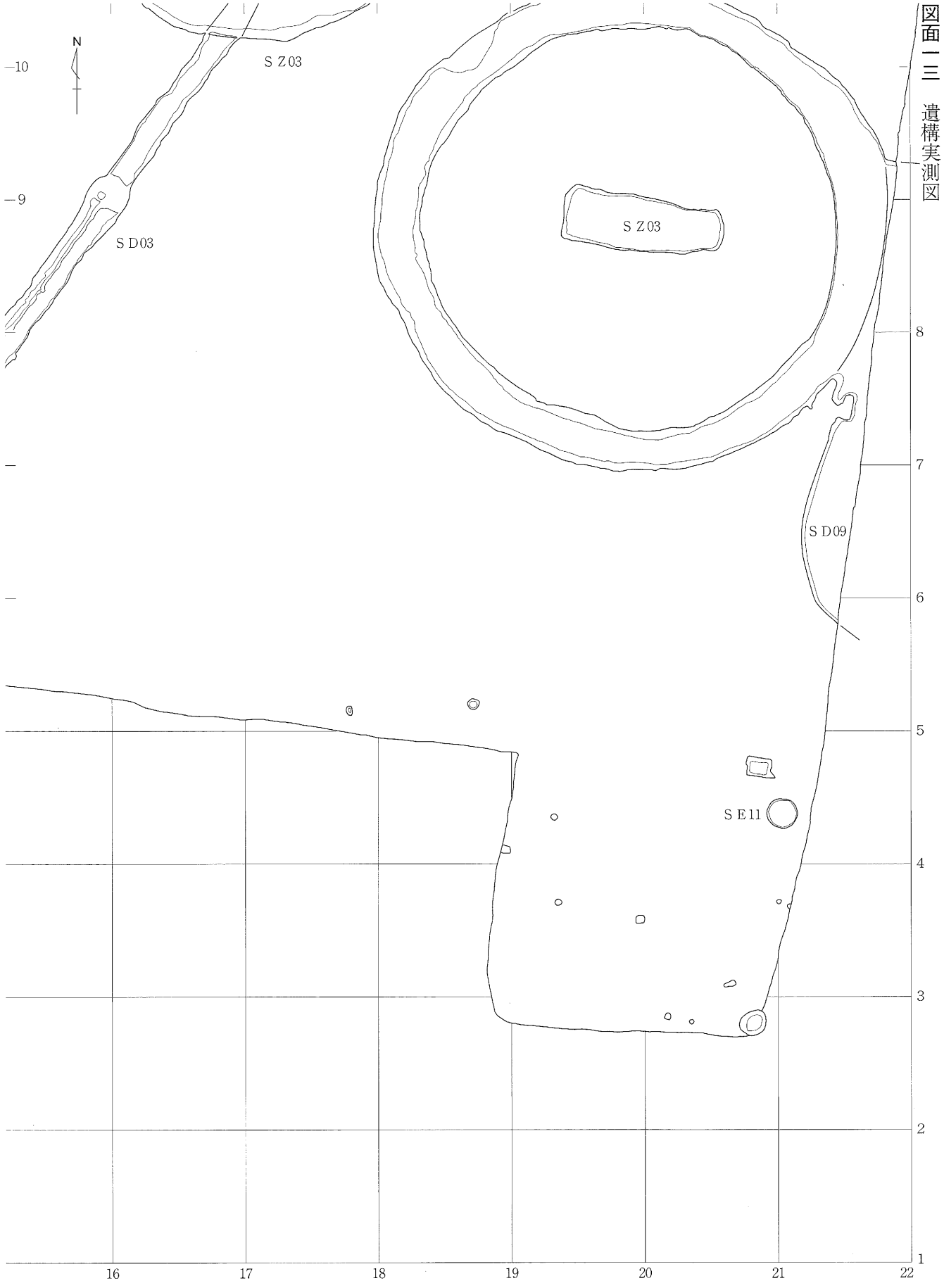
調査地区遺構図〔7〕　縮尺1／200

図面一二　遺構実測図



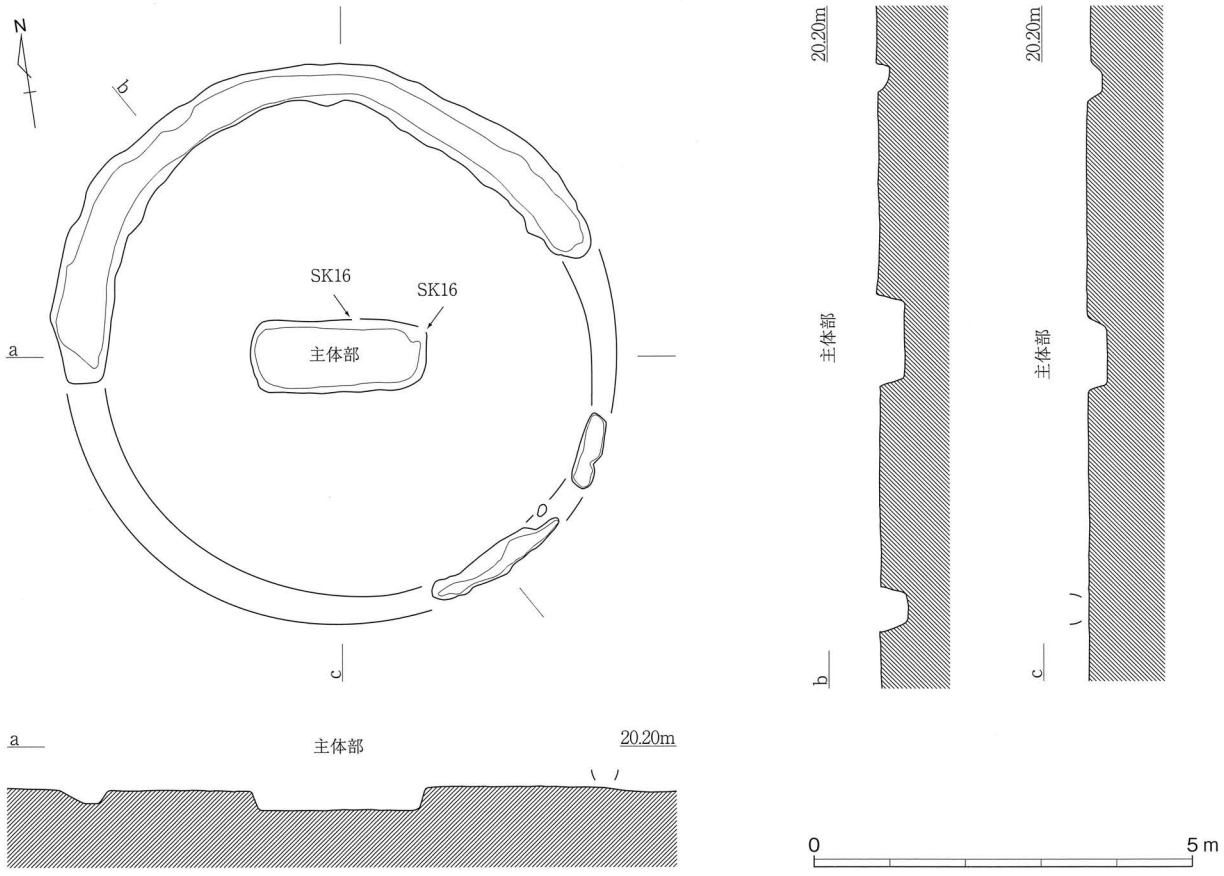
調査地区遺構図〔8〕　縮尺1／200

0　5　10m

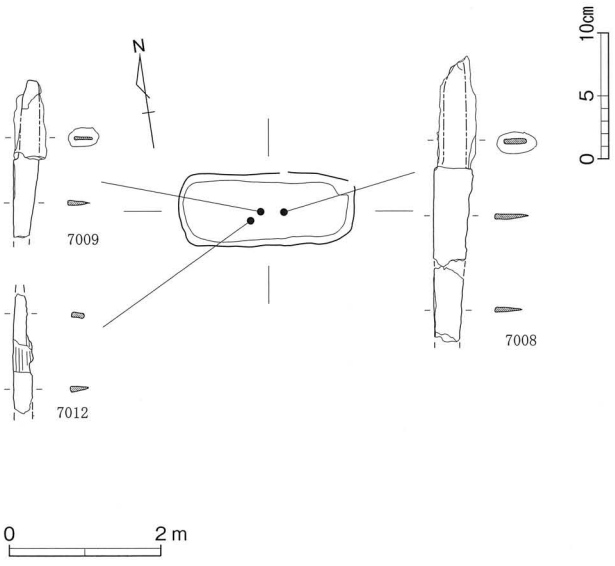


調査地区遺構図〔9〕　縮尺1／200

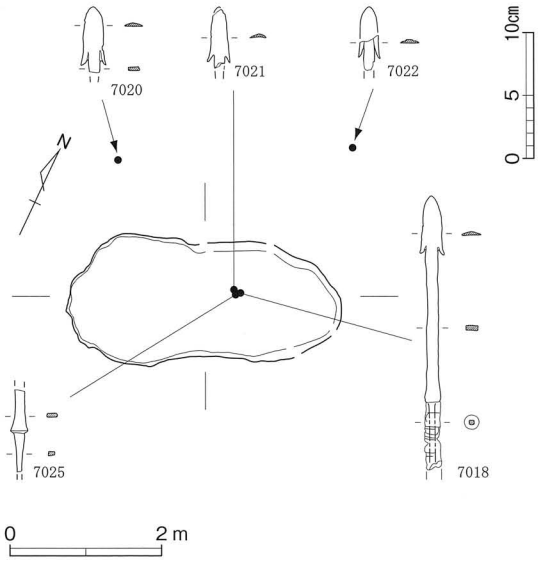
図面一四　遺構実測図



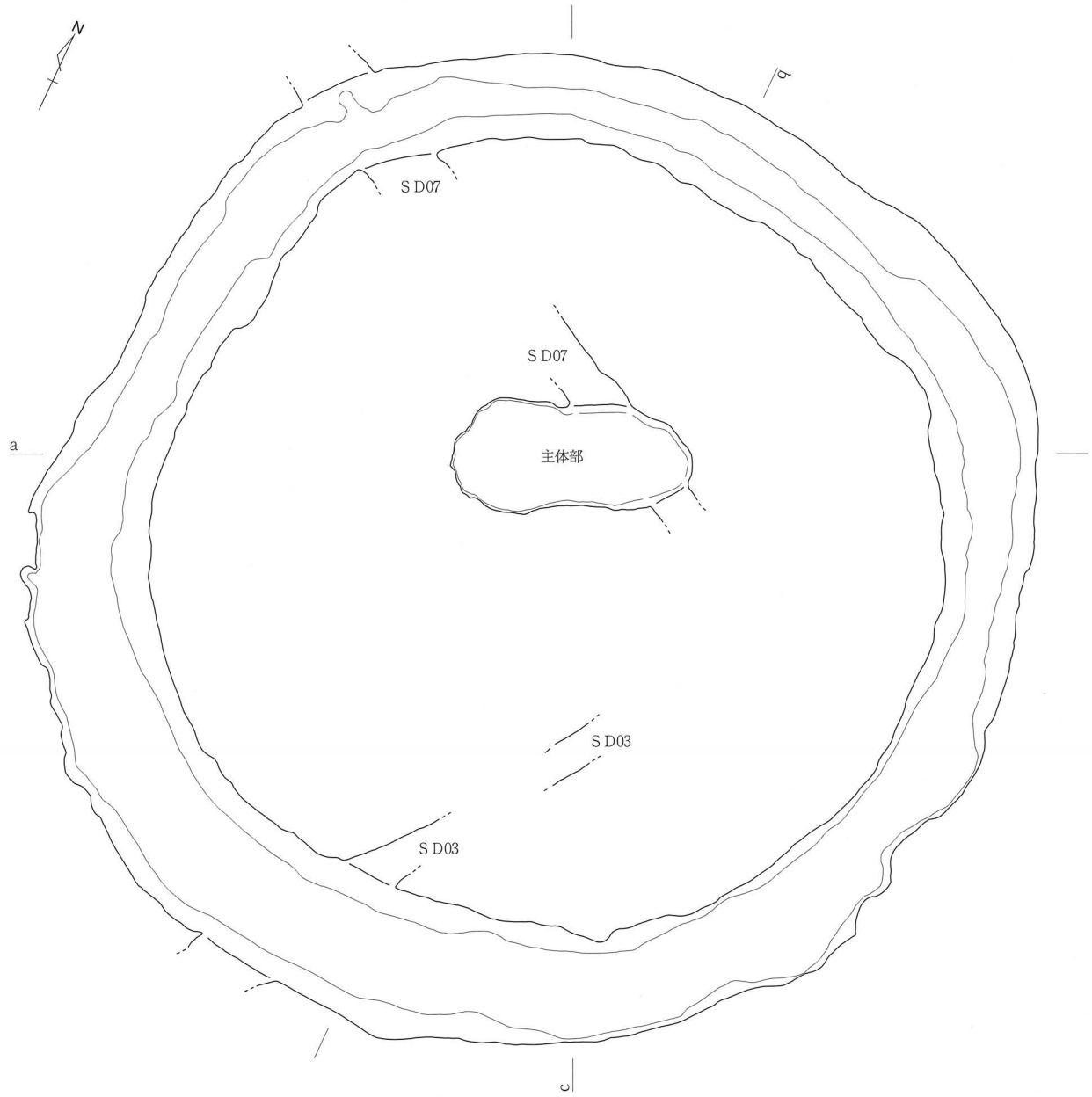
1．古墳ＳＺ01実測図　　縮尺１／100

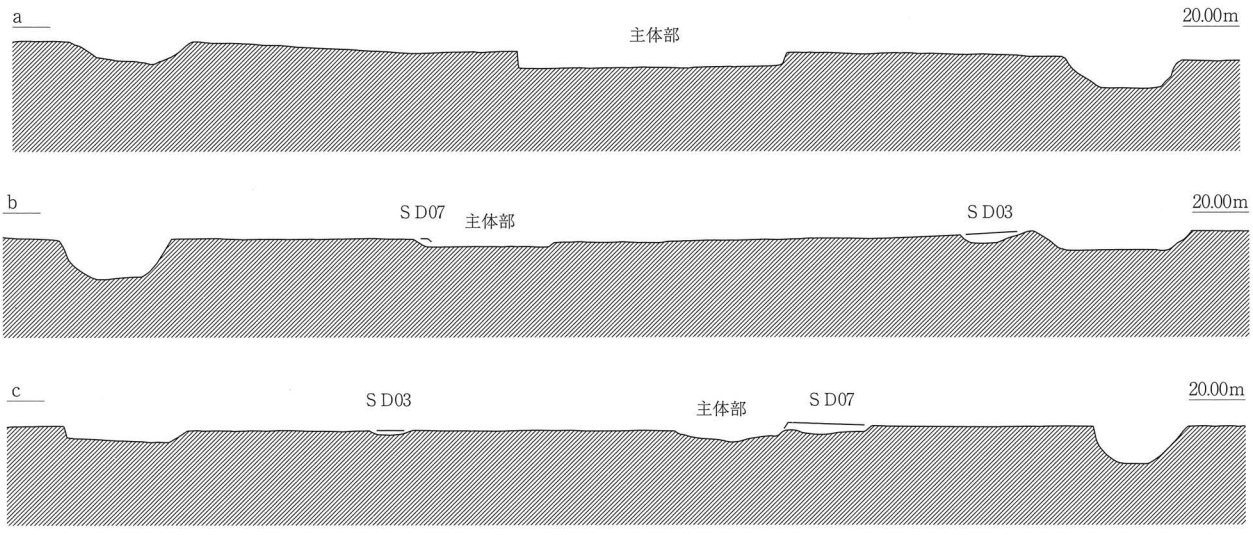


2．古墳ＳＺ01主体部出土遺物配置図　　縮尺１／100

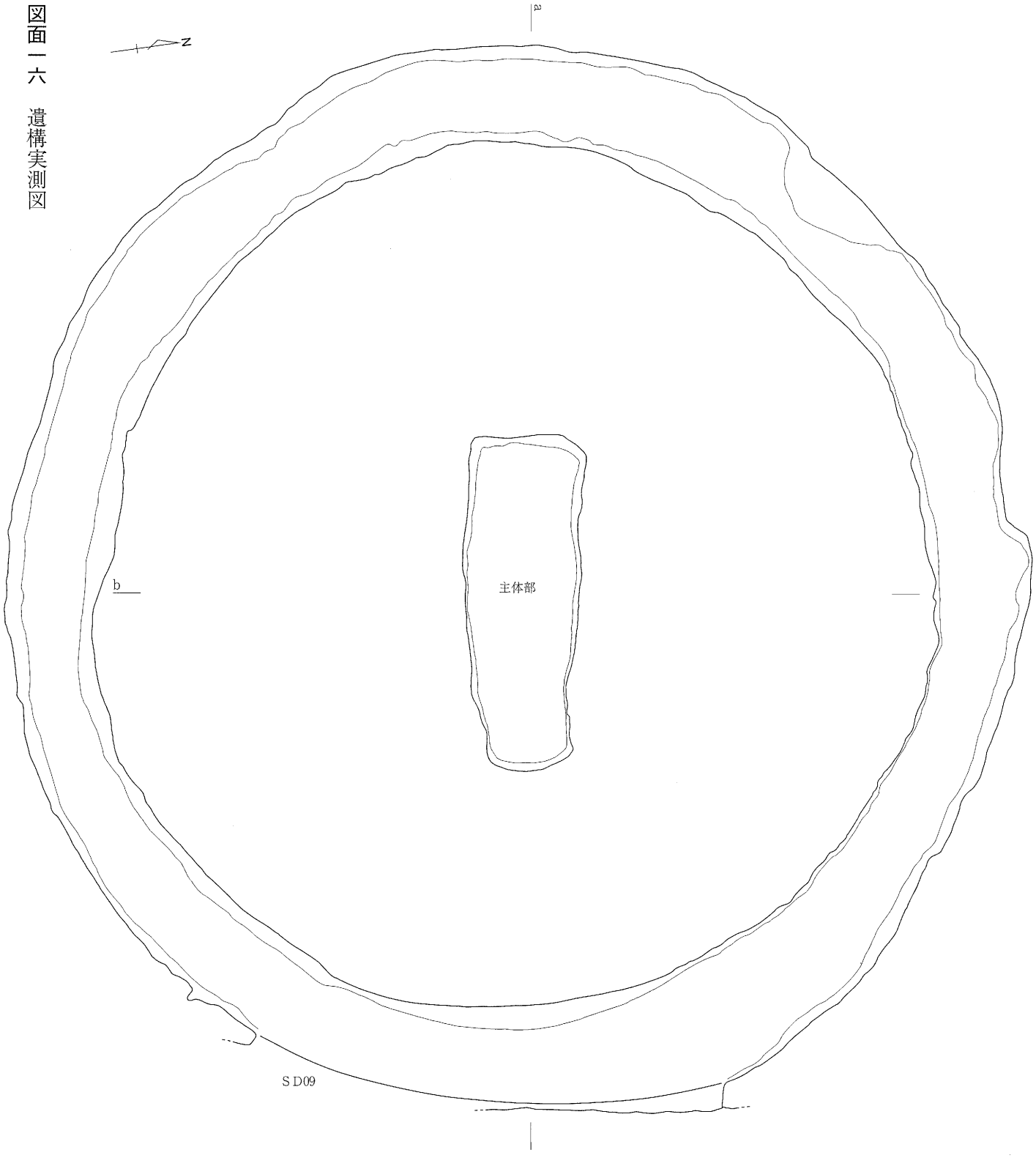


3．古墳ＳＺ02主体部出土遺物配置図　　縮尺１／100





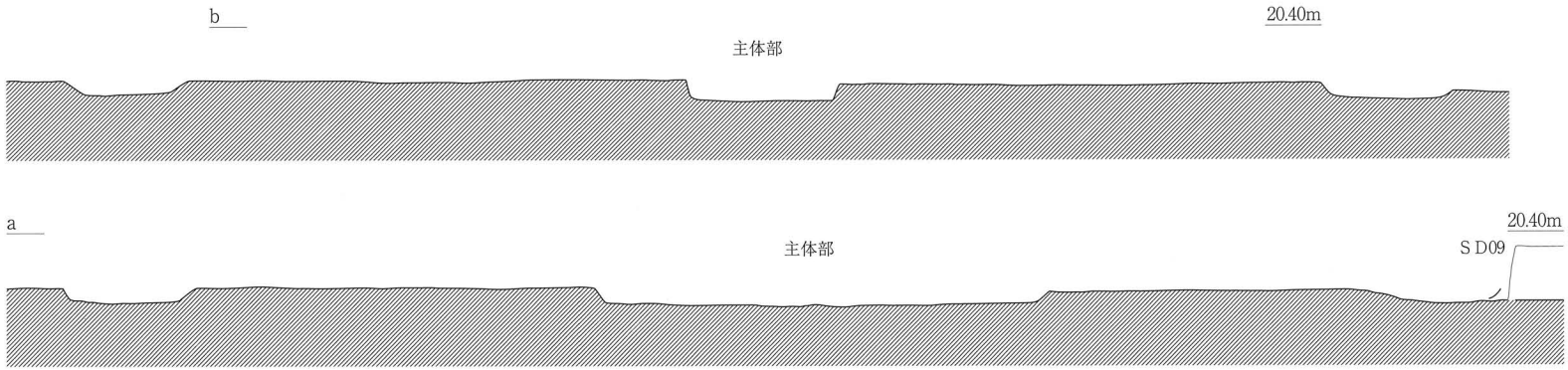
古墳ＳＺ02実測図　　縮尺１／100



0　5m

古墳ＳＺ03実測図〔１〕

縮尺１／100



1．古墳ＳＺ03実測図〔２〕　　縮尺１／100

0　5m

2．古墳ＳＺ03主体部出土遺物配置図　　縮尺１／100

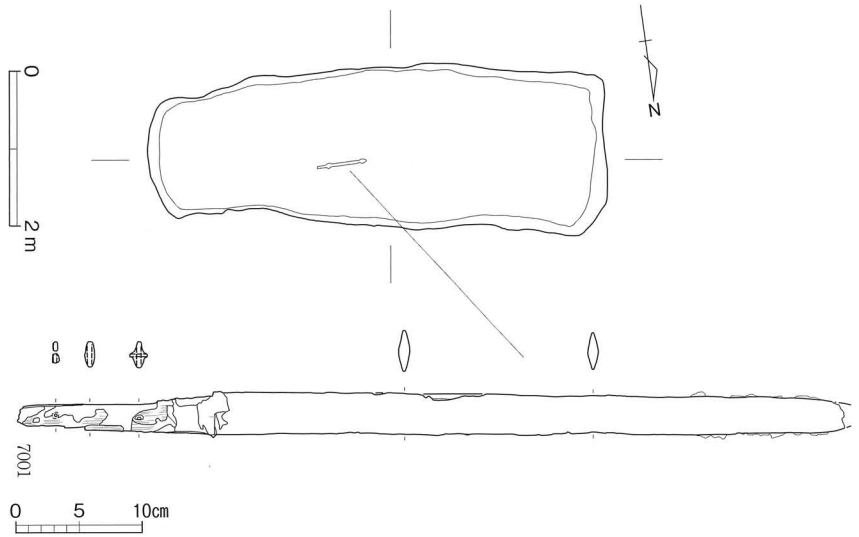
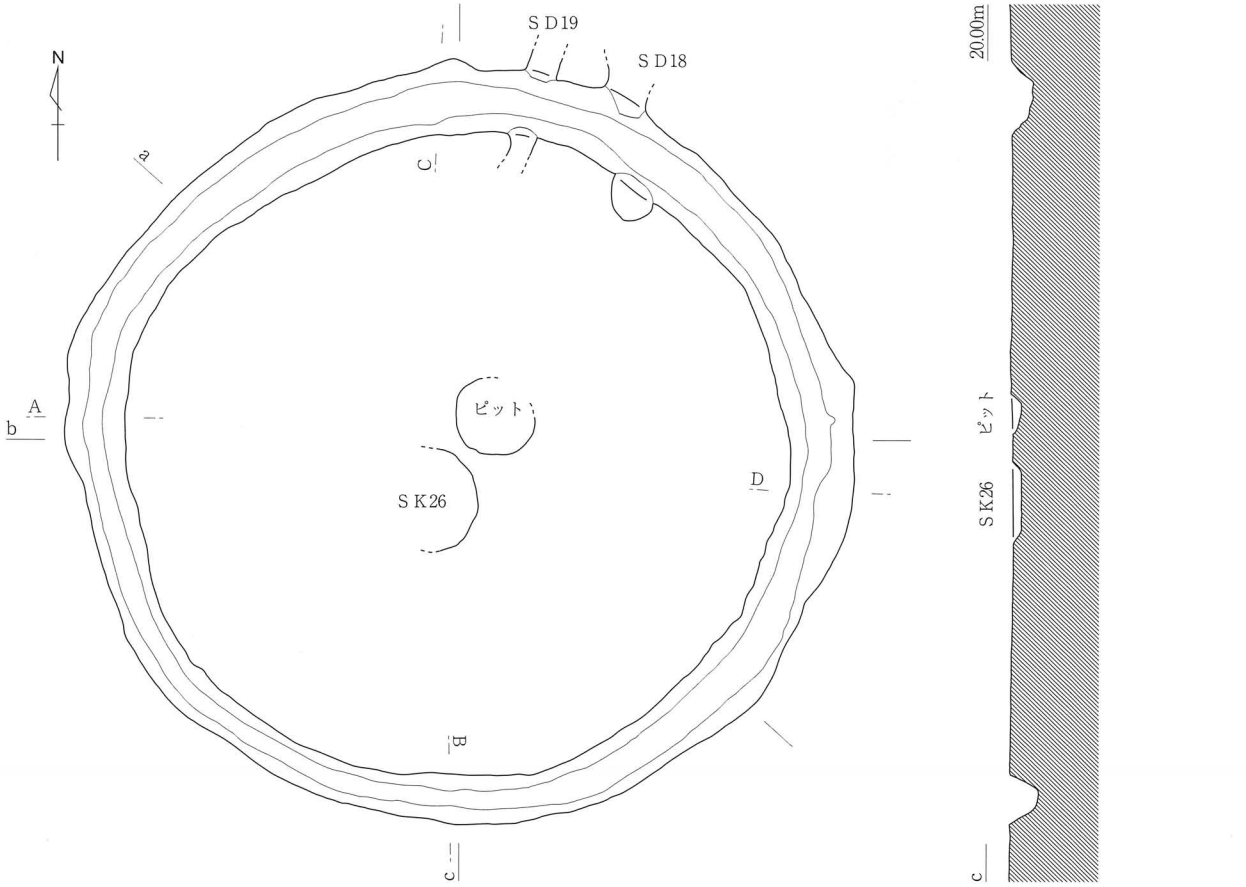
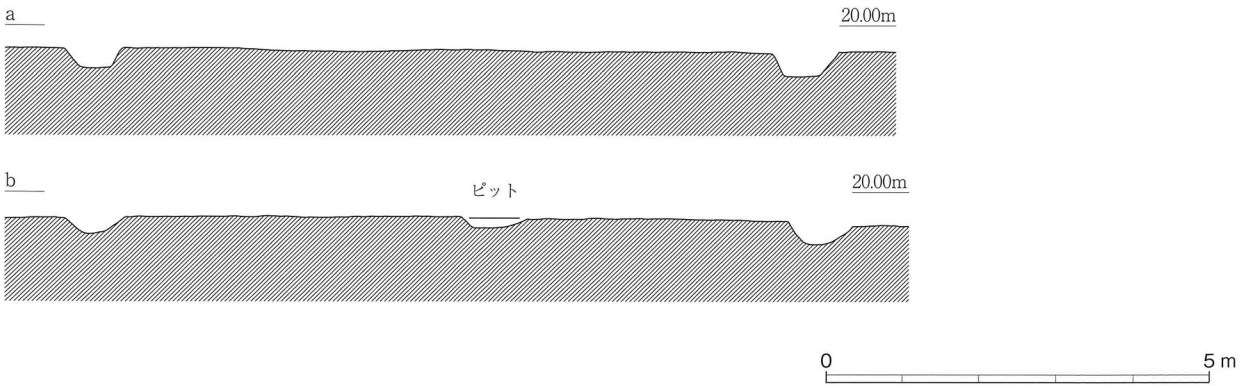
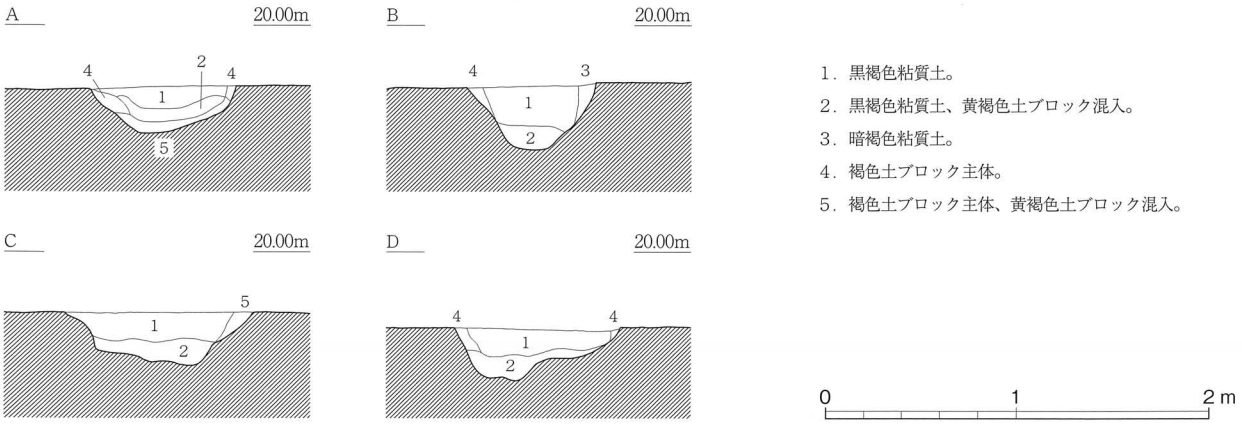


図１７　遺構実測図

図面一八　遺構実測図





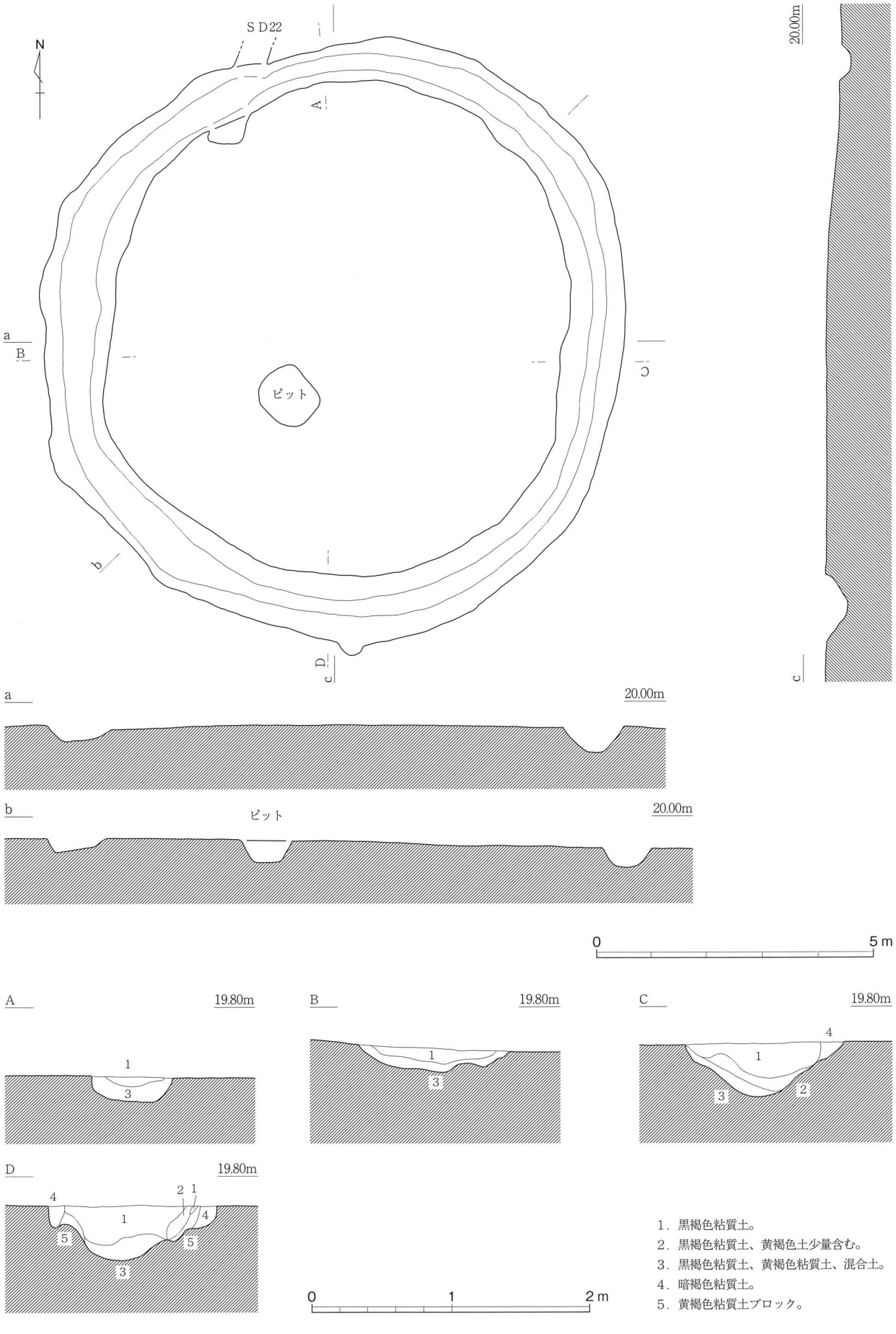


1．黒褐色粘質土。
2．黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混入。
3．暗褐色粘質土。
4．褐色土ブロック主体。
5．褐色土ブロック主体、黄褐色土ブロック混入。

古墳ＳＺ04実測図

縮尺１／100、縮尺１／40

図面一九　遺構実測図

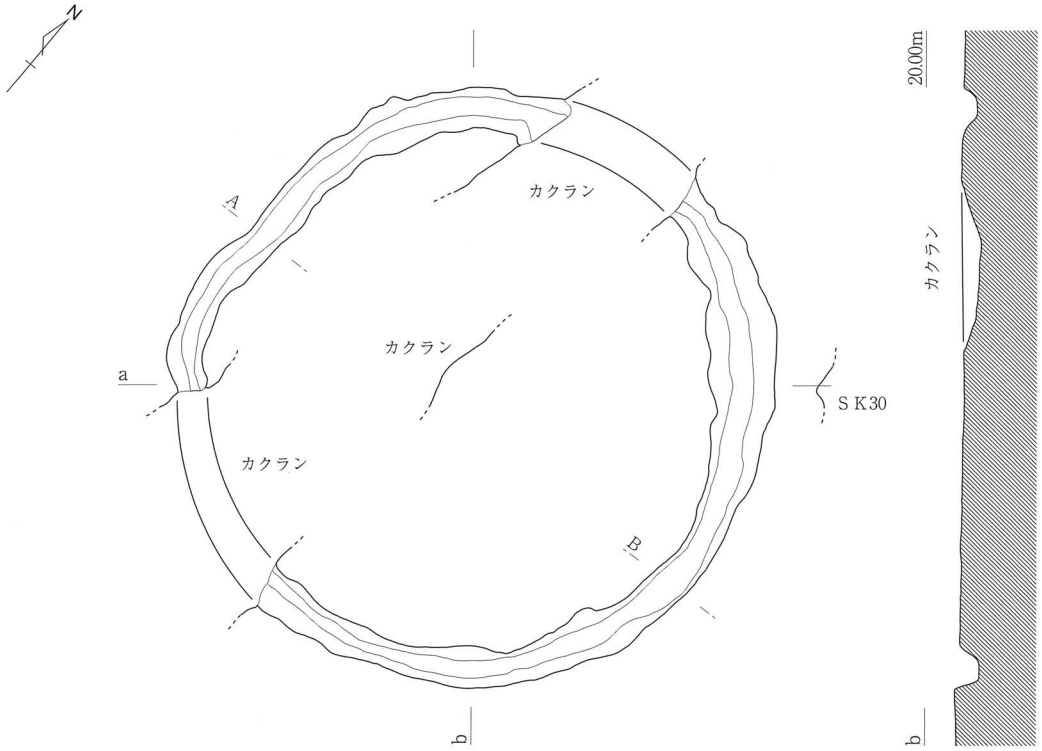


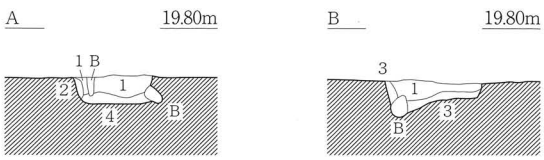
1．黒褐色粘質土。
2．黒褐色粘質土、黄褐色土少量含む。
3．黒褐色粘質土、黄褐色粘質土、混合土。
4．暗褐色粘質土。
5．黄褐色粘質土ブロック。

古墳ＳＺ05実測図

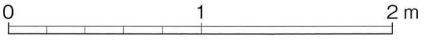
縮尺１／100、縮尺１／40

図面二〇　遺構実測図



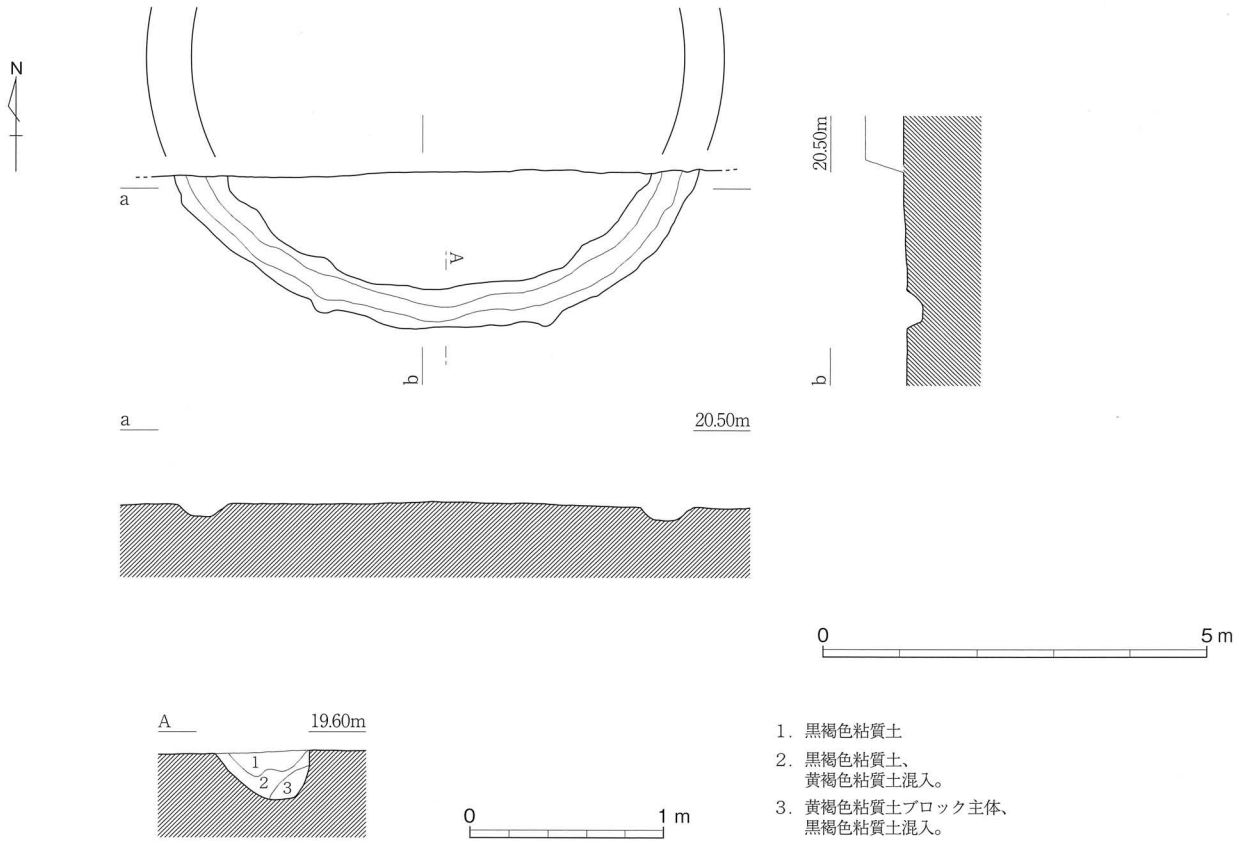


1．黒褐色粘質土。黄褐色粘質土粒混入。
2．褐色粘質土ブロック主体。
3．黄褐色粘質土。
4．黄褐色粘質土ブロック主体。
B．カクラン

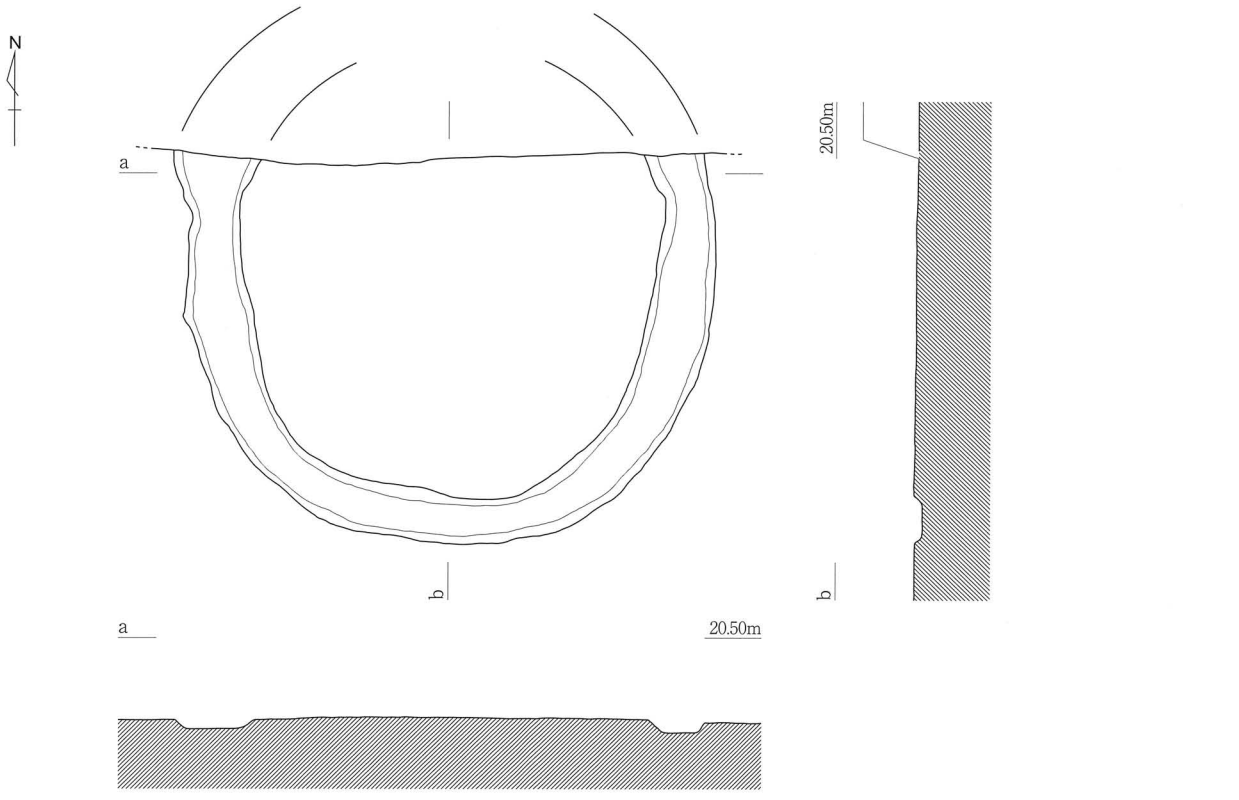


古墳ＳＺ06実測図

縮尺１／100、縮尺１／40

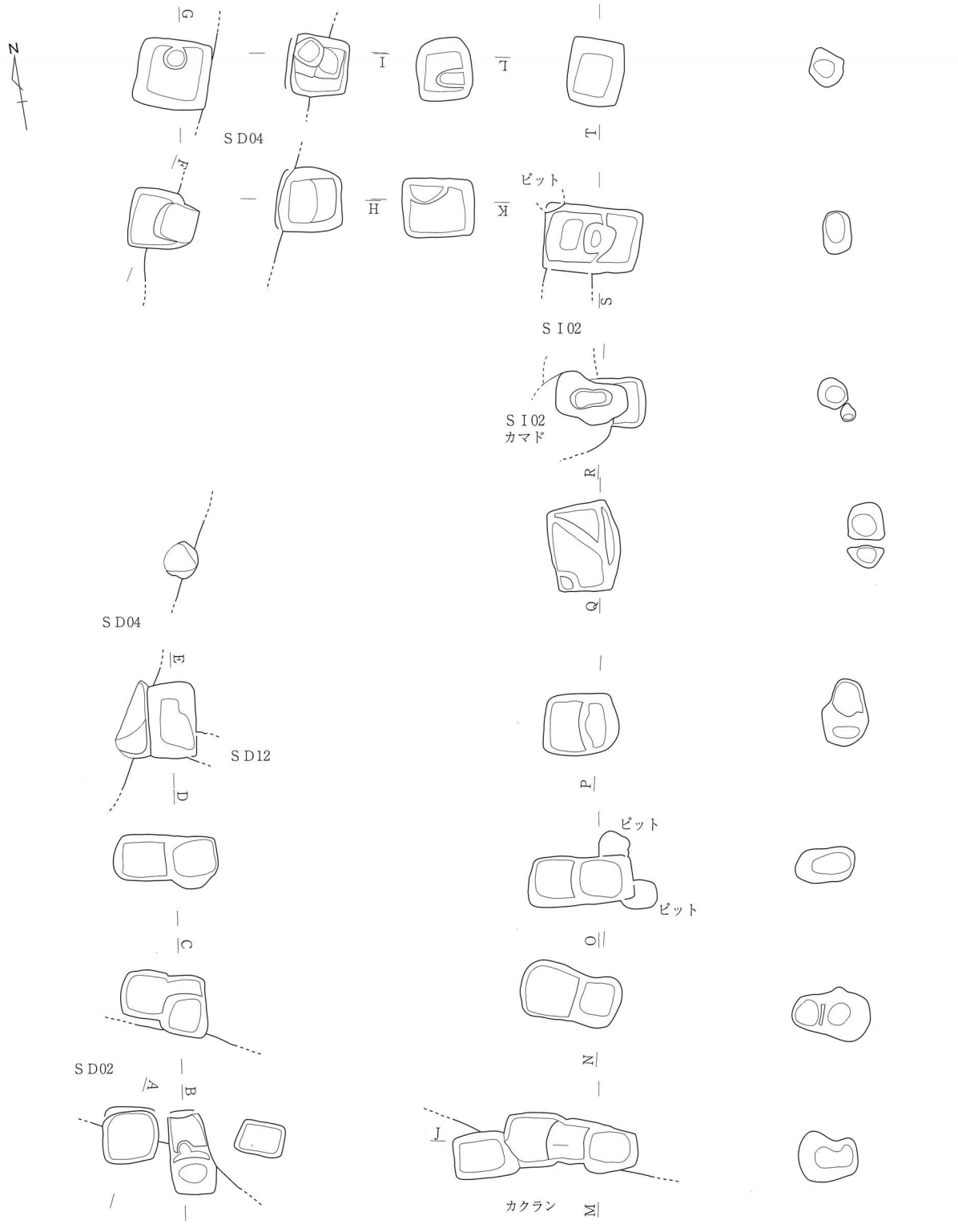


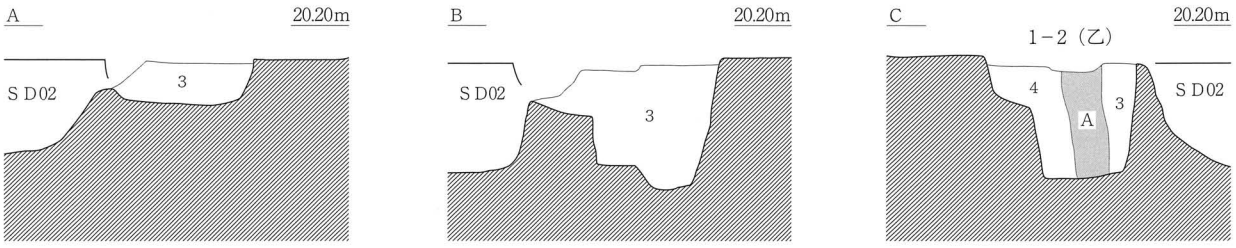
1．古墳ＳＺ07実測図　　縮尺１／100、縮尺１／40



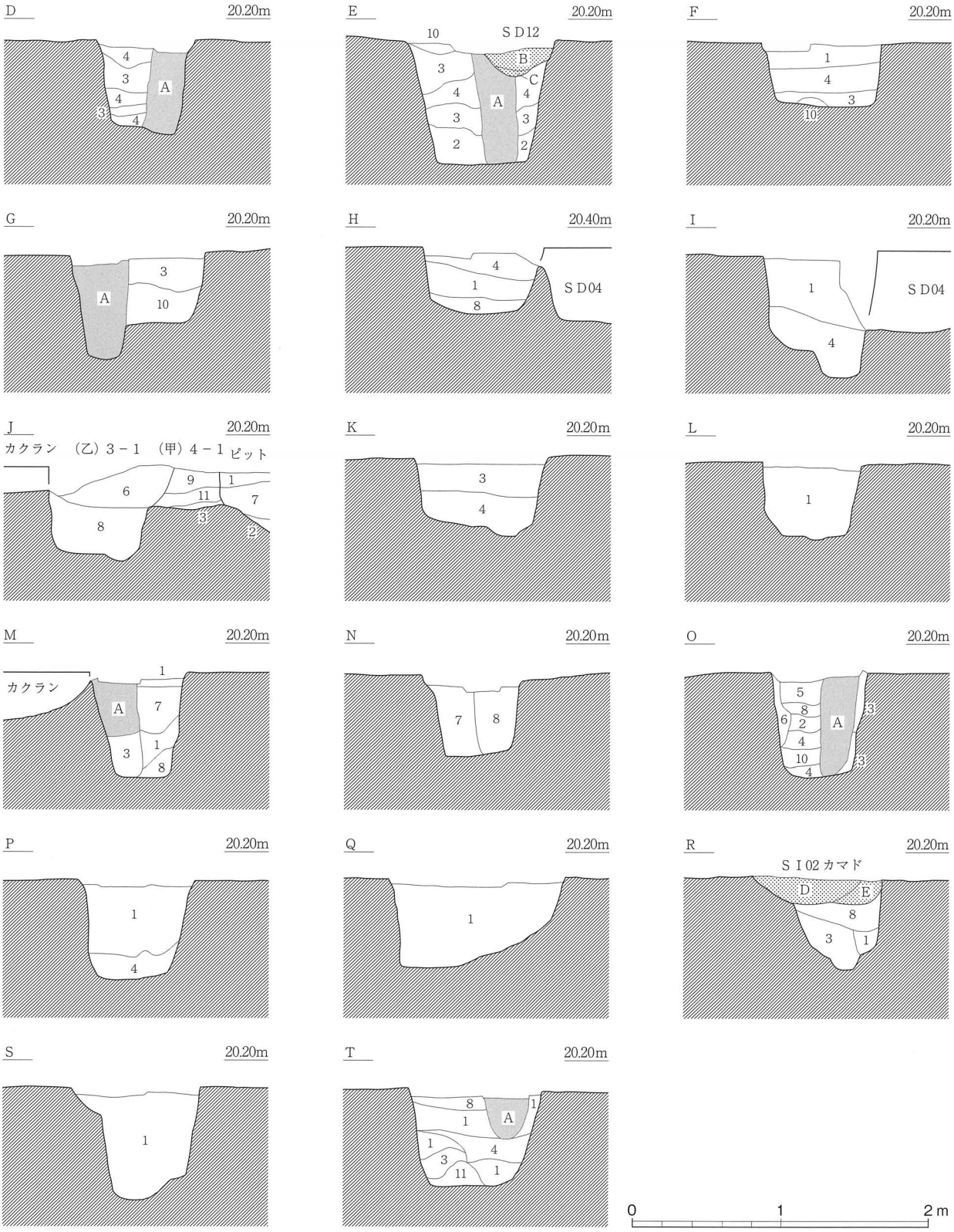
2．古墳ＳＺ08実測図　　縮尺１／100

図面二一　遺構実測図





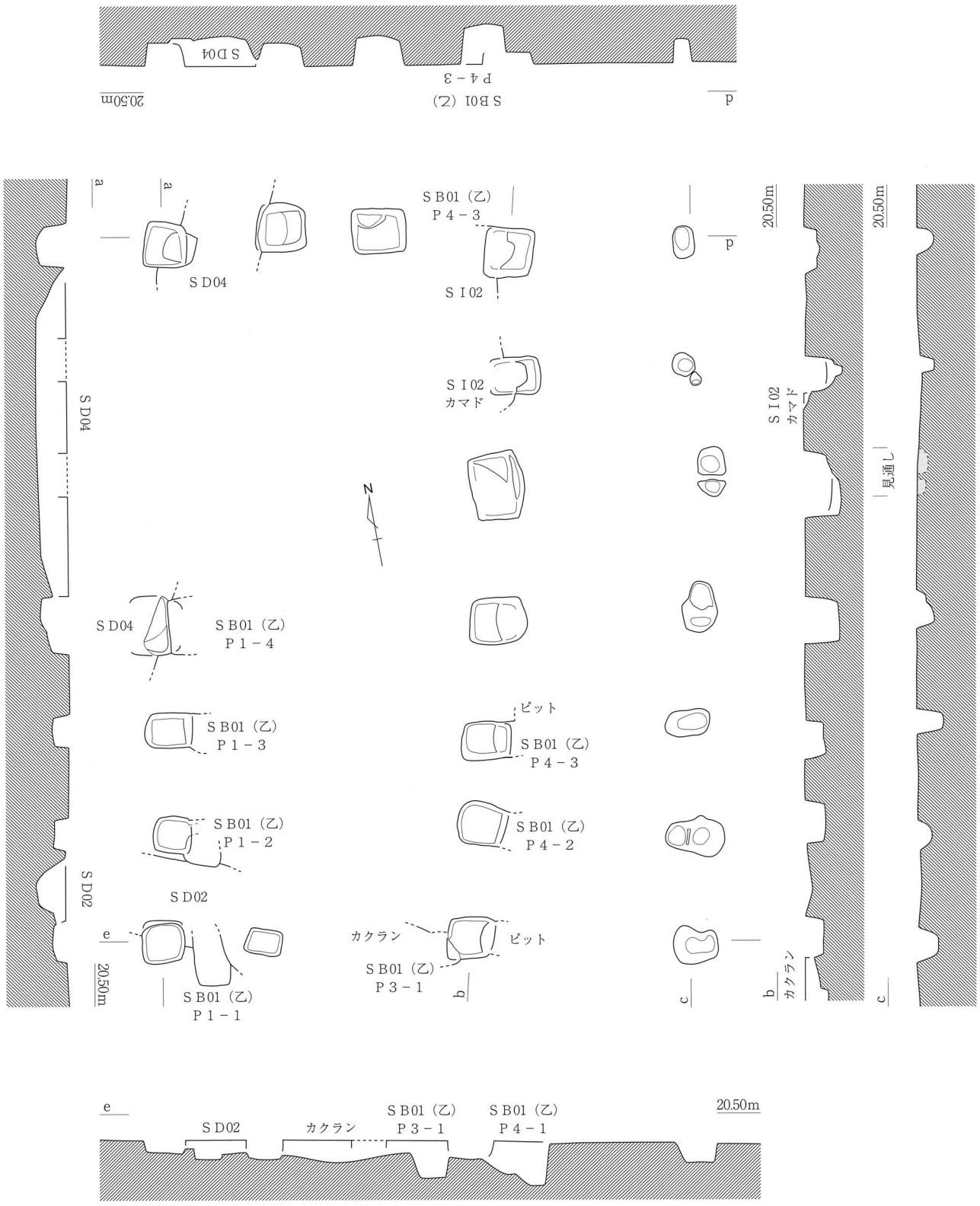
掘立柱建物址ＳＢ01実測図〔１〕　縮尺１／80、１／40



A．柱痕
B．黒褐色粘質土、暗灰褐色粘質土混土層。
C．黄色粘質土。黒褐色粘質土含む。
SD12
D．灰褐色粘質土。焼土含む。
E．黒褐色粘質土。
SI02カマド
1．黒色粘質土。
2．黒色粘質土。暗灰褐色粘質土含む。
3．黒色粘質土。黄色粘質土含む。
4．黒色粘質土、黄色粘質土混土層。
5．暗灰褐色粘質土。
6．暗灰褐色粘質土。黄色粘質土含む。
7．暗灰褐色粘質土、黄色粘質土、黒色粘質土混土層。
8．黄色粘質土、黒色粘質土混土層。
9．黄色粘質土、暗灰褐色粘質土、黒色粘質土混土層。
10．黄色粘質土。黒色粘質土含む。
11．黄色粘質土。暗灰褐色粘質土含む。

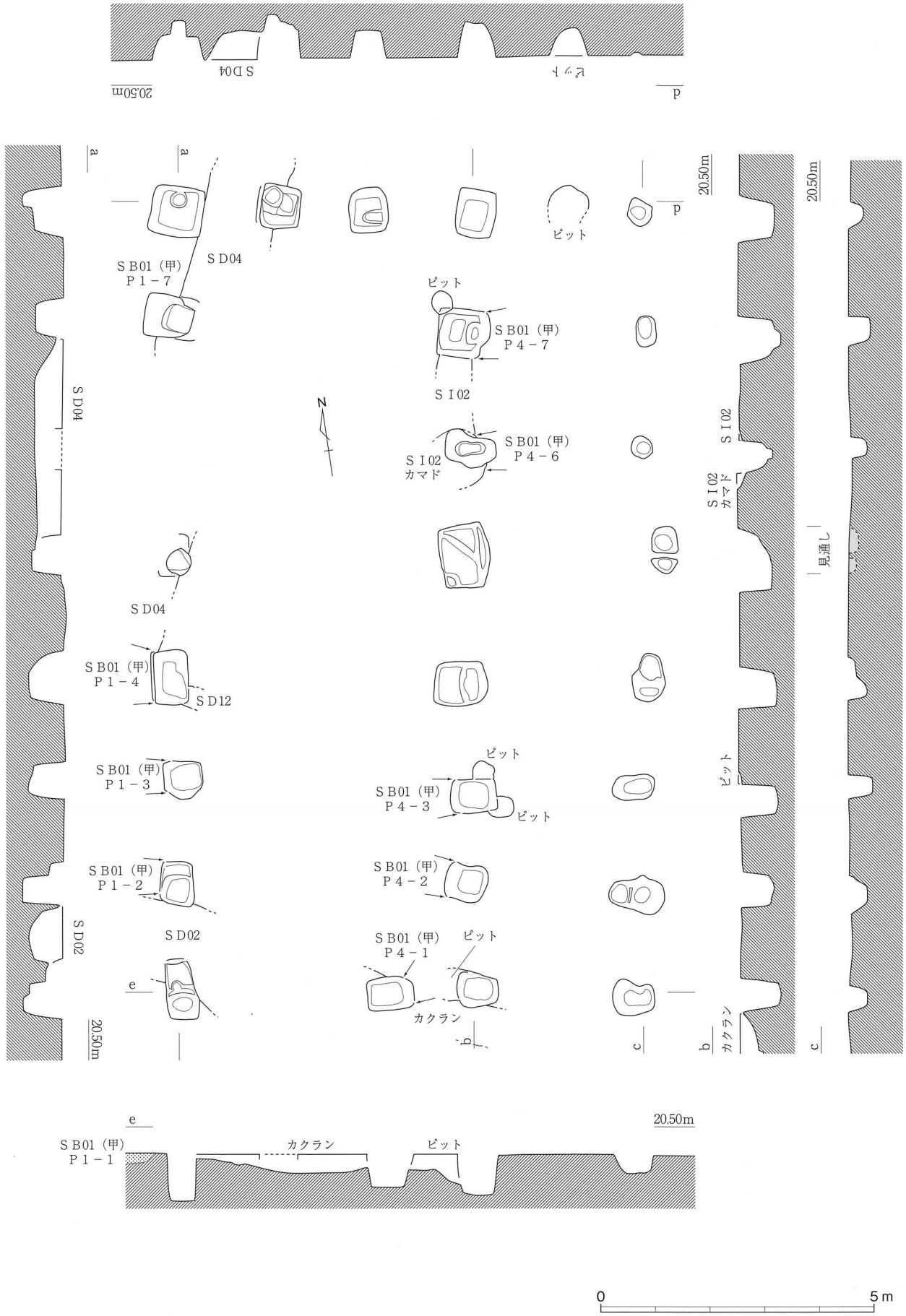
掘立柱建物址ＳＢ01実測図〔２〕

縮尺１／40



0　5m

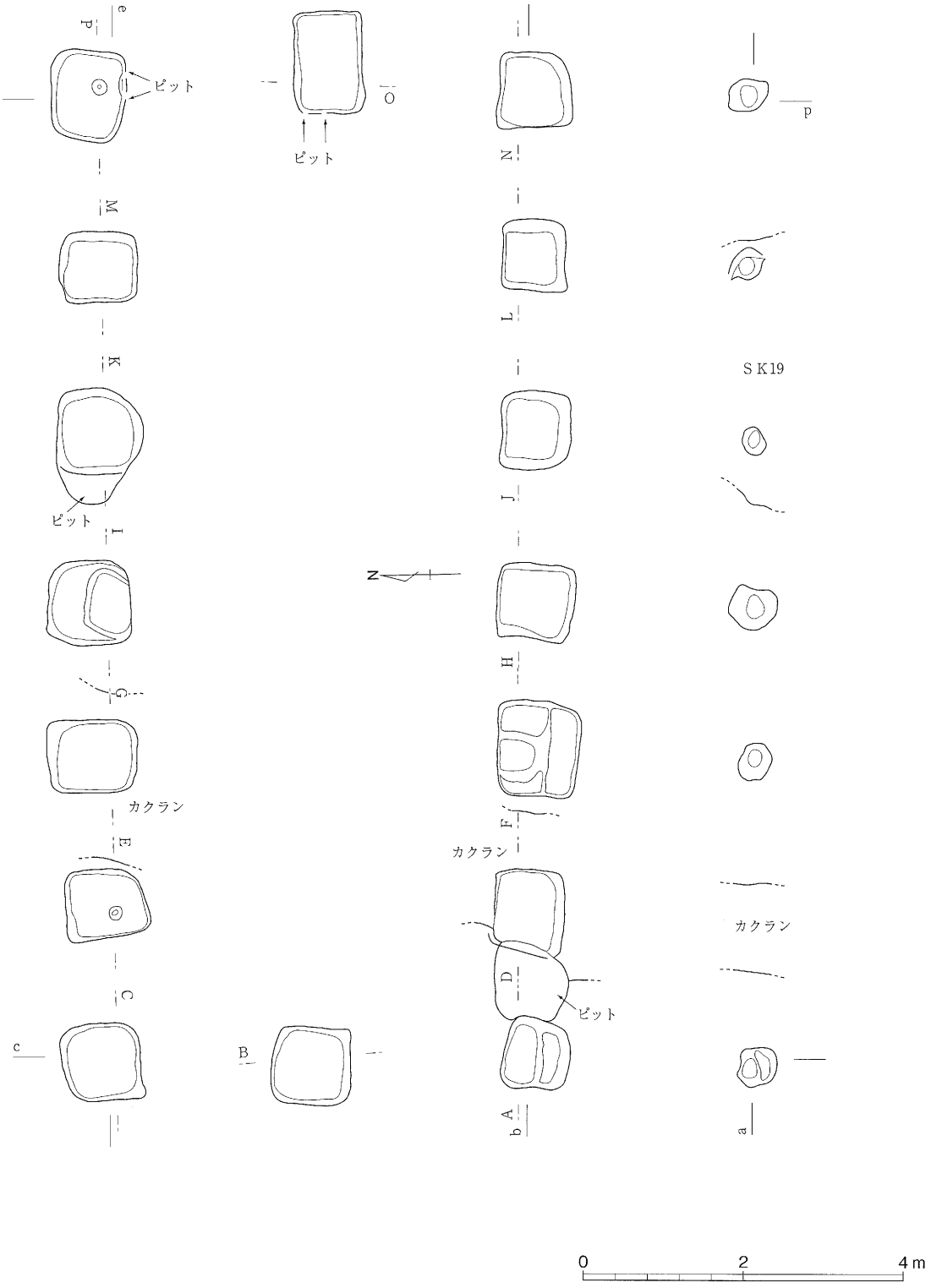
掘立柱建物址ＳＢ01（甲）実測図　　縮尺１／100



掘立柱建物址ＳＢ01（乙）実測図

縮尺１／100

図面二六　遺構実測図



掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔１〕

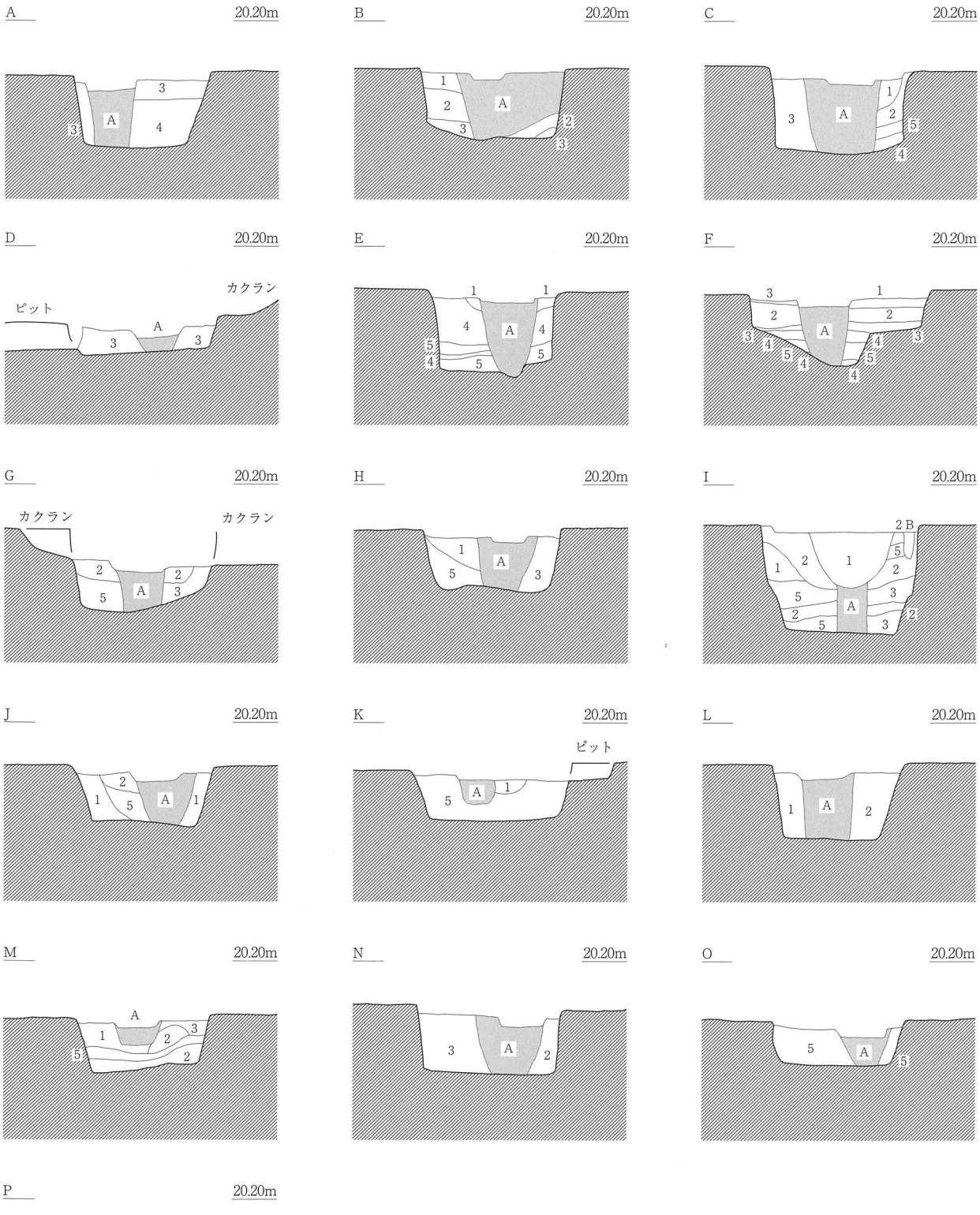
縮尺１／80

掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔２〕　　縮尺１／80

0　2　4m

図版11　遺構実測図

図面二八　遺構実測図

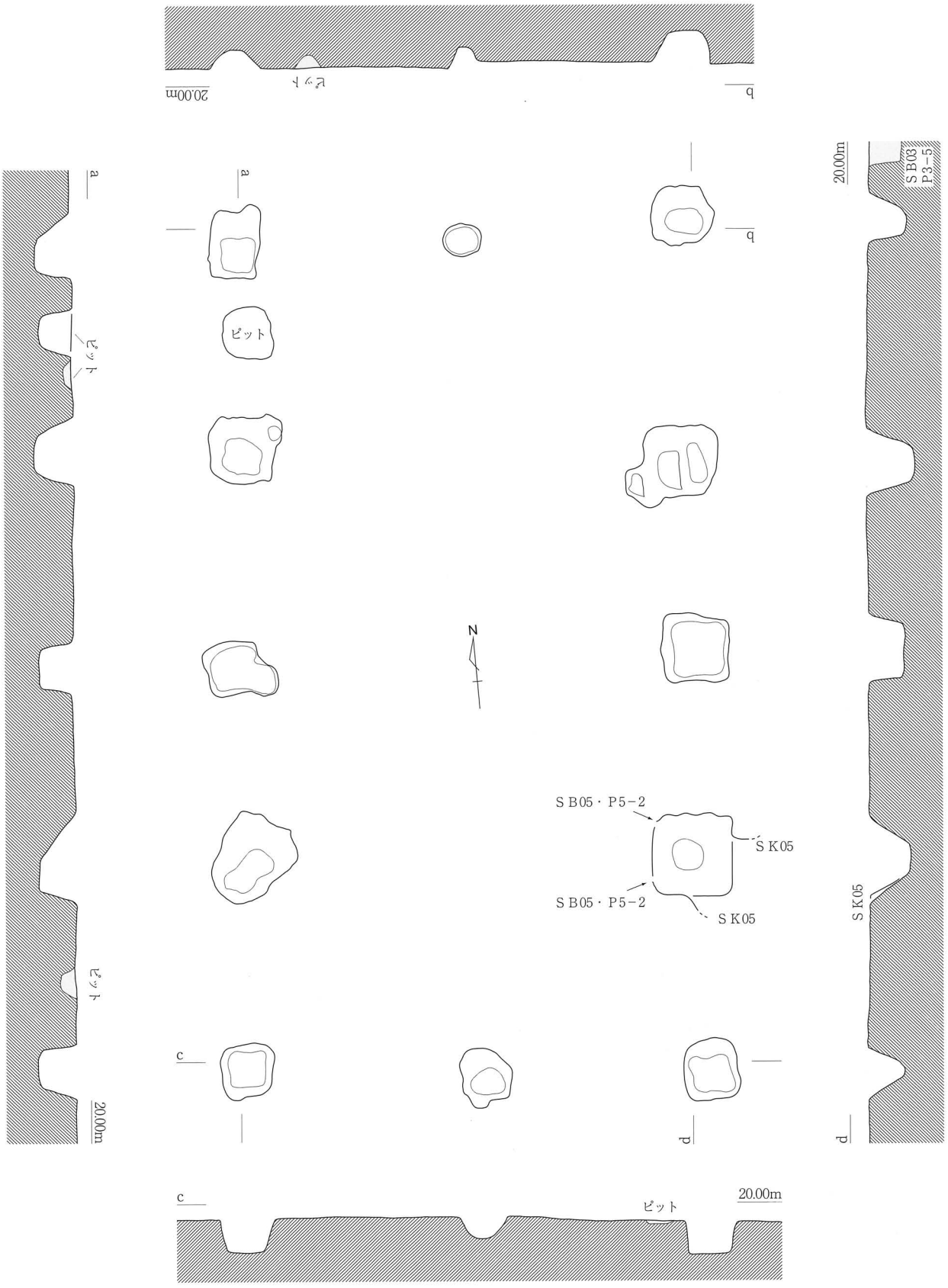


1．黒色粘質土、黄色粘質土混土層。
2．黄色粘質土、黒色粘質土含む。
3．黒色粘質土、黄色粘質土含む。
4．黄色粘質土。
5．黒色粘質土。
A．柱痕
B．カクラン

0　1　2m

掘立柱建物址ＳＢ02実測図〔３〕

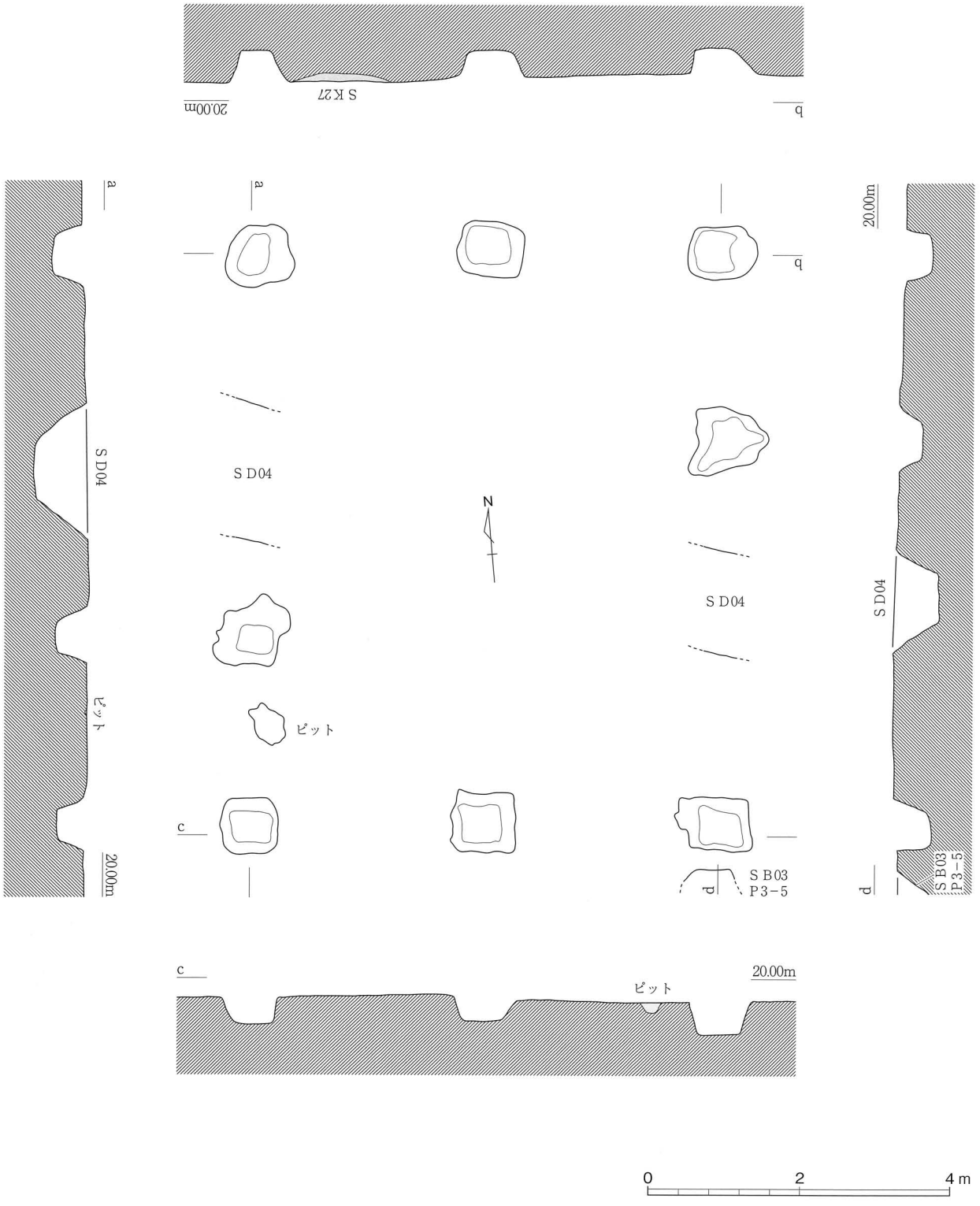
縮尺１／40



掘立柱建物址ＳＢ03実測図

縮尺１／80

図面三〇　遺構実測図



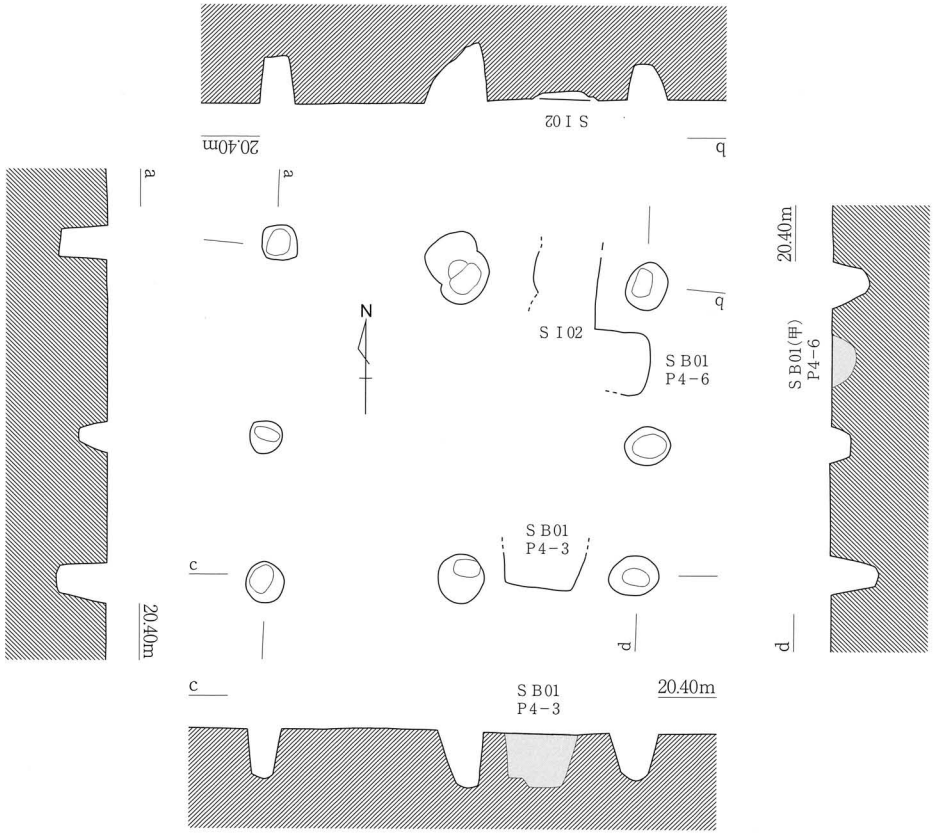
掘立柱建物址ＳＢ04実測図

縮尺１／80

掘立柱建物址ＳＢ05実測図

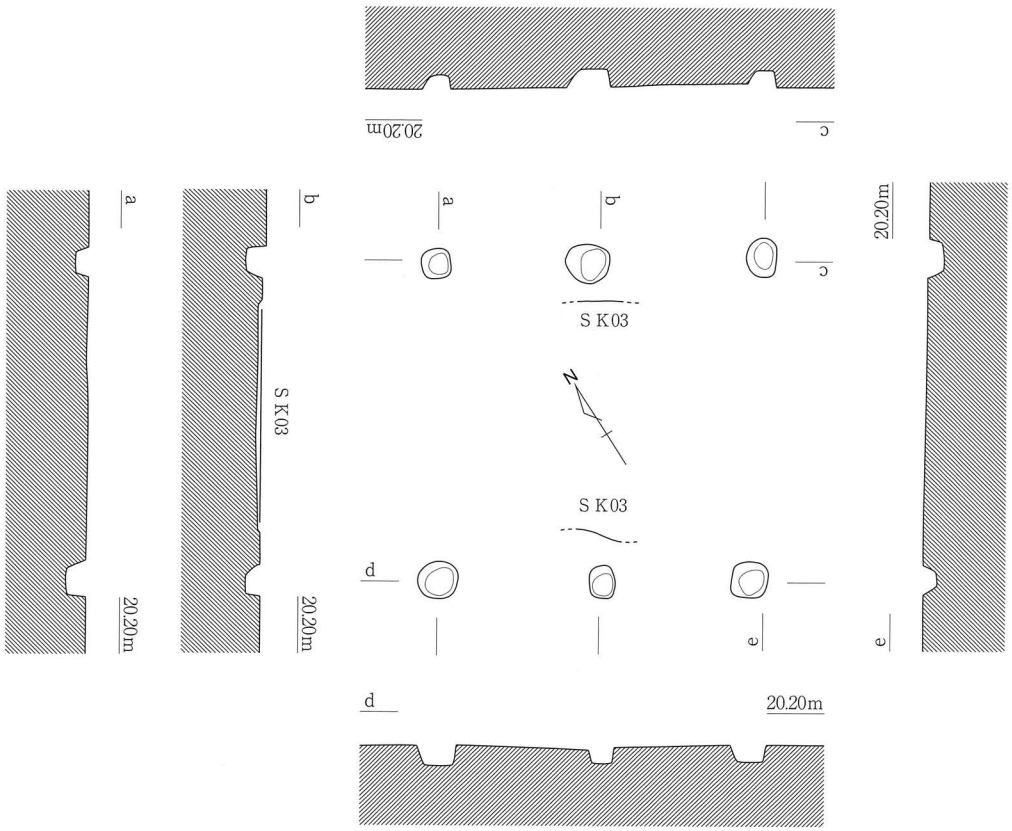
縮尺１／80

図面三二　遺構実測図



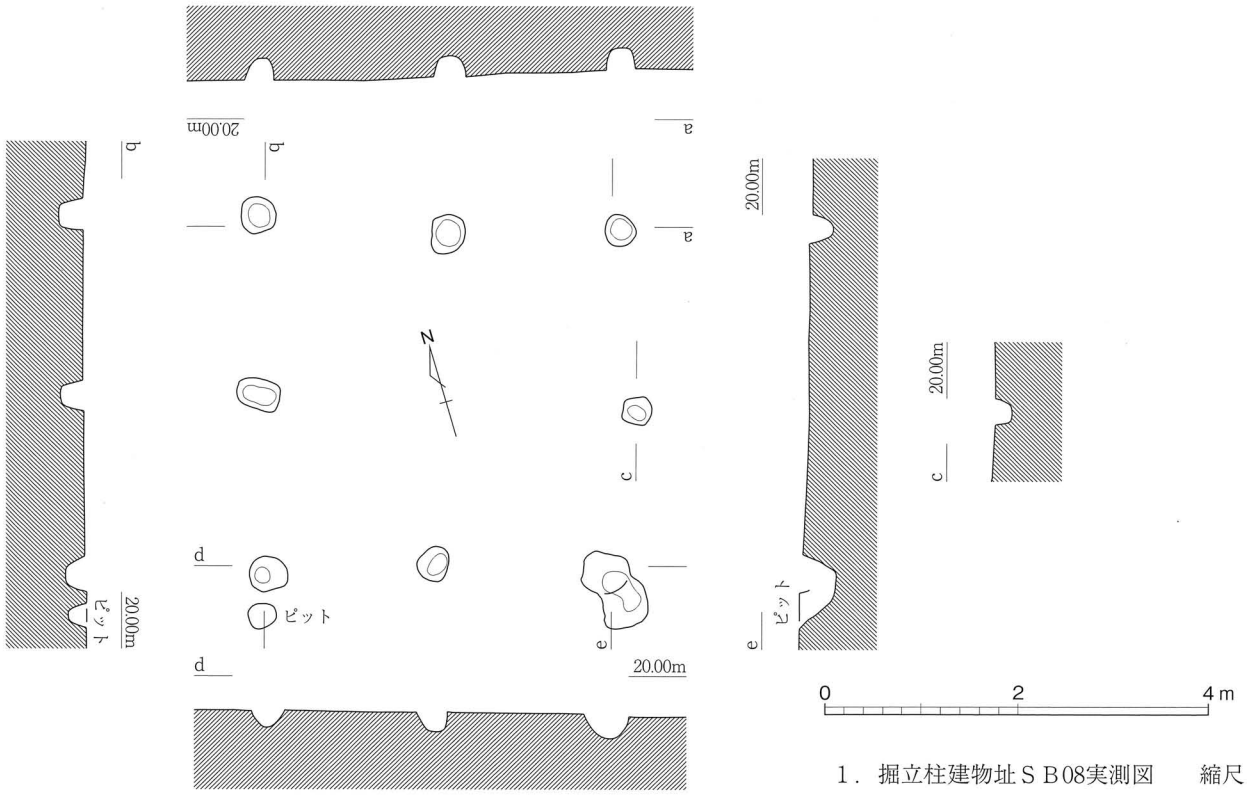
1．掘立柱建物址ＳＢ06実測図　　縮尺１／80

0　2　4m

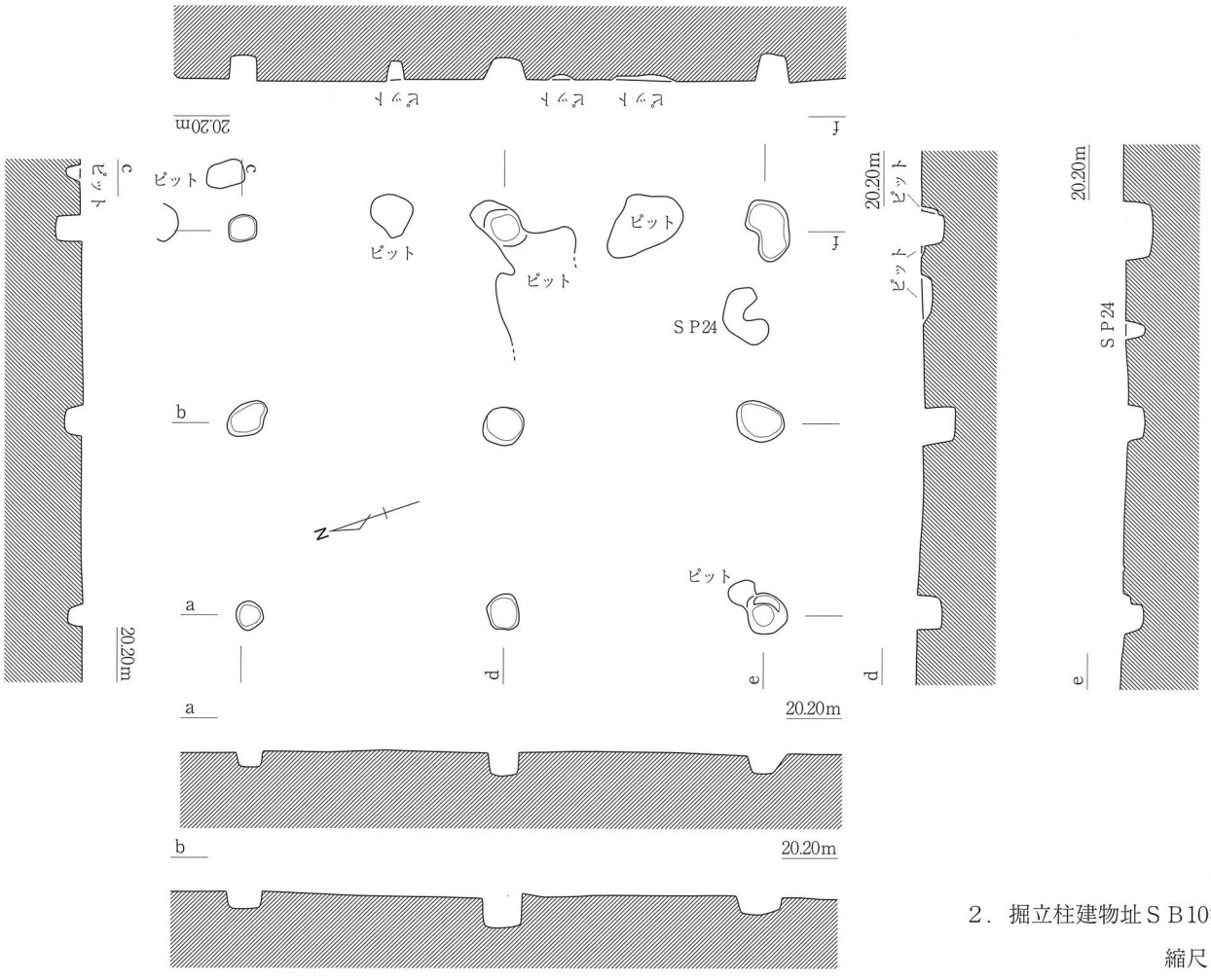


2．掘立柱建物址ＳＢ07実測図　　縮尺１／80

0　2　4m



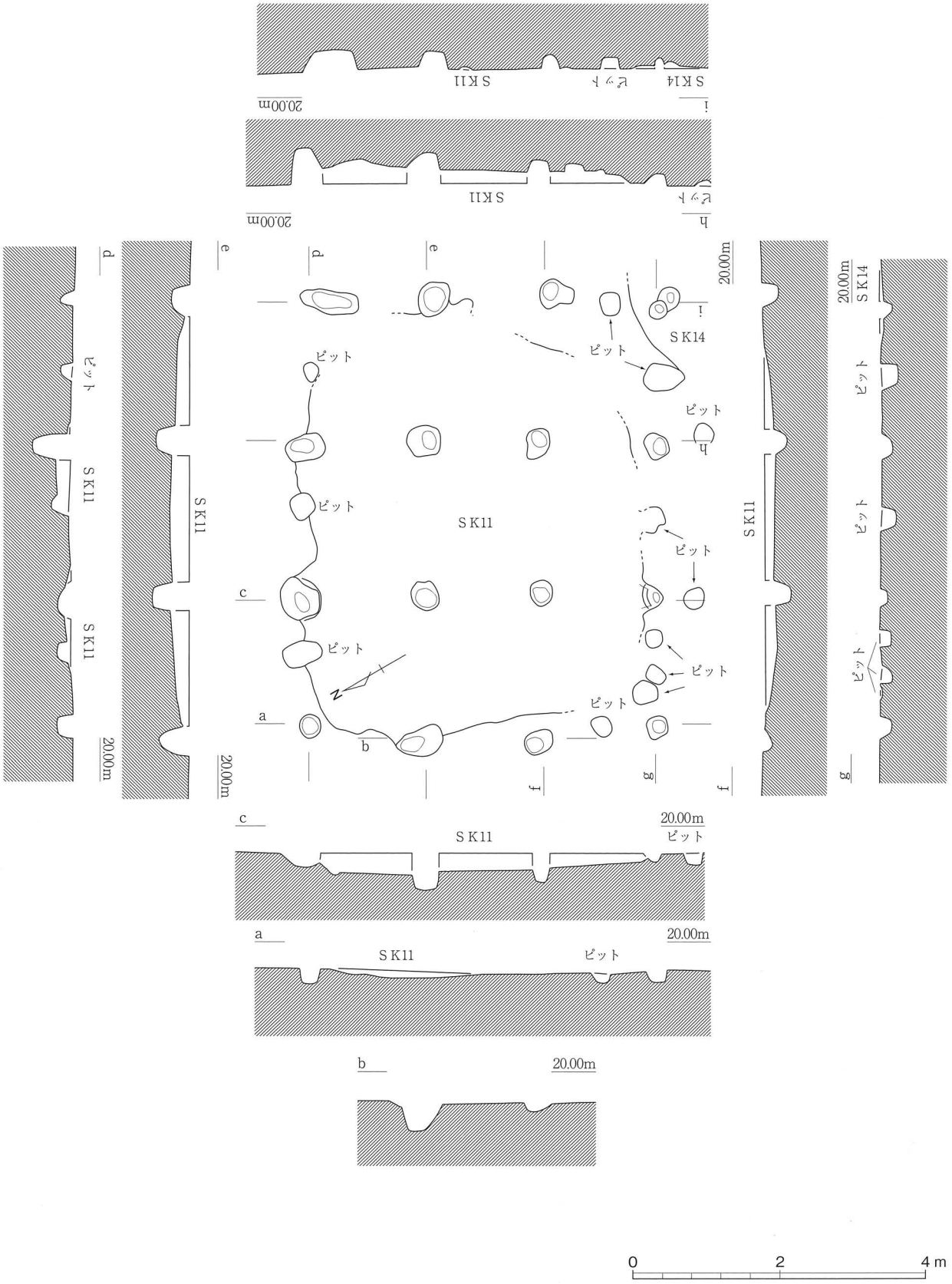
1．掘立柱建物址ＳＢ08実測図　　縮尺１／80



2．掘立柱建物址ＳＢ10実測図

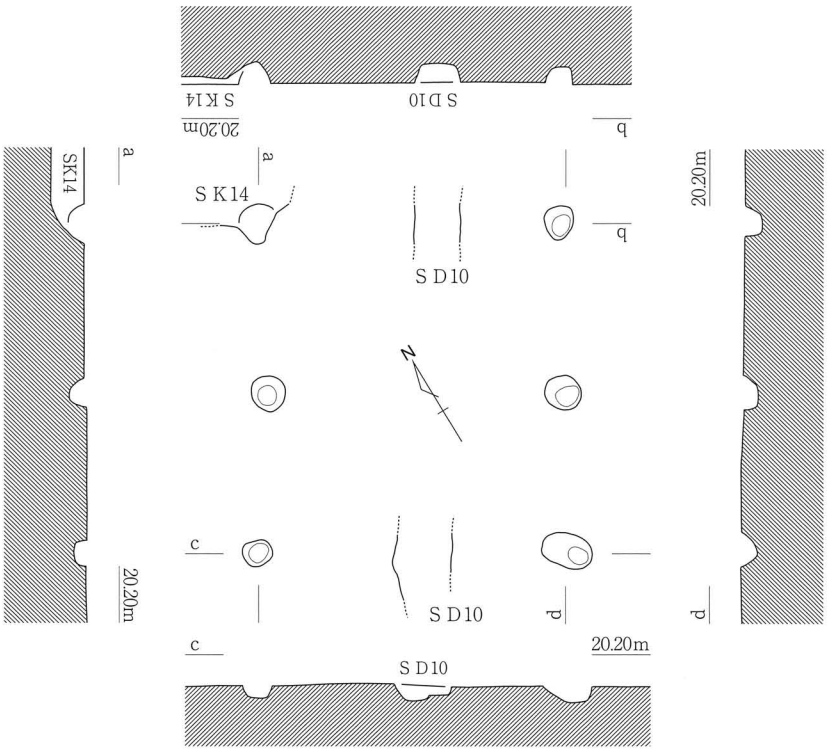
縮尺１／80

図面三四　遺構実測図

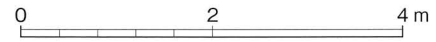


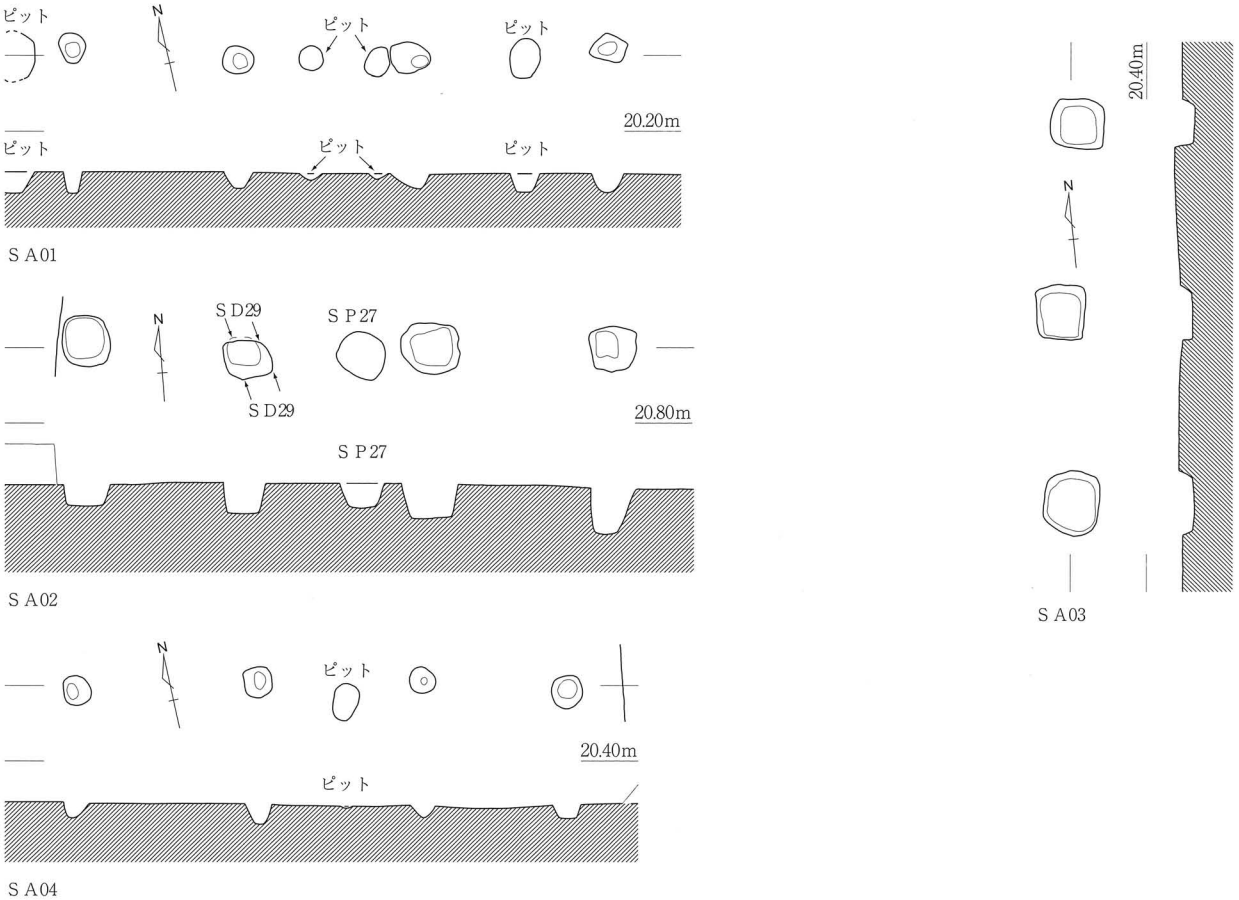
掘立柱建物址ＳＢ09実測図

縮尺１／80

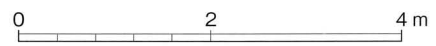


1．掘立柱建物址ＳＢ11実測図　　縮尺１／80

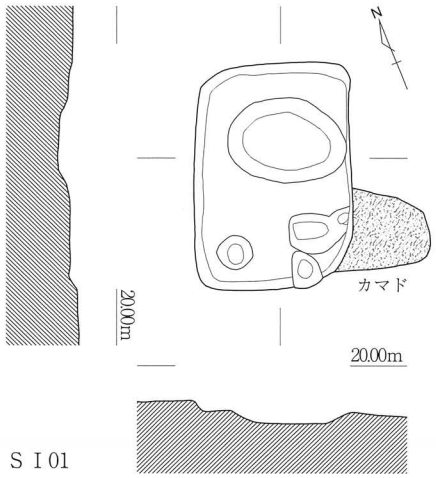




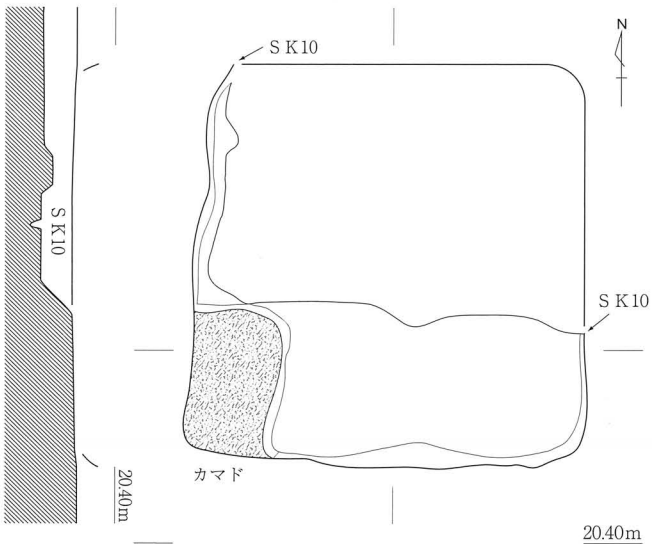
2．柵址ＳＡ01～04実測図　　縮尺１／80



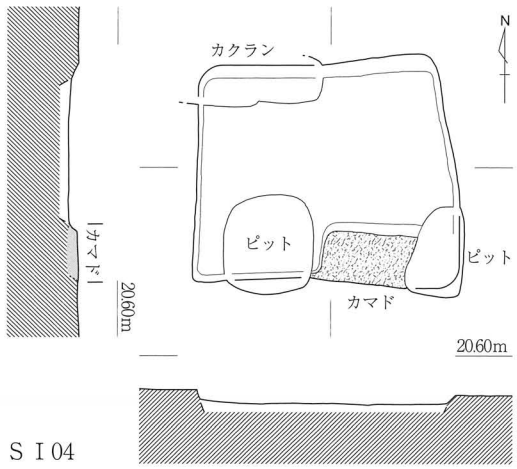
図面三六　遺構実測図



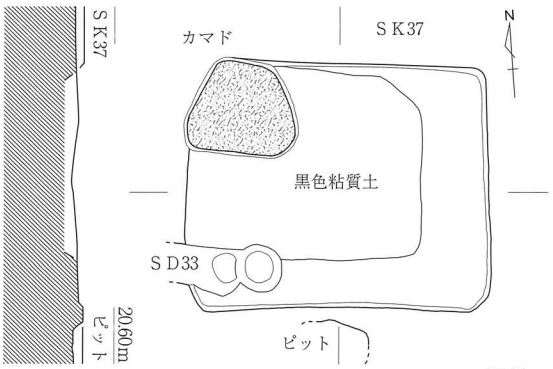
ＳＩ01

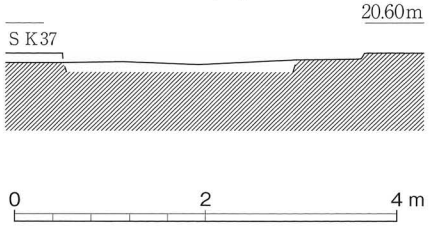


ＳＩ03



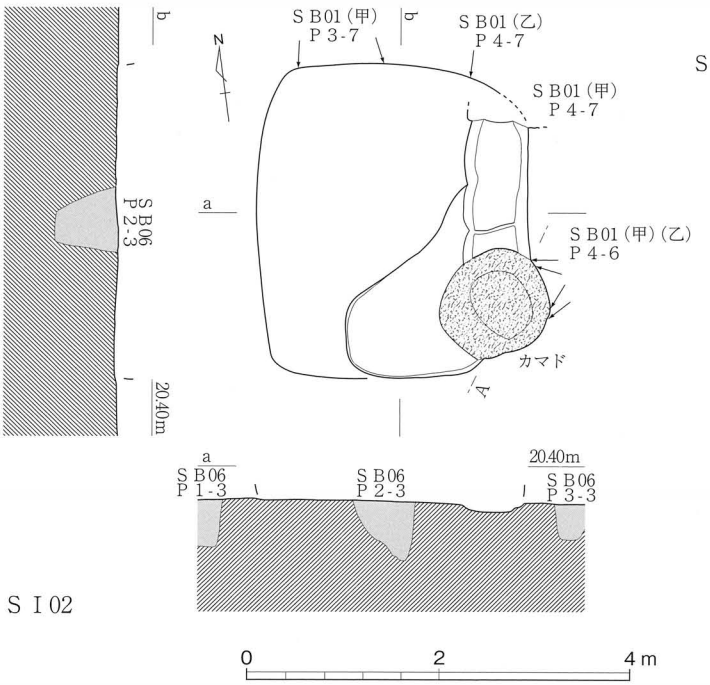
ＳＩ04



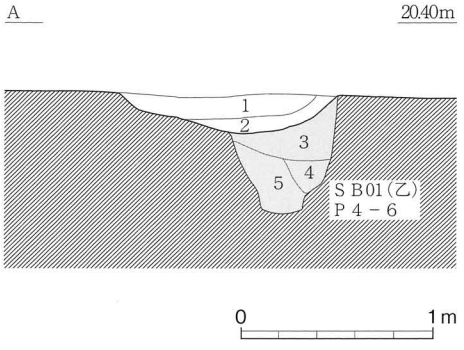


ＳＩ05

1．竪穴建物址ＳＩ01・03～05実測図　　縮尺１／80

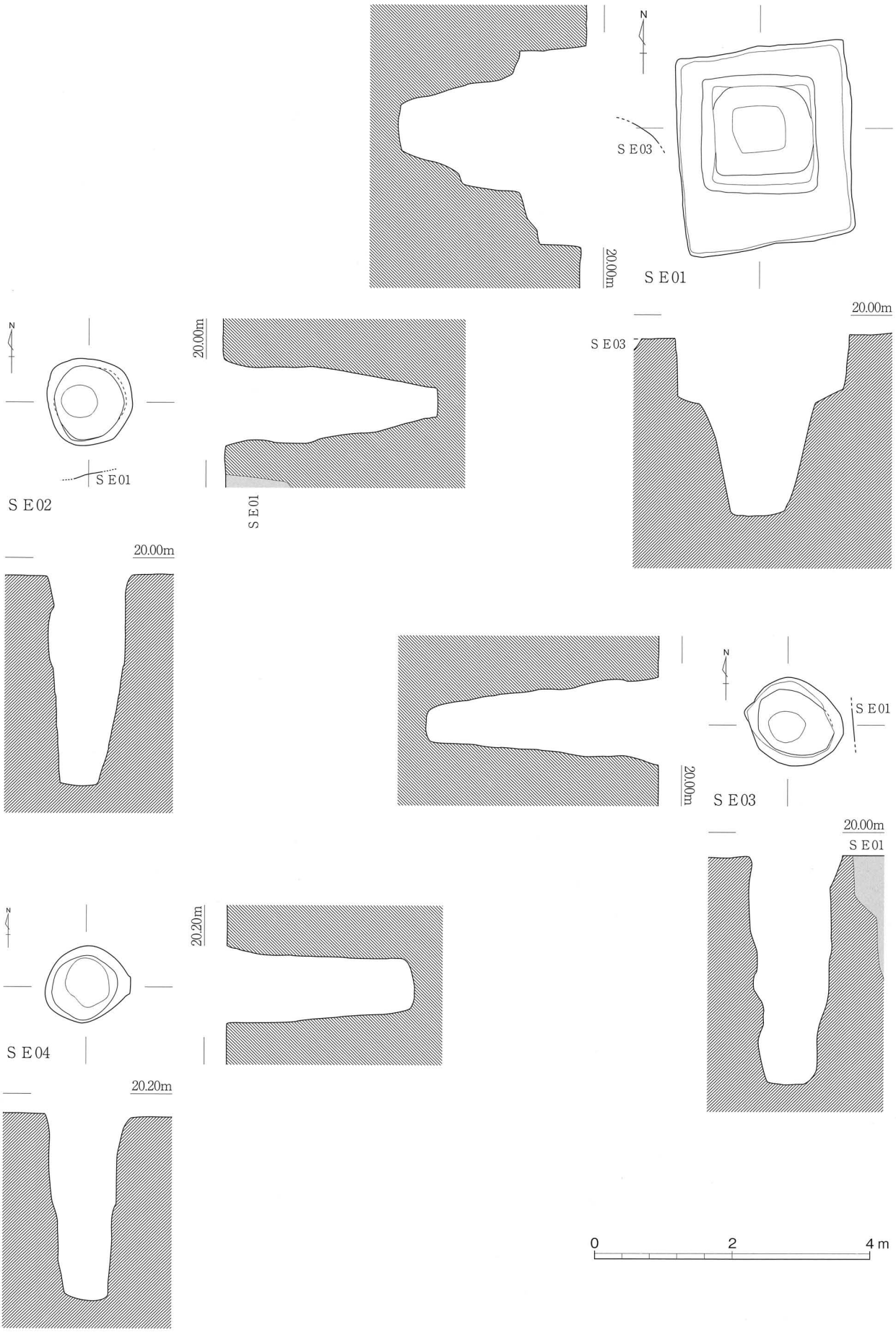


ＳＩ02



1．灰褐色粘質土、焼土含む。
2．黒褐色粘質土。
3．黒褐色粘質土、黄色粘質土混土。
4．黒色粘質土。
5．黒色粘質土、黄色粘質土含む。
｝ＳＢ01（乙）Ｐ4－6

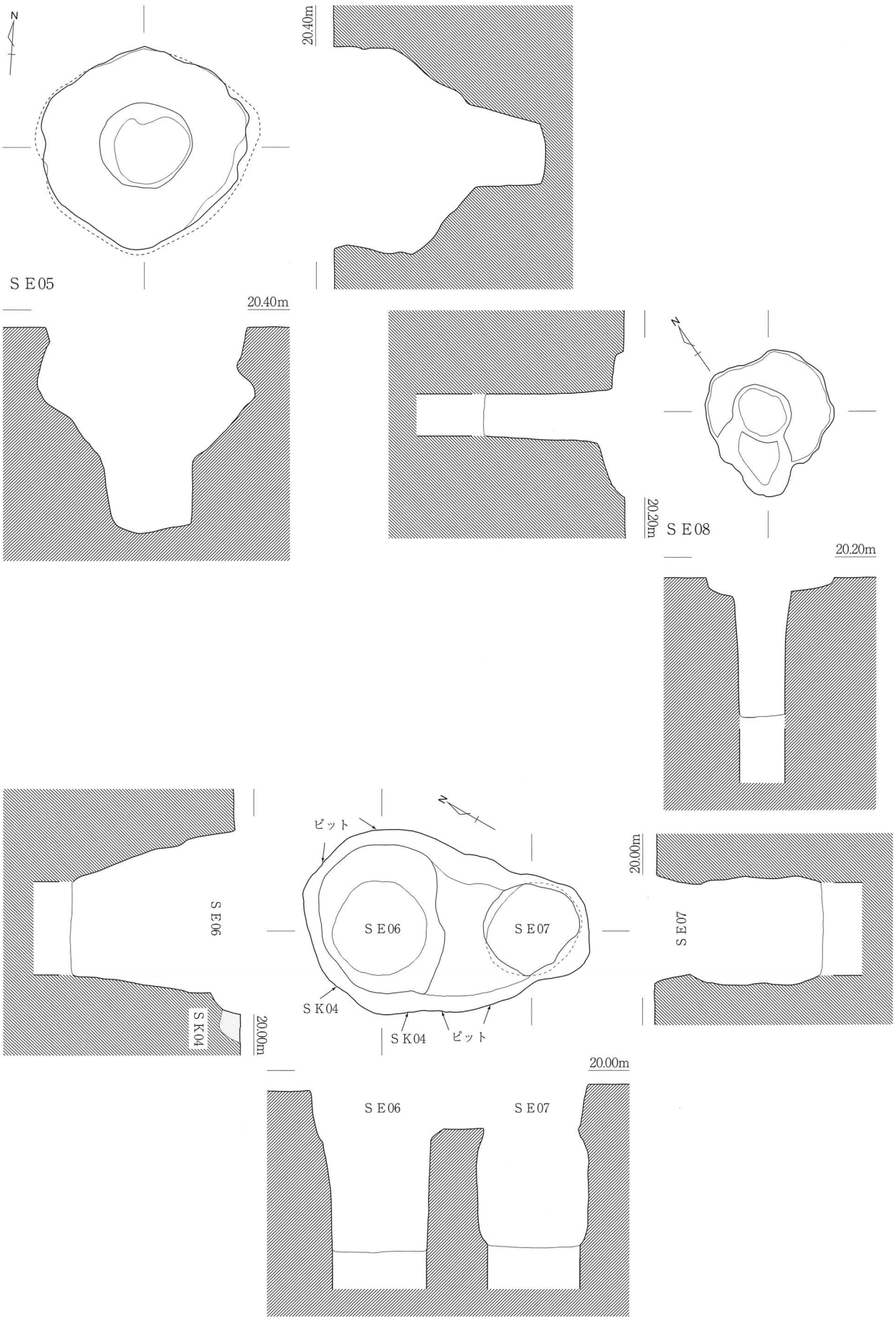
2．竪穴建物址ＳＩ02実測図　　縮尺１／80、１／40



井戸址実測図〔1〕：SE01～04

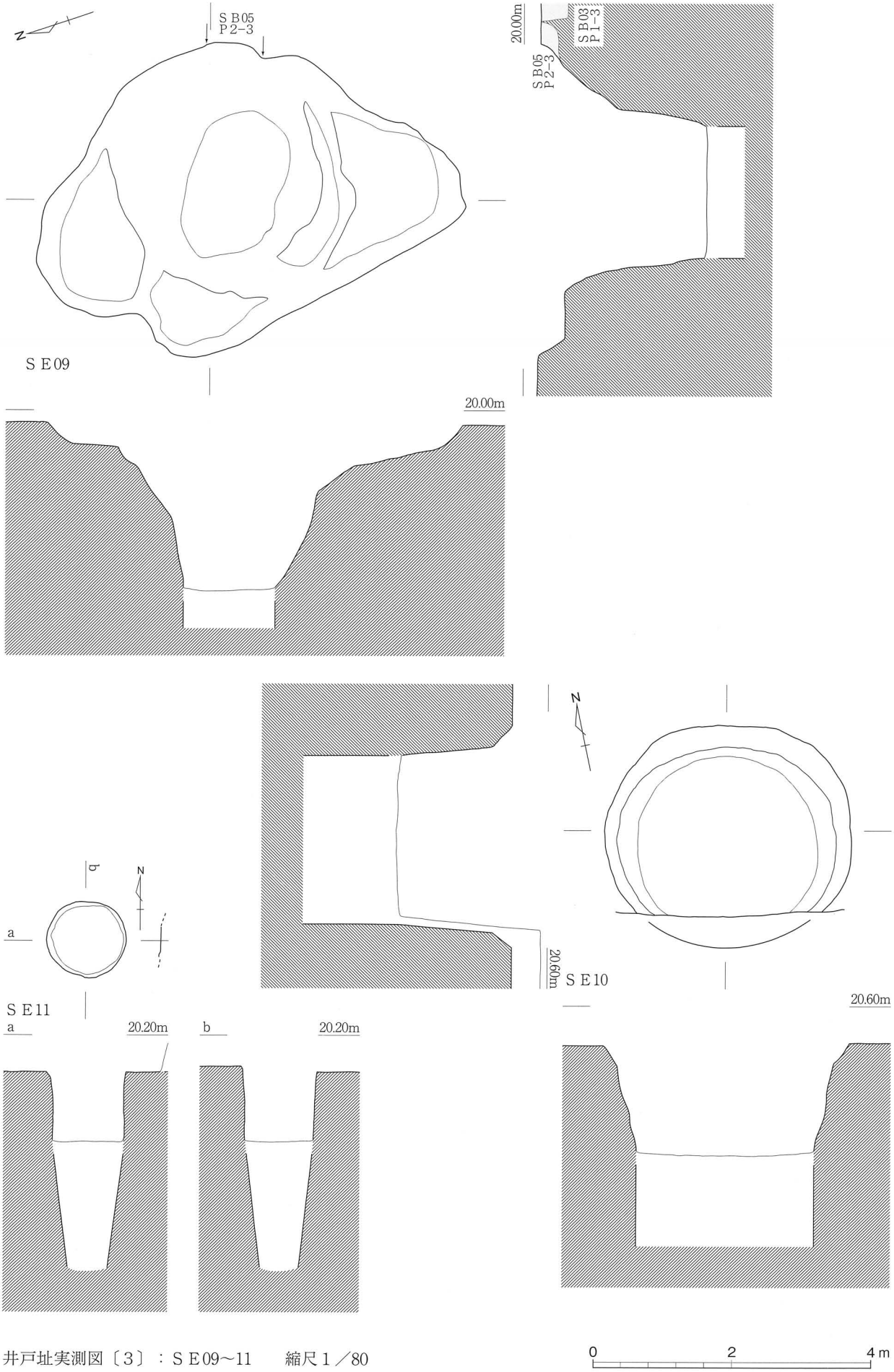
縮尺1／80

図面三八　遺構実測図



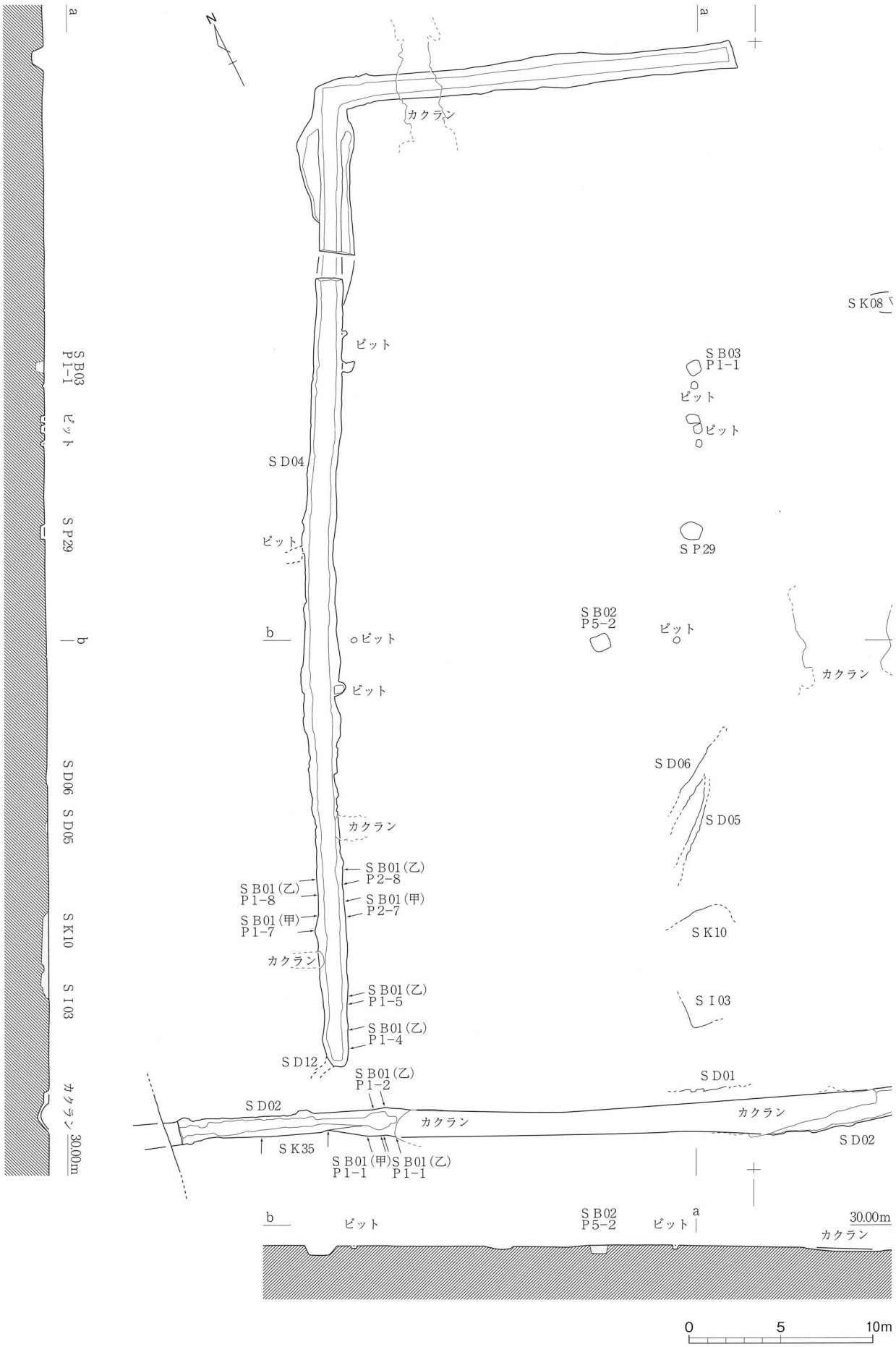
井戸址実測図〔2〕：S E05～08　　縮尺1／80

0　2　4m



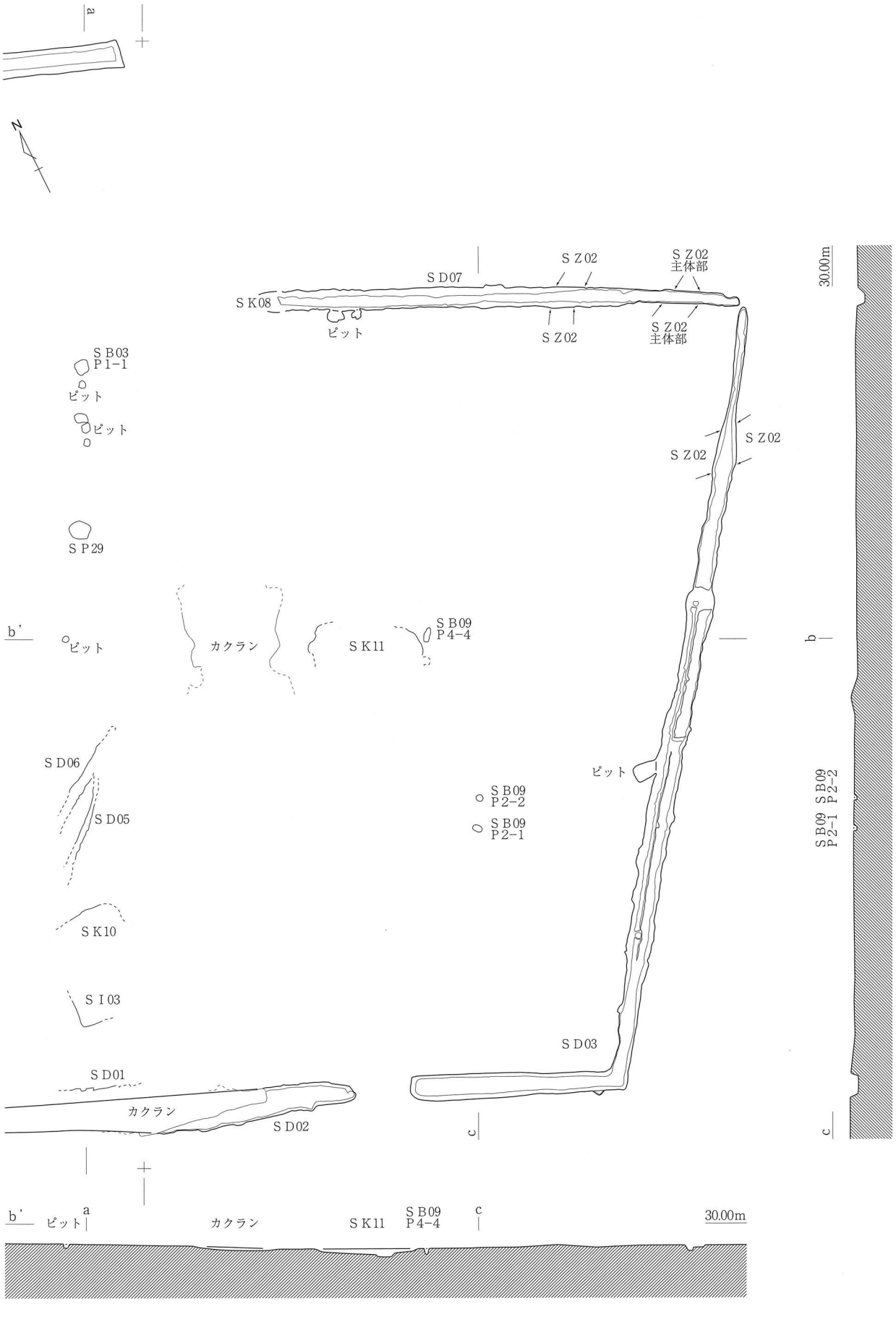
井戸址実測図〔3〕：ＳＥ09～11　　縮尺１／80

図面四〇　遺構実測図



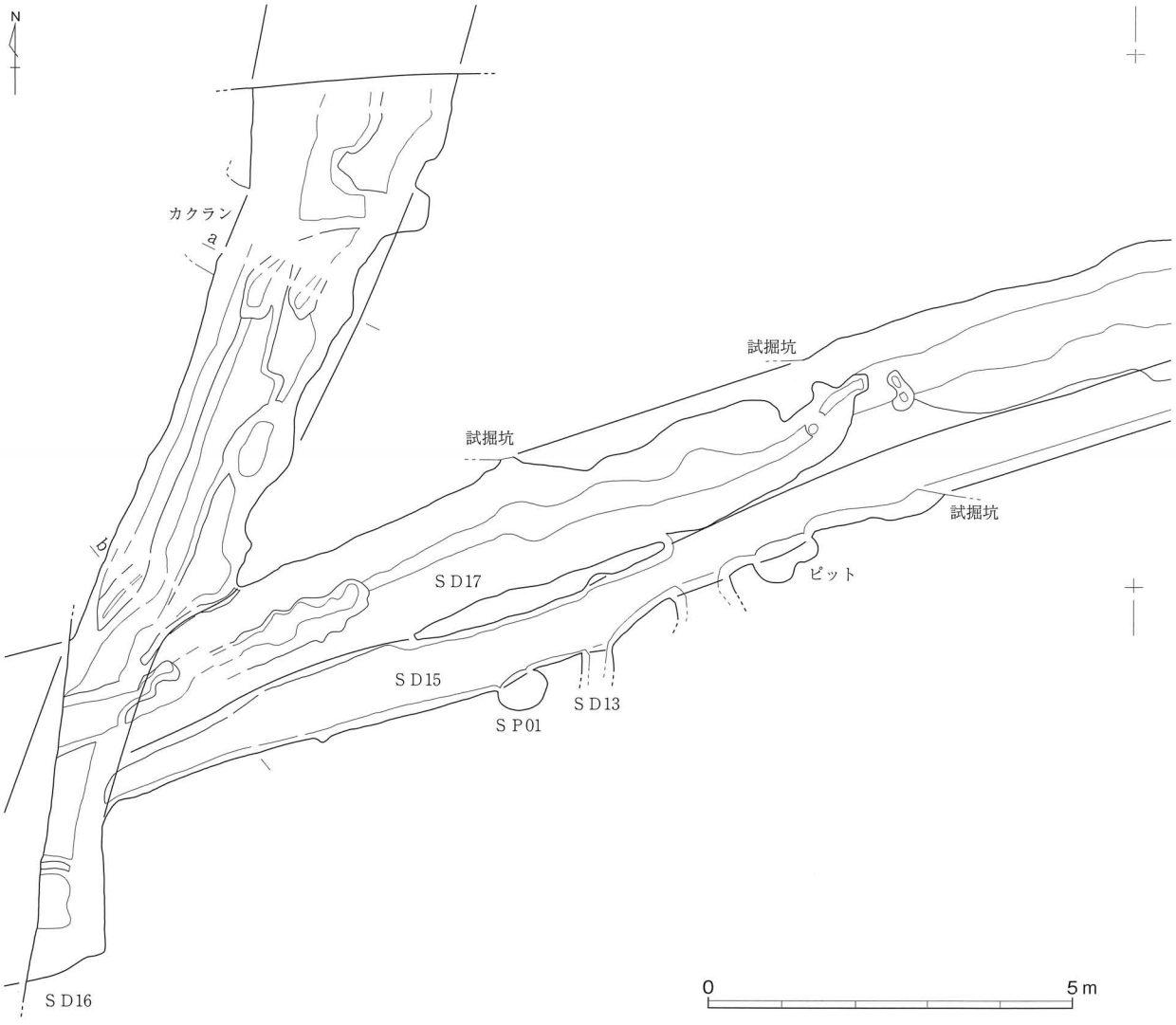
溝ＳＤ02・03・04・07実測図〔１〕

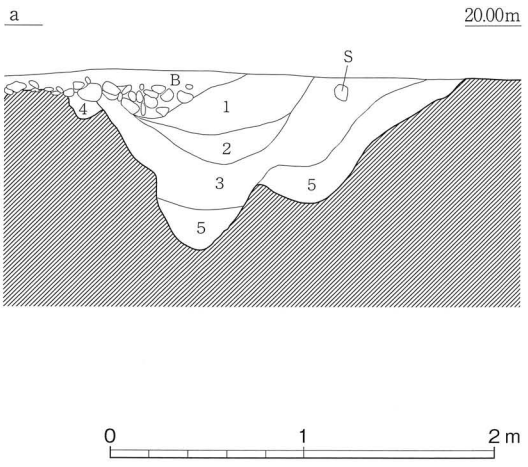
縮尺１／300



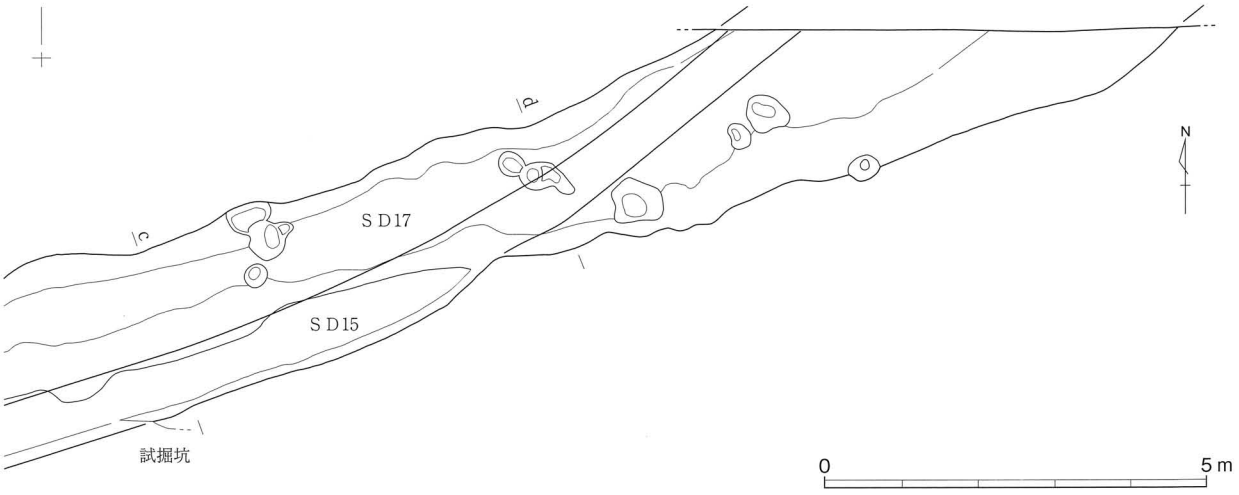
溝ＳＤ02・03・04・07実測図〔２〕

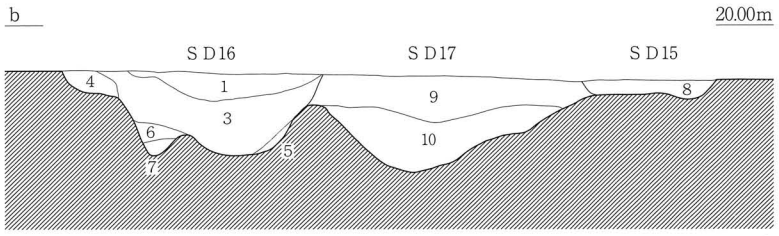
縮尺１／300

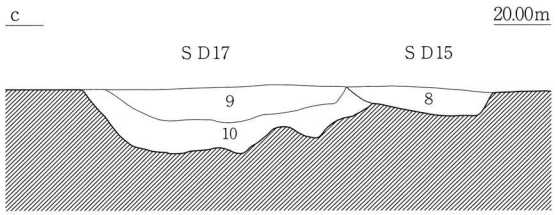


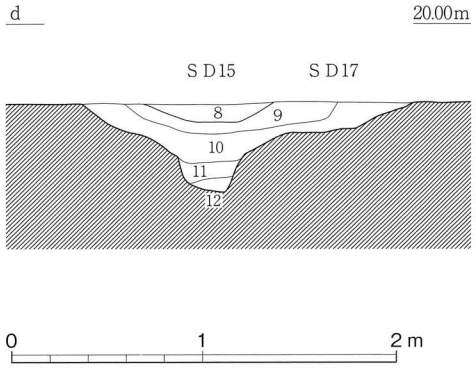


溝ＳＤ15・16・17実測図〔１〕　　縮尺１／100、１／40







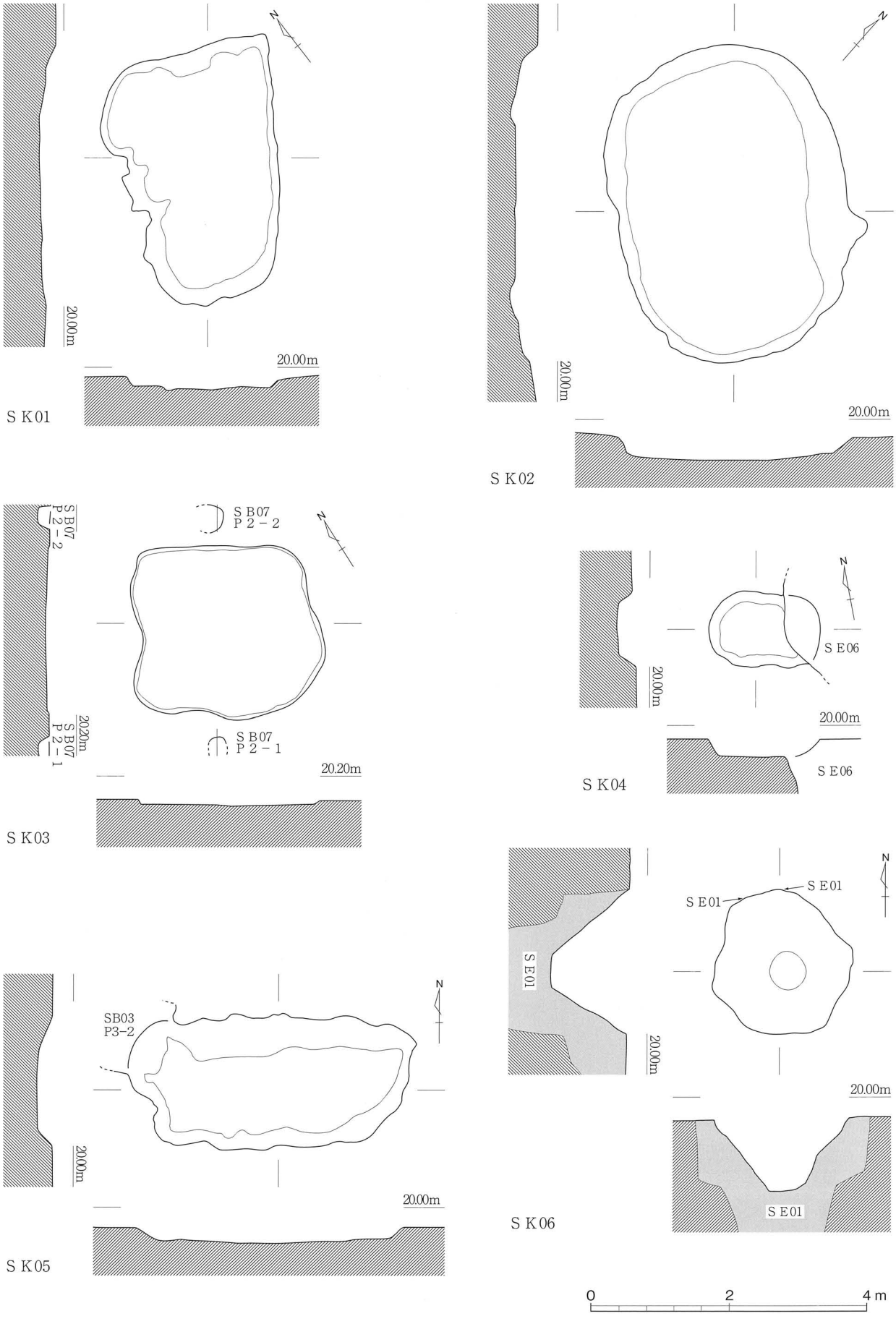


1．暗灰褐色粘質土。
2．暗黄褐色粘質土。
3．黒褐色粘質土。
4．黒褐色粘質土。黄褐色粘質土小ブロック混入。
5．黒褐色粘質土、黄褐色粘質土混土層。
6．黒褐色粘質土、灰褐色砂混土層。黄褐色粘質土粒混入。
7．灰褐色砂。
8．黒色粘質土。
9．灰褐色粘質土。
10．暗褐色粘質土。
11．黒褐色粘質土、黒色粘質土混土層。
12．黄褐色粘質土。黒褐色粘質土混入。
B．カクラン。

S D16
－ S D15
S D17

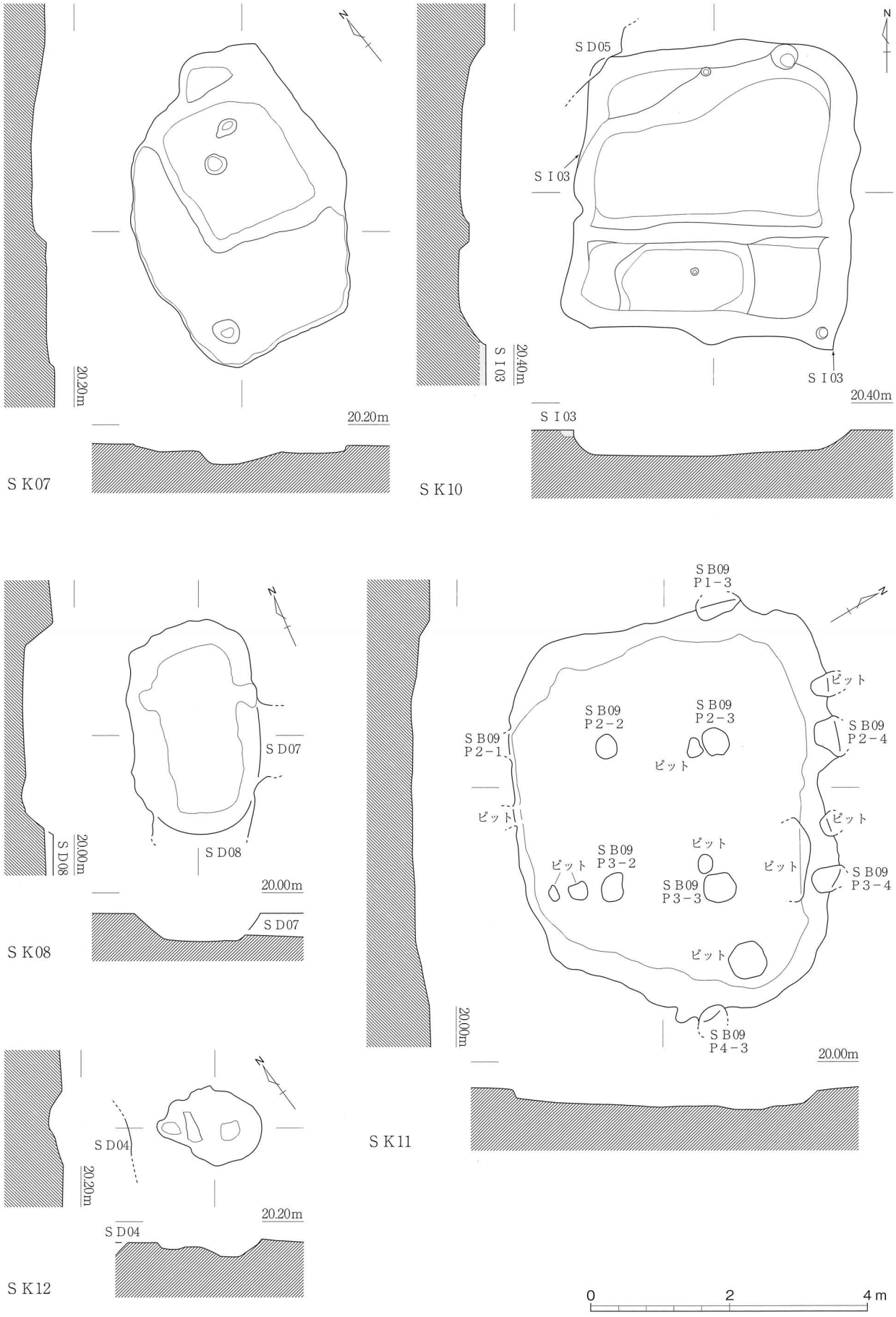
溝ＳＤ15・16・17実測図〔２〕　　縮尺１／100、１／40

図面四四　遺構実測図



土坑実測図〔1〕：S K01～06

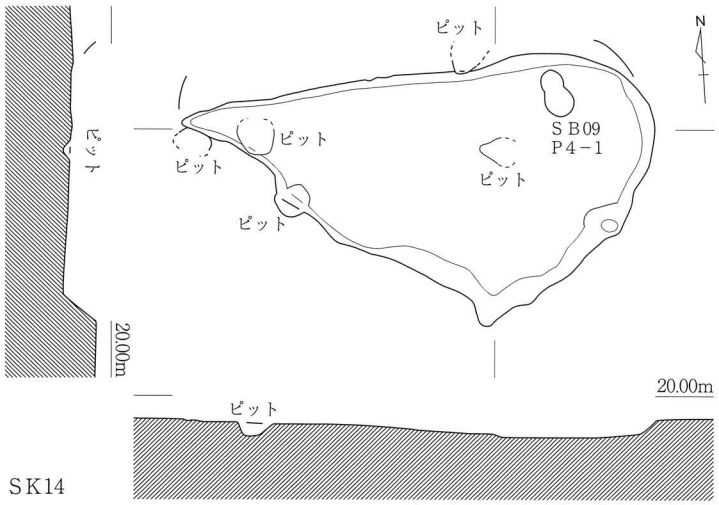
縮尺 1／80



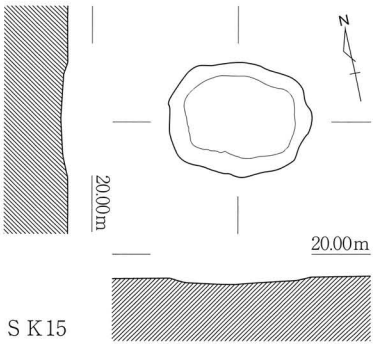
土坑実測図〔2〕：SK07・08・10～12

縮尺1／80

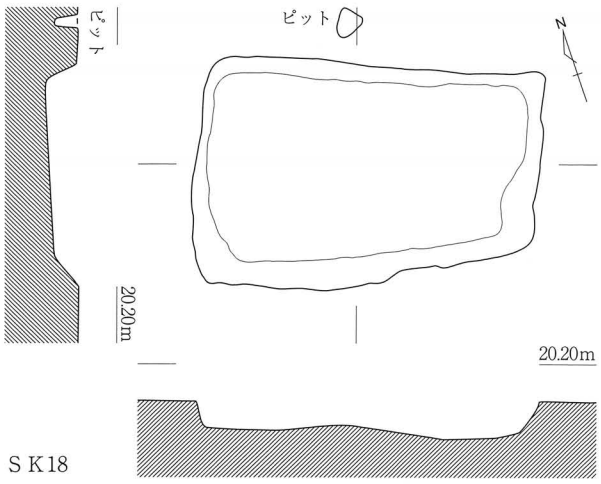
図面四六　遺構実測図



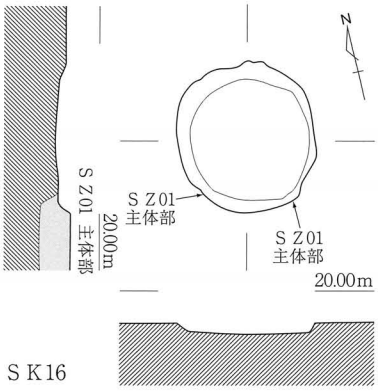
SK14



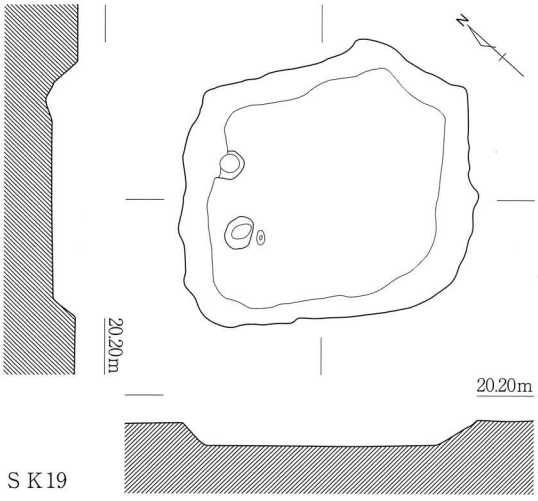
SK15



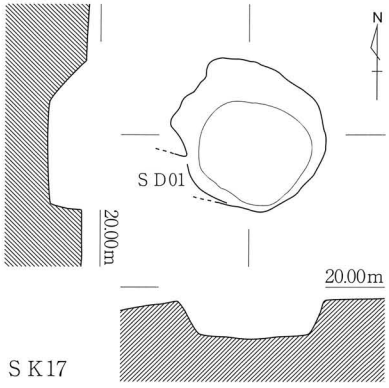
SK18



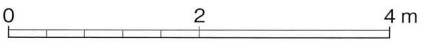
SK16



SK19



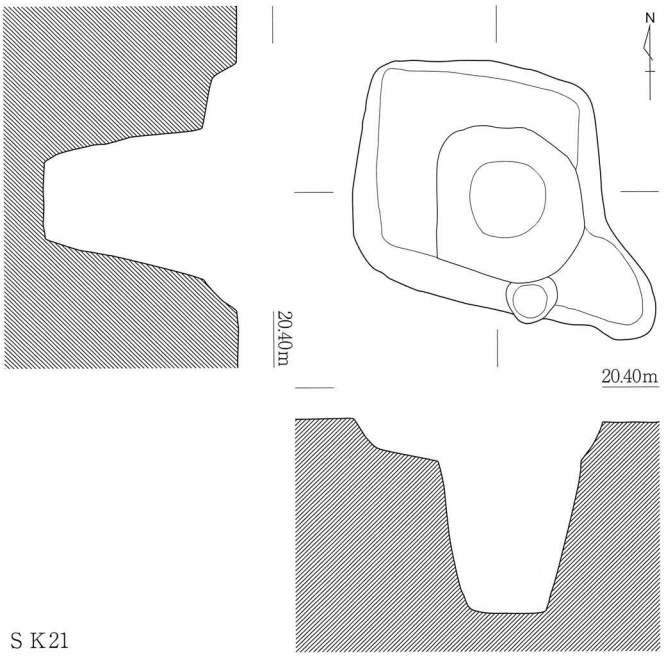
SK17



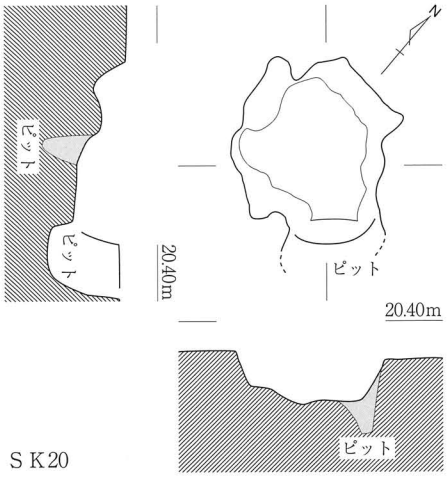
土坑実測図〔3〕：SK14～19

縮尺1／80

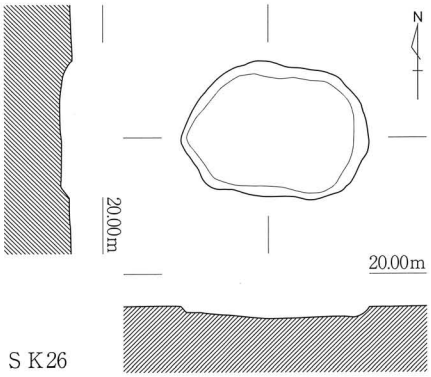
図面四七　遺構実測図



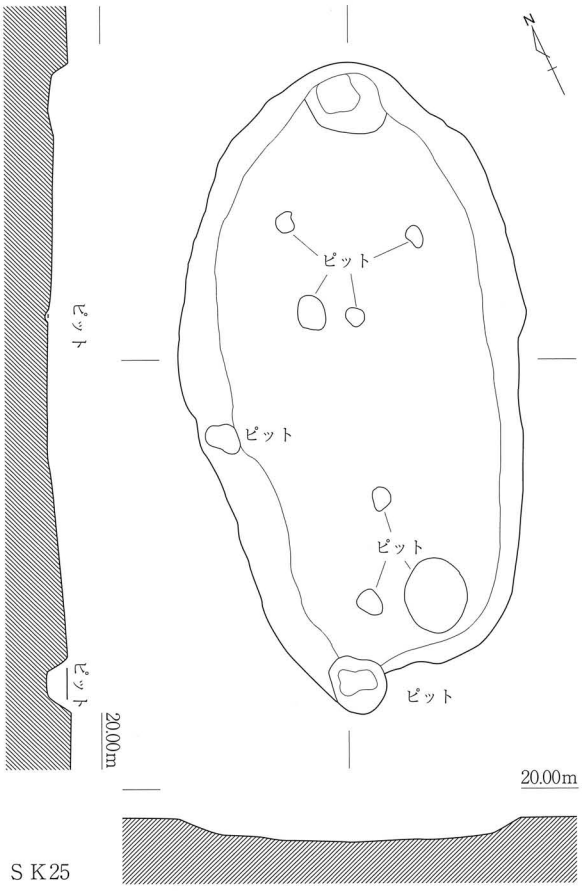
SK21



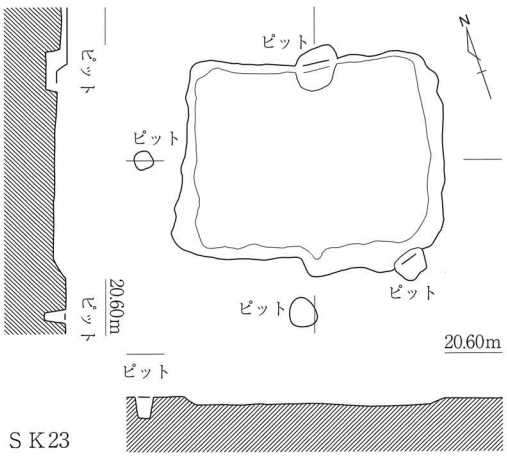
SK20



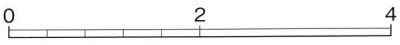
SK26



SK25



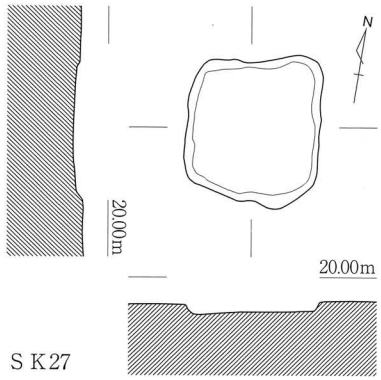
SK23



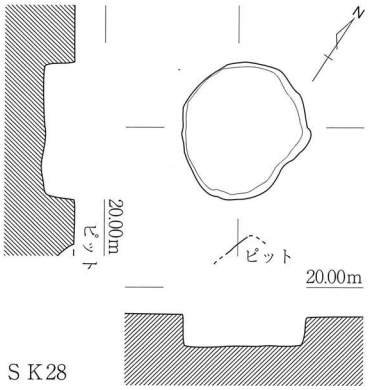
土坑実測図〔4〕：SK20・21・23・25・26

縮尺1／80

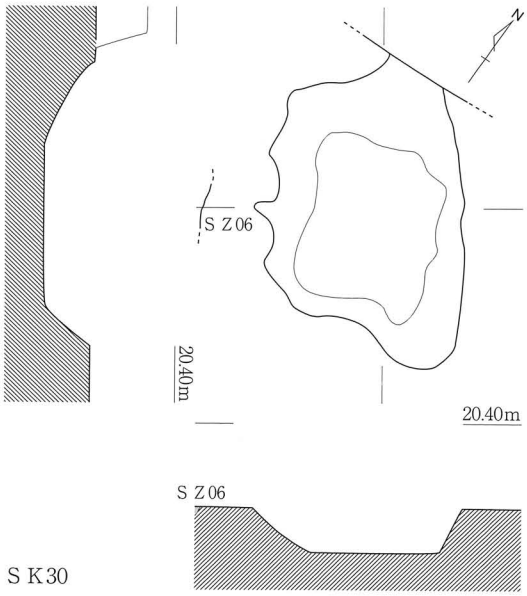
図面四八　遺構実測図



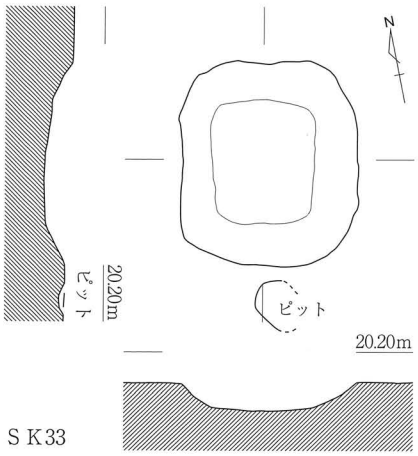
SK27



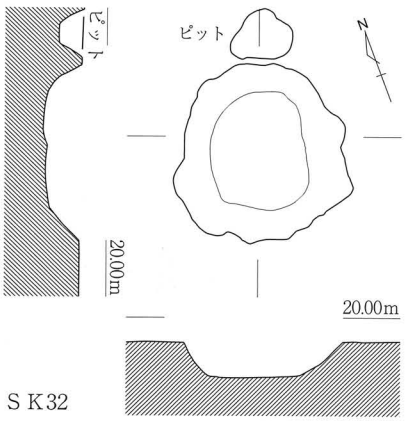
SK28



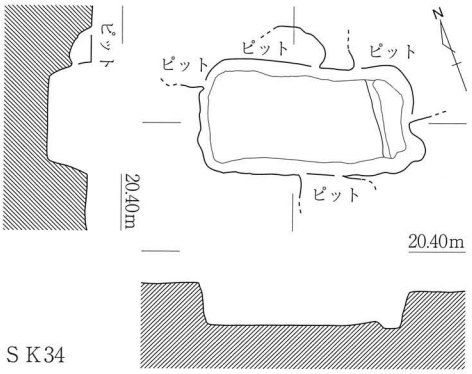
SK30



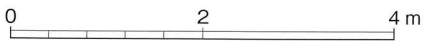
SK33



SK32

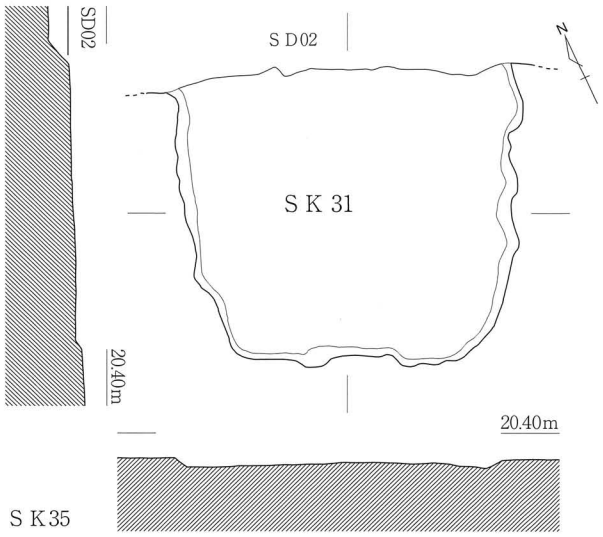


SK34

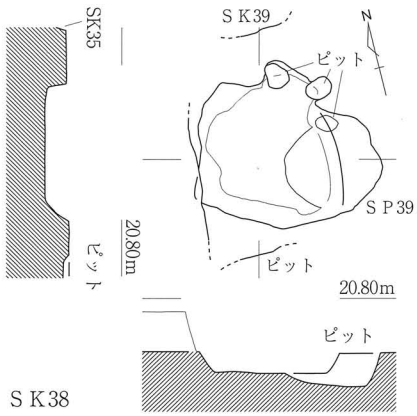


土坑実測図〔5〕：SK27・28・30・32～34

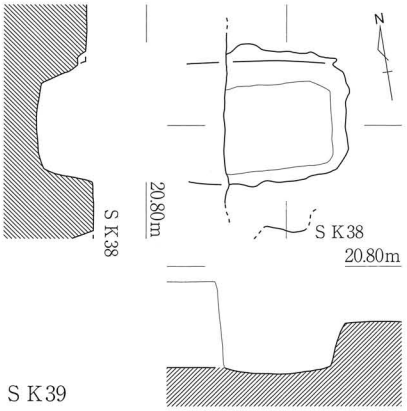
縮尺1／80



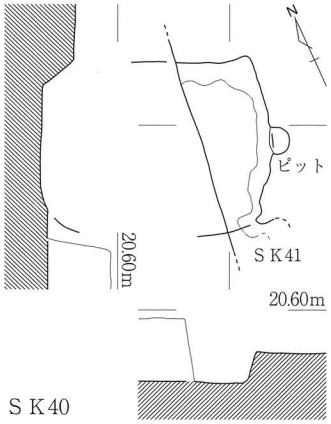
ＳＫ35



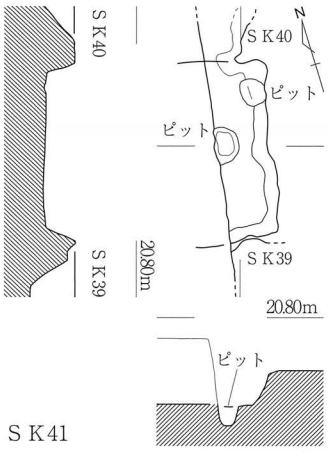
ＳＫ38



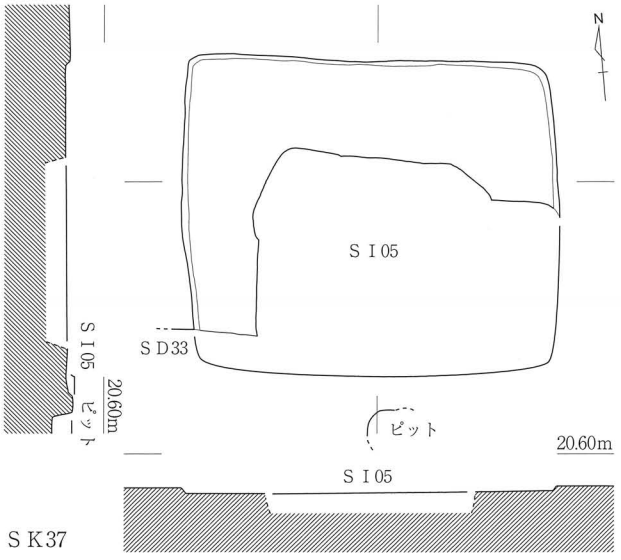
ＳＫ39



ＳＫ40



ＳＫ41



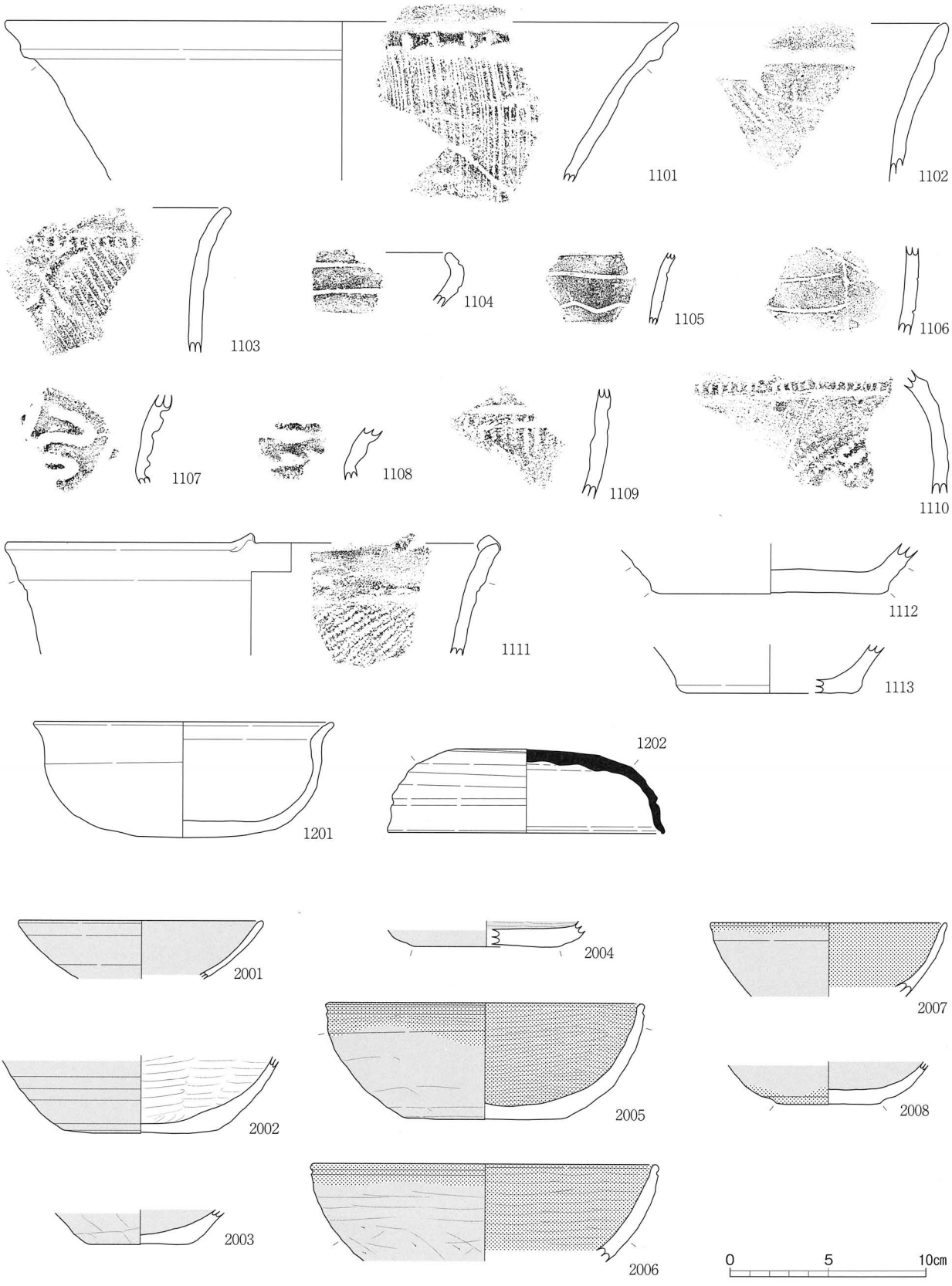
ＳＫ37

0　2　4m

土坑実測図〔６〕：ＳＫ35・37～41

縮尺１／80

図面五〇　遺物実測図

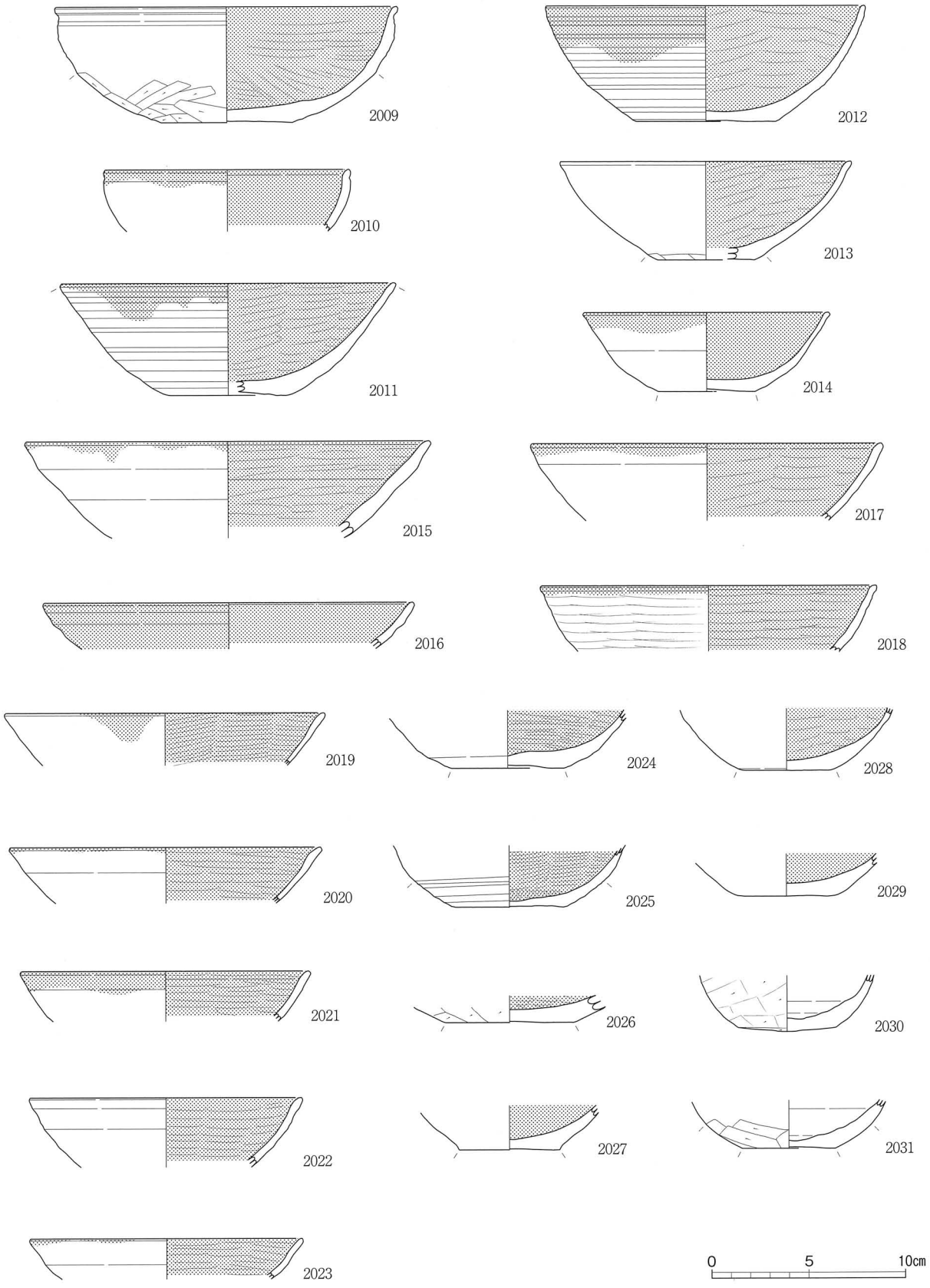


縄文土器；1101～1113

古墳時代の土器類　土師器；1201，須恵器；1202

奈良平安時代の土器類　土師器；2001～2006

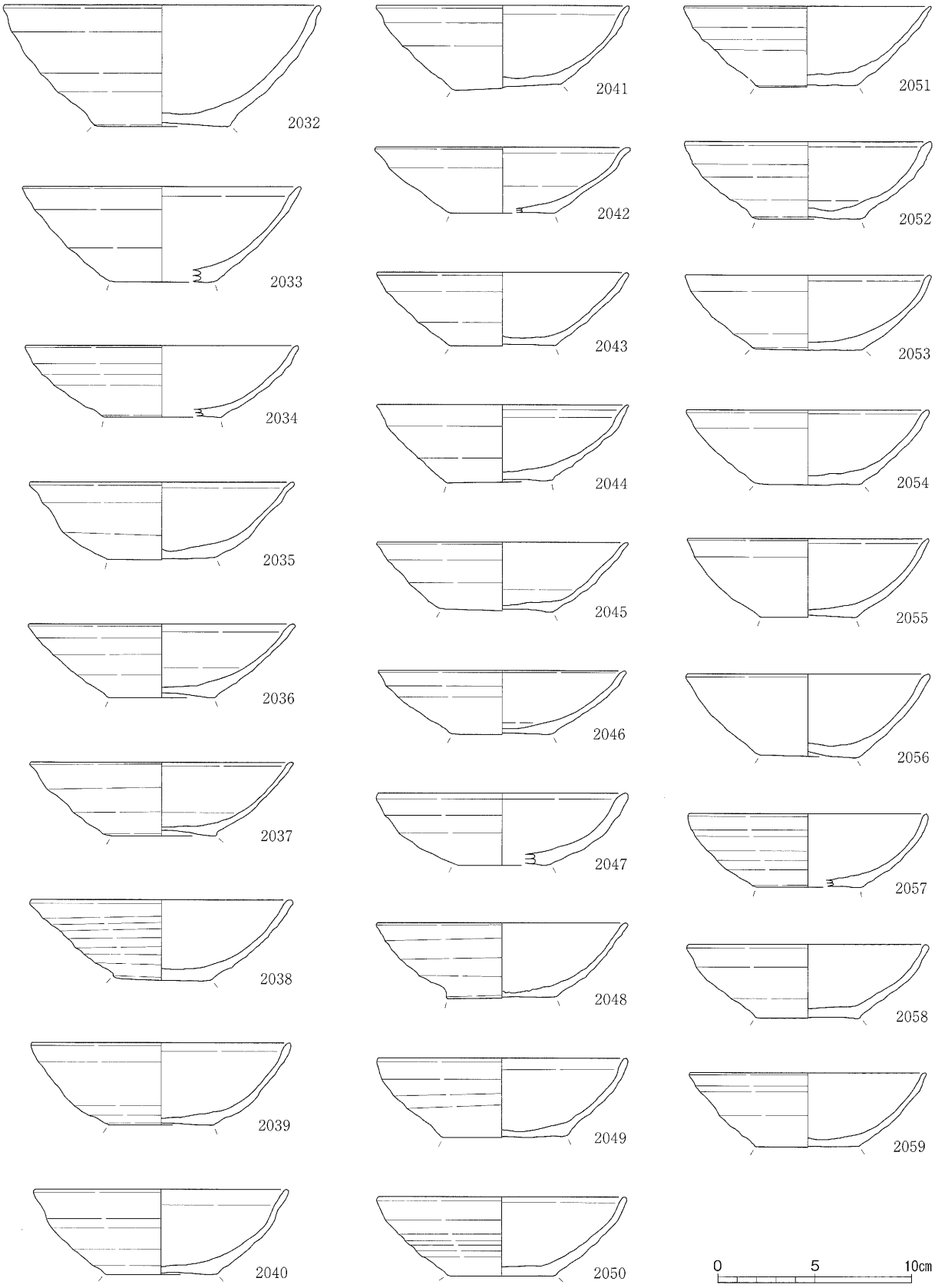
縮尺１／３



奈良平安時代の土器類

土師器

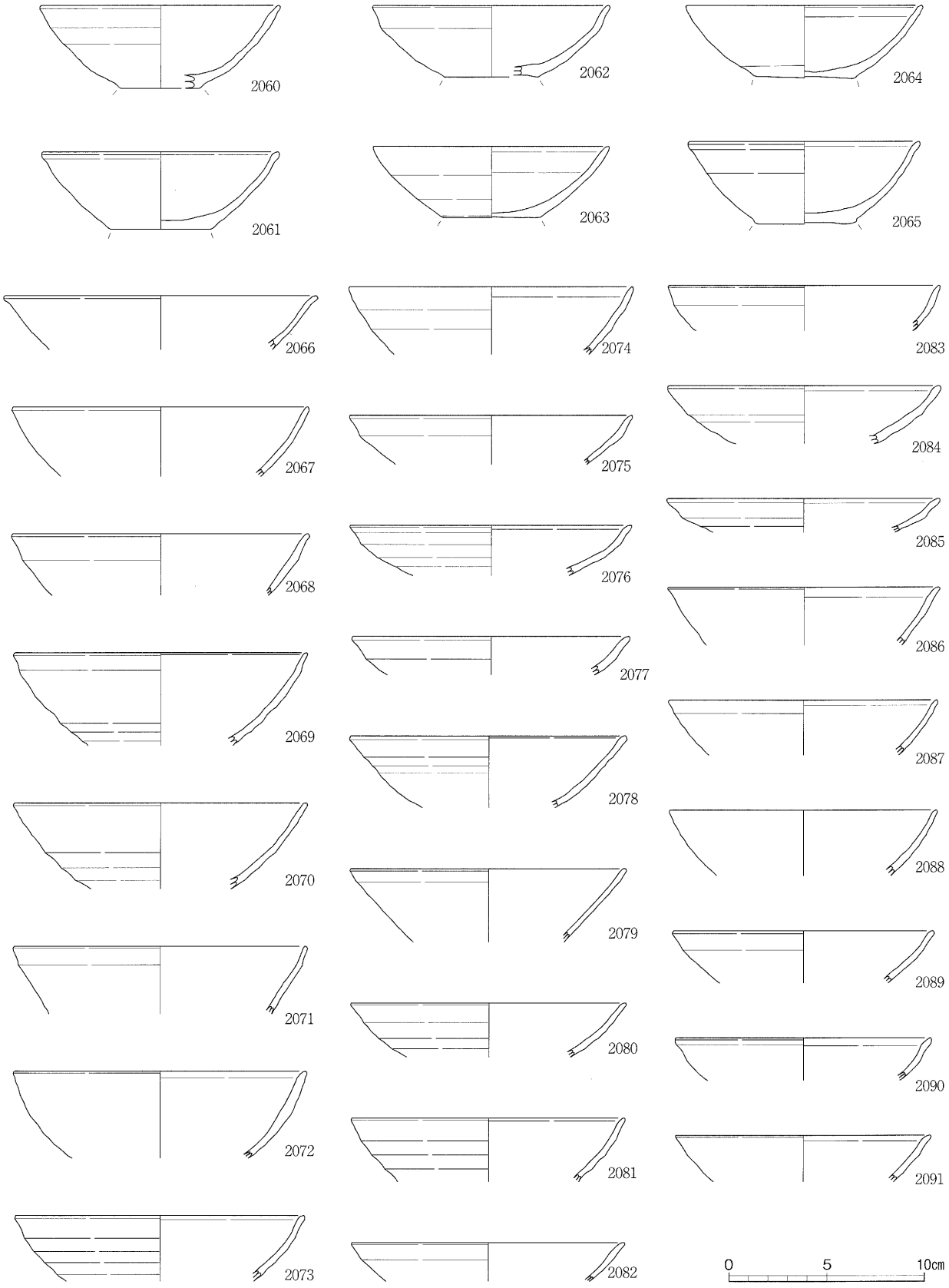
縮尺１／３



奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

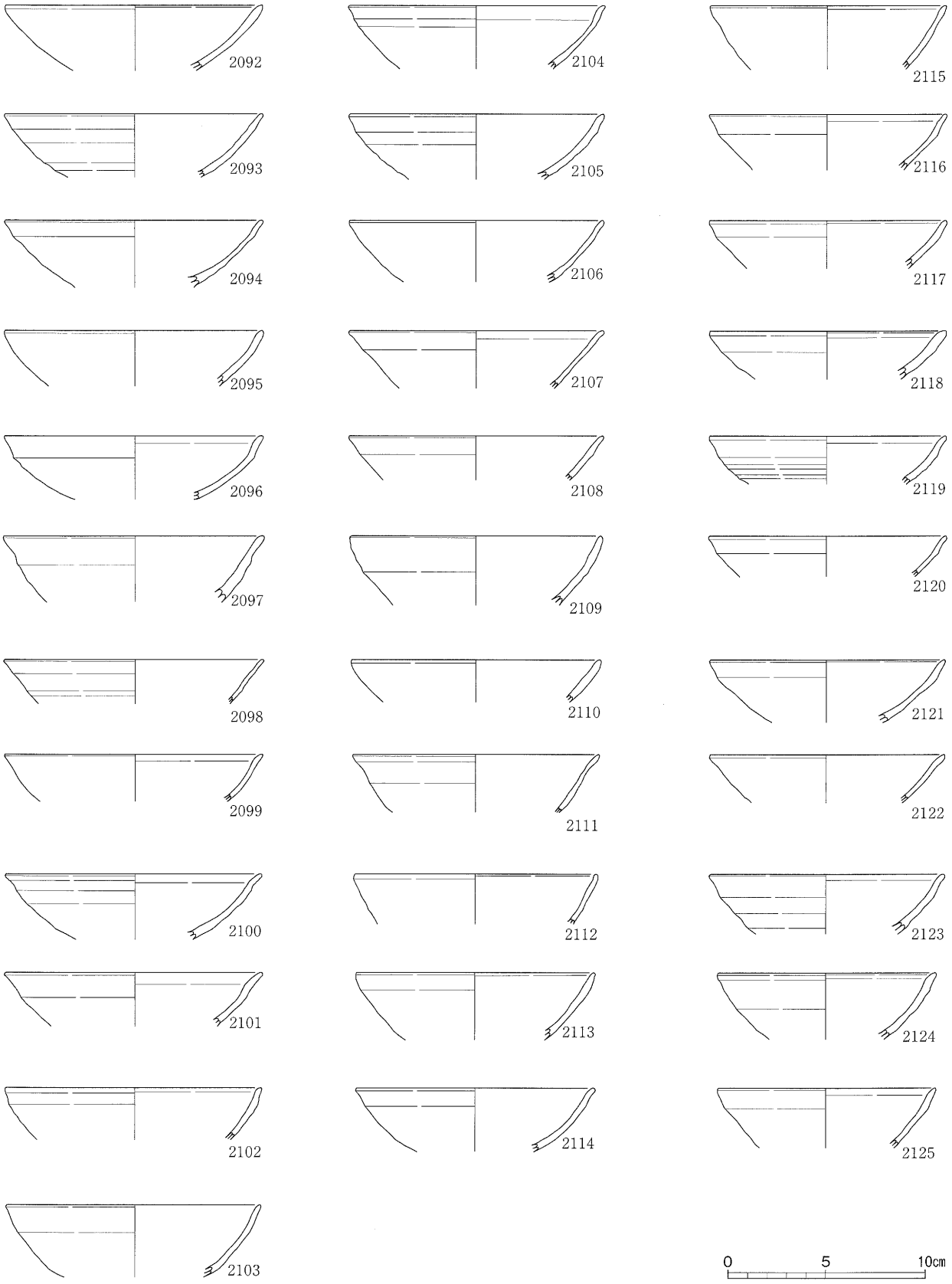


奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

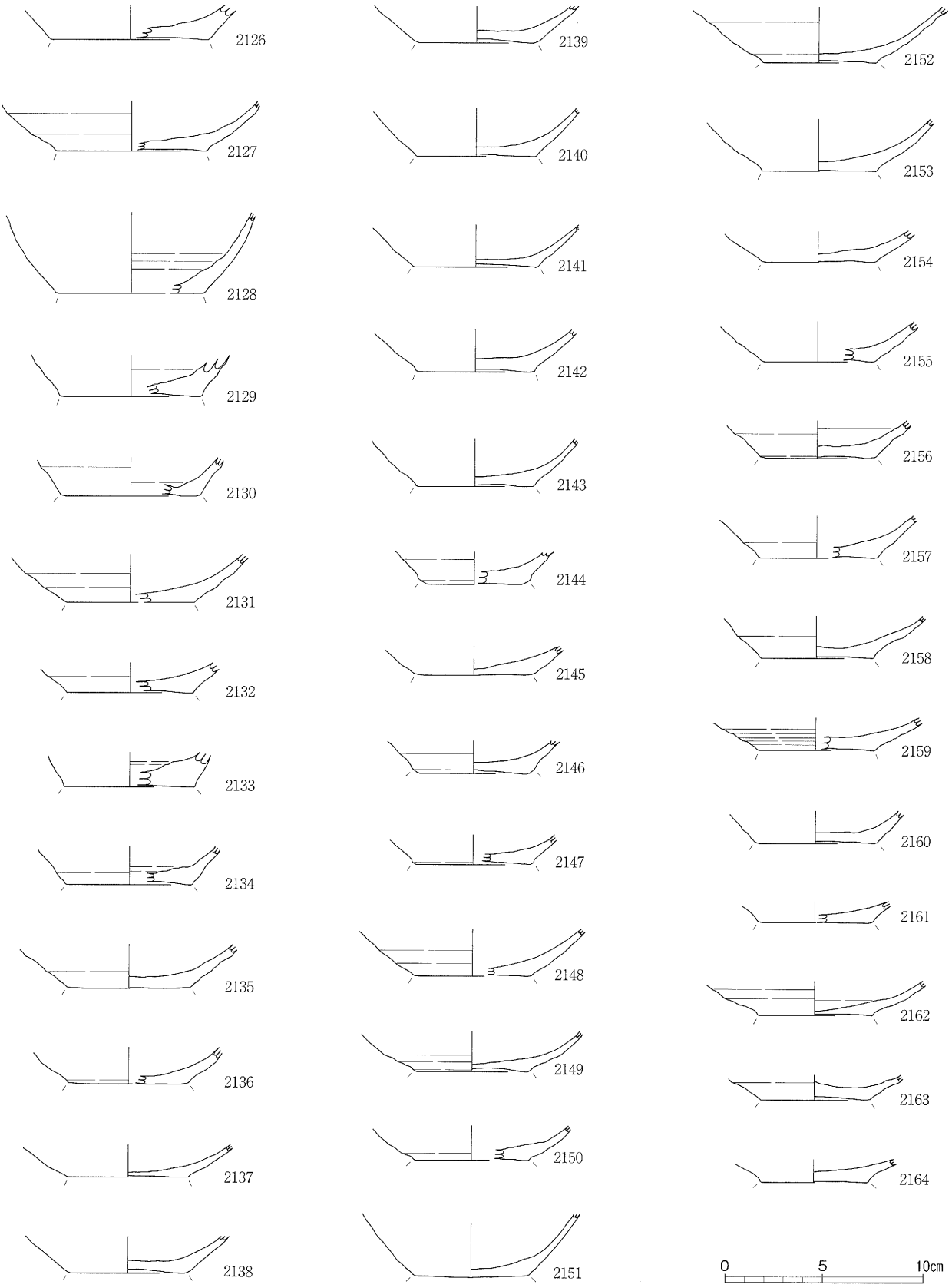
図面五四　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

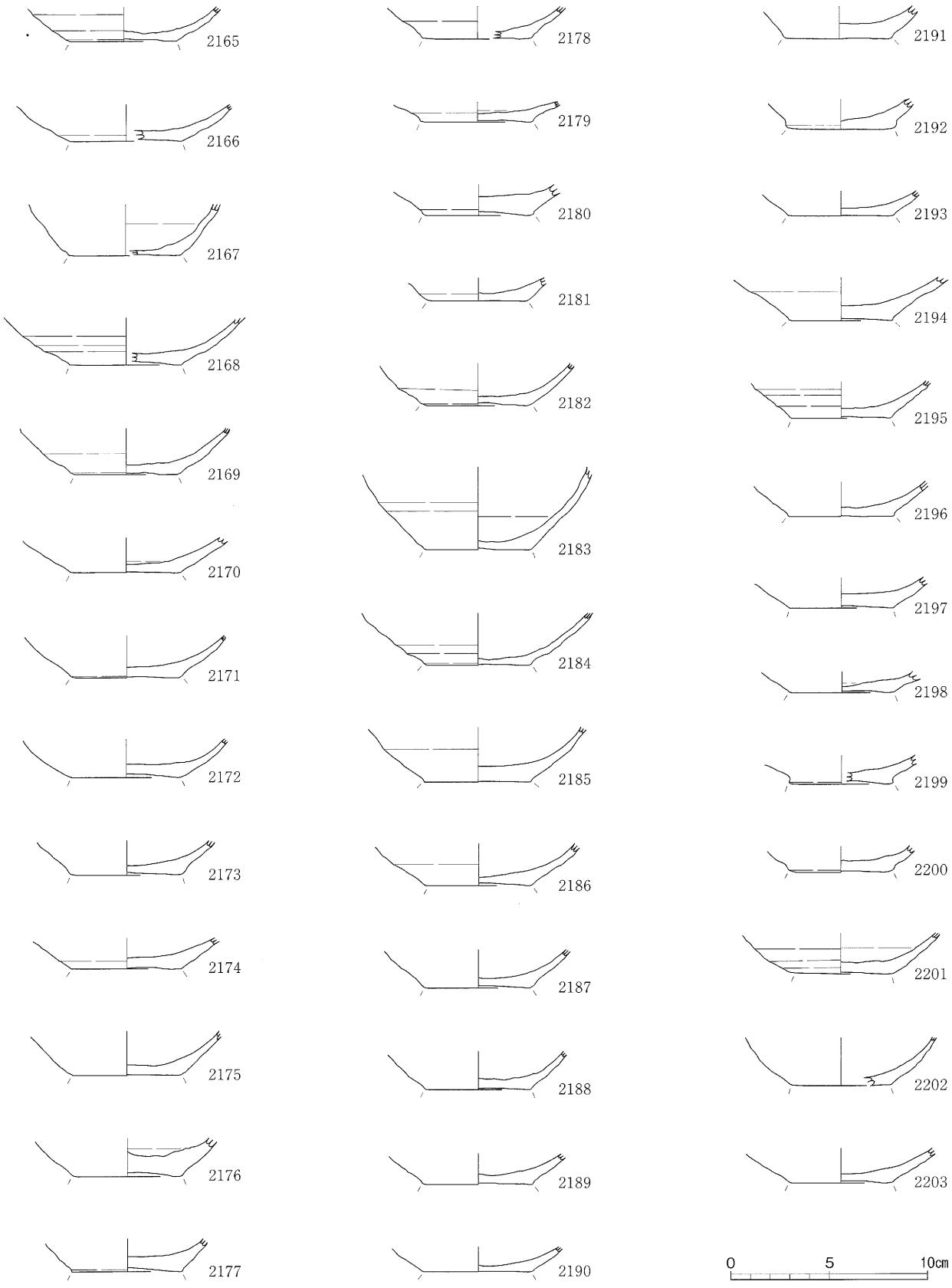


奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

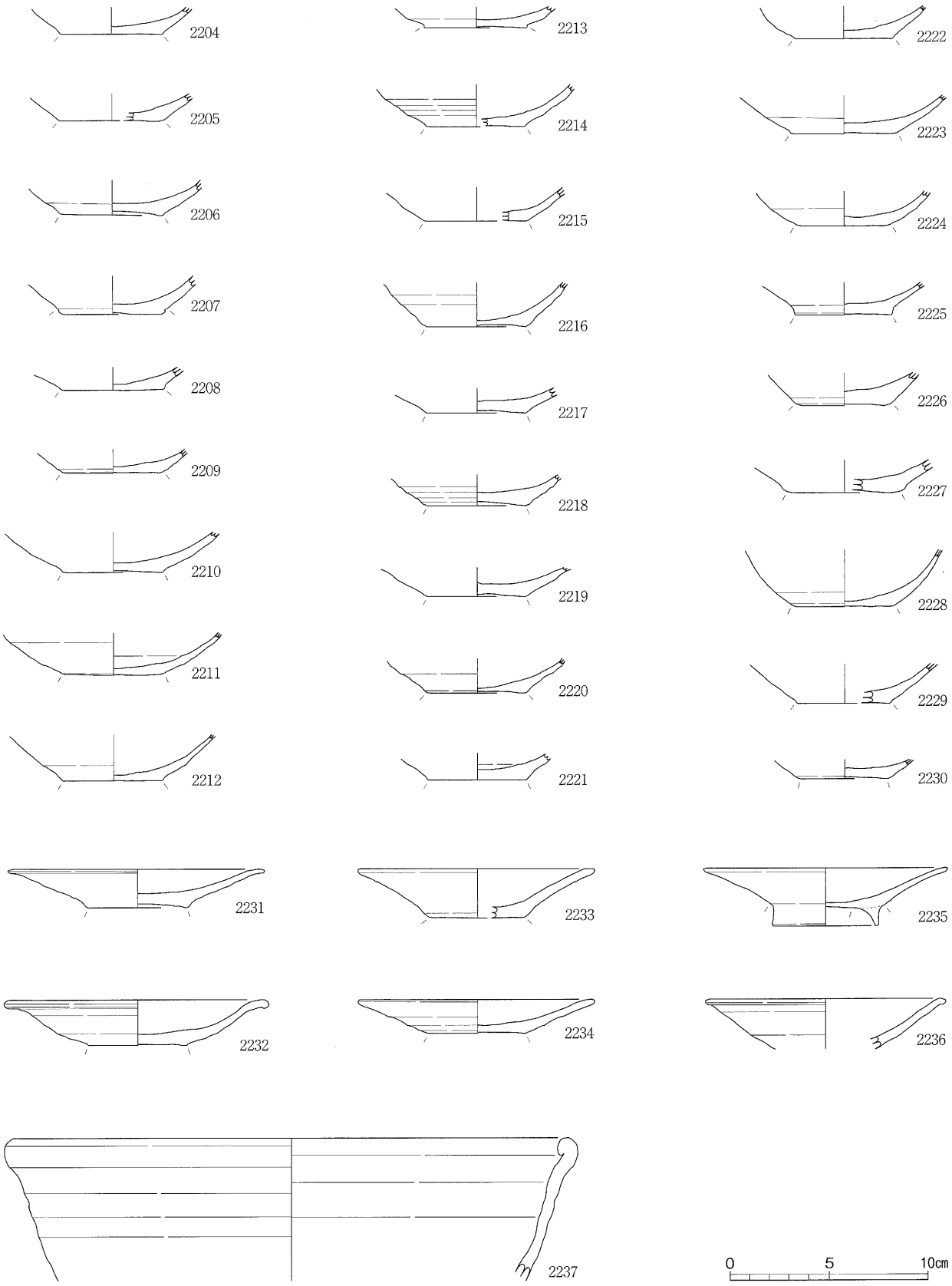
図面五六　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

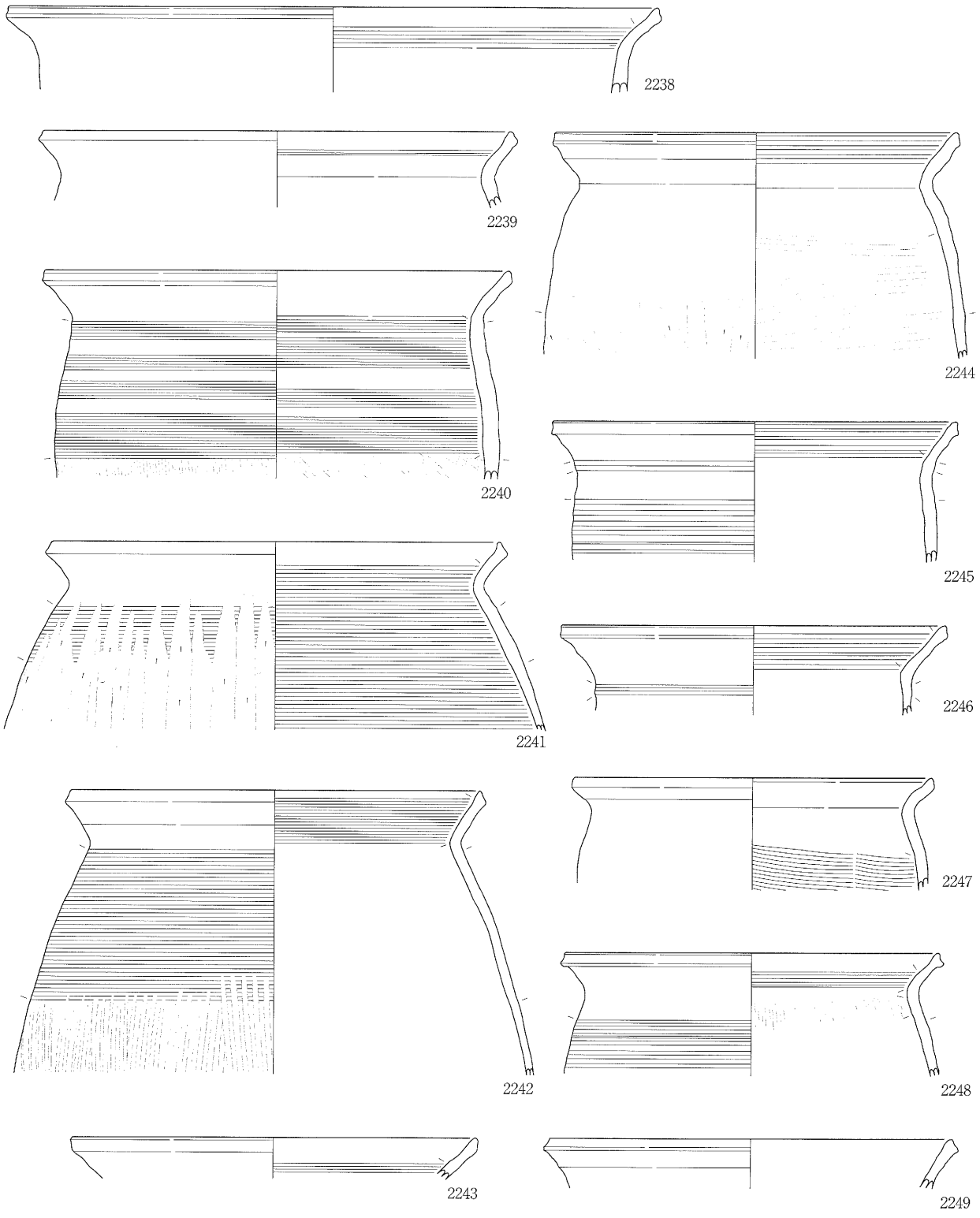


奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

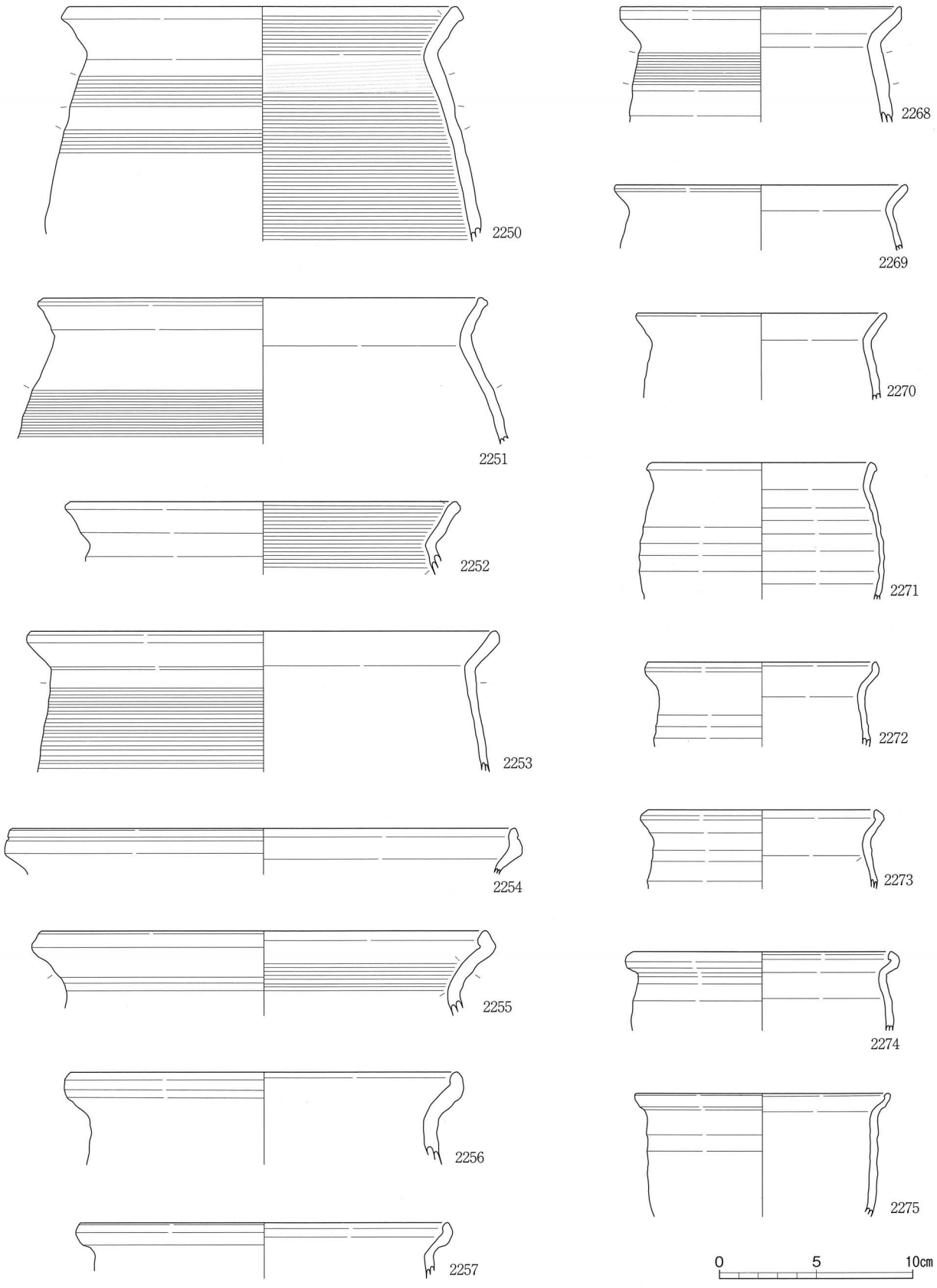
図面五八　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

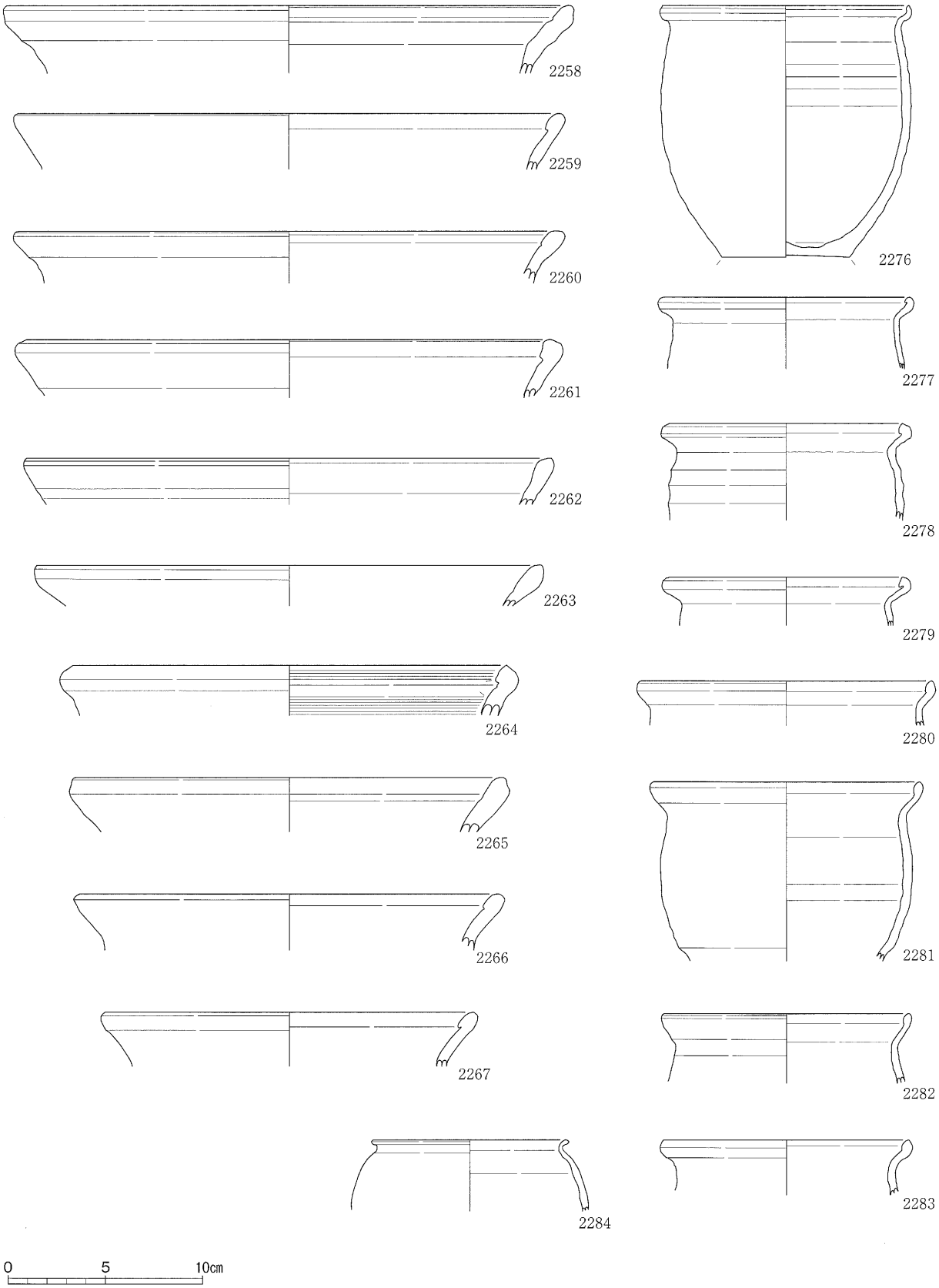


奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

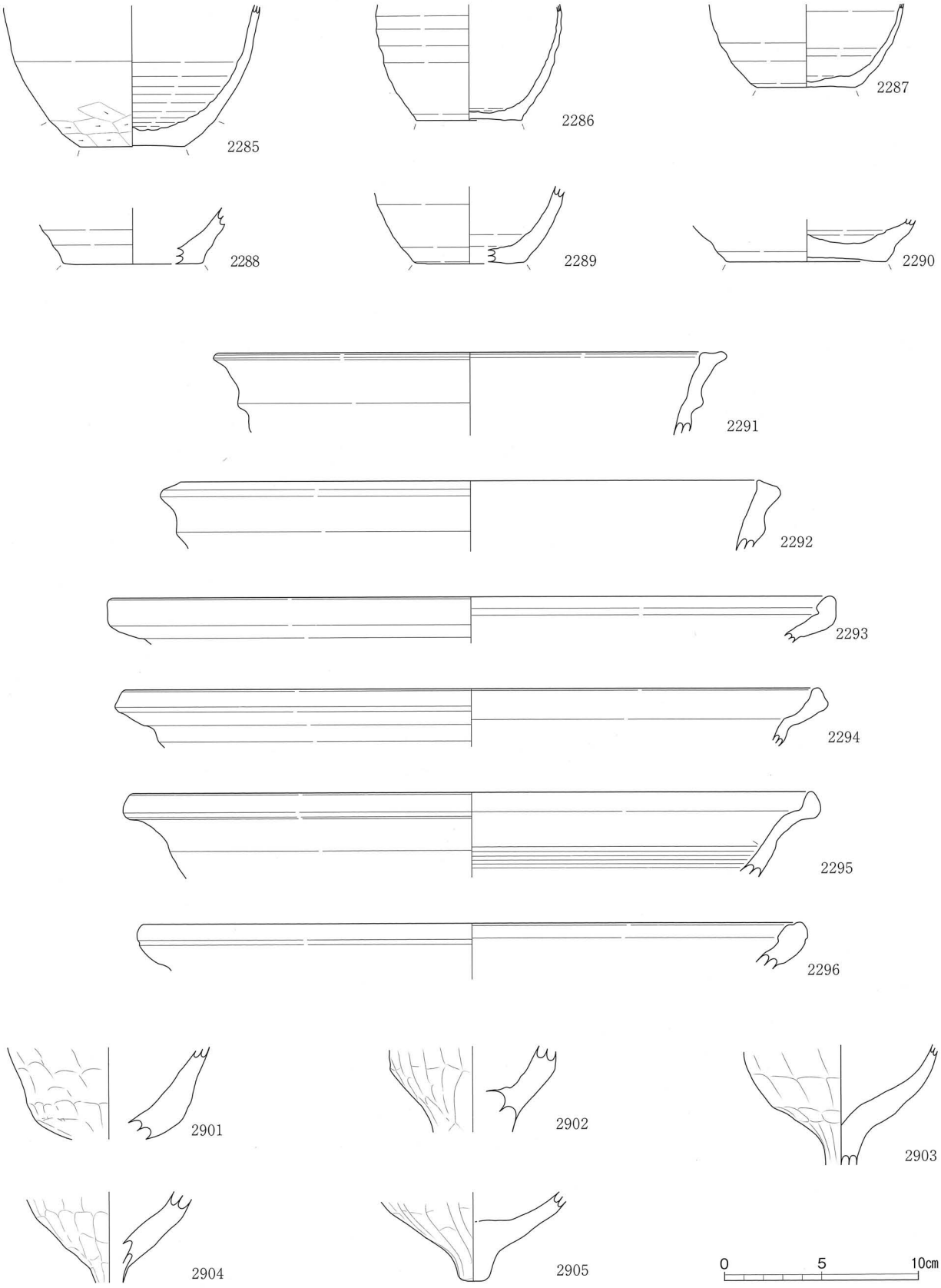
図面六〇　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

土師器

縮尺１／３

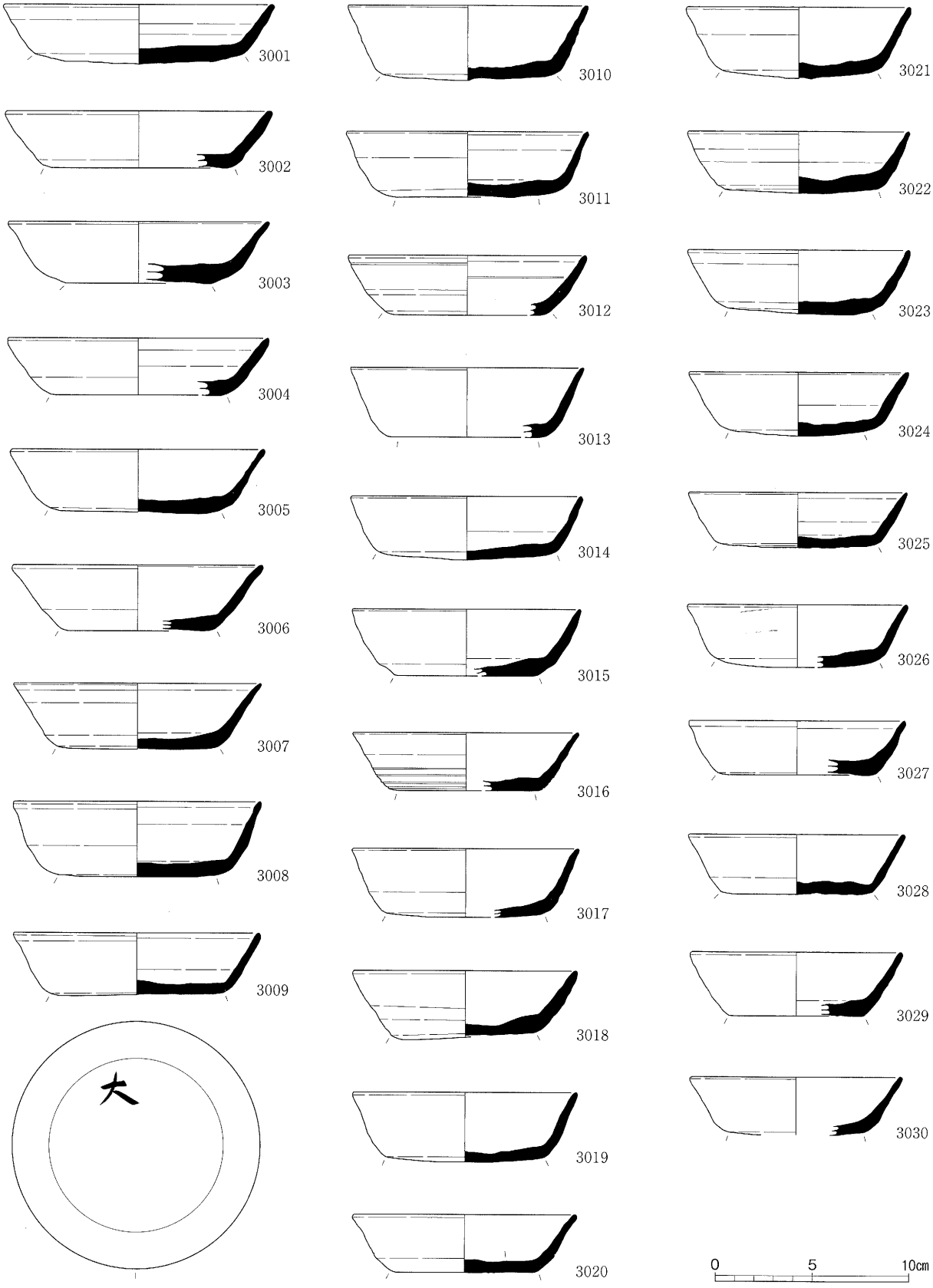


奈良平安時代の土器類

土師器；2285～2296，製塩土器；2901～2905

縮尺１／３

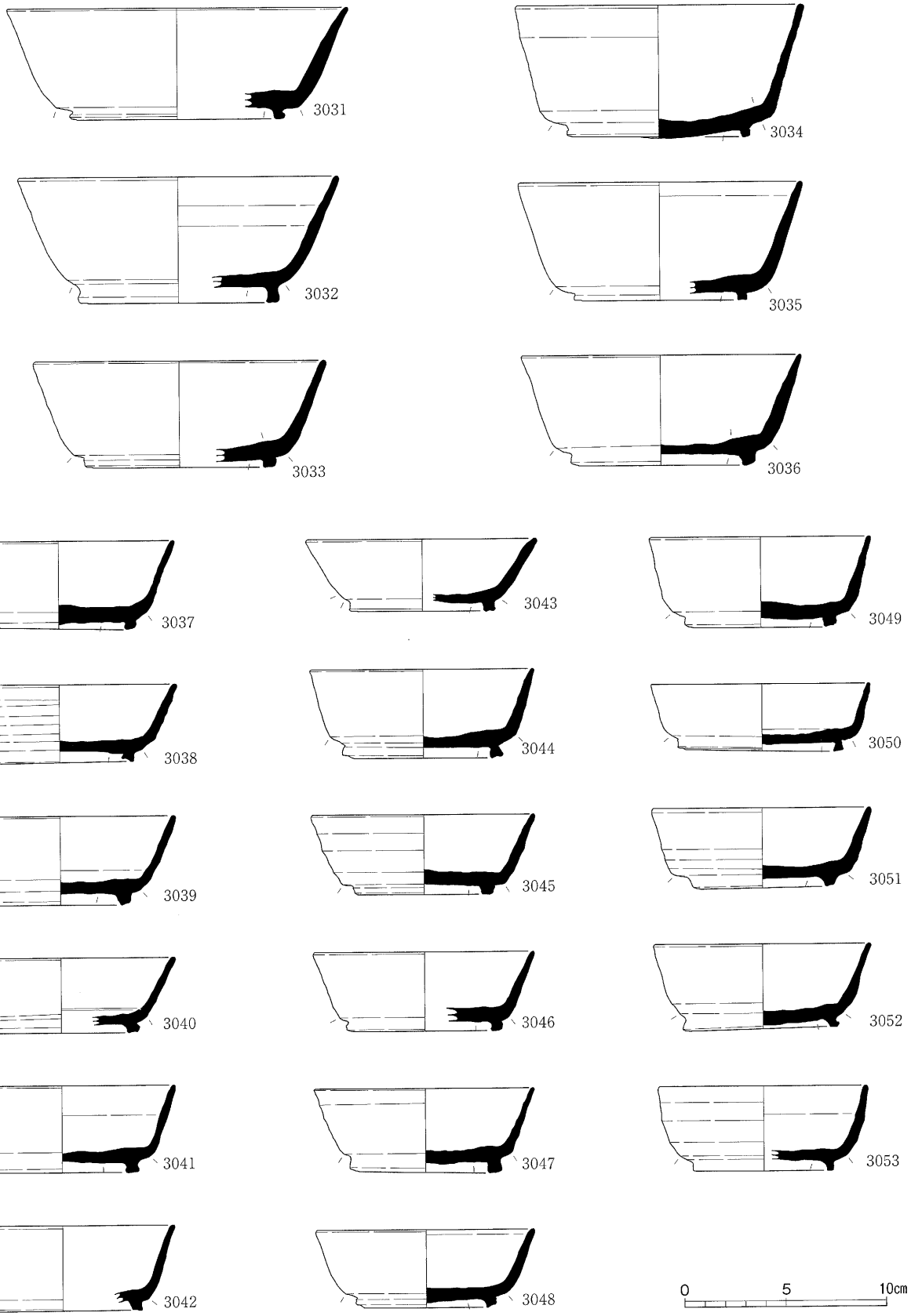
図面六二　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

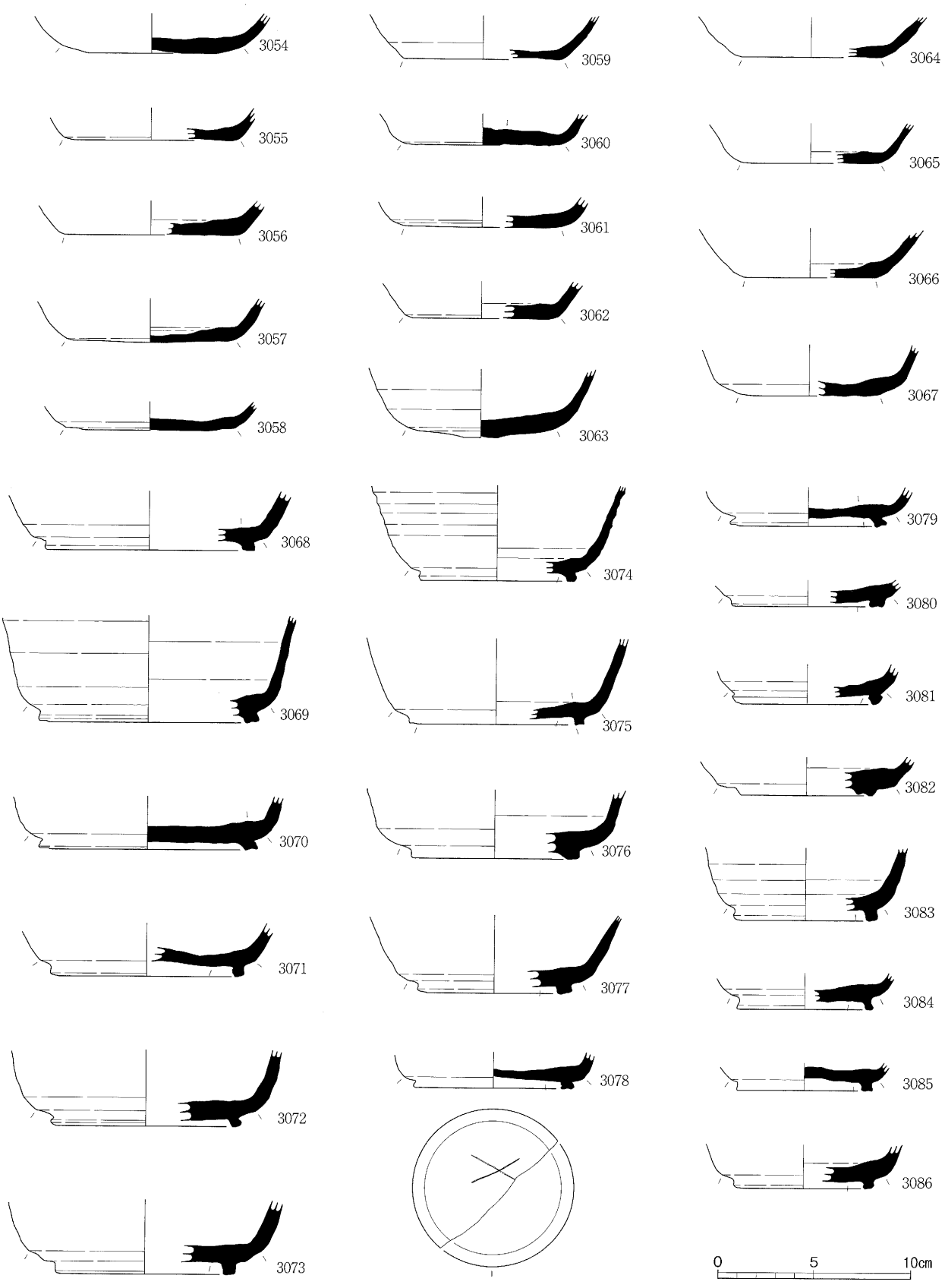


奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

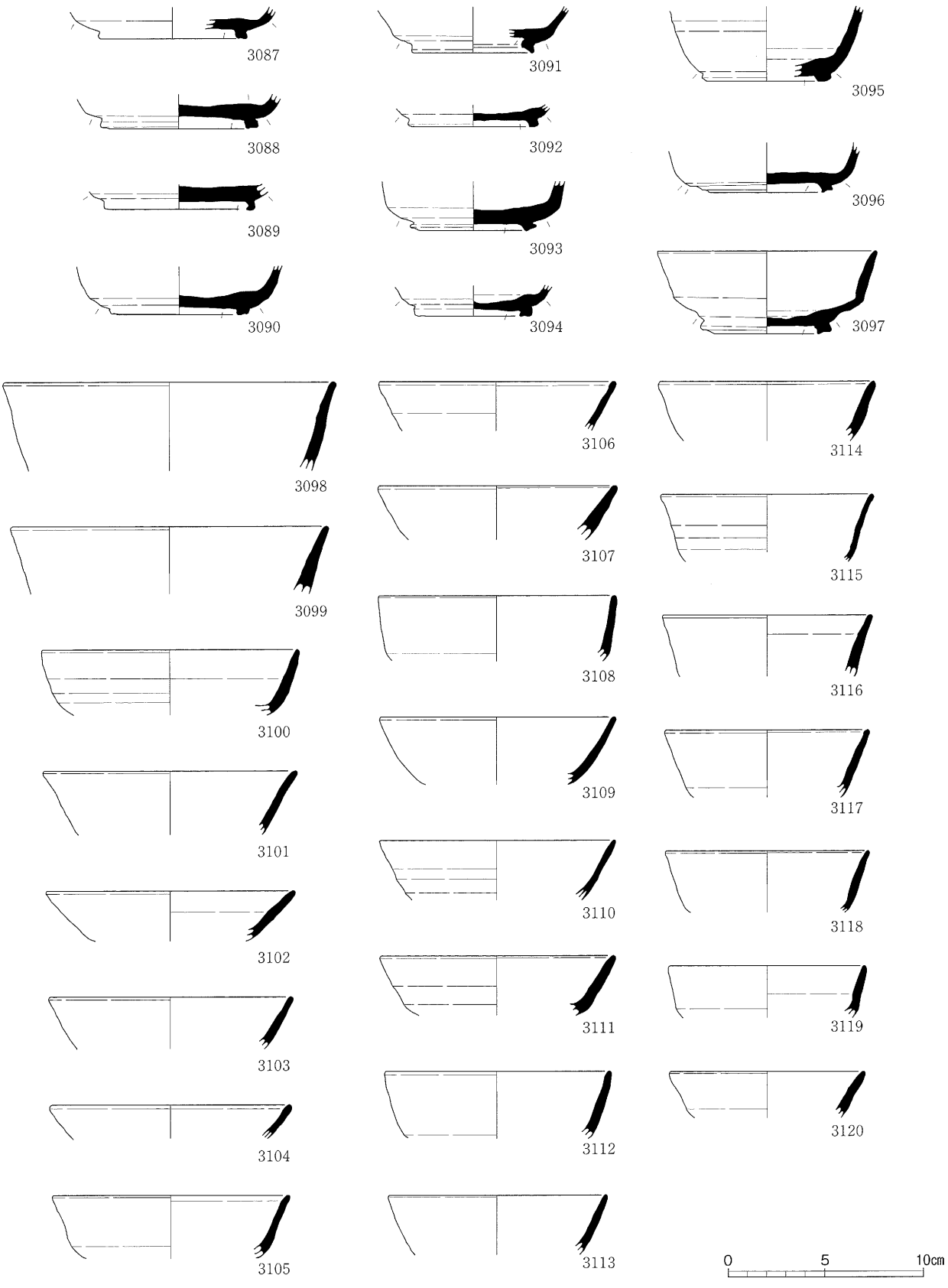
図面六四　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

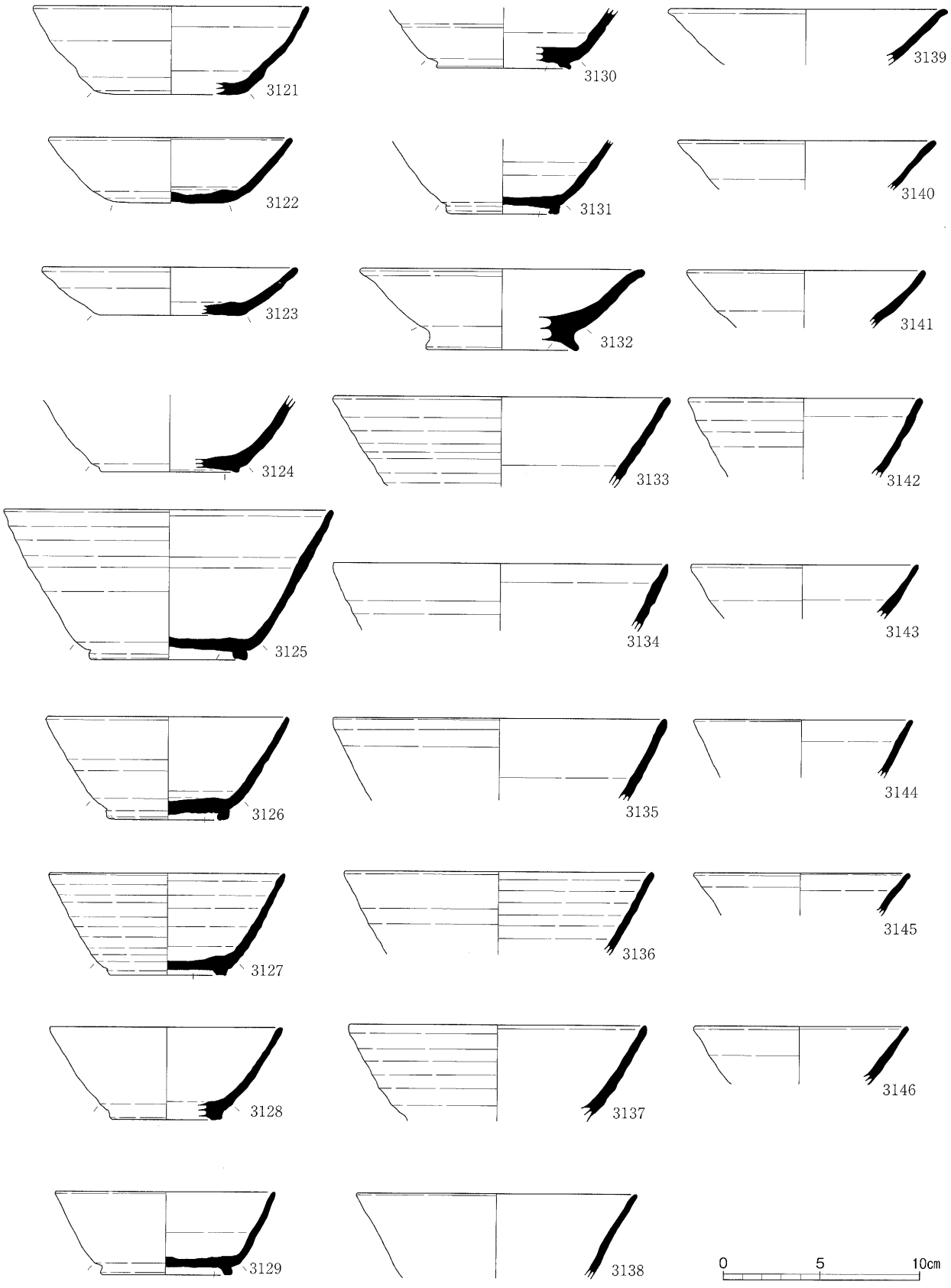


奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

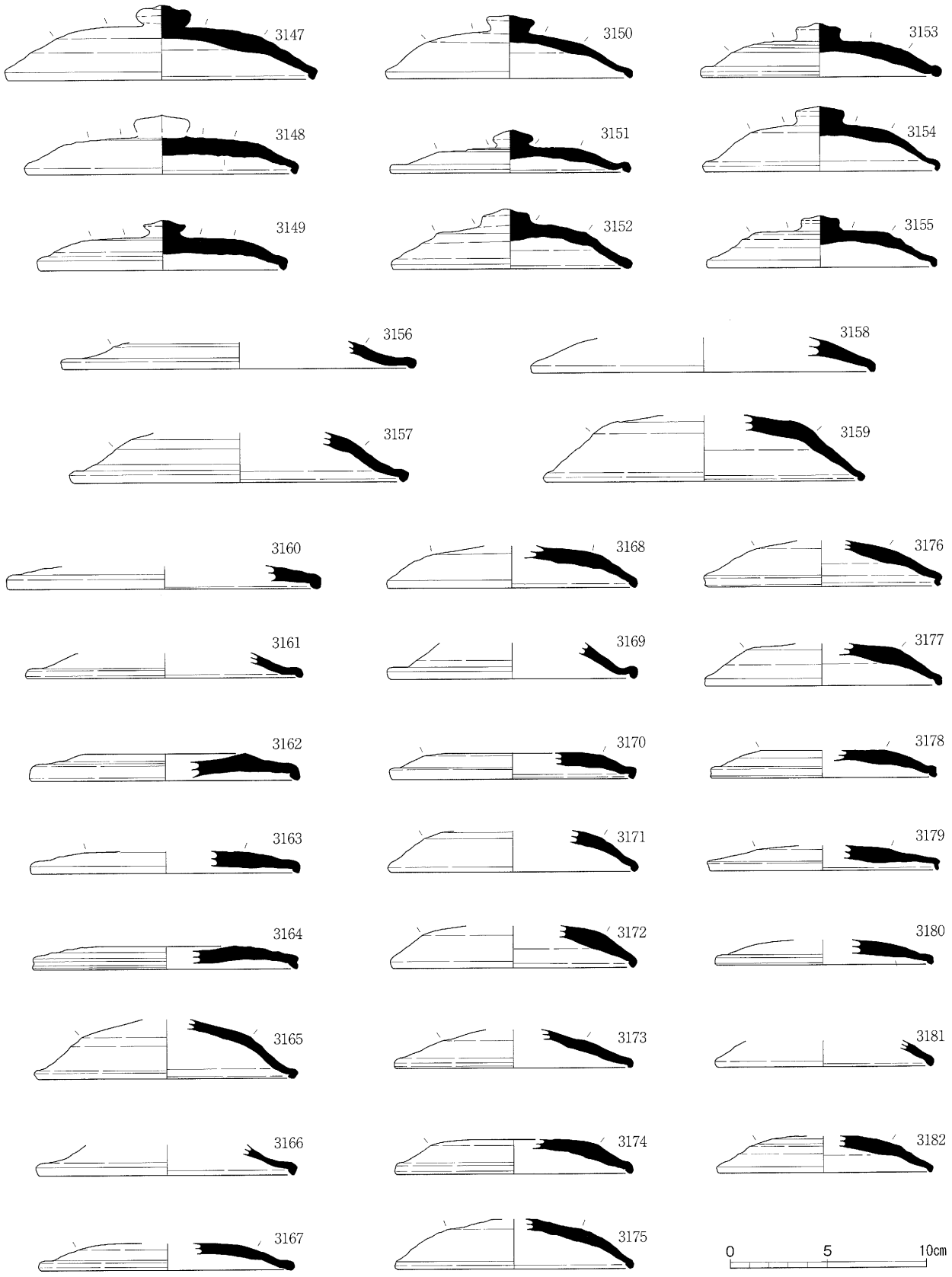
図面六六　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

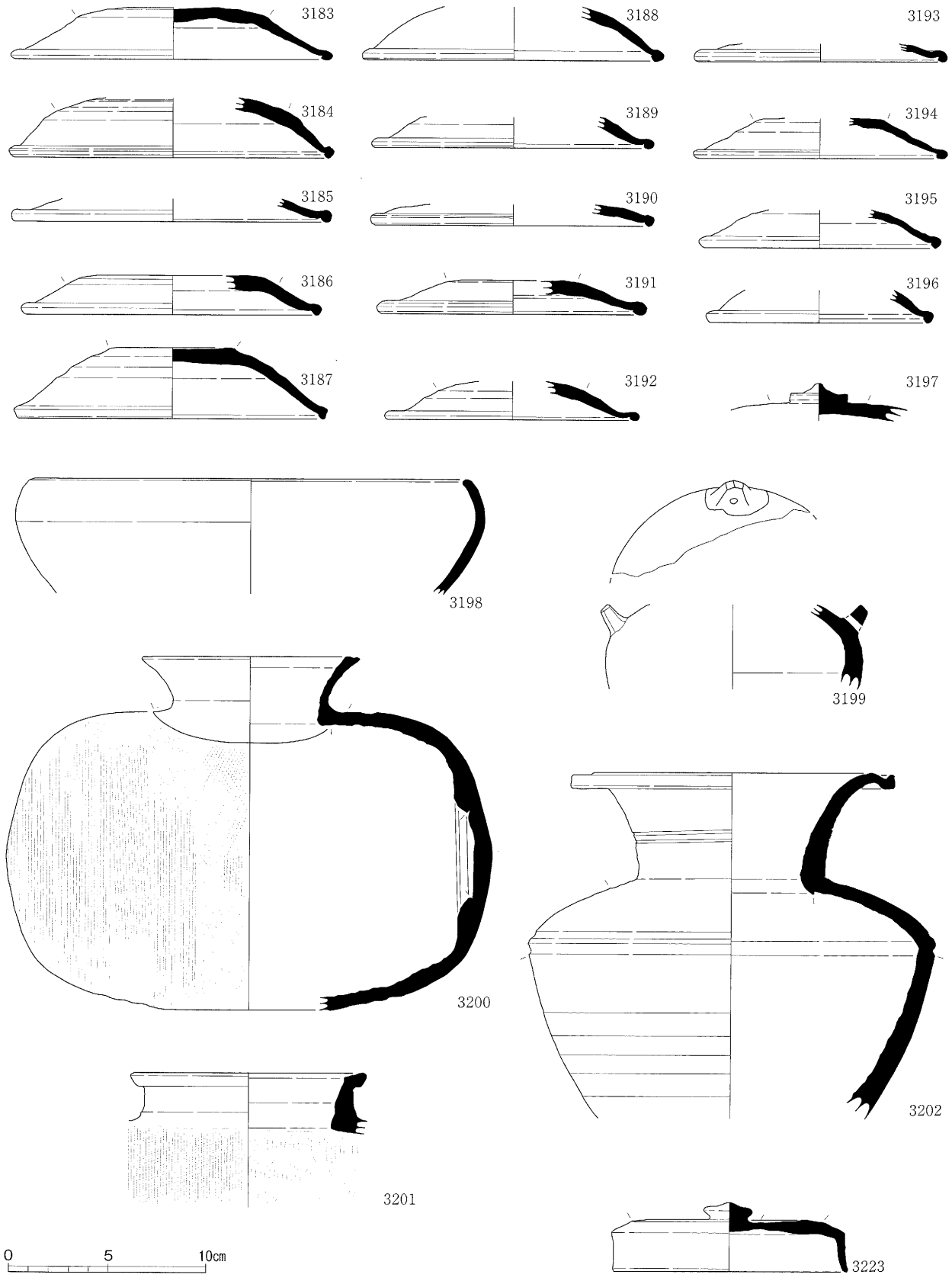


奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

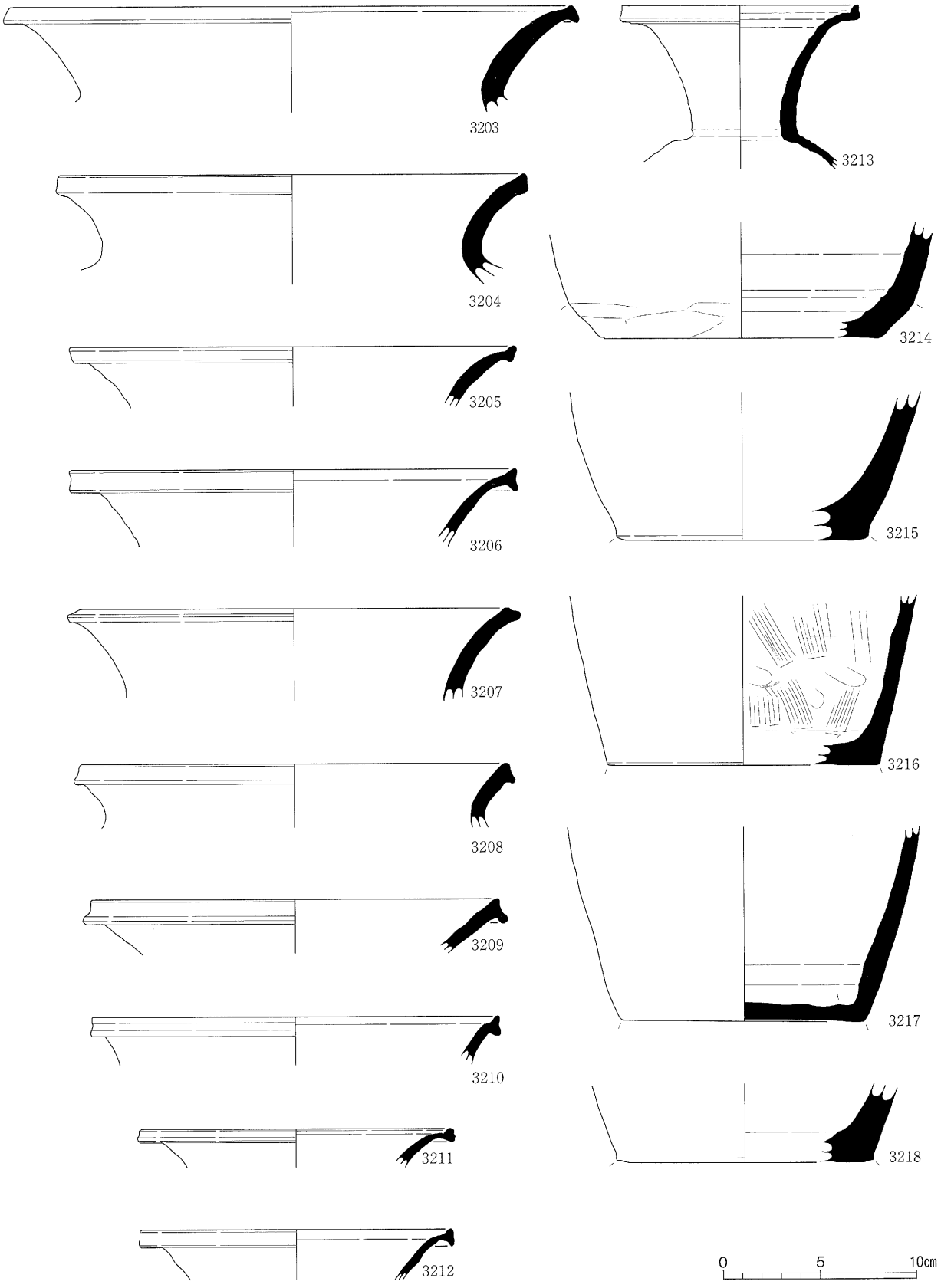
図面六八　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

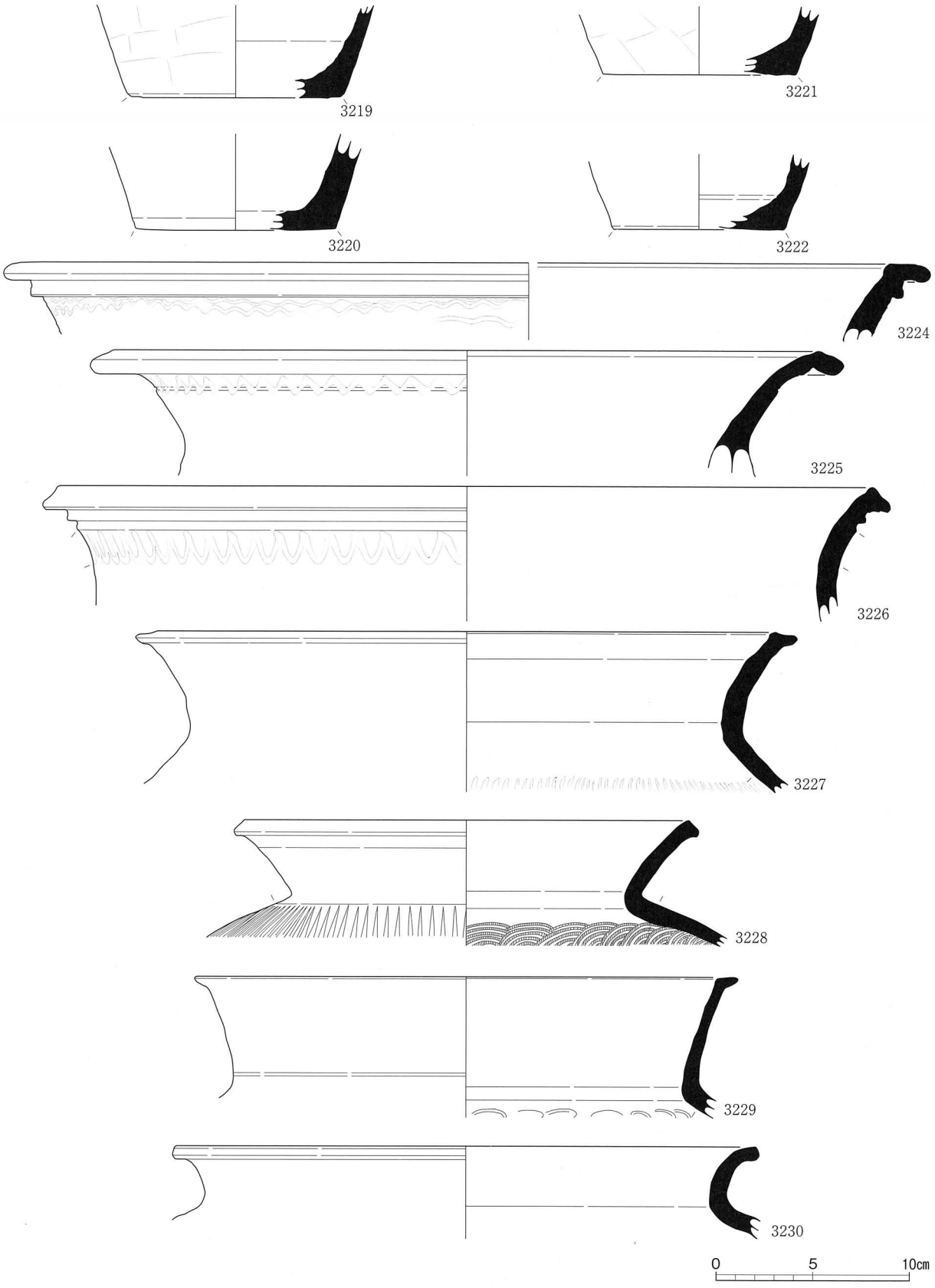


奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

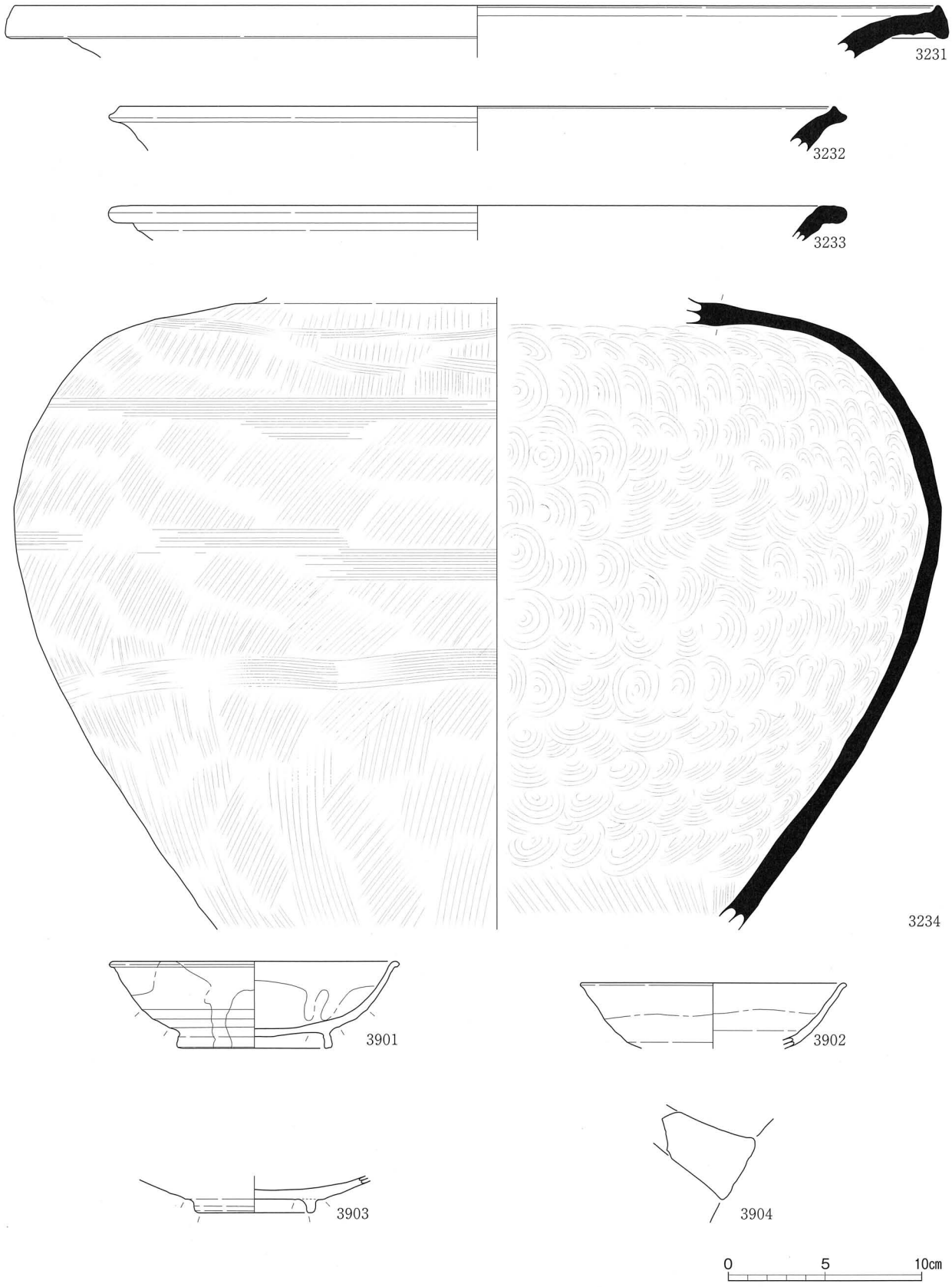
図面七〇　遺物実測図



奈良平安時代の土器類

須恵器

縮尺１／３

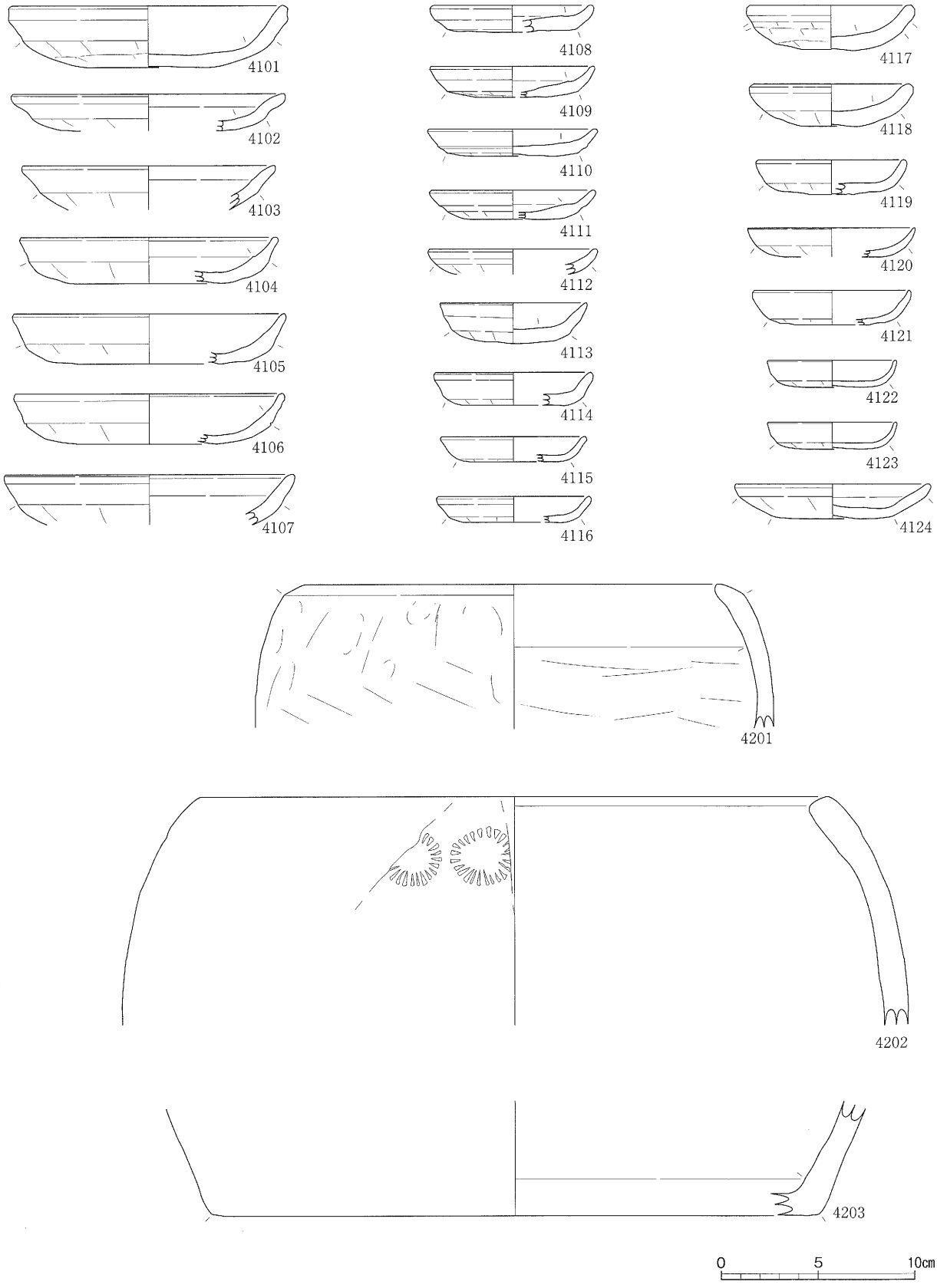


奈良平安時代の土器類

須恵器；3231～3234，灰釉陶器；3901～3904

縮尺１／３

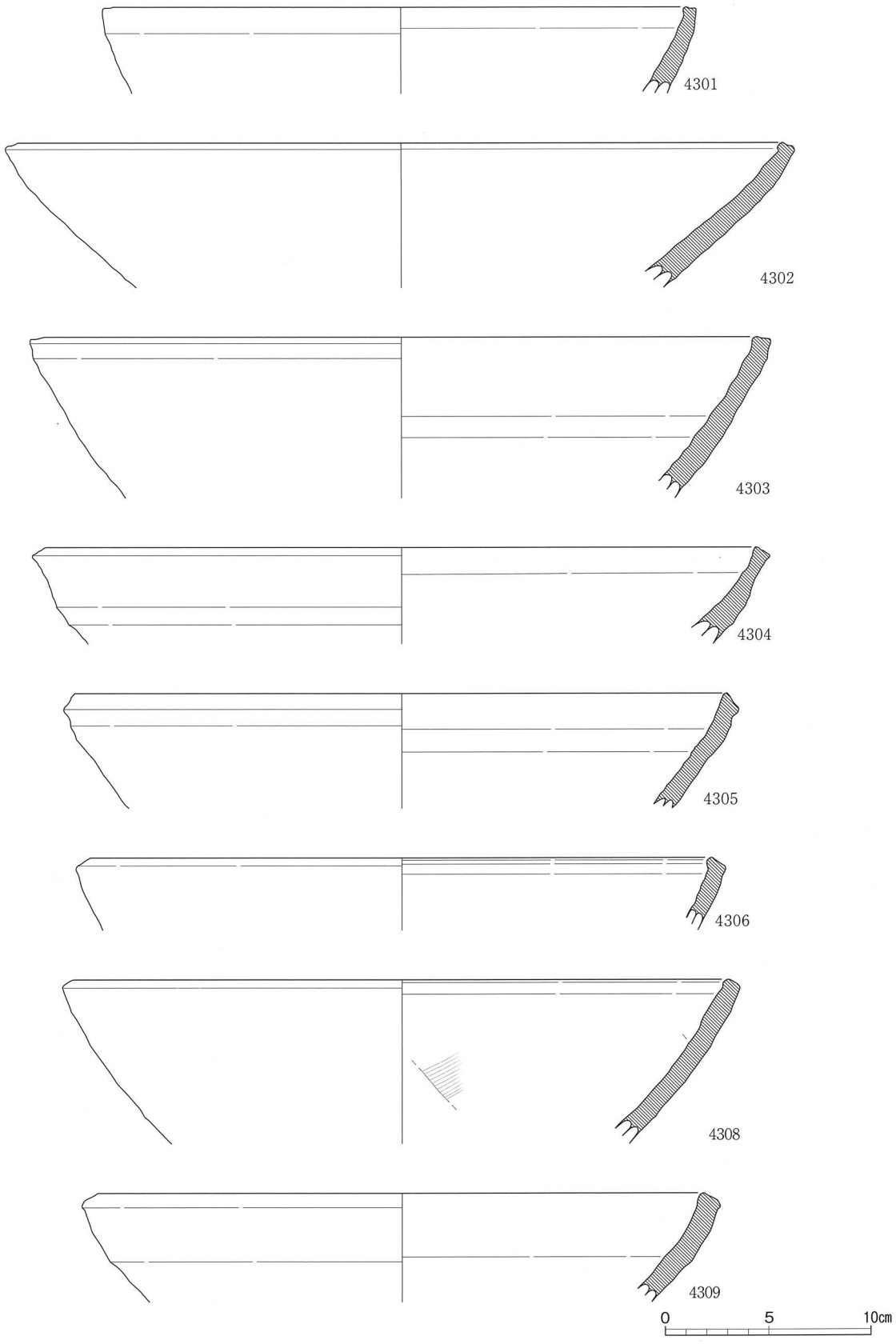
図面七二　遺物実測図



中世の土器類

土師器；4101～4124，瓦質土器；4201～4203

縮尺１／３

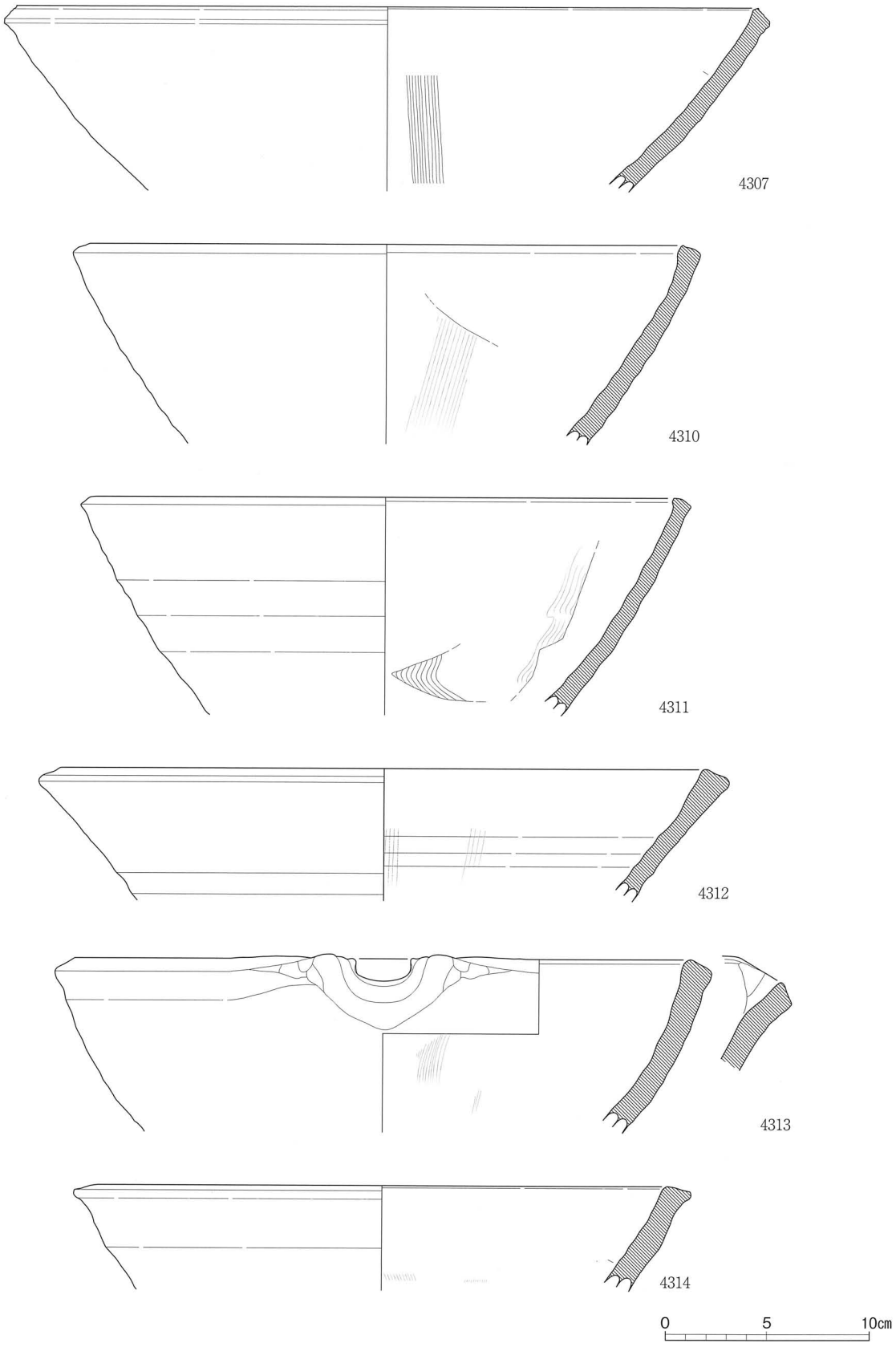


中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

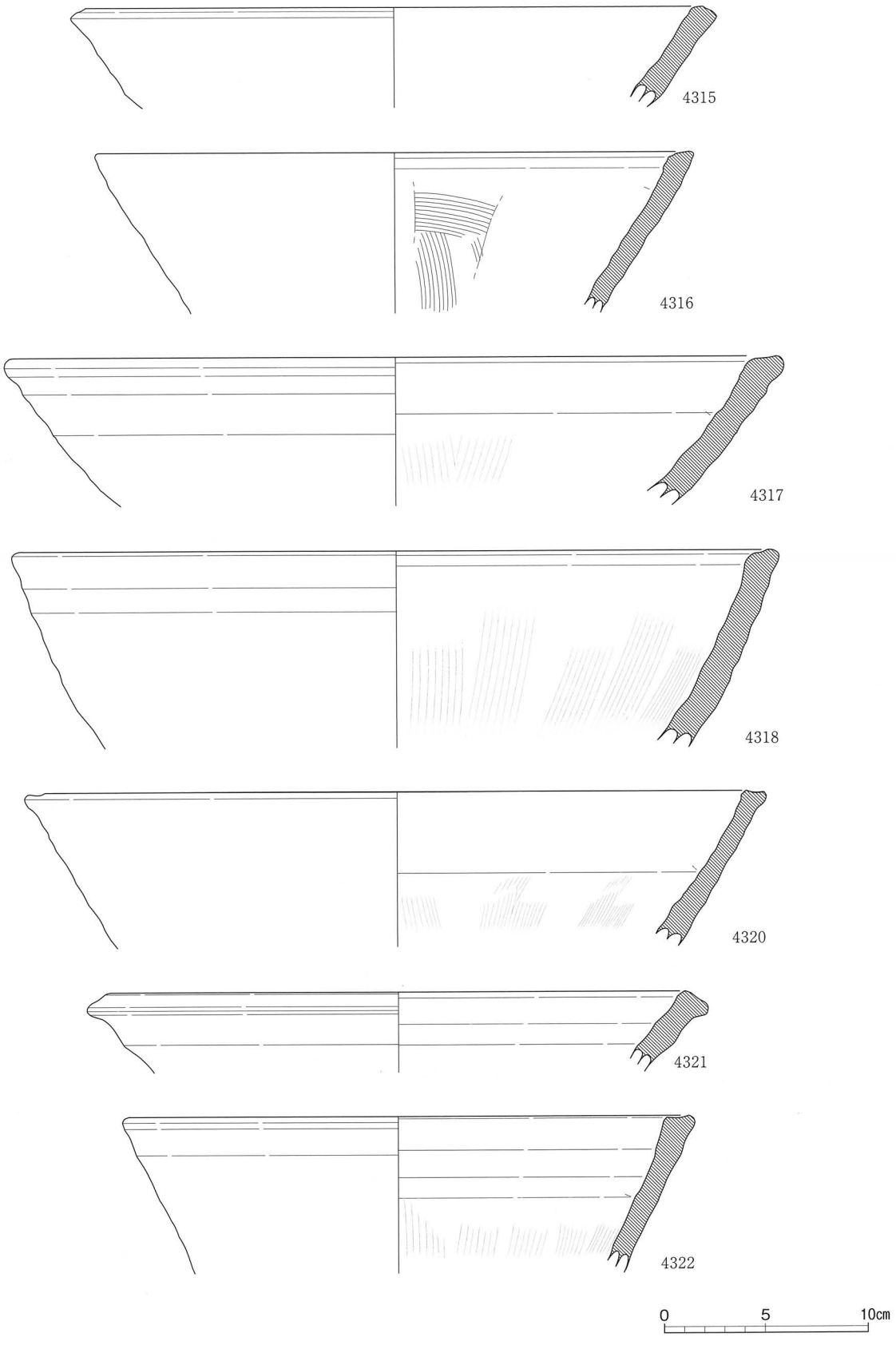
図面七四　遺物実測図



中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

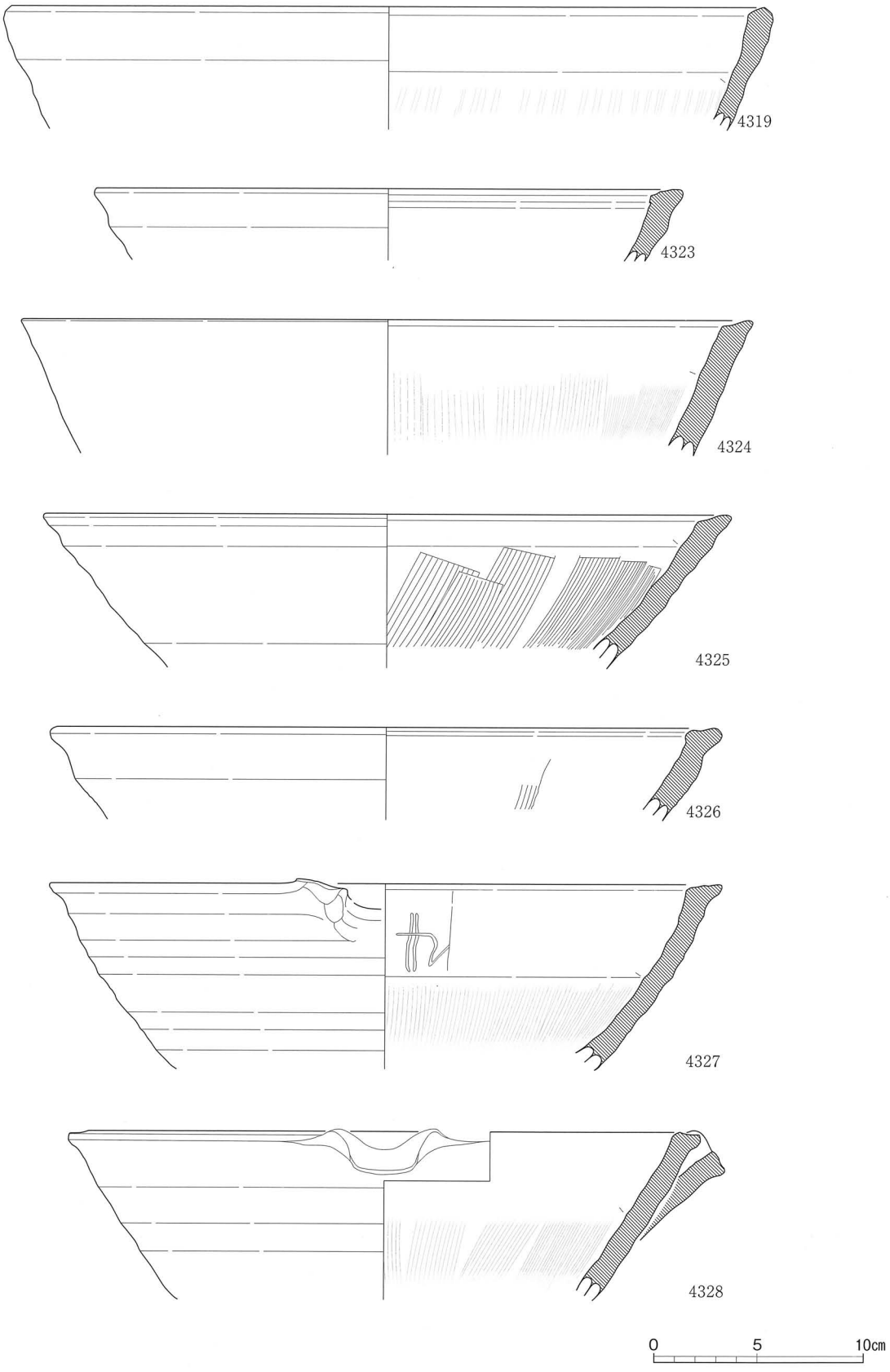


中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

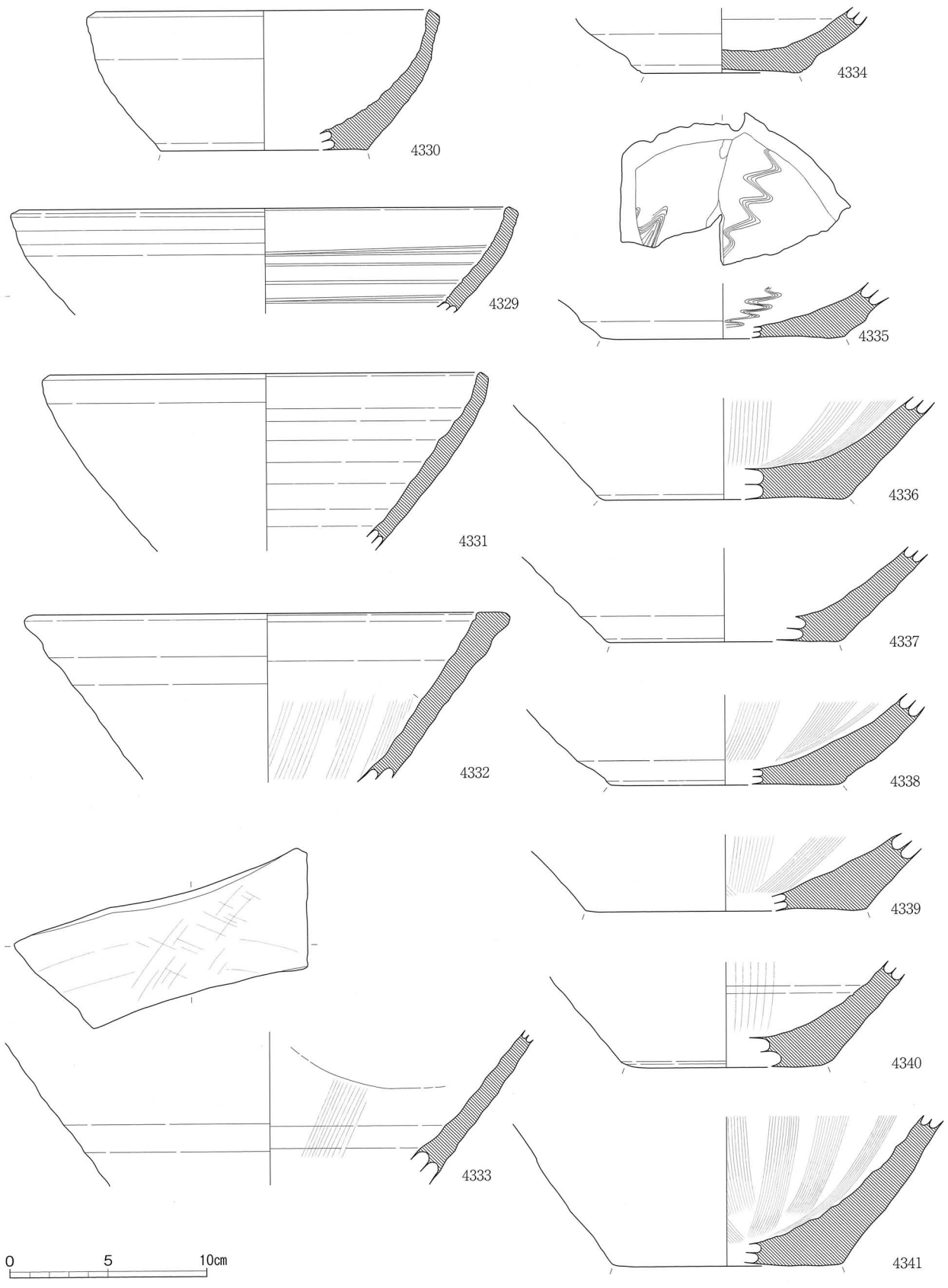
図面七六　遺物実測図



中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

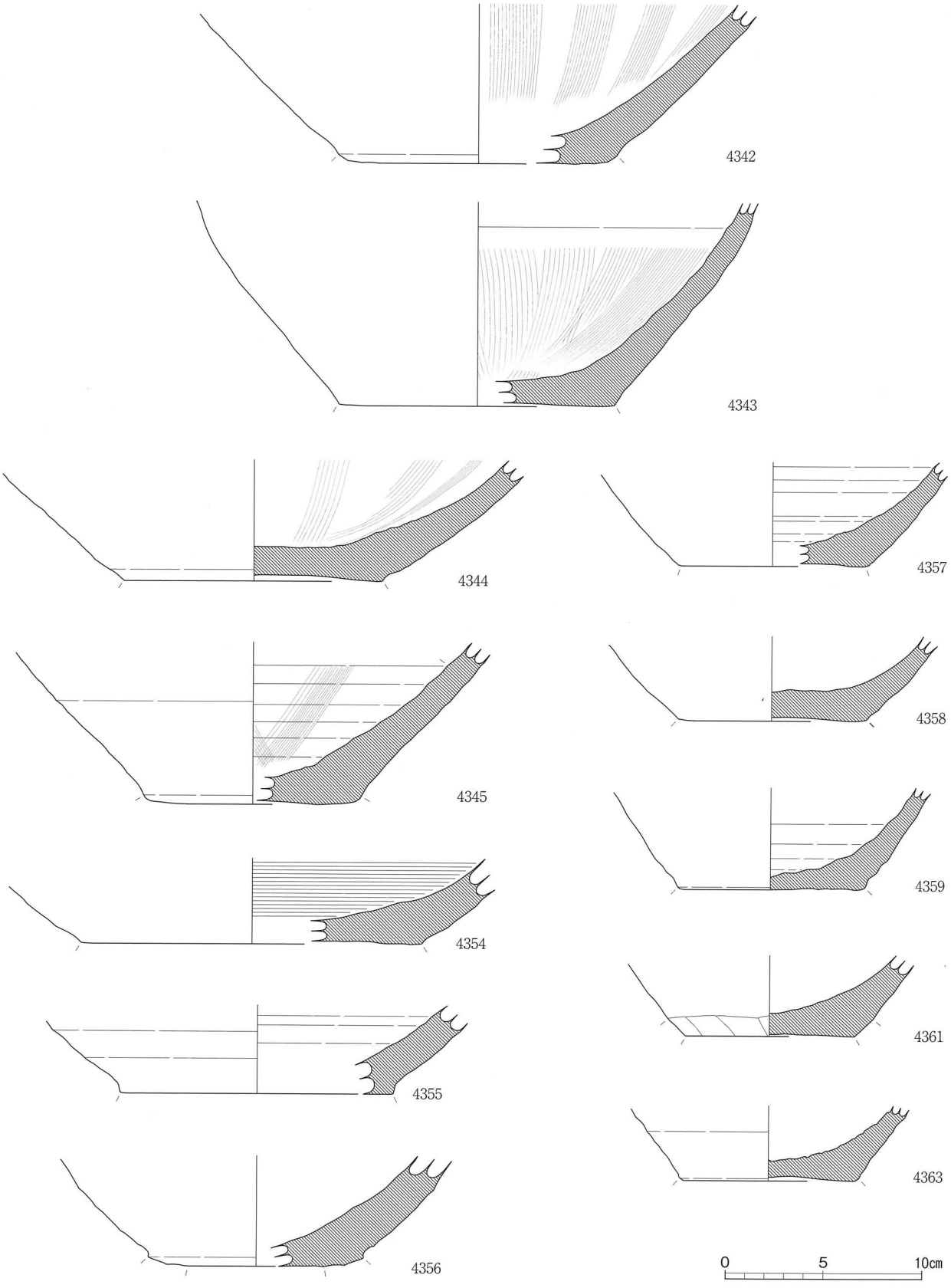


中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

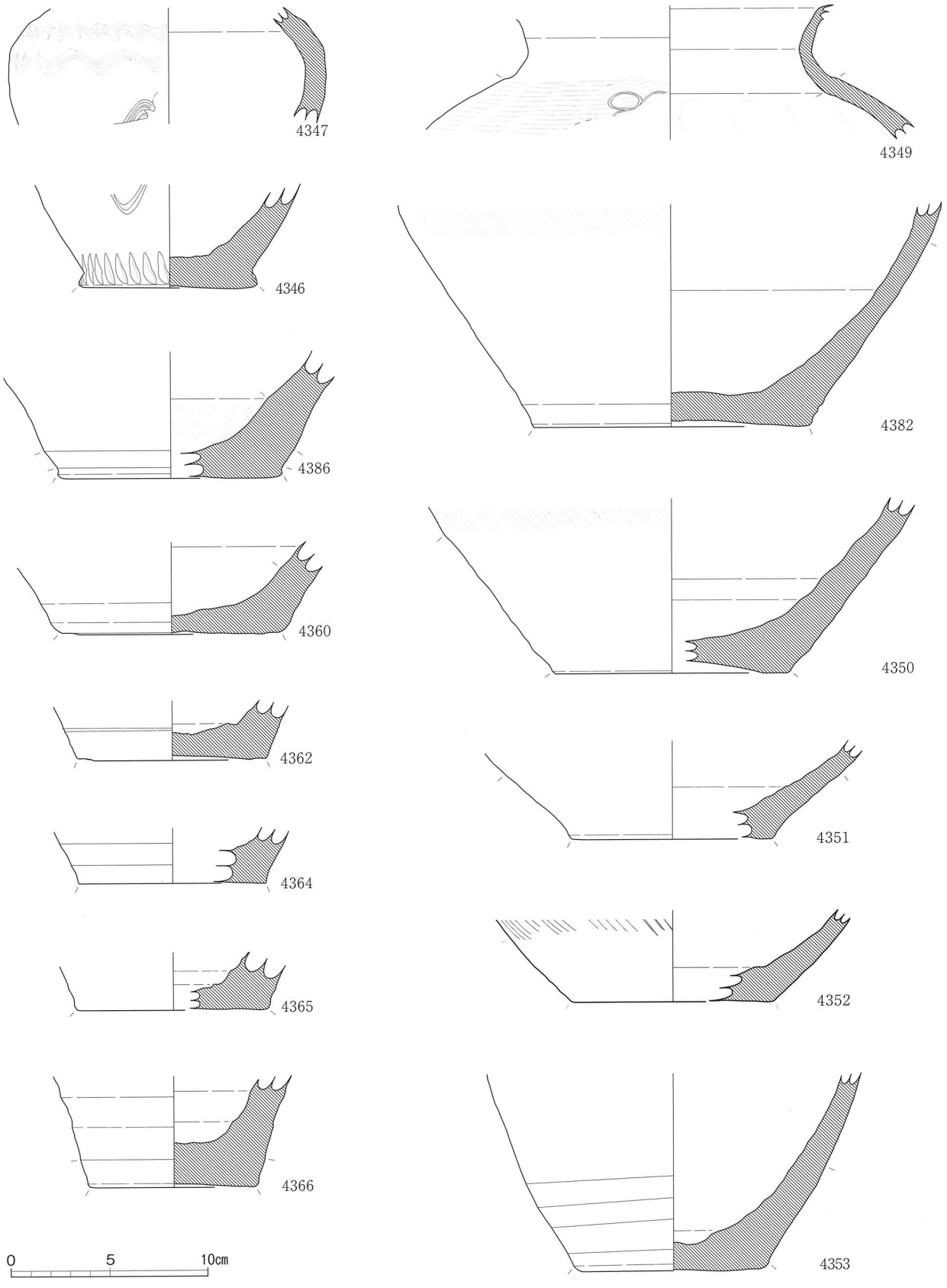
図面七八　遺物実測図



中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

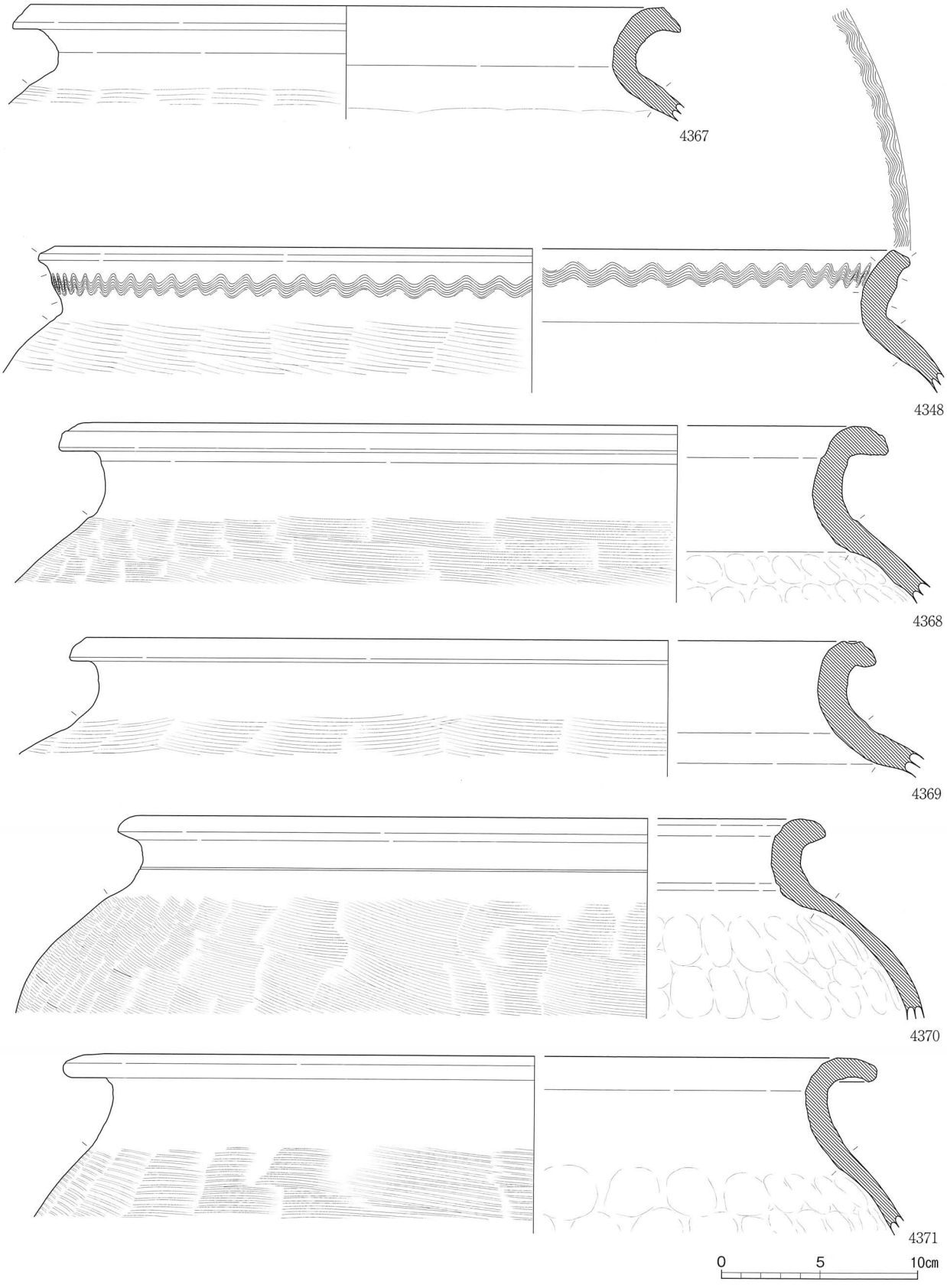


中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

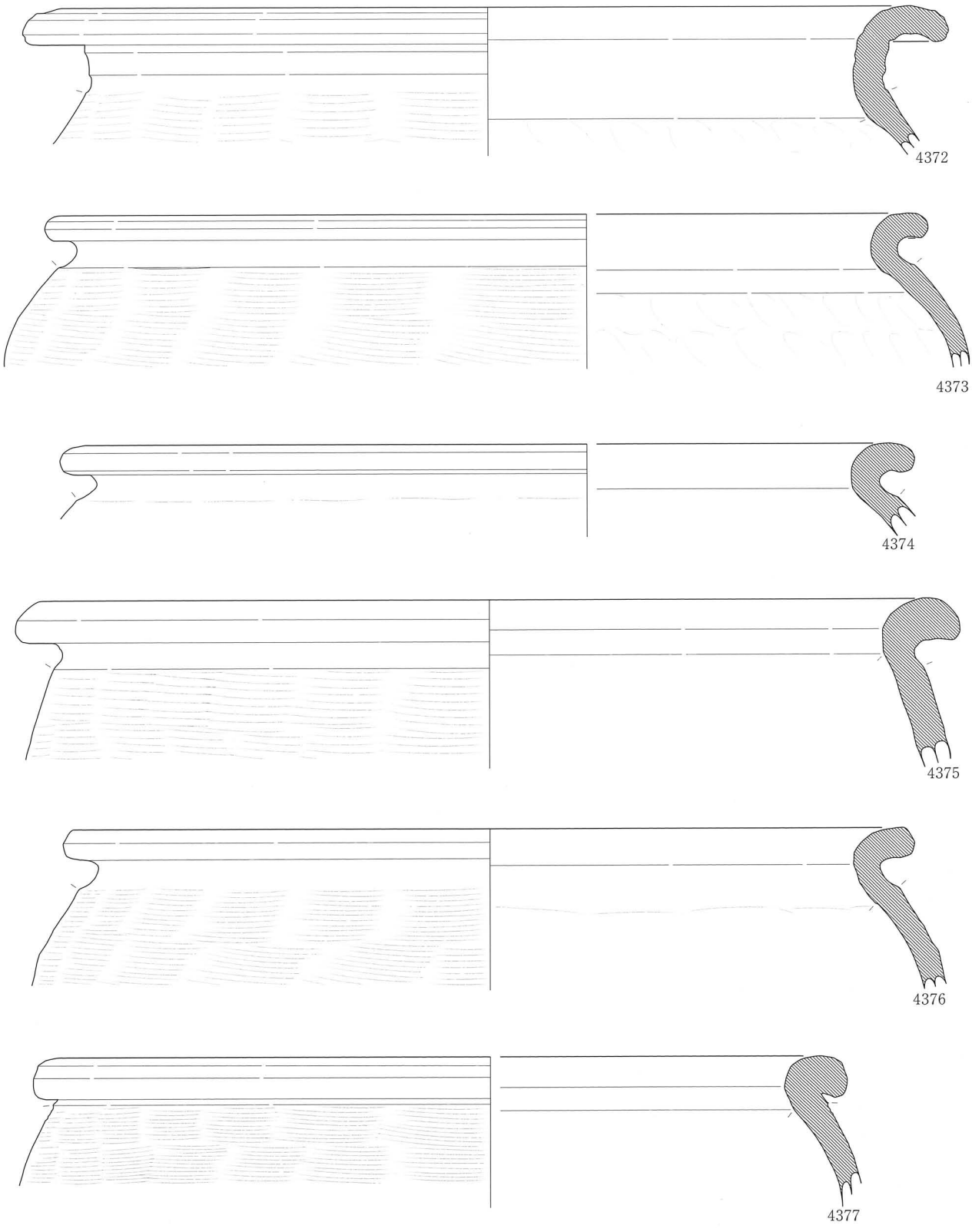
図面八〇　遺物実測図



中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

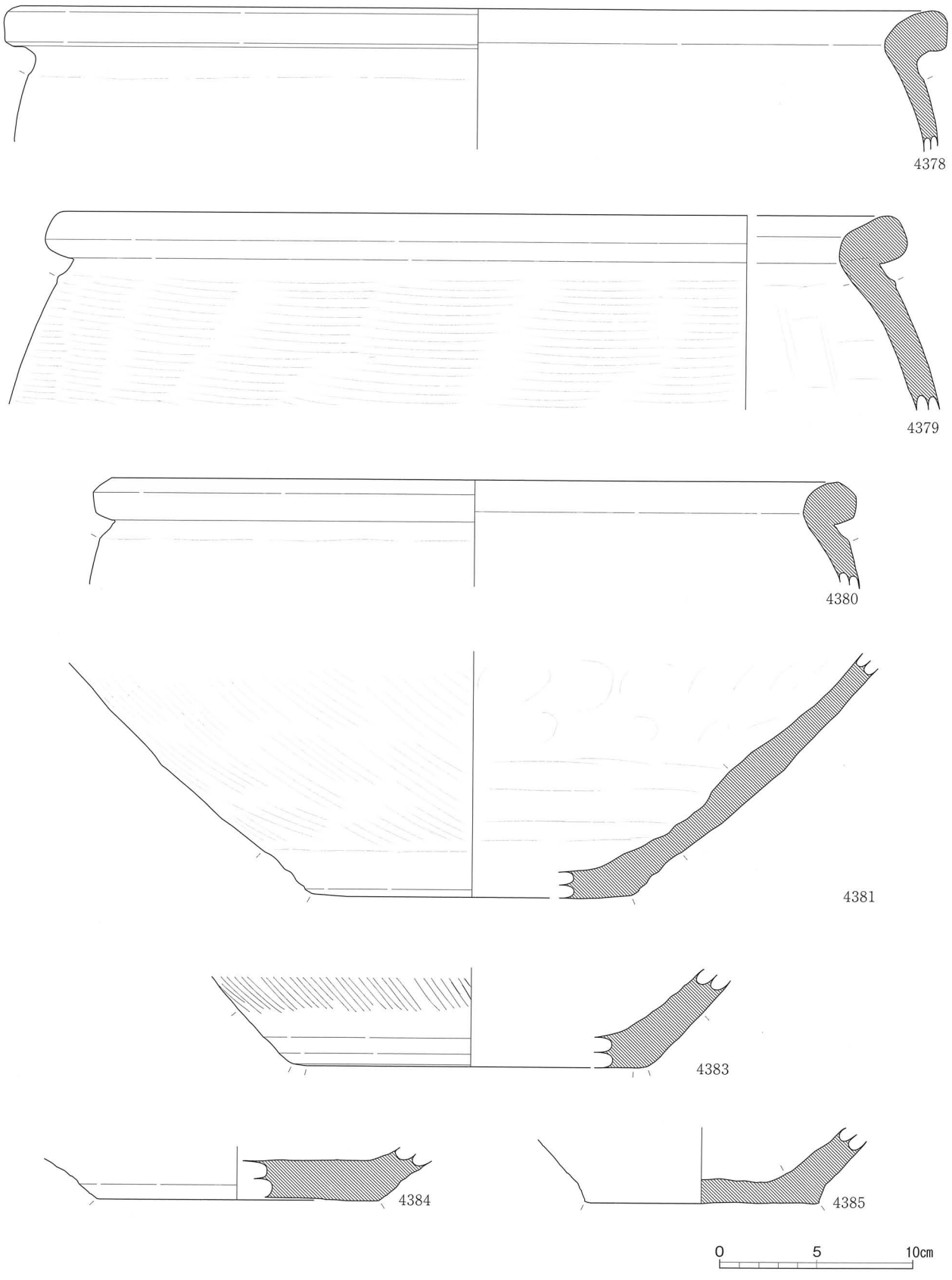


中世の土器類

珠洲

縮尺１／３

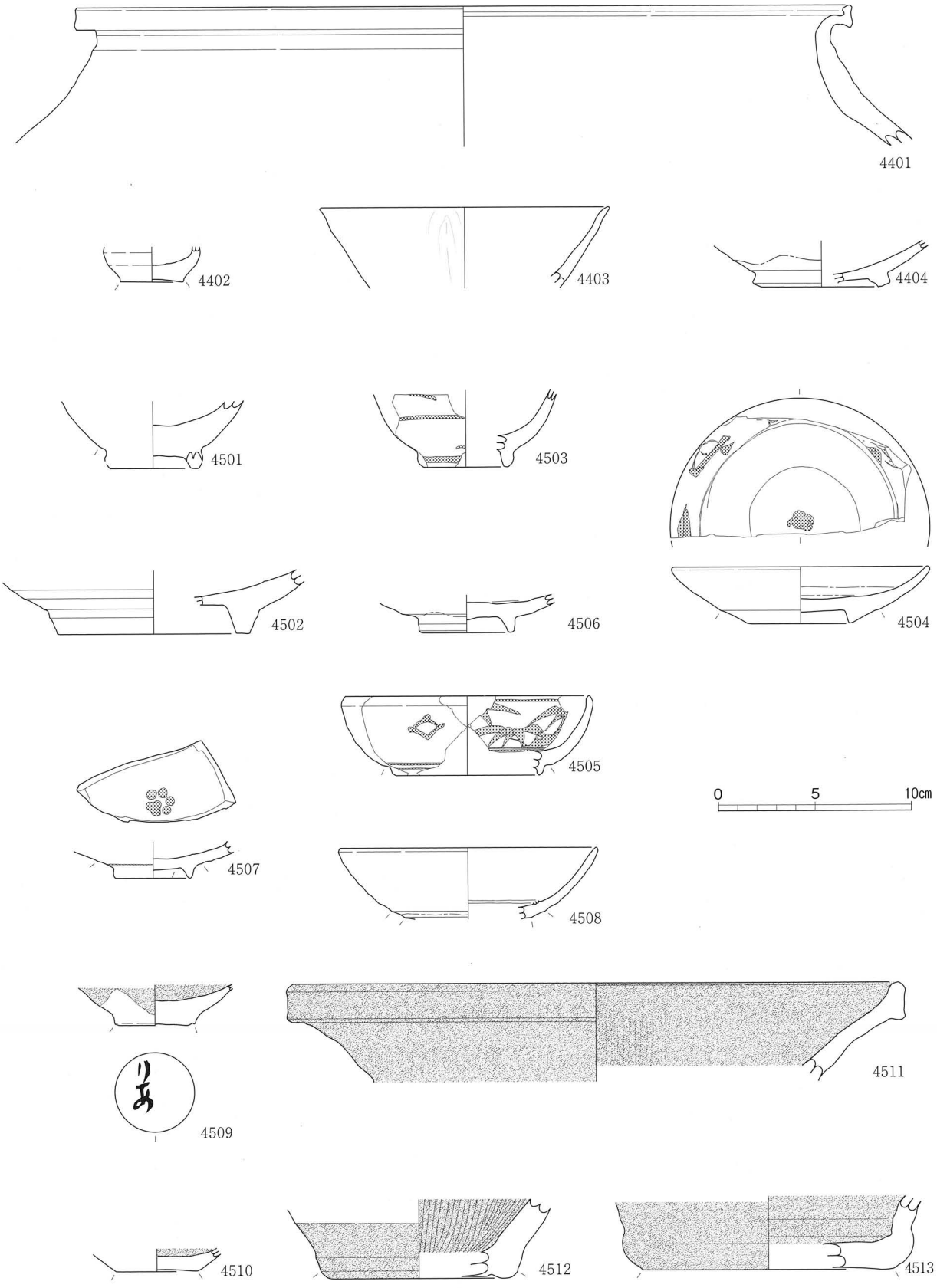
図面八二　遺物実測図



中世の土器類

珠洲

縮尺１／３



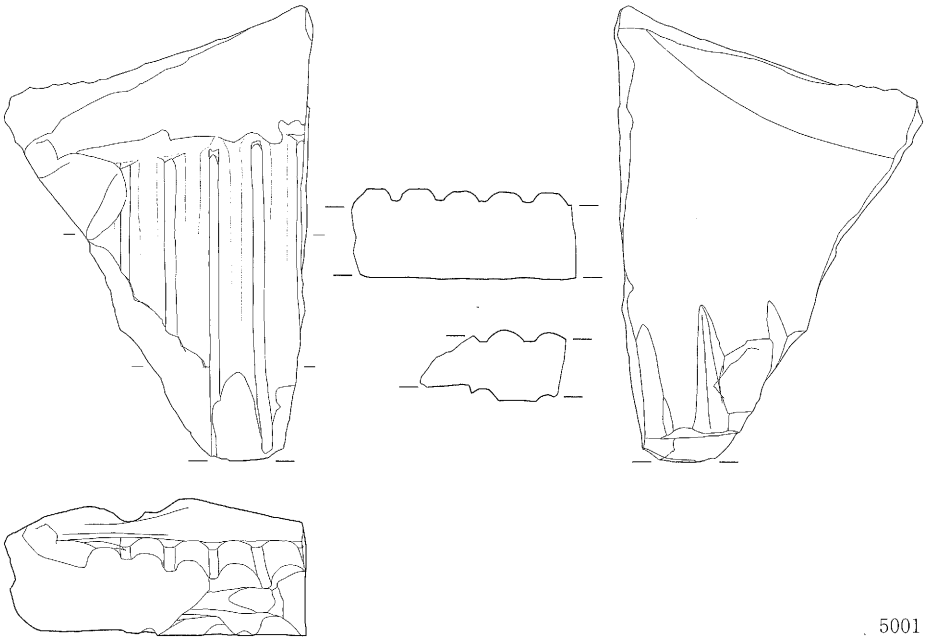
中世の土器類，近世の陶磁器類

八尾；4401，瀬戸美濃；4402，青磁；4403，白磁；4404，肥前陶器；4501～4502，

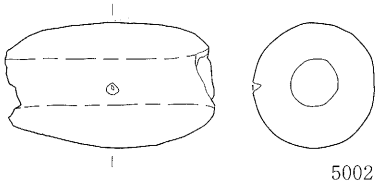
肥前磁器；4503～4506（4506は波佐見系の青磁皿），　瀬戸美濃；4507，越中瀬戸；4508～4513

縮尺１／３

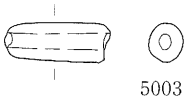
図面八四　遺物実測図



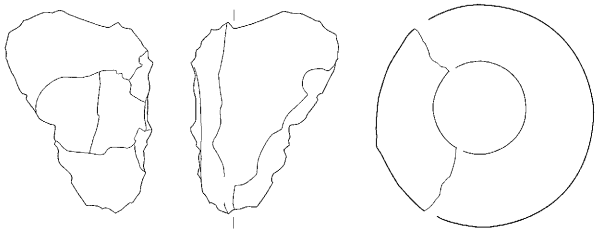
5001



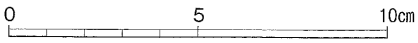
5002



5003



5004

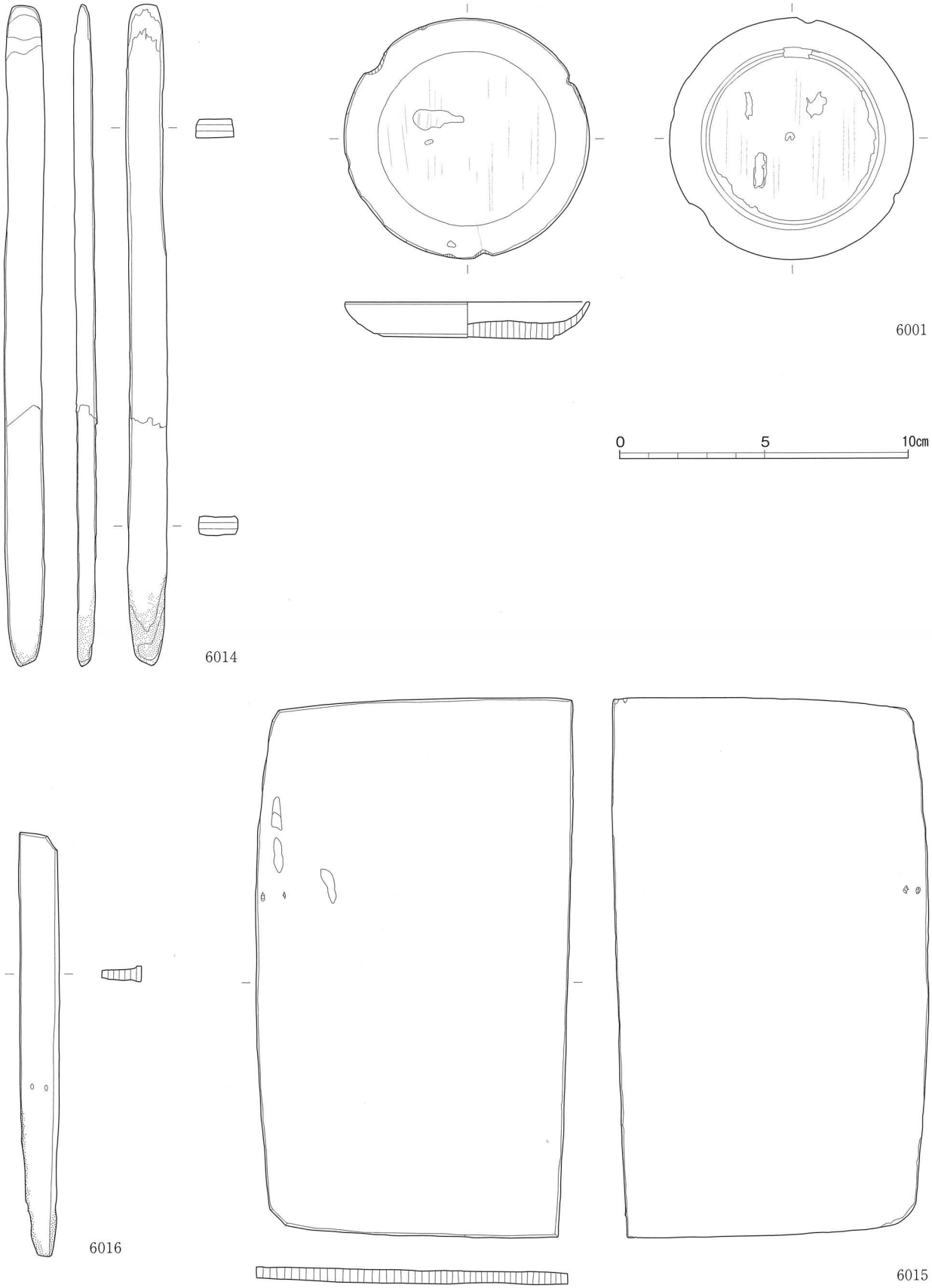


土製品

瓦塔：5001，土錘：5002～5003，鞴の羽口：5004

縮尺１／２

図面八五　遺物実測図

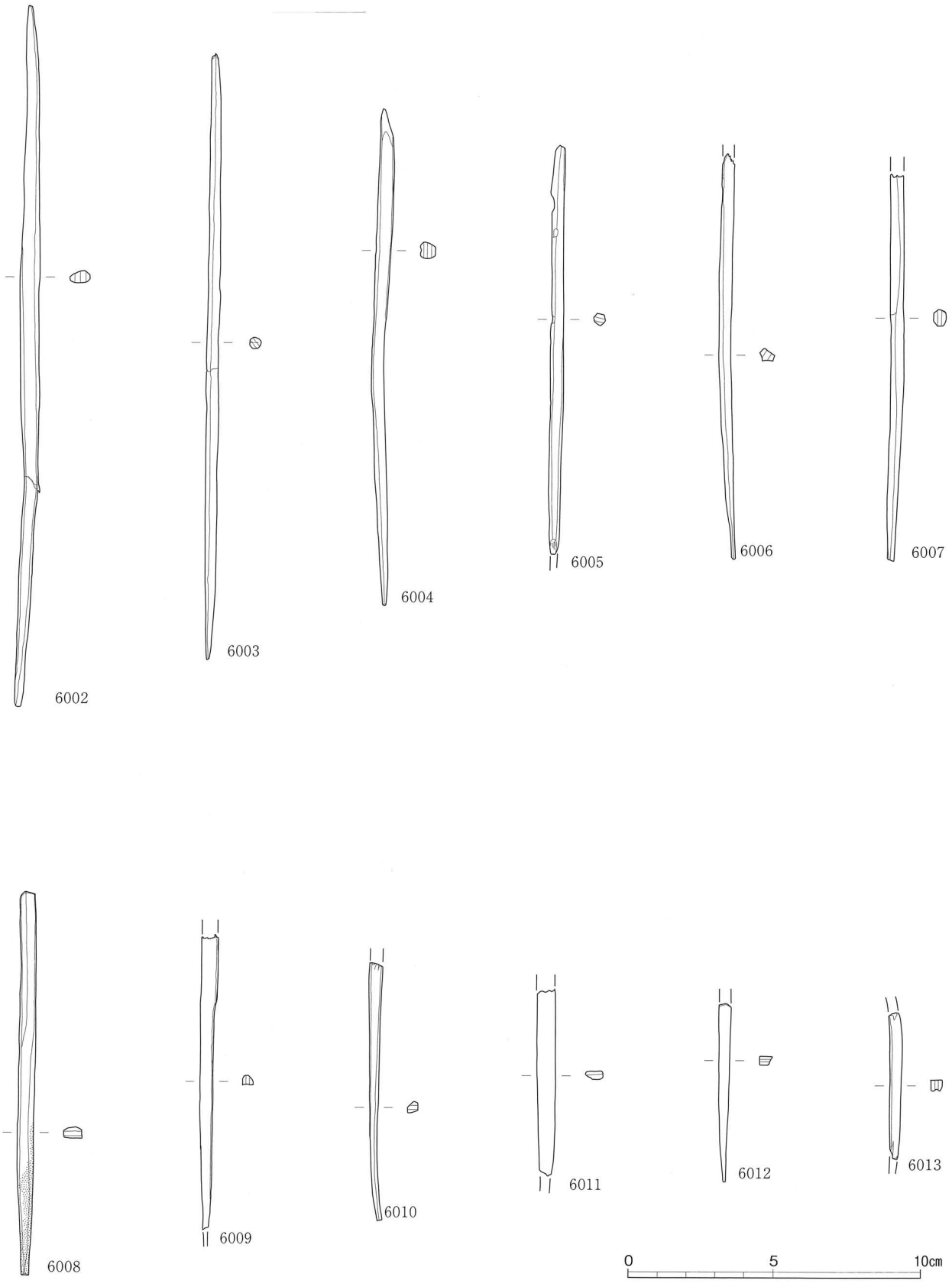


木製品

縮尺１／２

皿；6001，篦状具；6014，板状品；6015，木片；6016

図面八六　遺物実測図

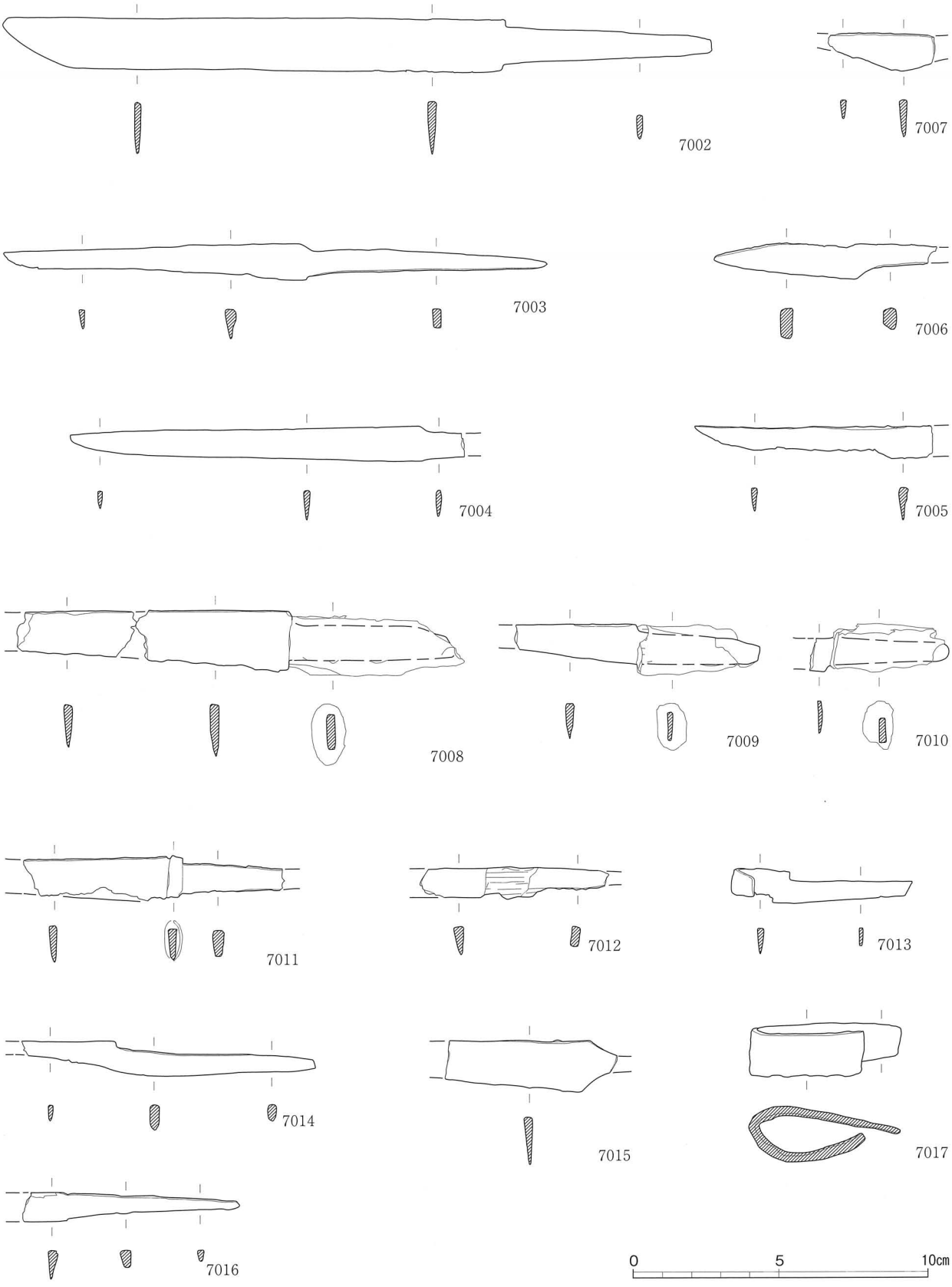


木製品

箸

縮尺１／２

図面八七　遺物実測図

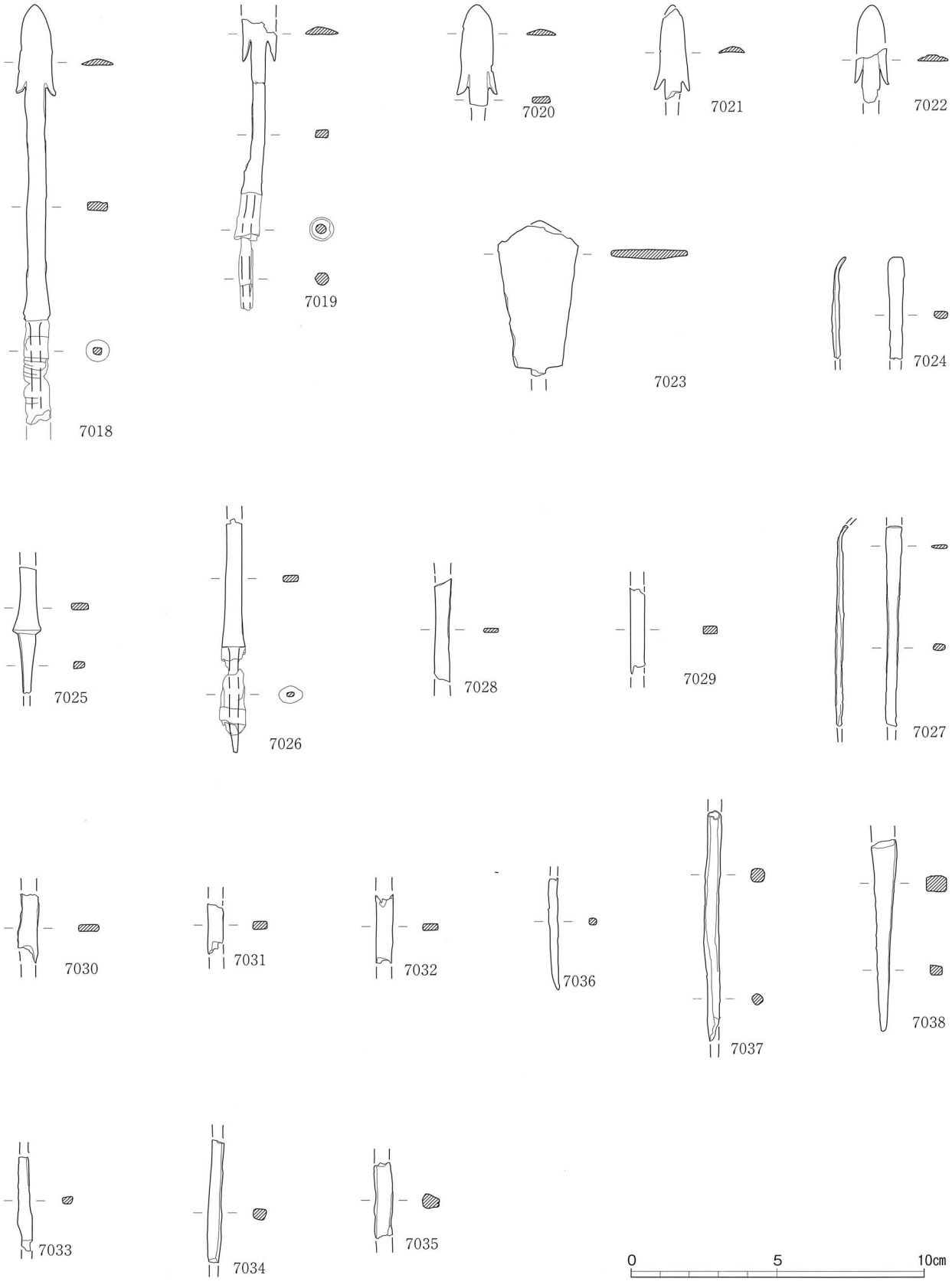


鉄製品

刀子：7002～7017

縮尺１／２

図面八八　遺物実測図

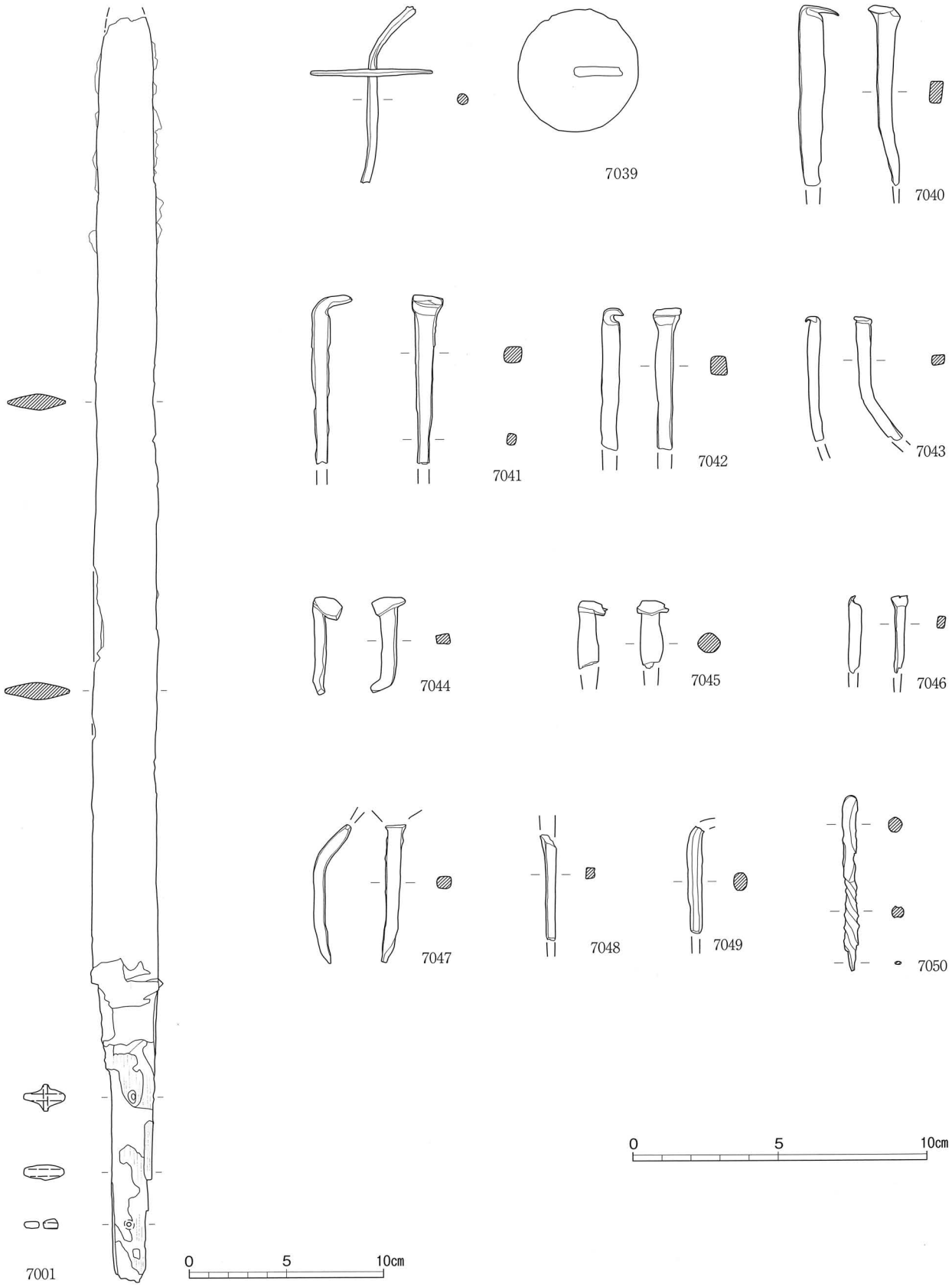


鉄製品

鉄鏃

縮尺１／２

図面八九　遺物実測図

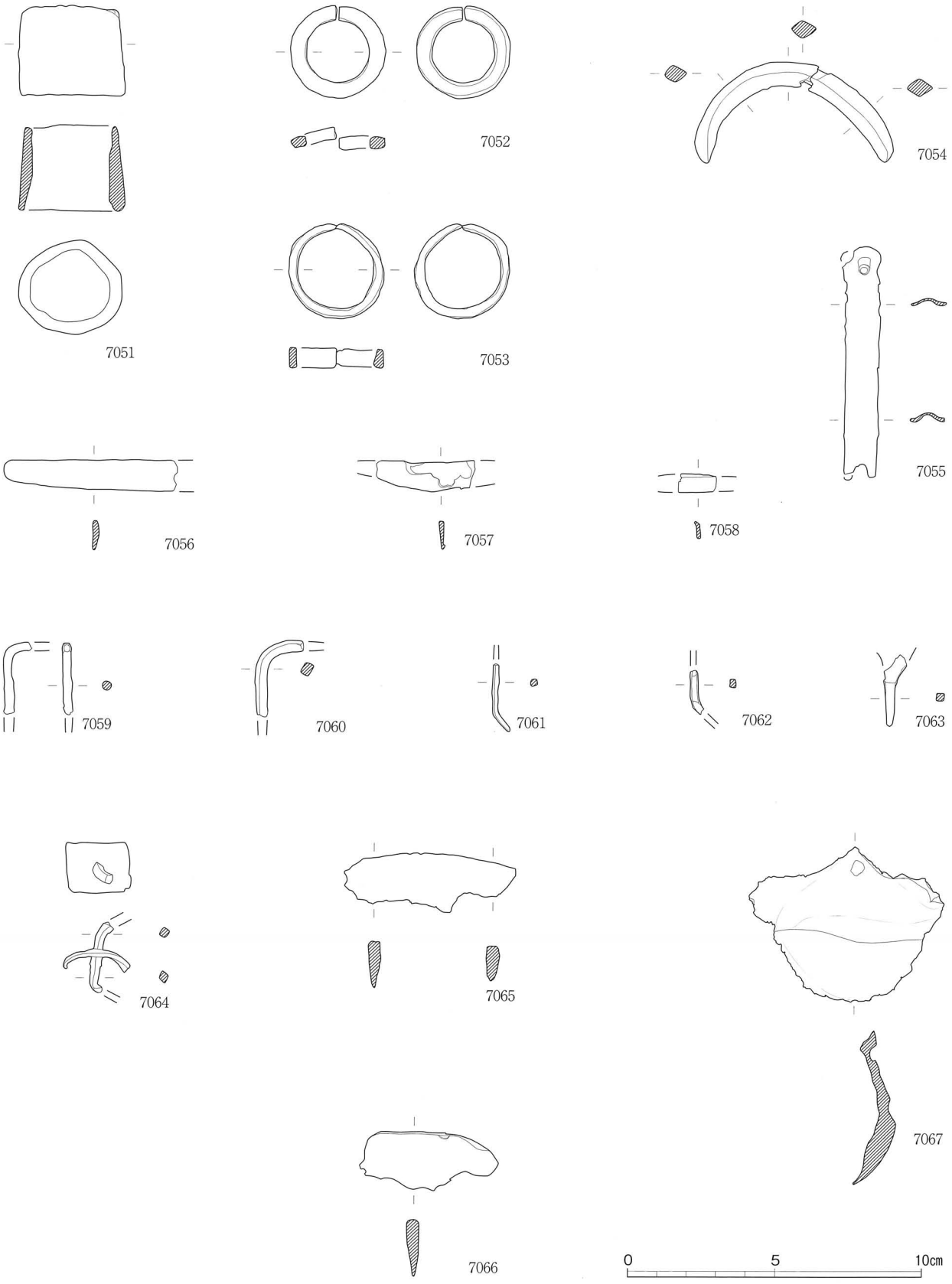


鉄製品

鉄剣；7001，鉄釘；7039～7049，用途不明品；7050

縮尺１／３、１／２

図面九〇　遺物実測図

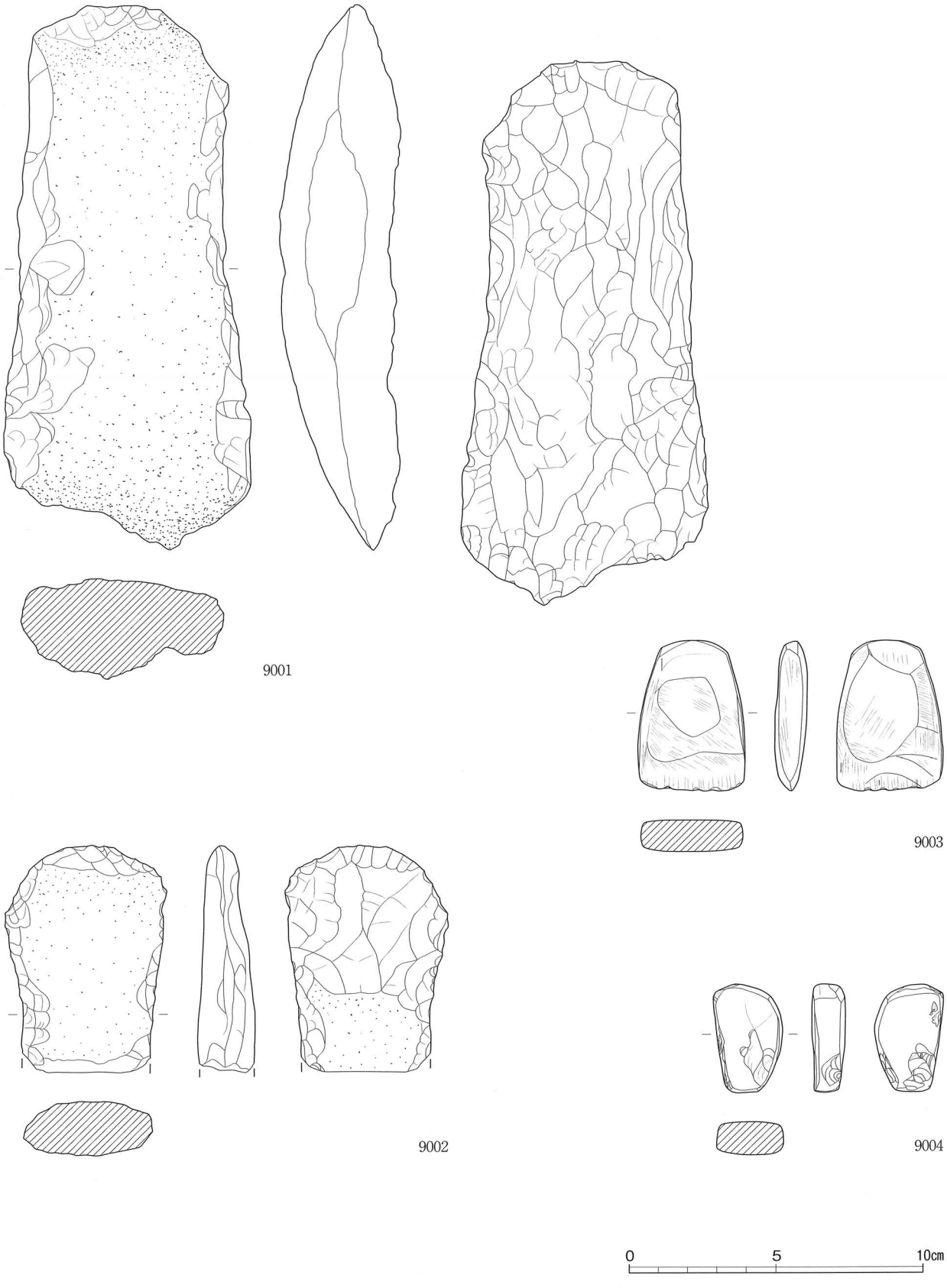


鉄製品

用途不明品

縮尺１／２

図面九一　遺物実測図



石製品

打製石斧；9001～9002，磨製石斧；9003，勾玉？；9004

縮尺１／２

図面九二　遺物実測図

石製品

砥石

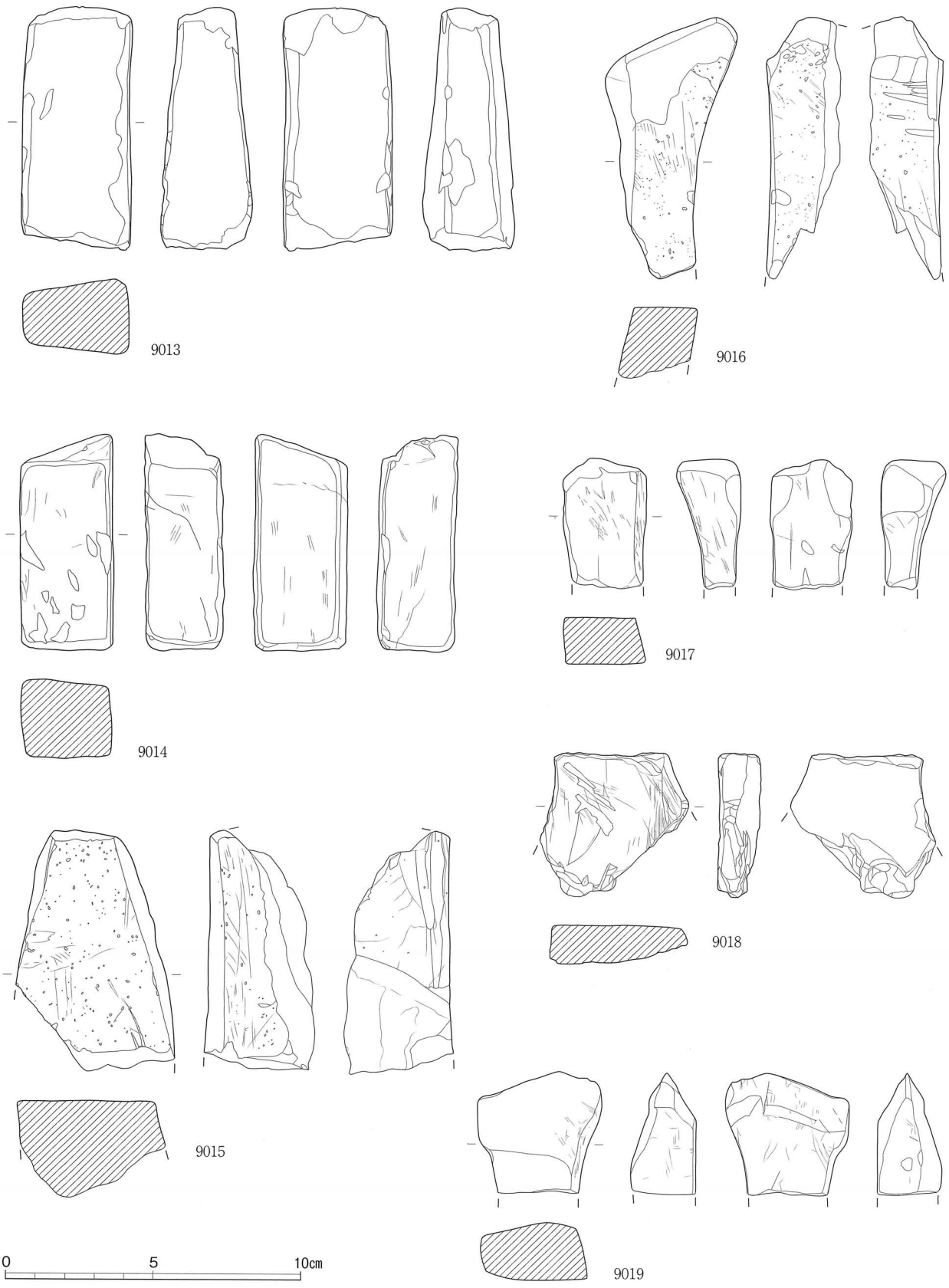
縮尺１／２

石製品

砥石

縮尺１／２

図面九四　遺物実測図



石製品

砥石

縮尺１／２

図　　版

図版〇一　遺構写真

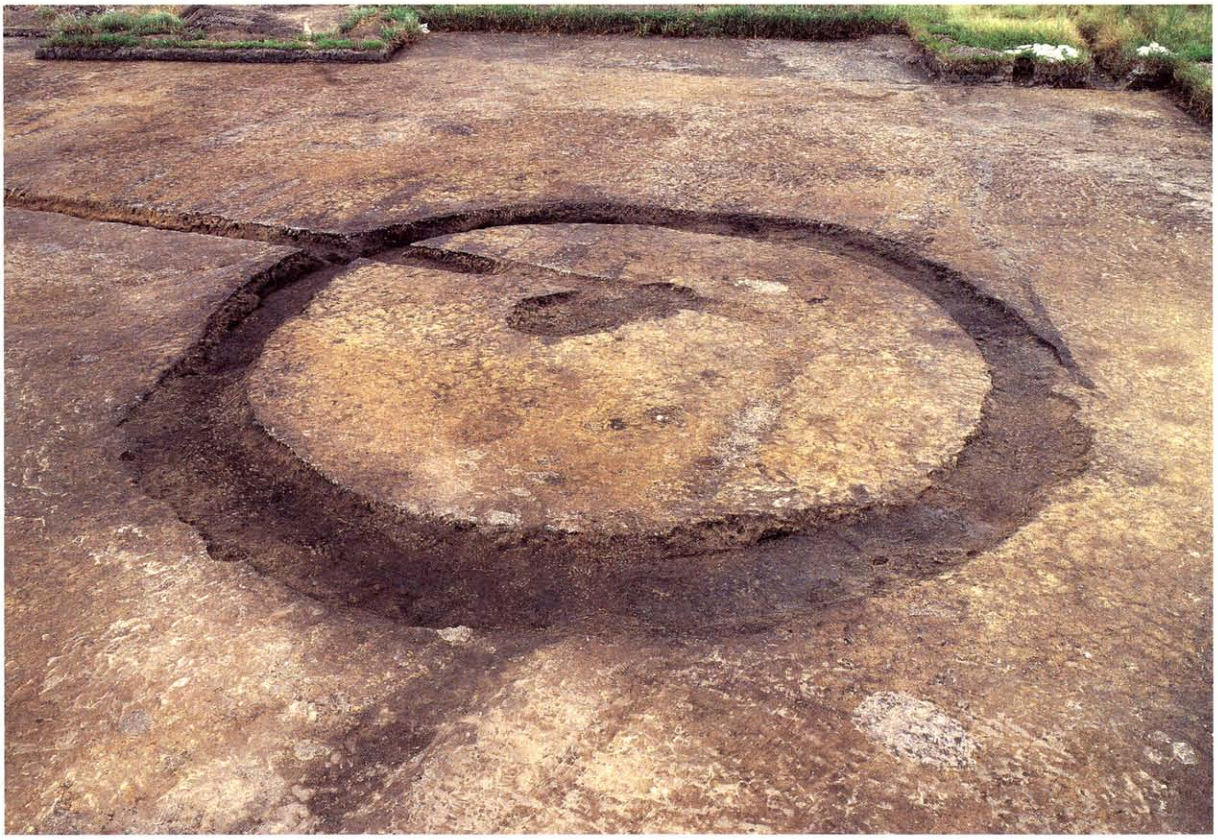
平成４年度調査地区全景（東）

図版〇一　遺構写真

平成４年度調査地区全景（西）

1．古墳群全景（北）

2．古墳ＳＺ01主体部全景（南西）



1．古墳ＳＺ02全景（南）

2．古墳ＳＺ03主体部全景（南）

1．古墳ＳＺ04全景（南）

2．古墳ＳＺ05全景（南）

1．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南）

2．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）

1．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（東）

2．掘立柱建物址ＳＢ02全景（東）

1．井戸址ＳＥ01全景（南）

2．井戸址ＳＥ01遺物出土状態（南）

1．遺跡遠景（東）

2．遺跡遠景（南東）

1．調査地区全景（北）

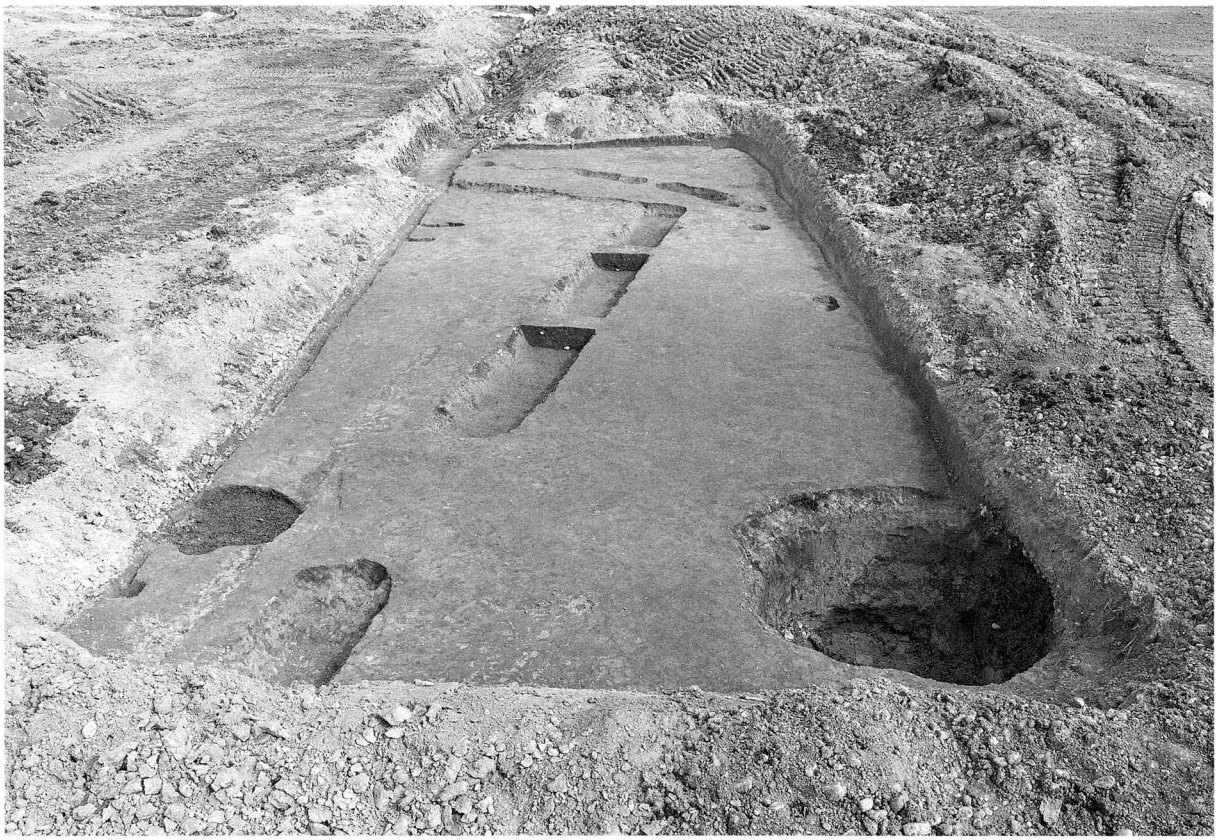
2．調査地区全景（北西）

1．調査地区全景（南西）

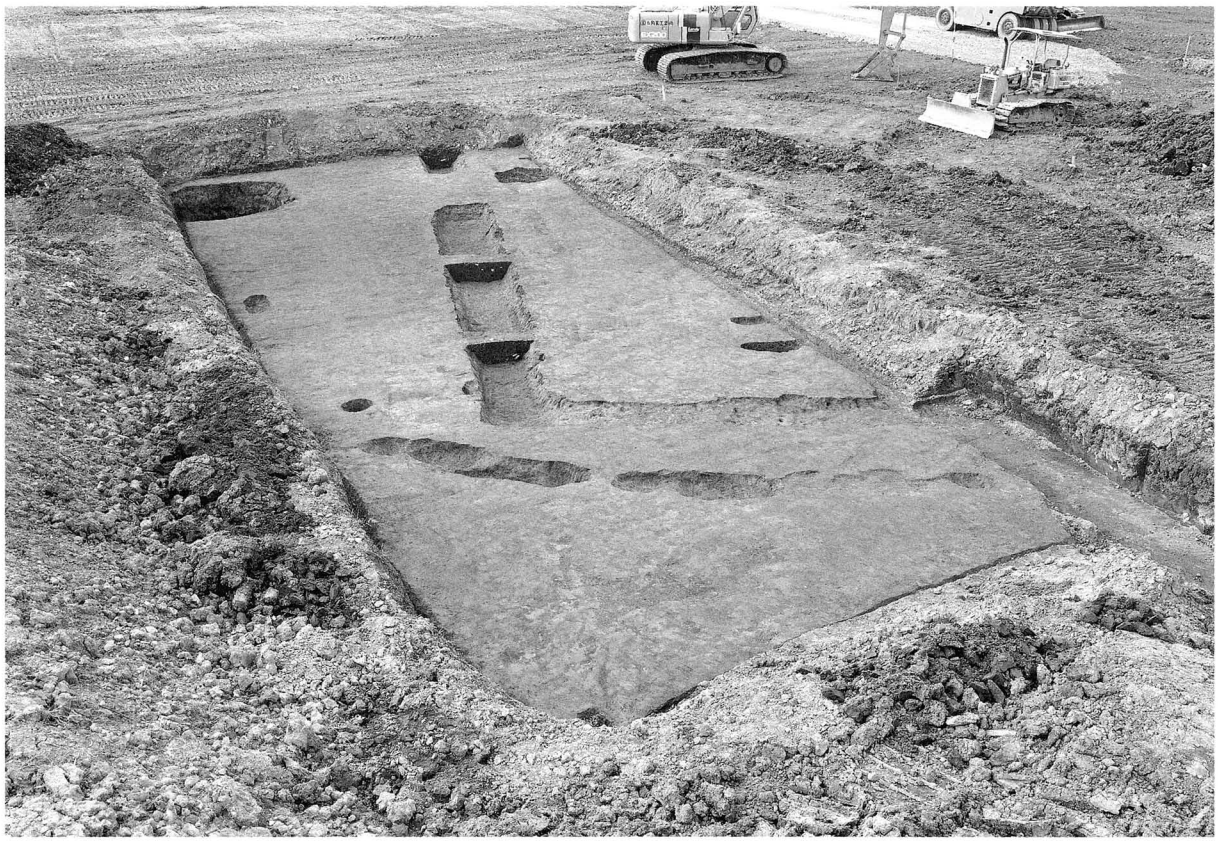
2．調査地区全景（直上）

1．平成４年度調査地区全景（西）

2．平成４年度調査地区全景（南）



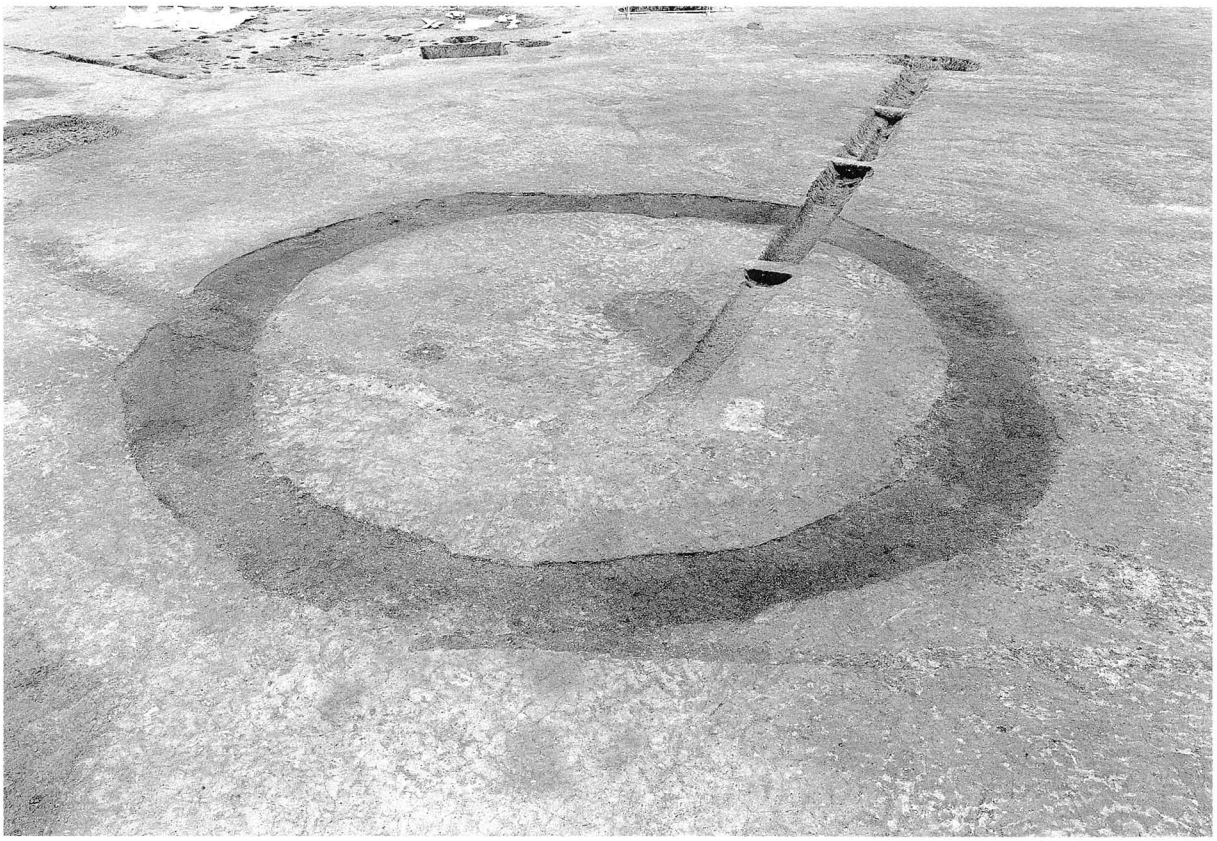
1．平成５年度調査地区部分（西）



2．平成５年度調査地区部分（南東）

1．古墳ＳＺ01検出状態（南）

2．古墳ＳＺ01全景（西）



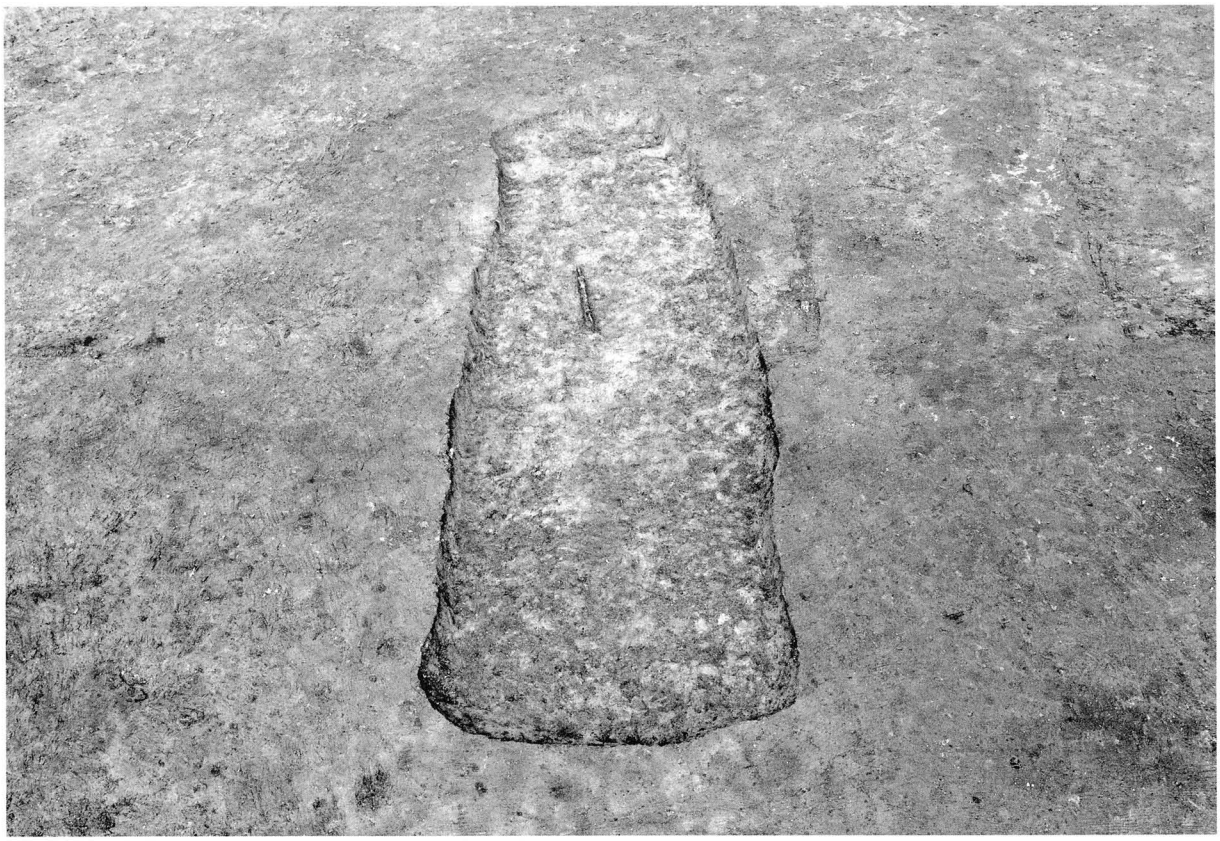
1．古墳ＳＺ02検出状態（東）

2．古墳ＳＺ02全景（南）

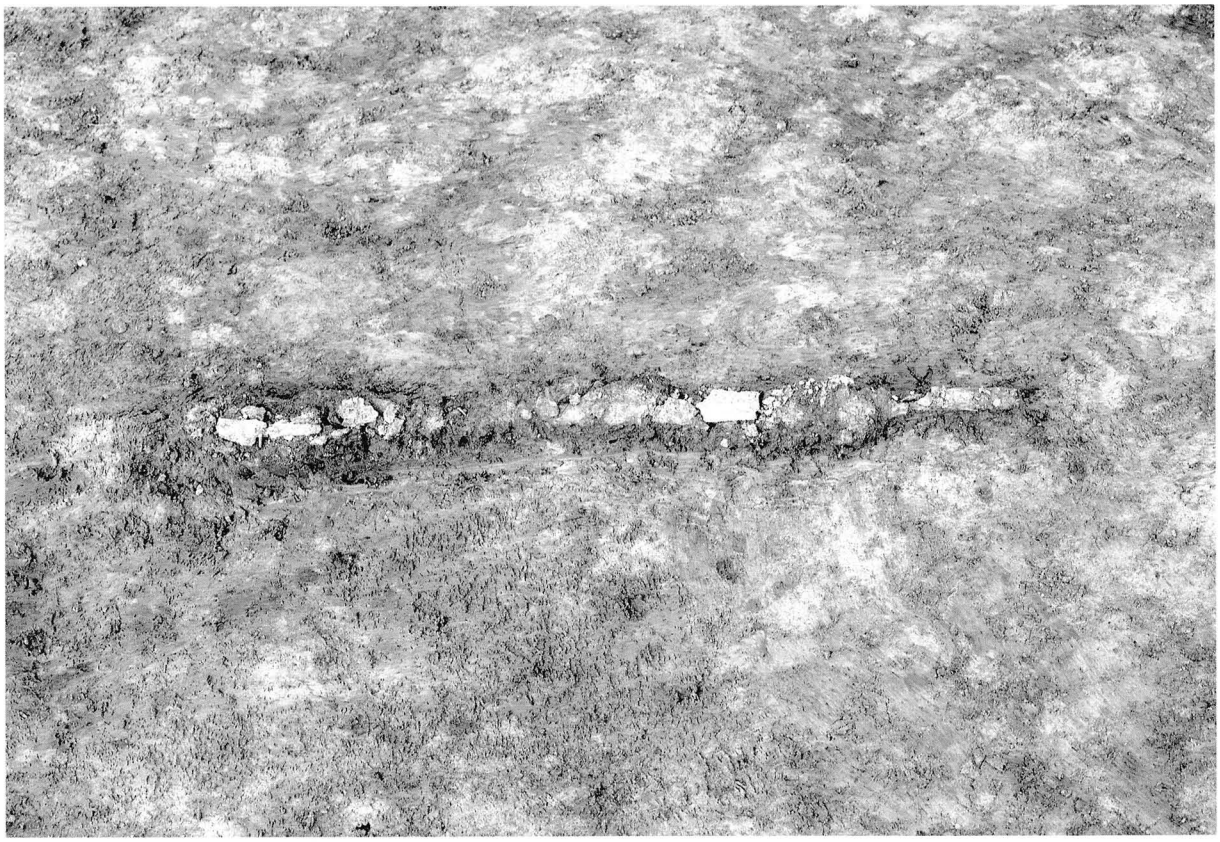
図版一六　遺構写真

1．古墳ＳＺ03全景（北）

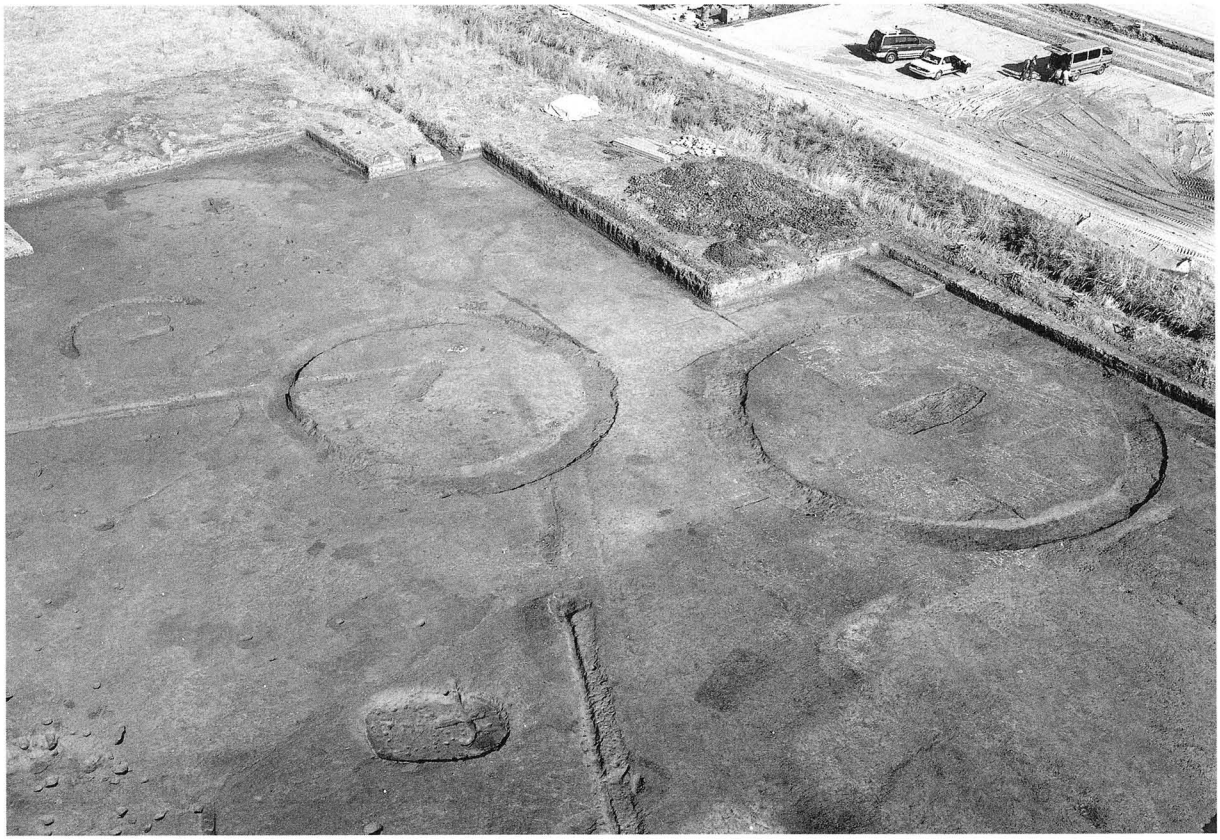
2．古墳ＳＺ03全景（直上）



1．古墳ＳＺ03主体部全景（西）

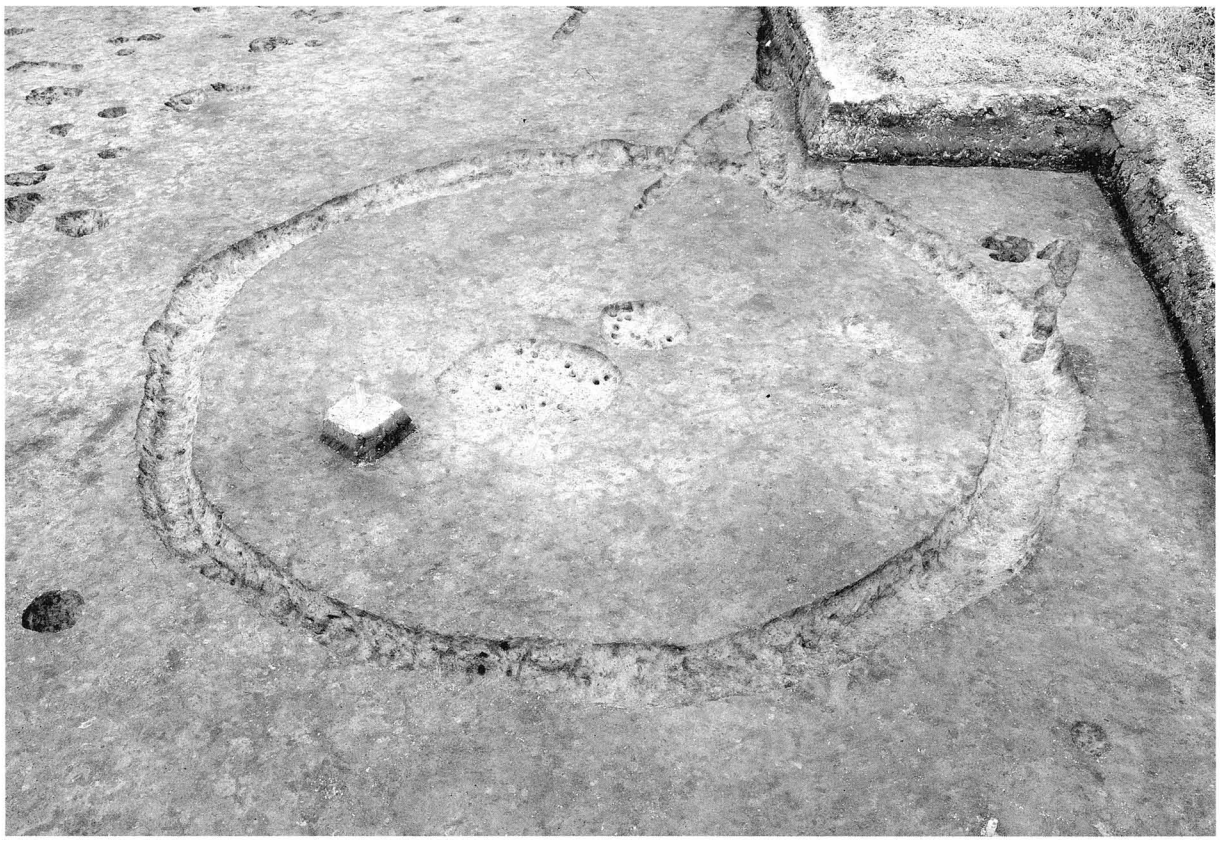


2．古墳ＳＺ03主体部遺物出土状態（南）



1．古墳ＳＺ01、02、03全景（南西）

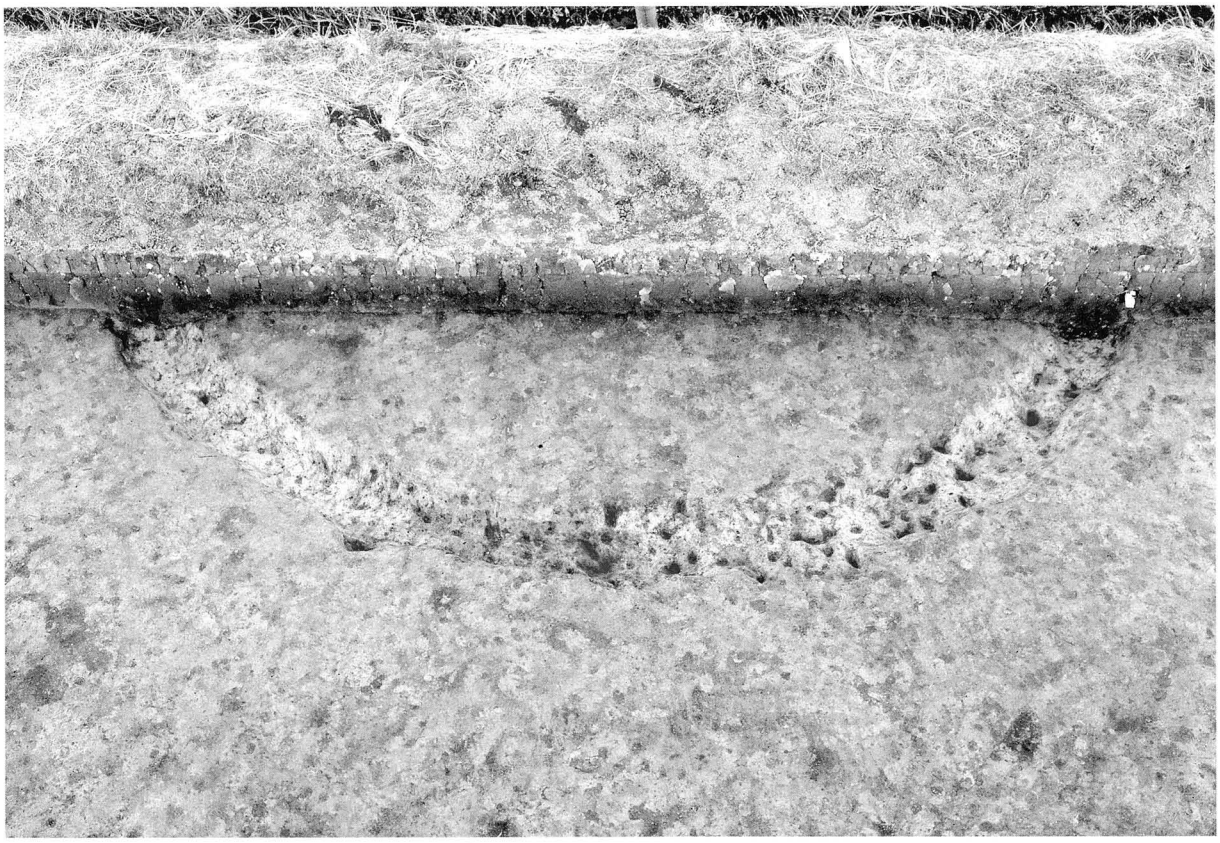
2．古墳ＳＺ01、02、03全景（北西）



1．古墳ＳＺ04全景（南）

2．古墳ＳＺ05全景（南）

1．古墳ＳＺ06全景（南）

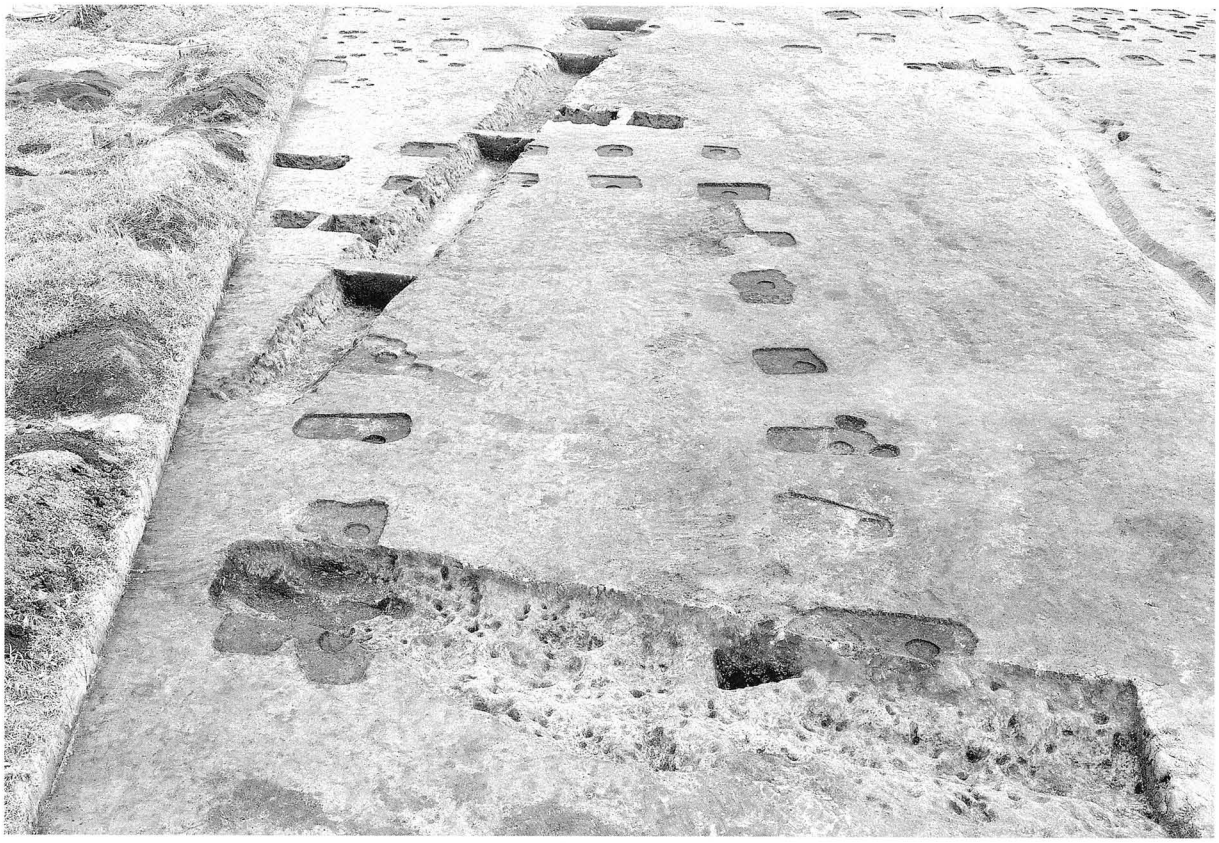


2．古墳ＳＺ07全景（南）

1．古墳ＳＺ08全景（南東）

2．古墳ＳＺ08全景（西）

1．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（東）



2．掘立柱建物址ＳＢ01検出状態（南）

1．掘立柱建物址ＳＢ01全景（南）

2．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）

1．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（東）

2．掘立柱建物址ＳＢ02検出状態（南）

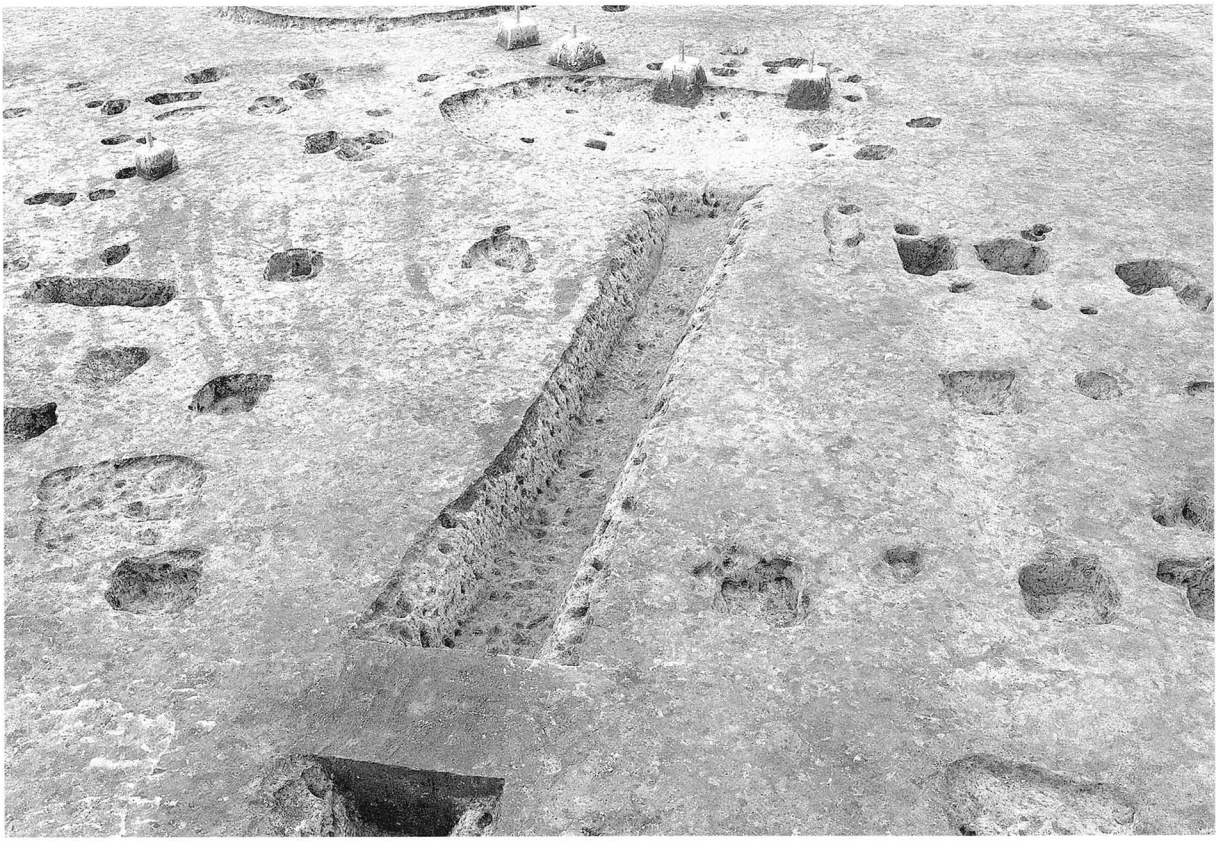
1．掘立柱建物址ＳＢ02全景（西）

2．掘立柱建物址ＳＢ02全景（東）

1．掘立柱建物址ＳＢ03全景（北）

2．掘立柱建物址ＳＢ03全景（南）

1．掘立柱建物址ＳＢ04全景（南）



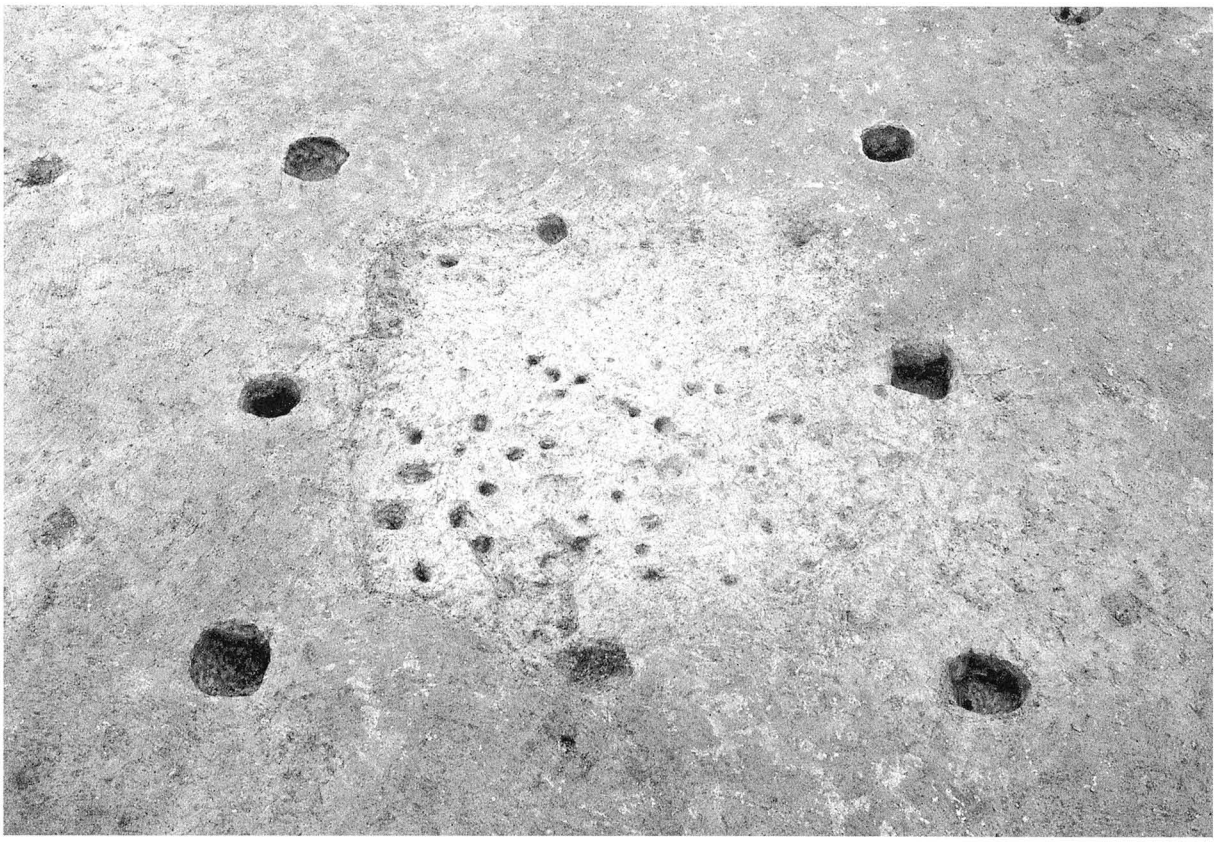
2．掘立柱建物址ＳＢ04全景（西）

1．掘立柱建物址ＳＢ05全景（北）

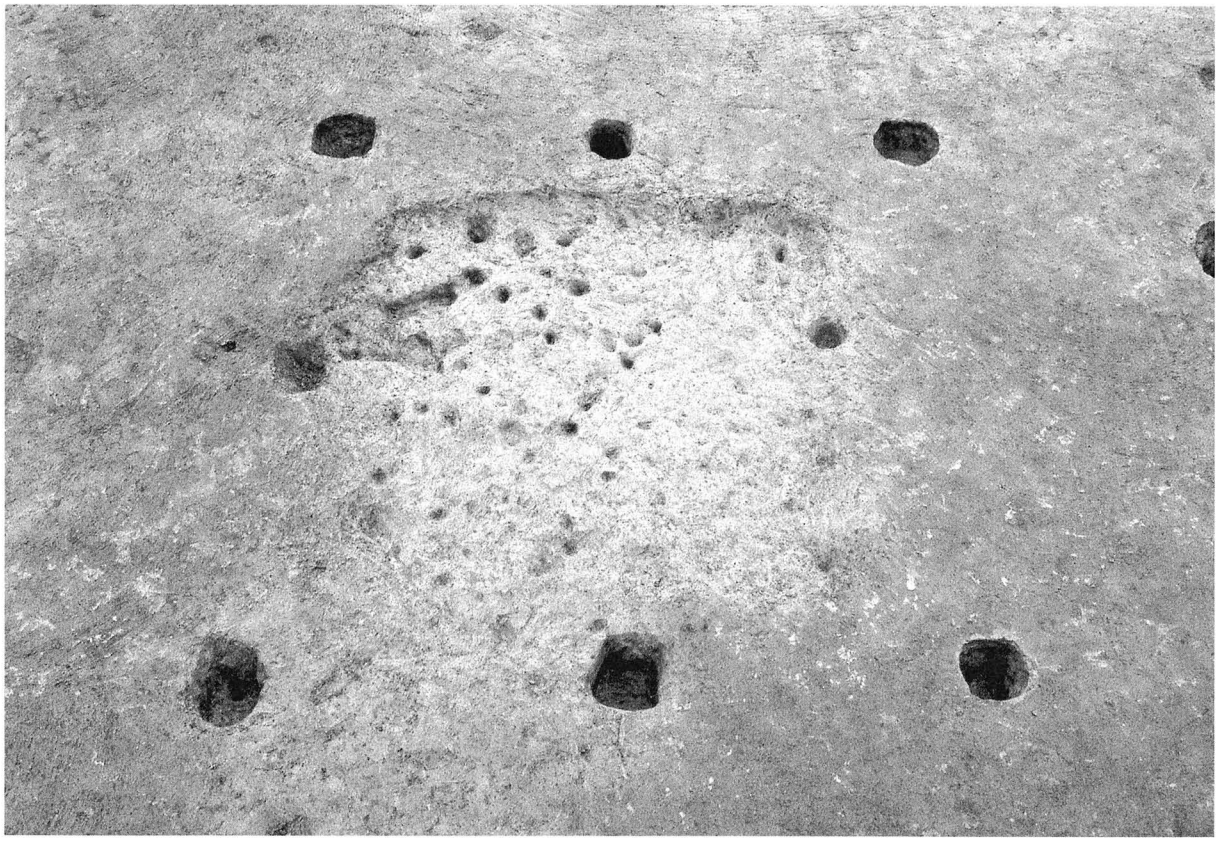
2．掘立柱建物址ＳＢ05全景（東）

1．掘立柱建物址ＳＢ06全景（南）

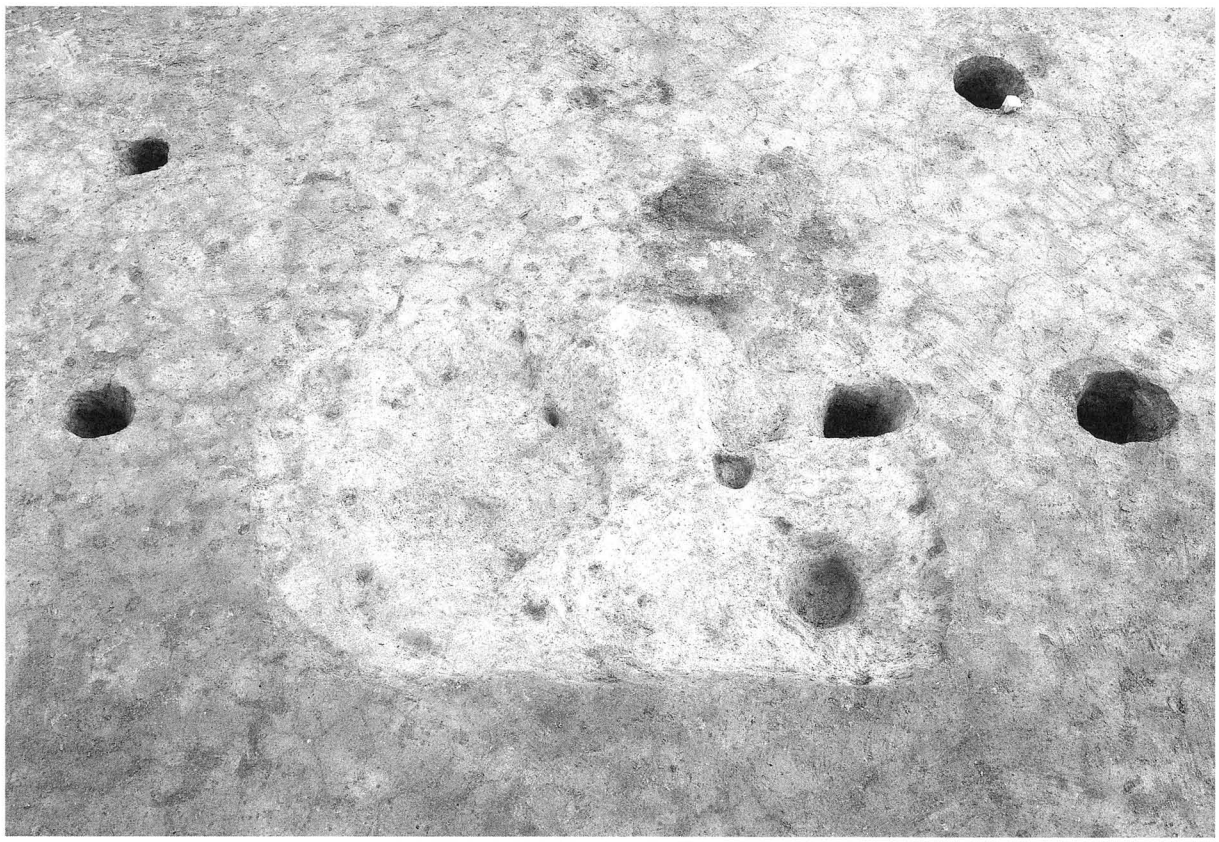
2．掘立柱建物址ＳＢ06全景（東）



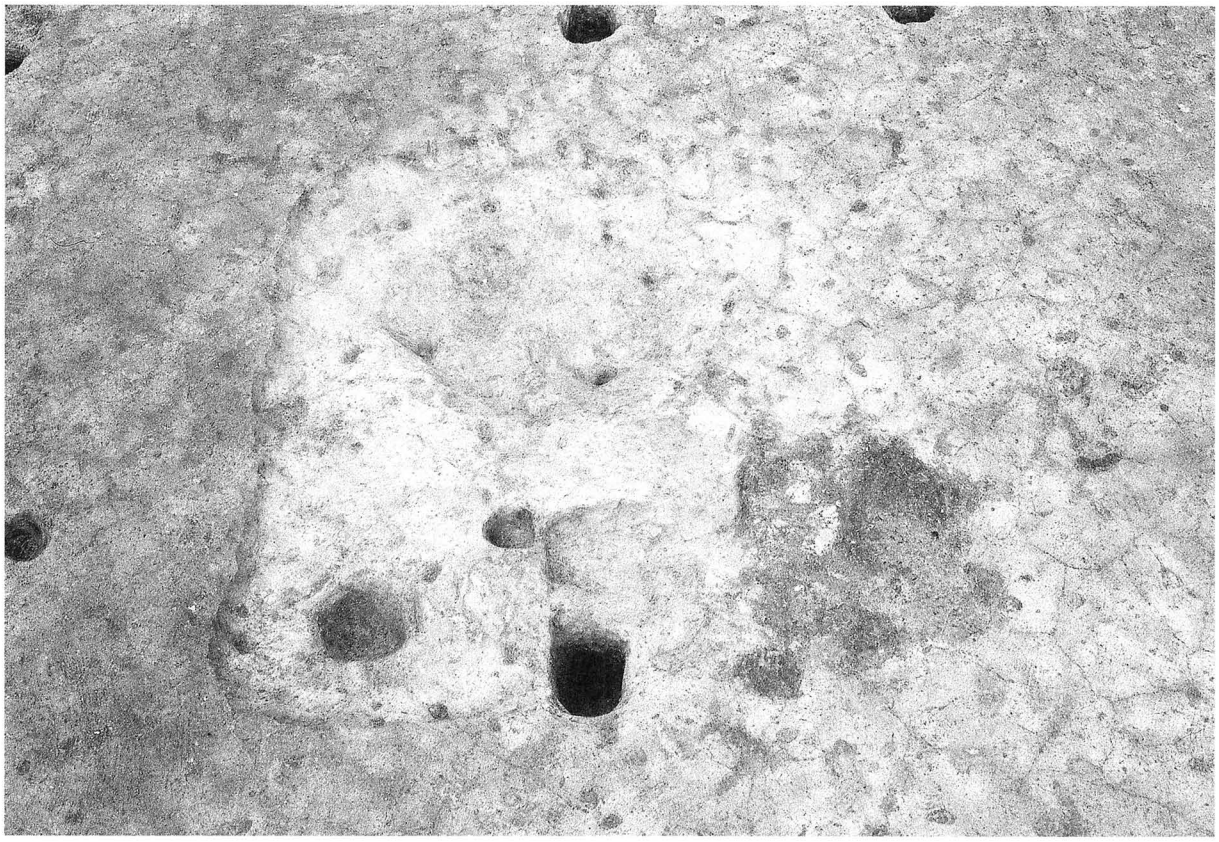
1．掘立柱建物址ＳＢ07、土坑ＳＫ03全景（南東）



2．掘立柱建物址ＳＢ07、土坑ＳＫ03全景（北東）



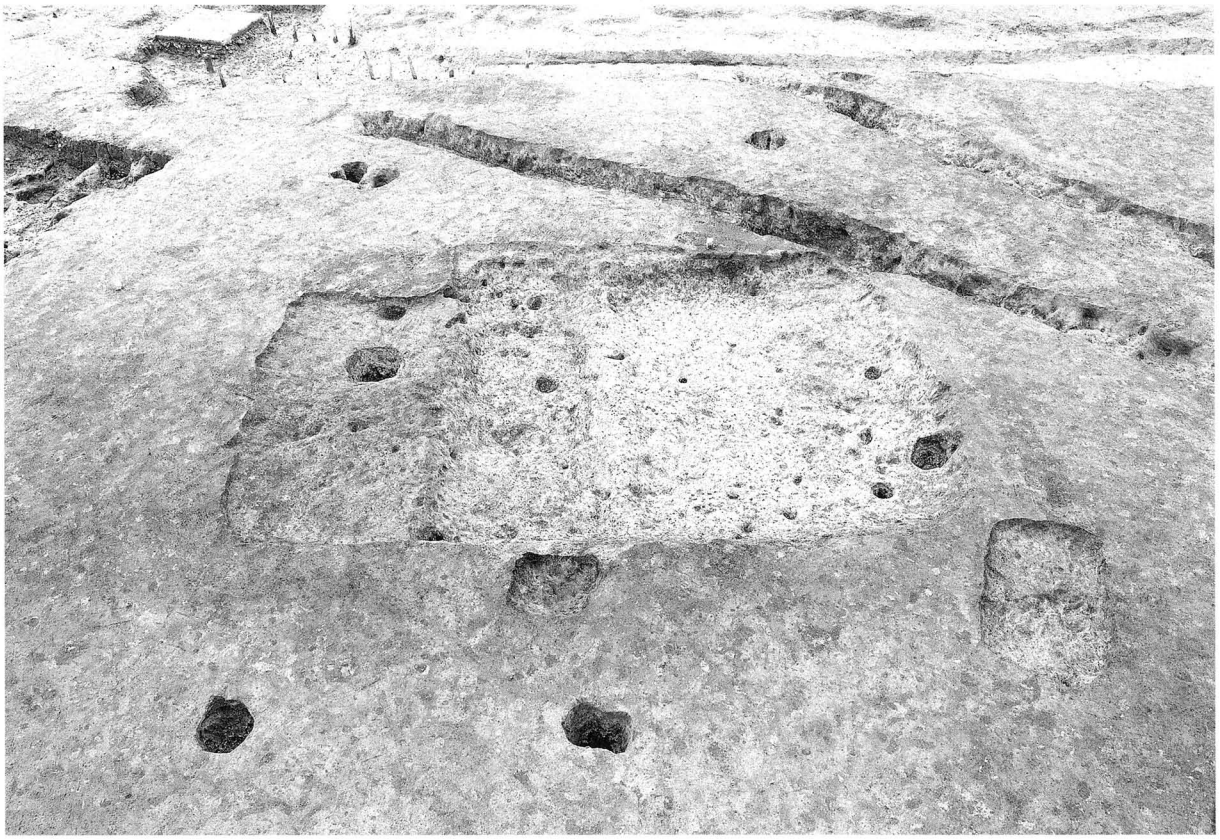
1．竪穴建物址ＳＩ01全景（西）



2．竪穴建物址ＳＩ01全景（南）

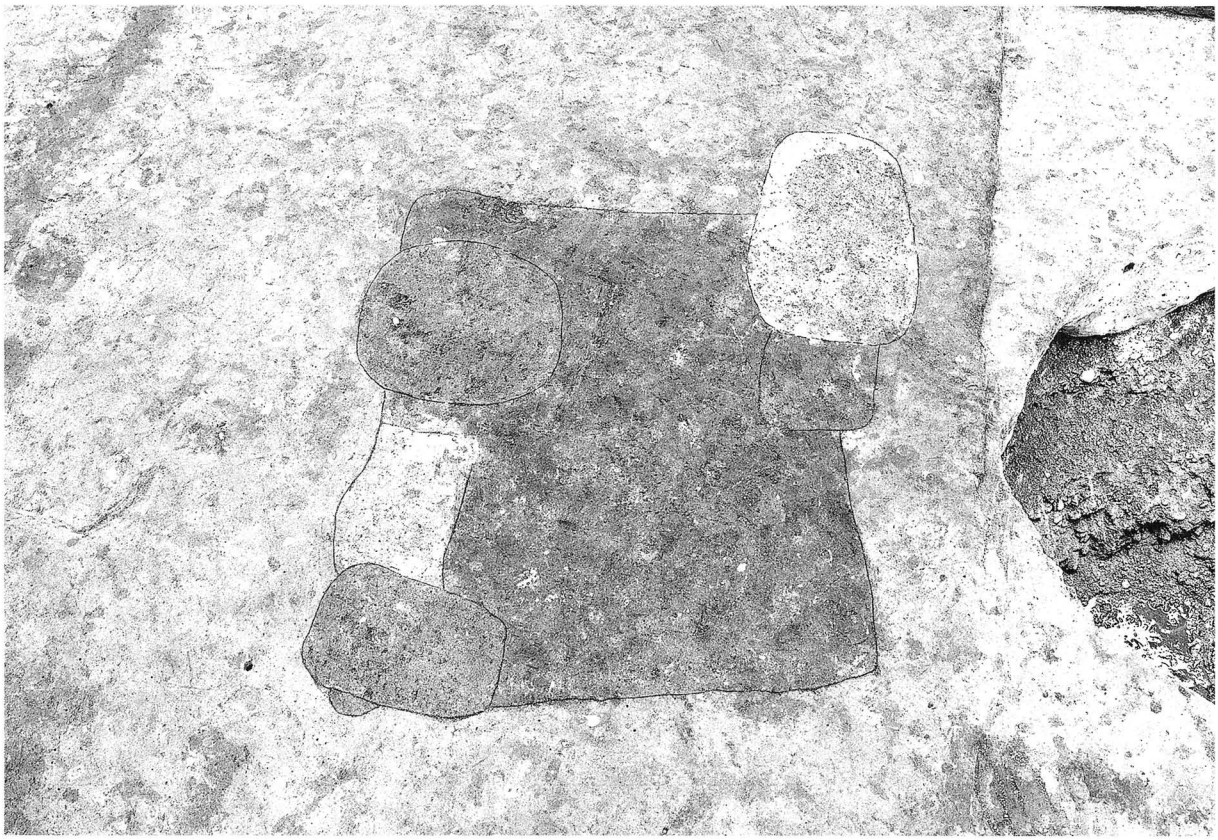
1．竪穴建物址ＳＩ02全景（西）

2．竪穴建物址ＳＩ02全景（北）

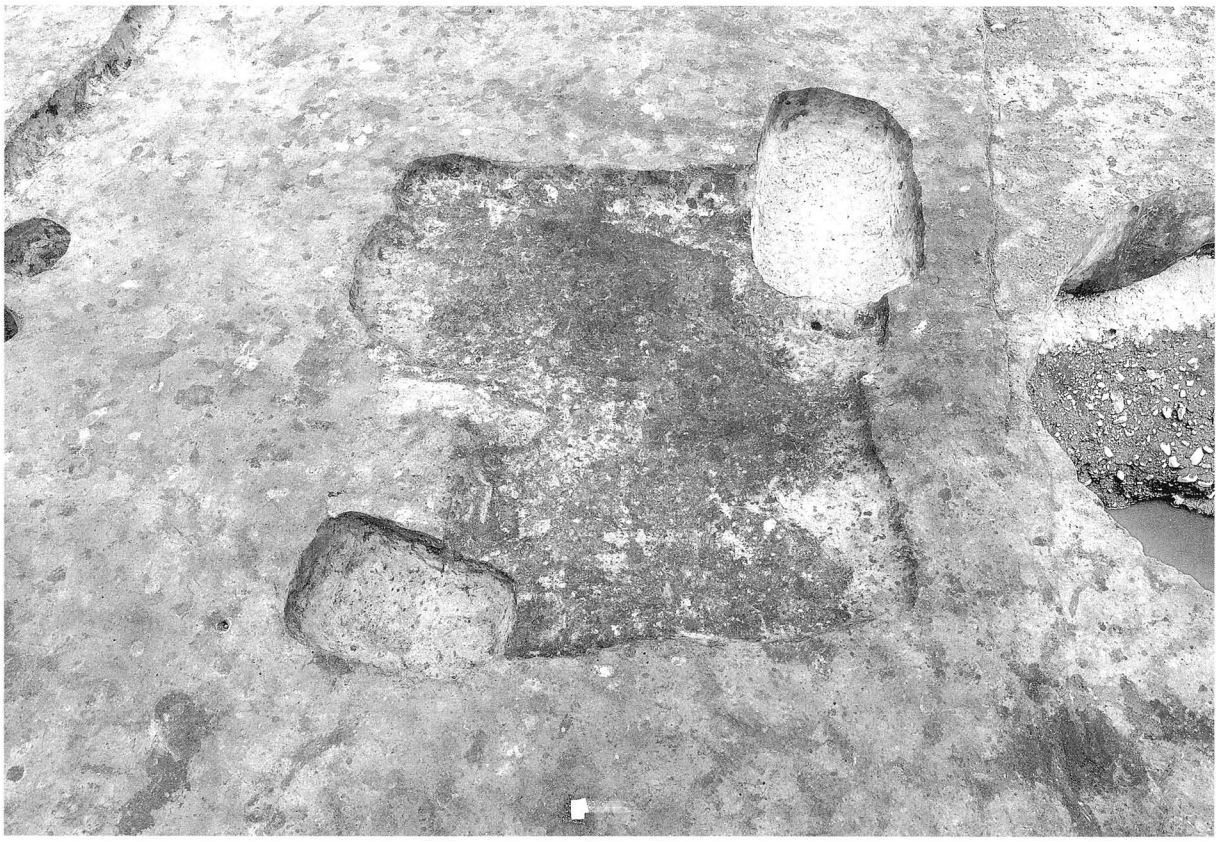


1．竪穴建物址ＳＩ03、土坑ＳＫ10全景（東）

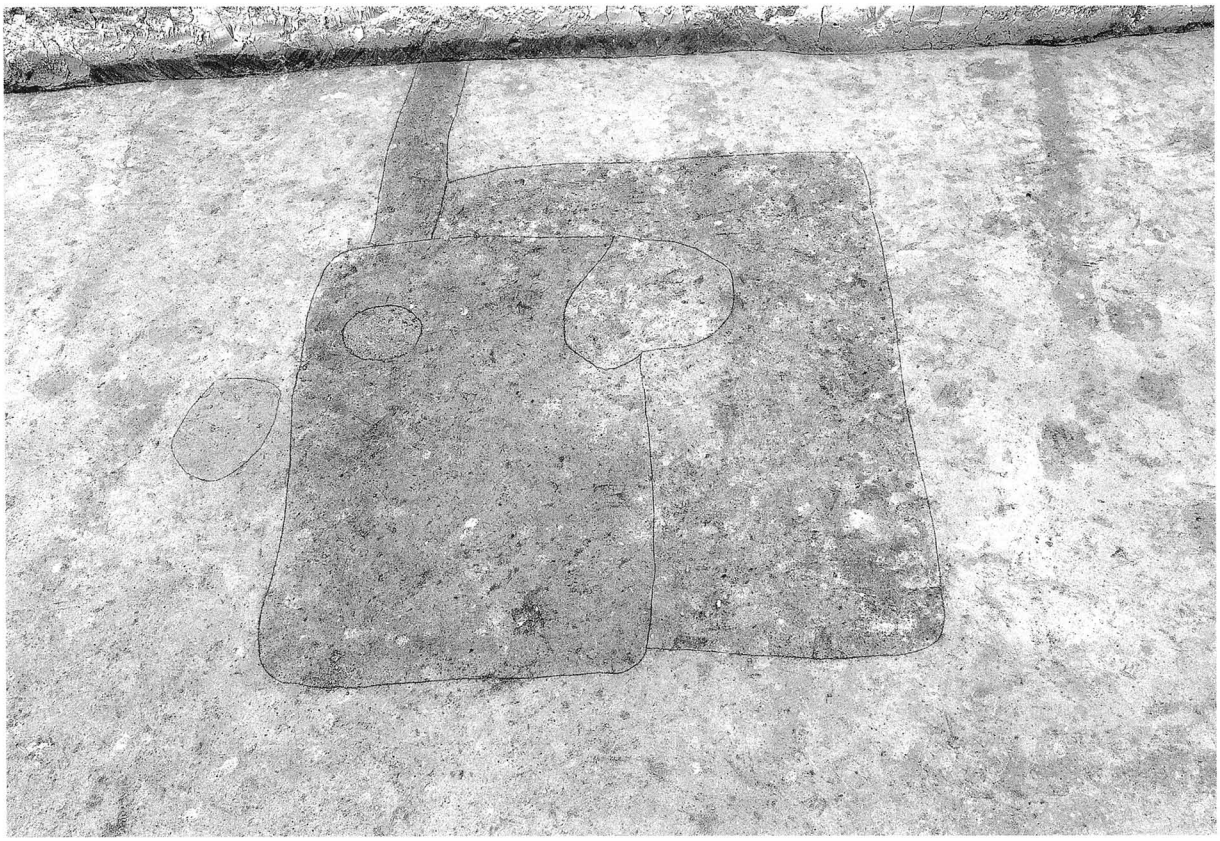
2．竪穴建物址ＳＩ03、土坑ＳＫ10全景（北）



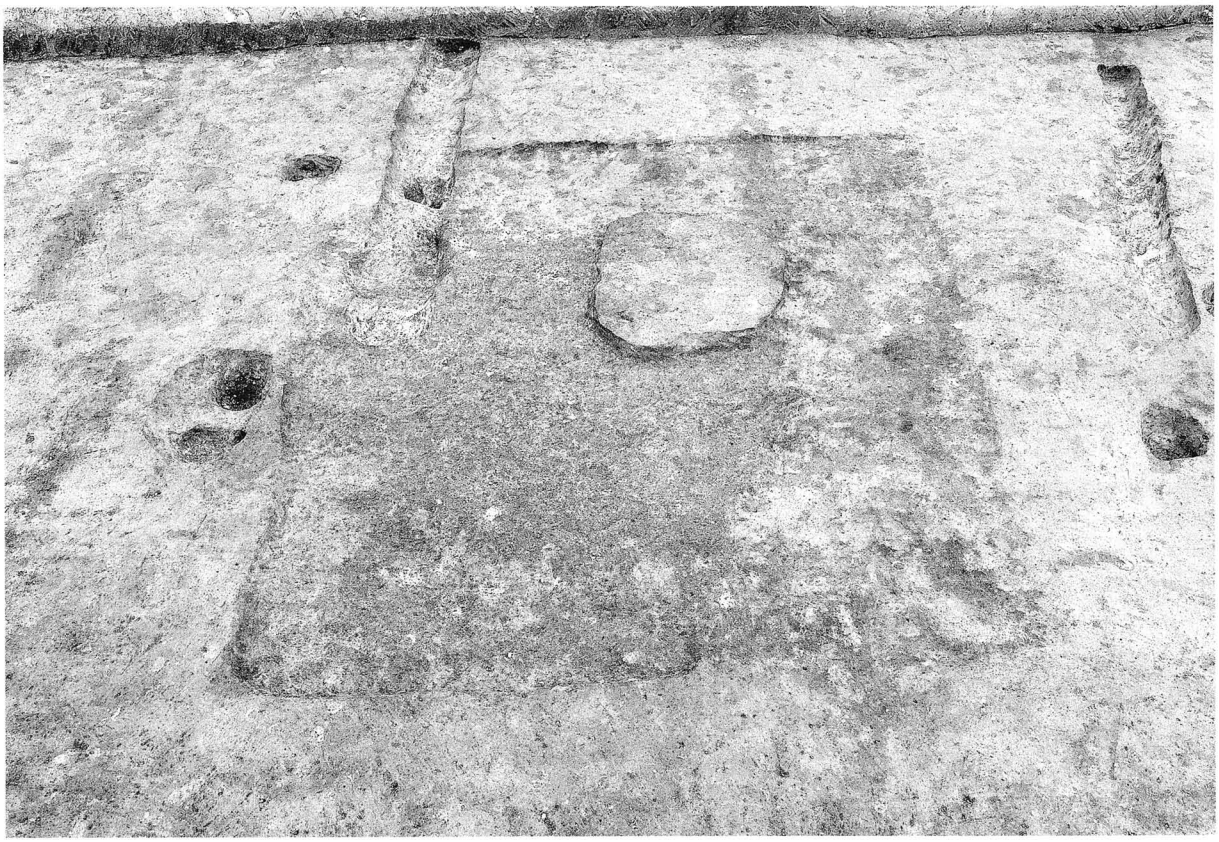
1．竪穴建物址ＳＩ04検出状態（東）



2．竪穴建物址ＳＩ04全景（東）



1．竪穴建物址ＳＩ05、土坑ＳＫ37検出状態（東）



2．竪穴建物址ＳＩ05、土坑ＳＫ37全景（東）

1．井戸址ＳＥ01全景（南）

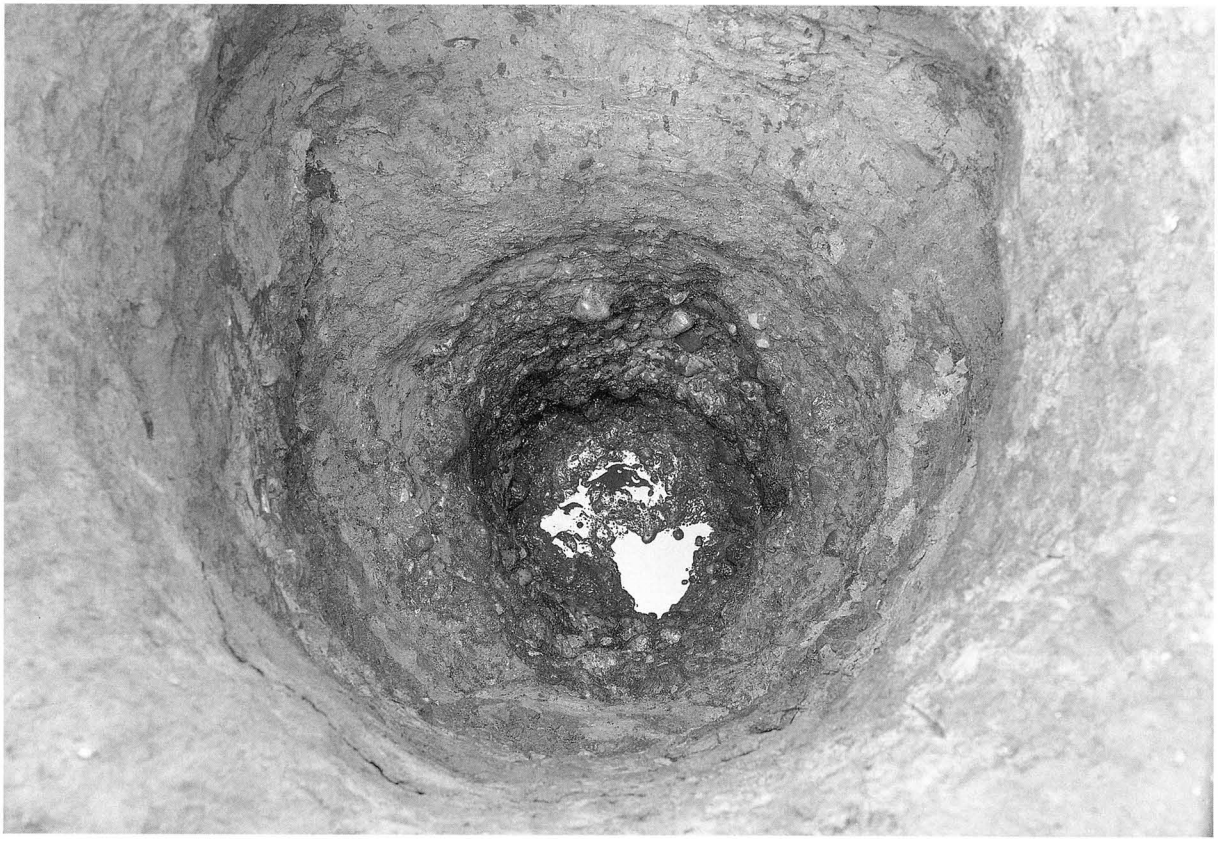
2．井戸址ＳＥ01全景（東）

1．井戸址ＳＥ01近景（西）

2．井戸址ＳＥ01近景（西）

図版三八　遺構写真

1．井戸址ＳＥ02全景（西）



2．井戸址ＳＥ02近景（南）

1．井戸址ＳＥ03全景（南西）

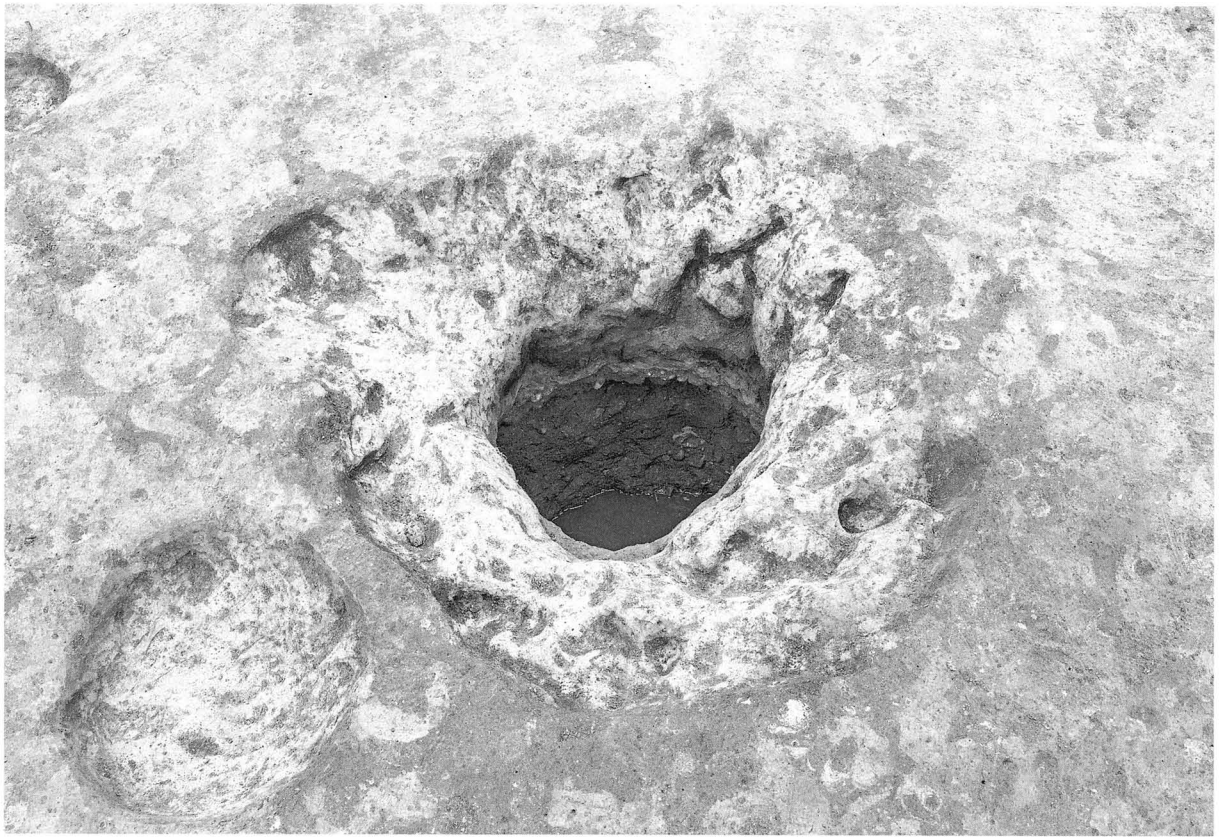
2．井戸址ＳＥ03近景（南）

1．井戸址ＳＥ04全景（南）

2．井戸址ＳＥ05全景（南）

1．井戸址ＳＥ06全景（北東）

2．井戸址ＳＥ07全景（西）



1．井戸址ＳＥ08全景（東）

2．井戸址ＳＥ09全景（東）

1．井戸址ＳＥ10全景（北西）

2．井戸址ＳＥ11全景（南）

図版四四　遺構写真

1．土坑ＳＫ06全景（南）

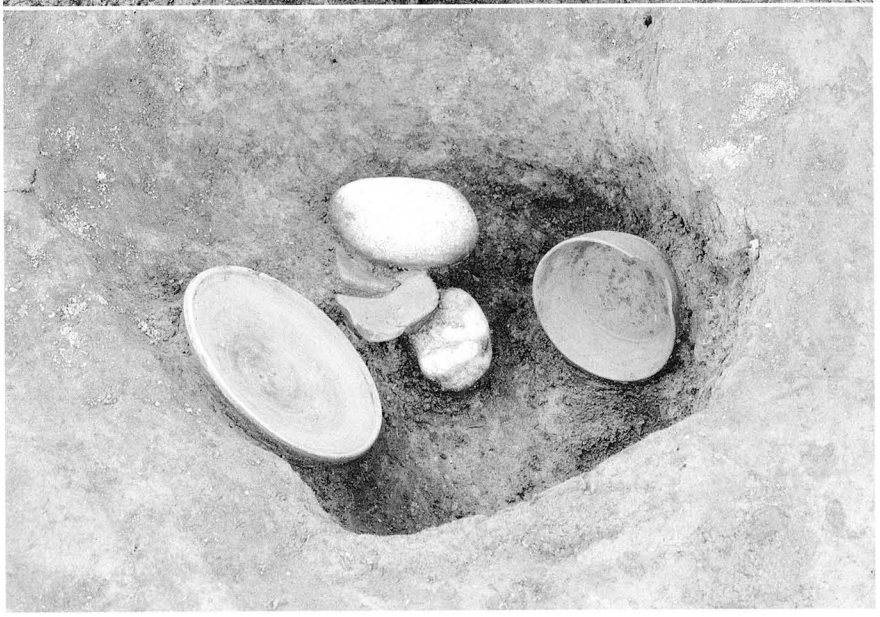
2．土坑ＳＫ08全景（南東）

3．土坑ＳＫ21全景（東）

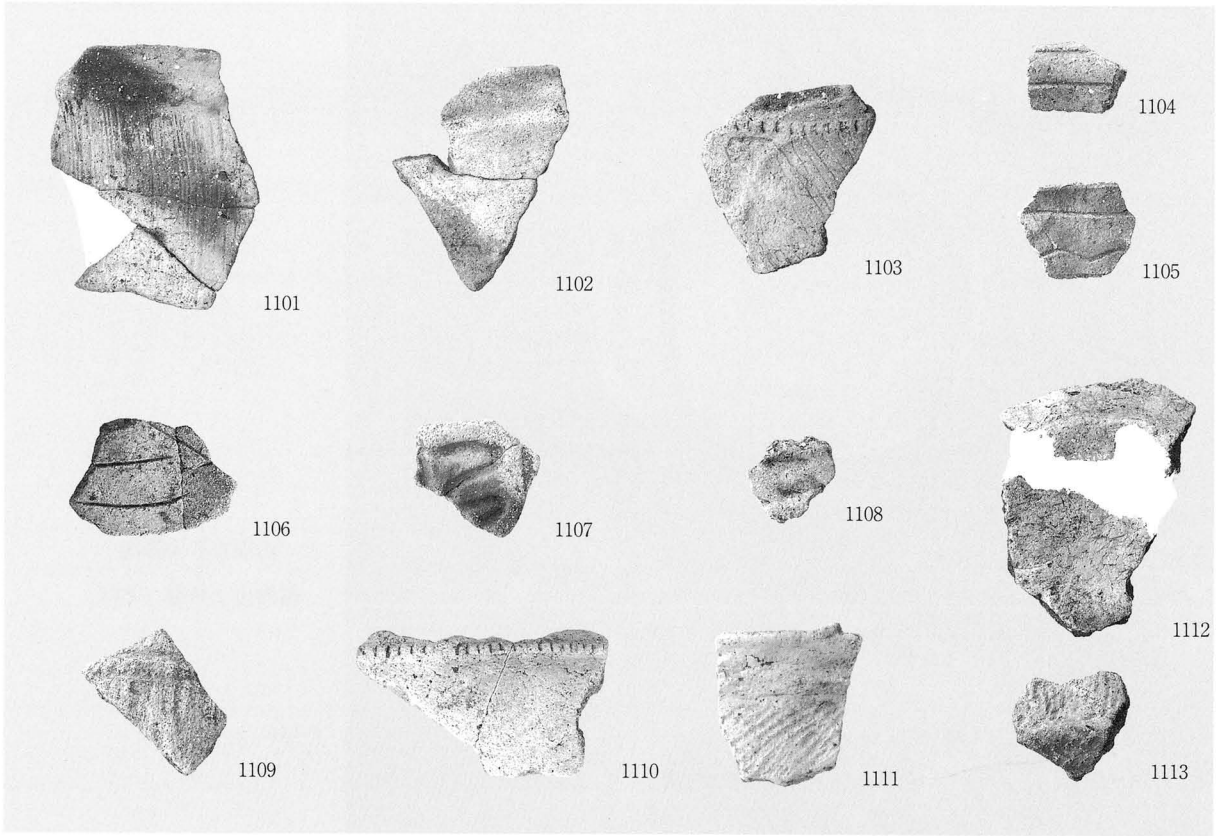
図版四五　遺構写真

1．古墳ＳＺ03周溝
遺物出土状態（北西）

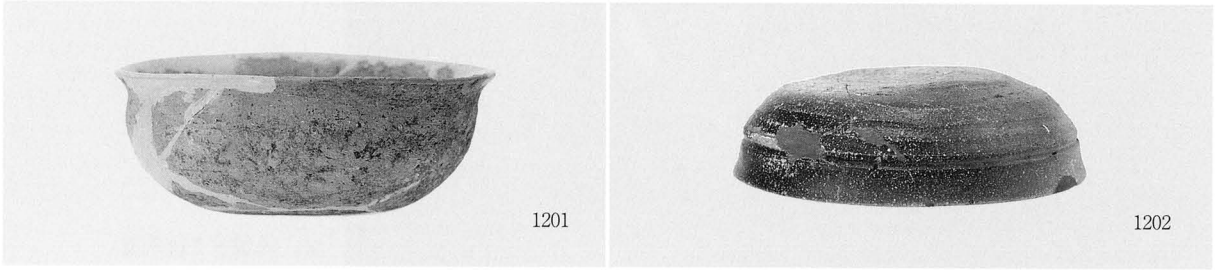
2．古墳ＳＺ05周溝
遺物出土状態（南西）



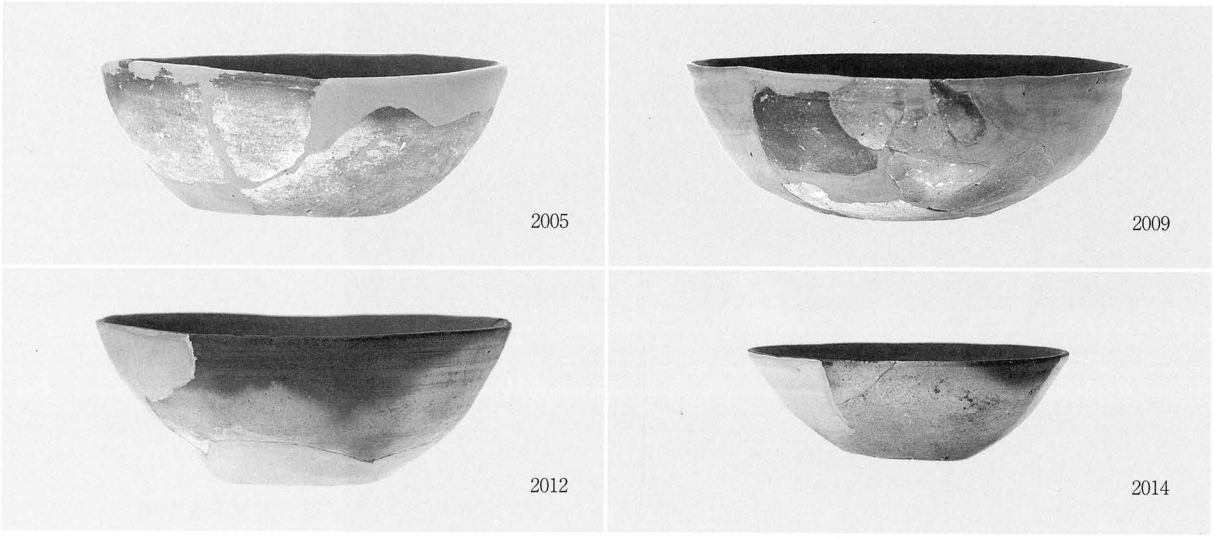
3．ピットＳＰ30
遺物出土状態（北）



1. 縄文土器



2. 古墳時代の土器類　土師器・須恵器



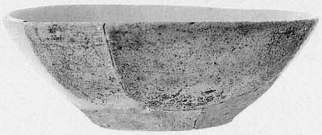
3. 奈良平安時代の土器類　土師器

2035

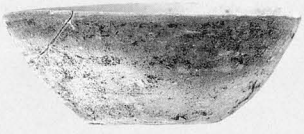
2036

2038

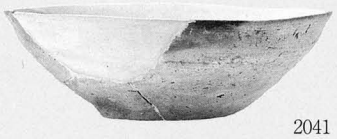
2039

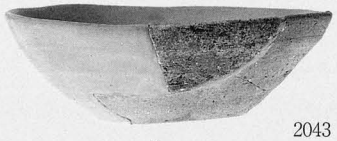

2056

2055


2065

2037


2041

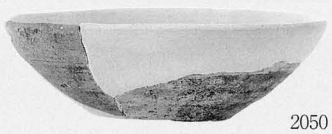

2043

2045

2049

2048

2044


2050

2046

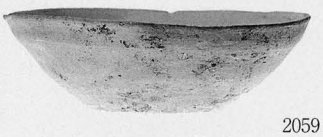
2051

2053

2054

2058

2064

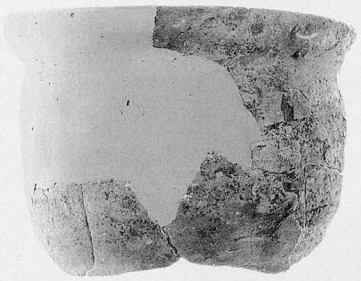

2059

2061

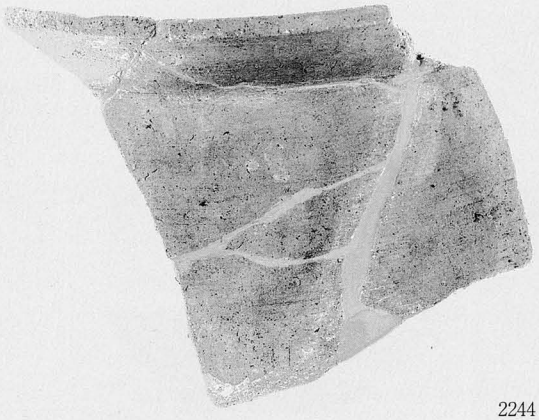
奈良平安時代の土器類　土師器

図版四八　遺物写真

2276



2281



2244

1. 奈良平安時代の土器類　土師器

2903

2901

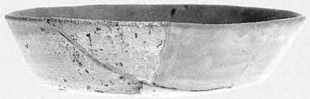
2902

2904

2905

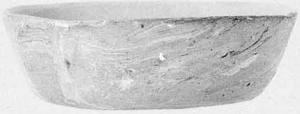
2. 奈良平安時代の土器類　製塩土器

3005


3014

3020

3008


3017

3022

3011

3016

3023

3010

3021

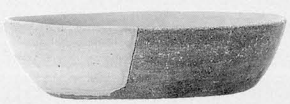
3026

3009

3018

3024

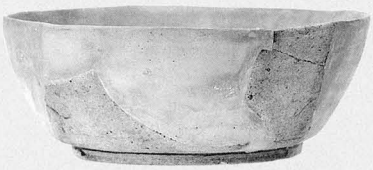
3019


3025

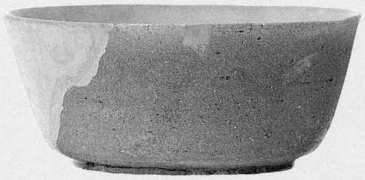
奈良平安時代の土器類　須恵器

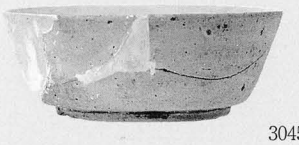
図版五〇　遺物写真

3032

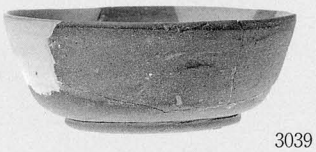

3033

3034


3035

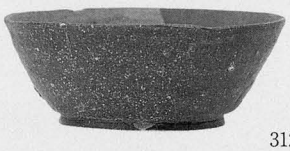

3045

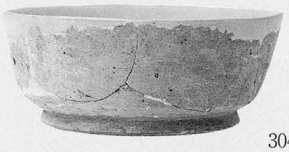
3037


3039

3052

3043

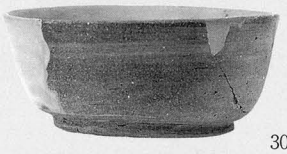

3129

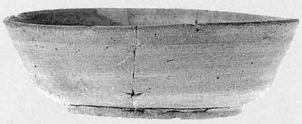

3044

3040

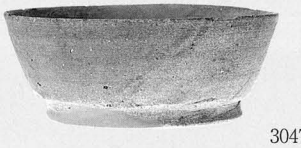
3050

3051


3049


3038

3097

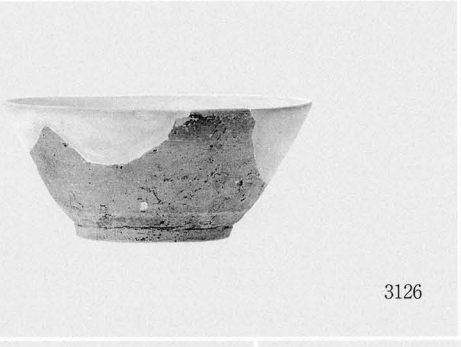

3047

3048

奈良平安時代の土器類　須恵器

3036

3125

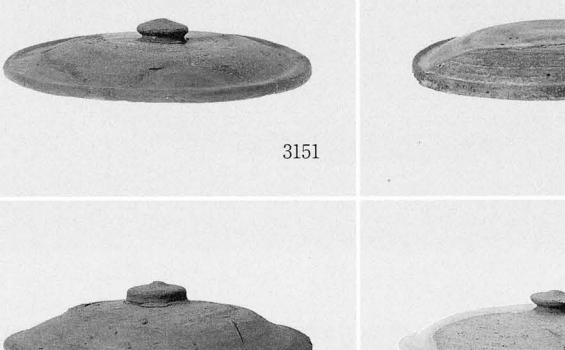

3126

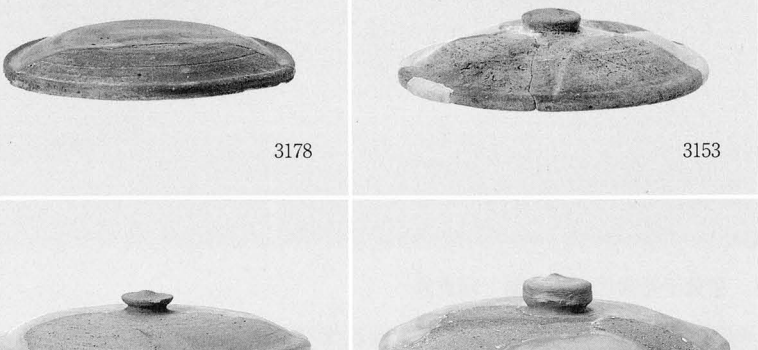
3127

3154

3168

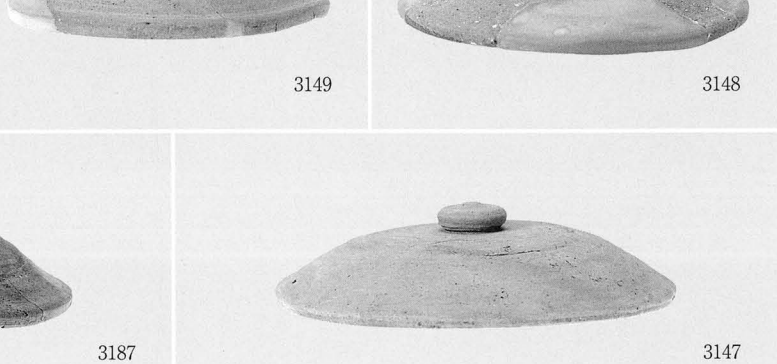
3150


3151


3178

3153

3152


3149

3148

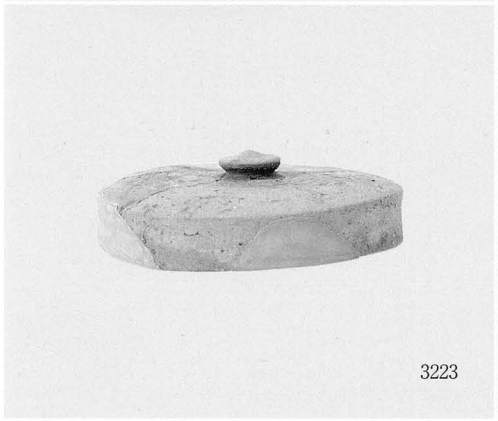
3187

3147

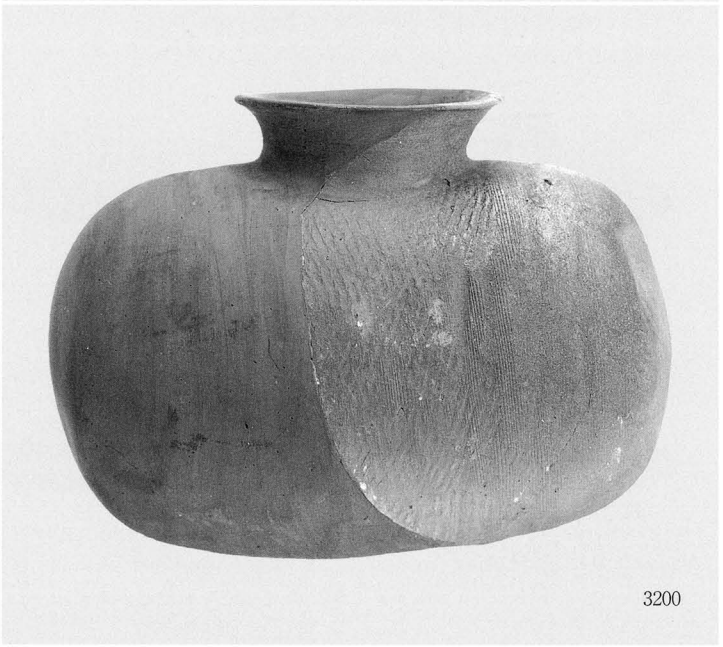
奈良平安時代の土器類　須恵器

3213

3132

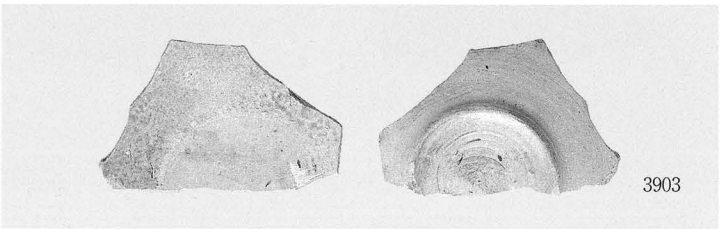

3223

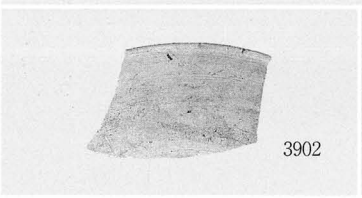
3202

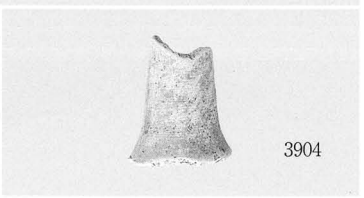

3200

1. 奈良平安時代の土器類　須恵器

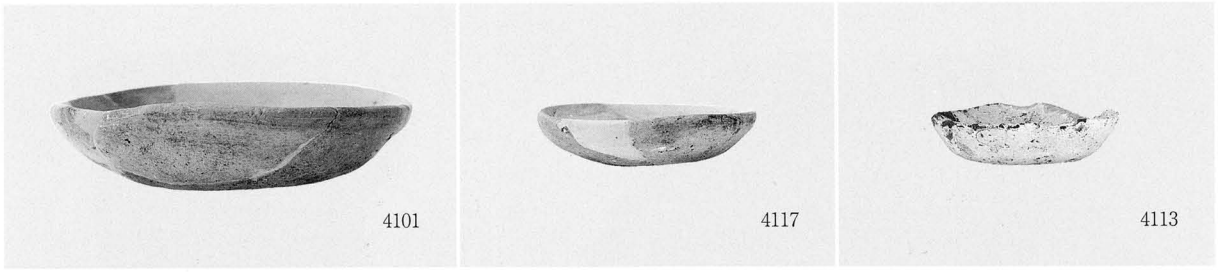
3901


3903

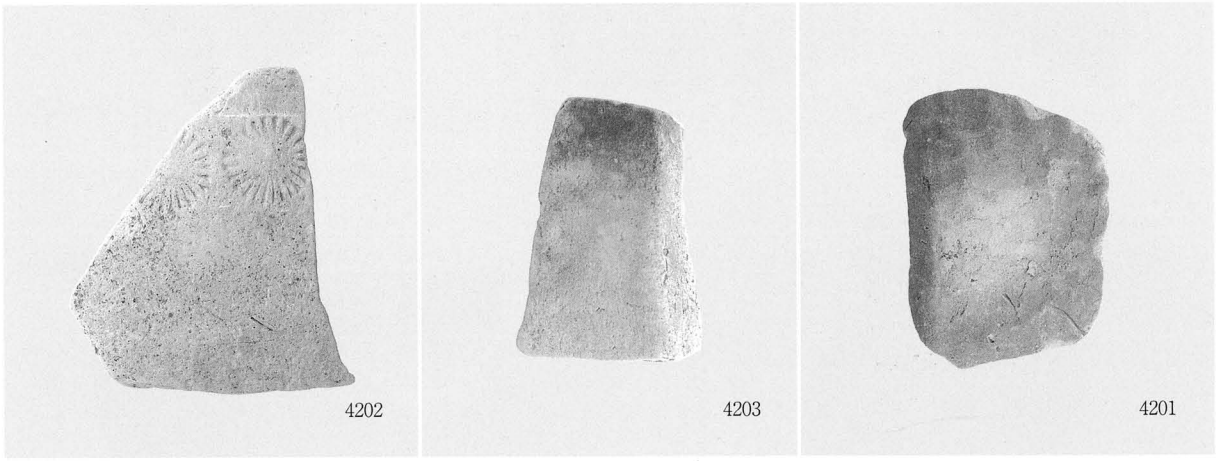

3902


3904

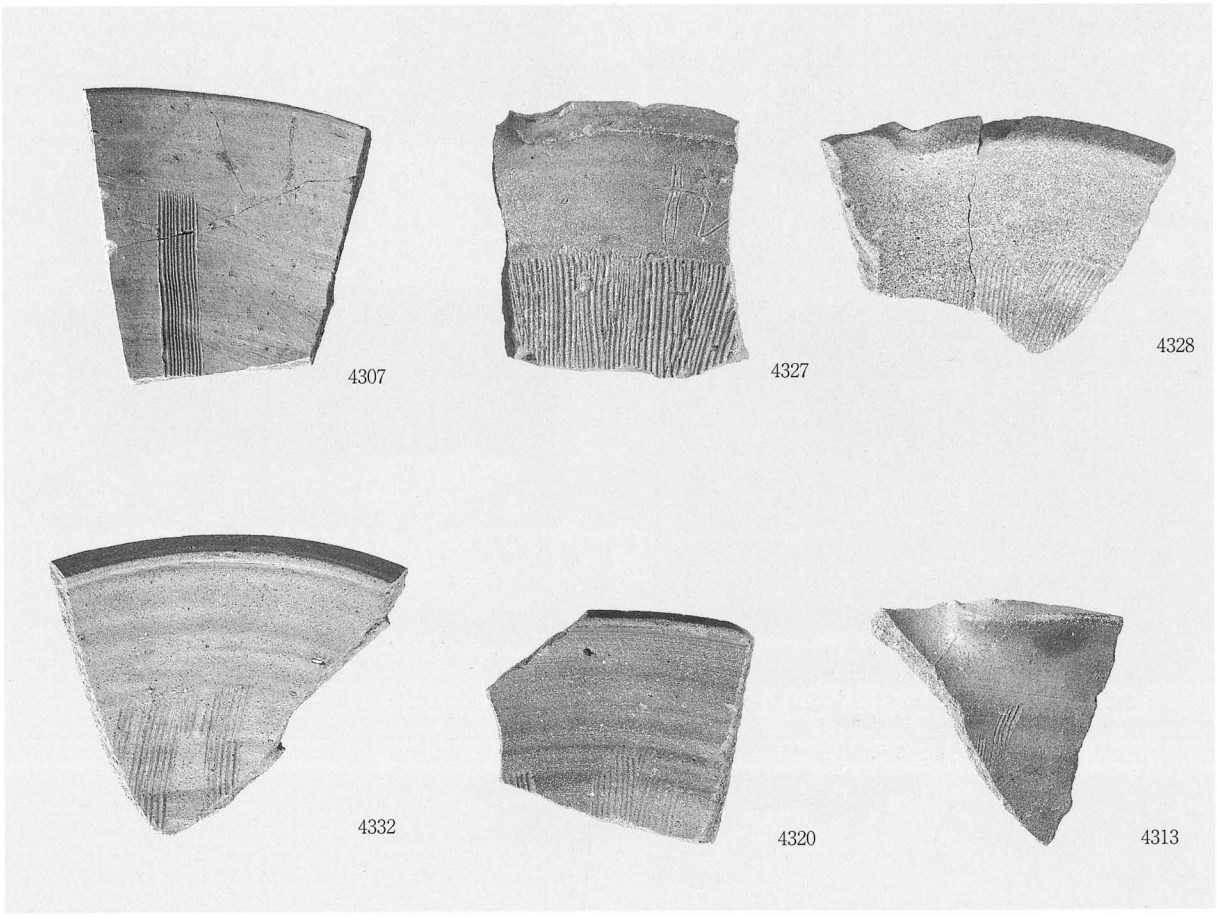
2. 奈良平安時代の土器類　灰釉陶器



1. 中世の土器類　土師器



2. 中世の土器類　瓦質土器

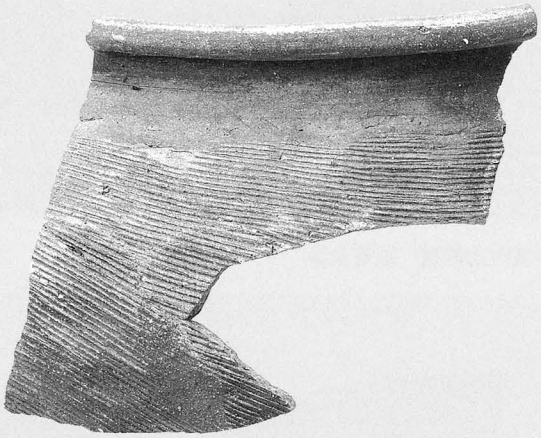


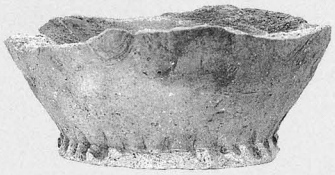
3. 中世の土器類　珠洲

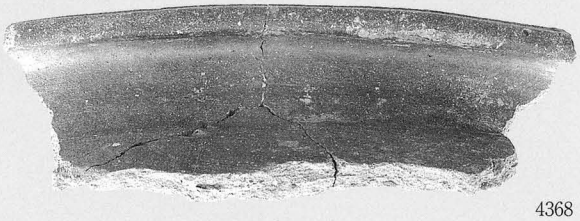
4344

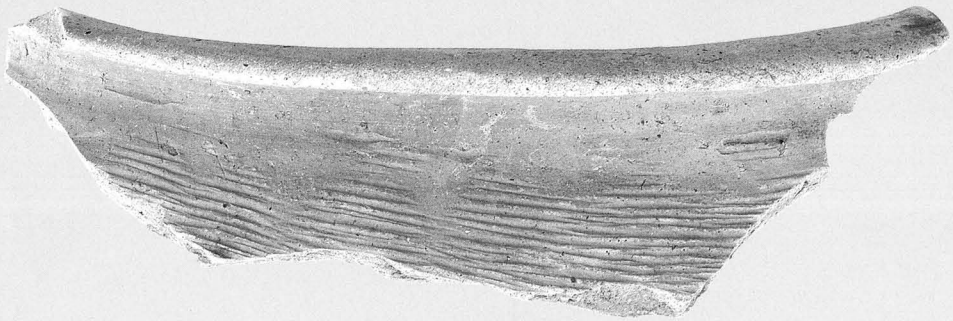
4343

4381

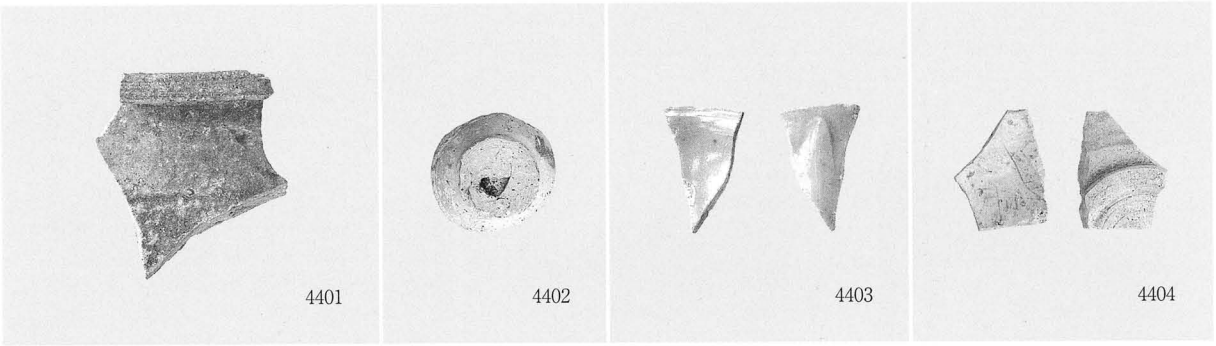

4370


4346

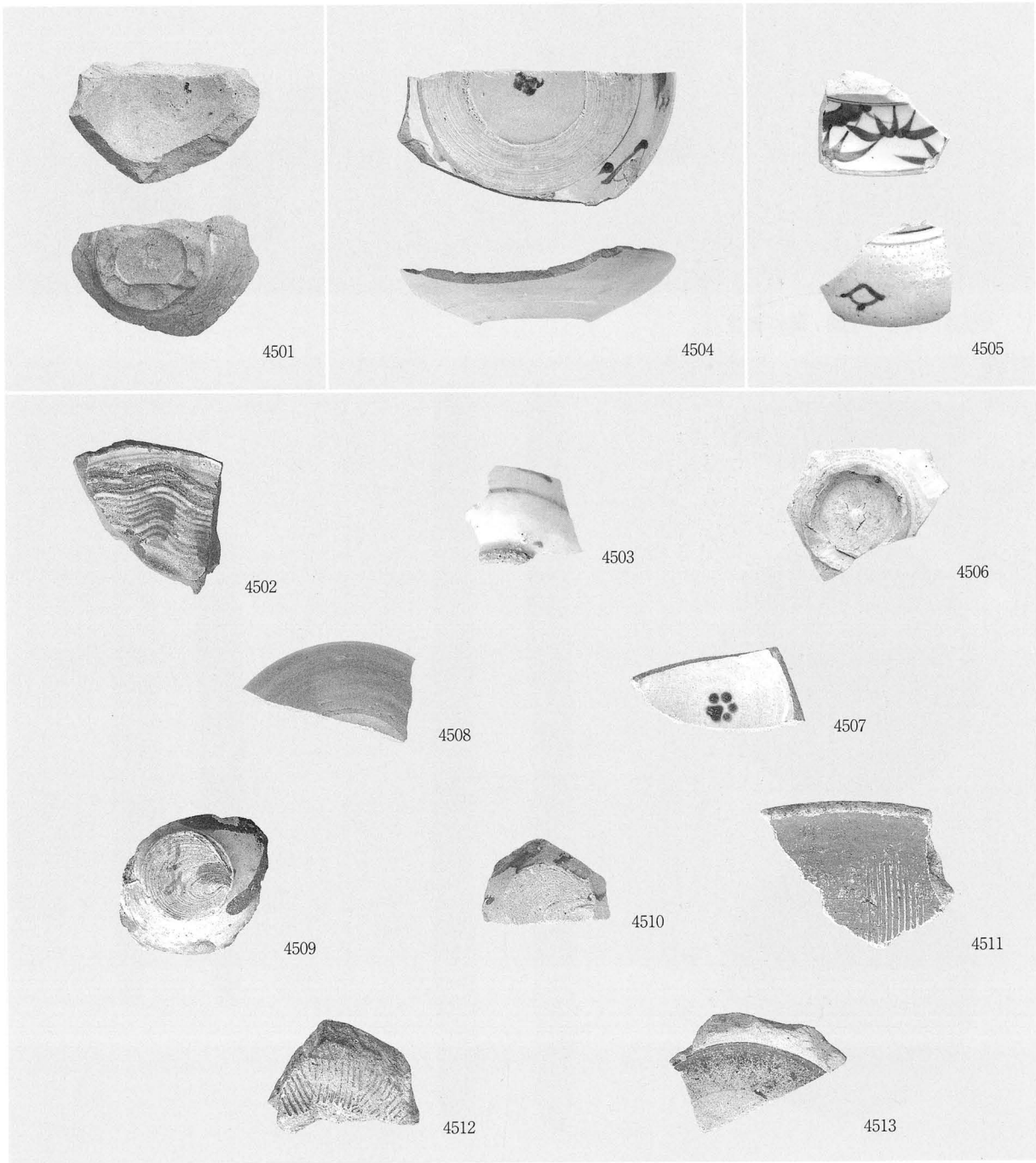

4368


4371

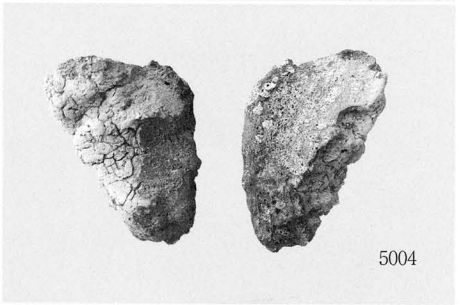
中世の土器類　珠洲



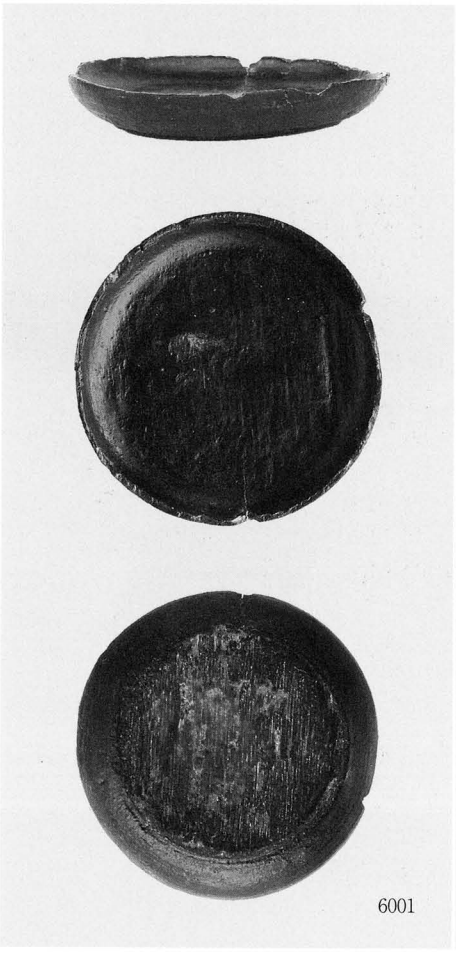
1. 中世の陶磁器類　八尾・瀬戸美濃・青磁・白磁

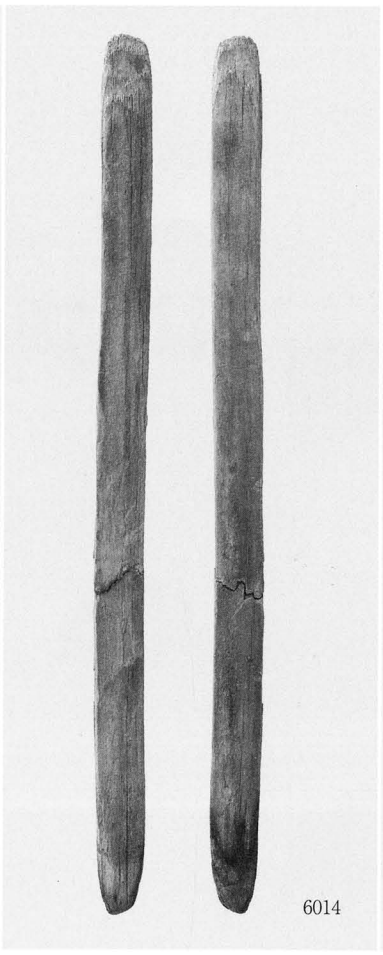


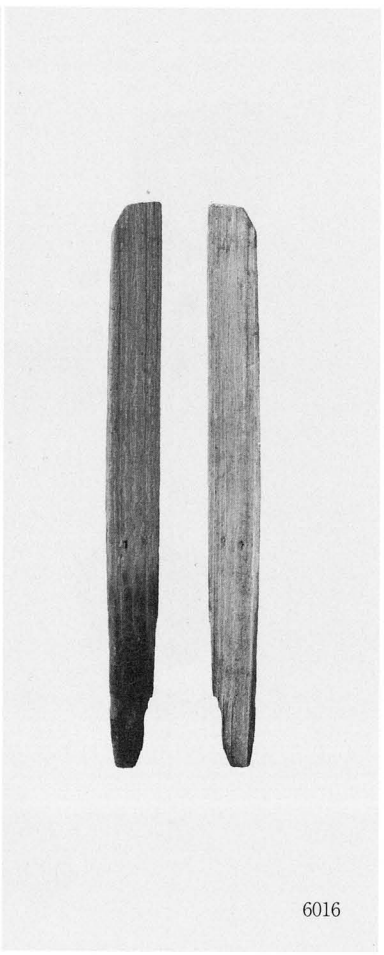
2. 近世の陶磁器類　肥前陶器・肥前磁器・瀬戸美濃・越中瀬戸



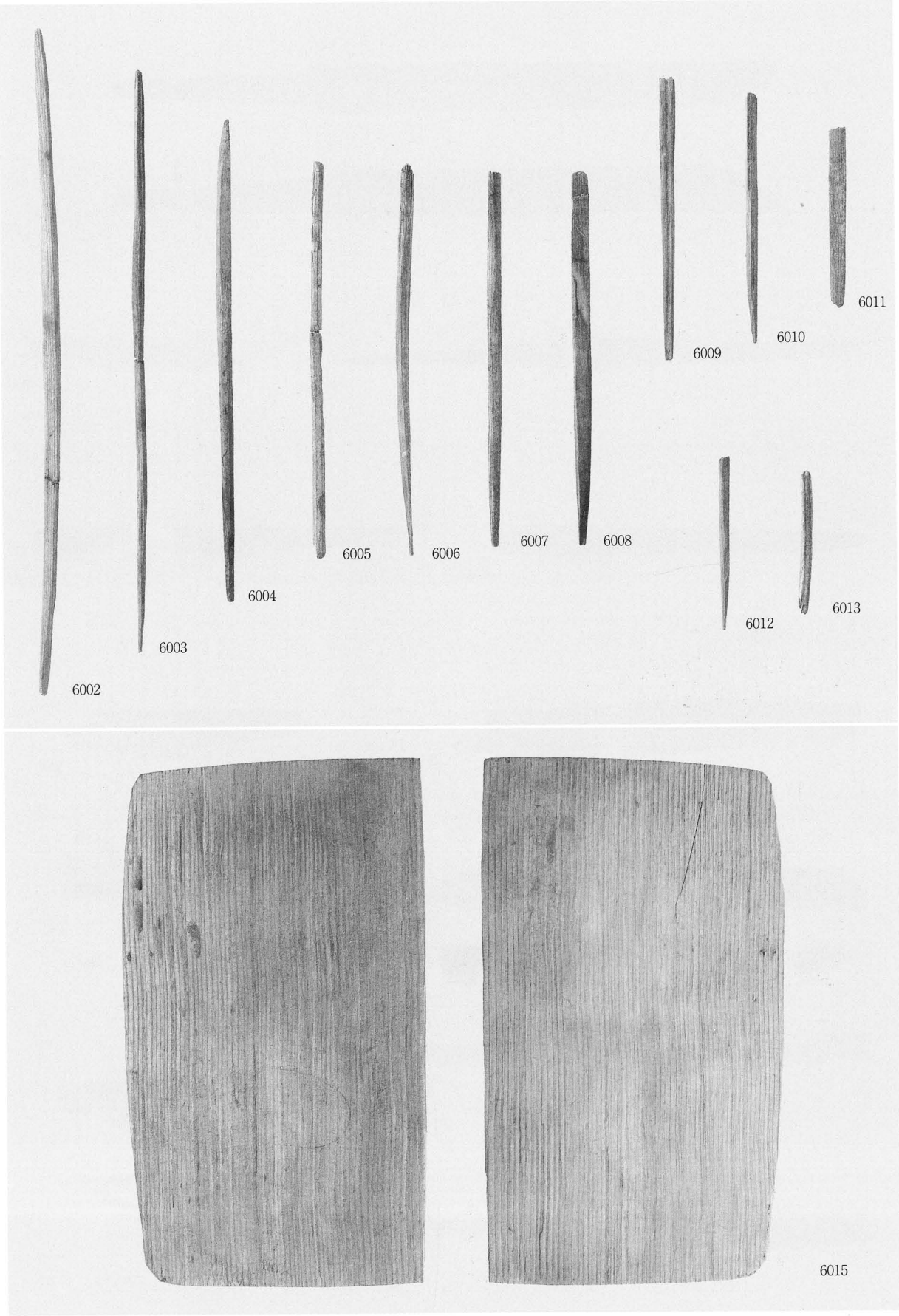
1．土製品　瓦塔・土錘・鞴の羽口



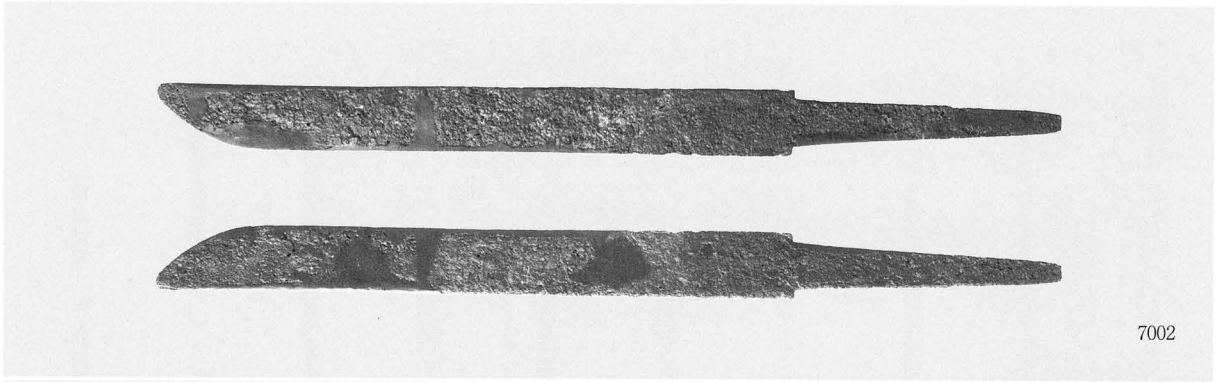




2．木製品　皿・篦状具・木片


6002
6003
6004
6005
6006
6007
6008
6009
6010
6011
6012
6013
6015

木製品　箸・板状品


7002

7003

7006

7004

7005

7007

7008

7009

7010

7011

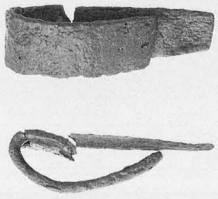
7012

7013

7014

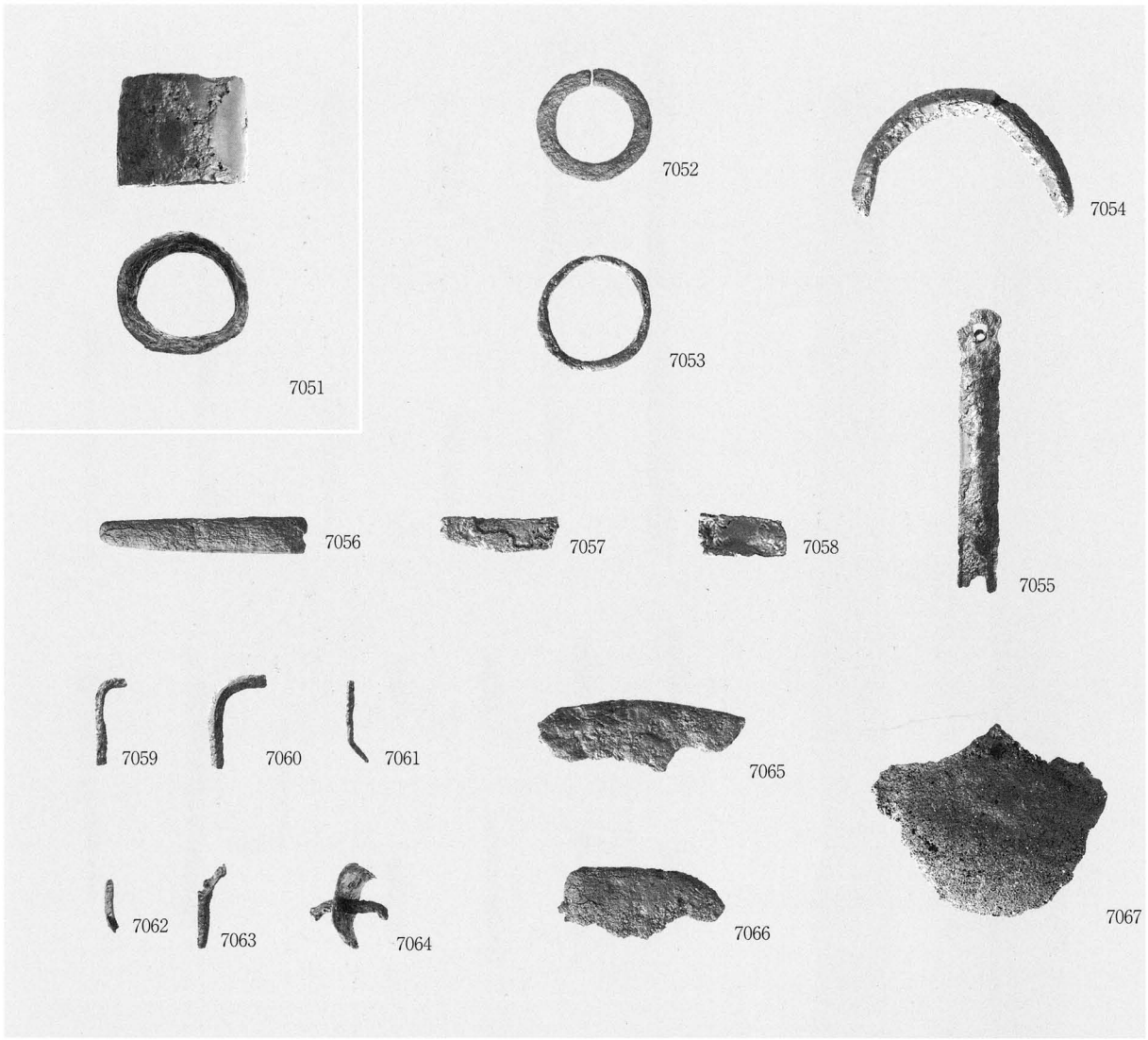
7015

7016

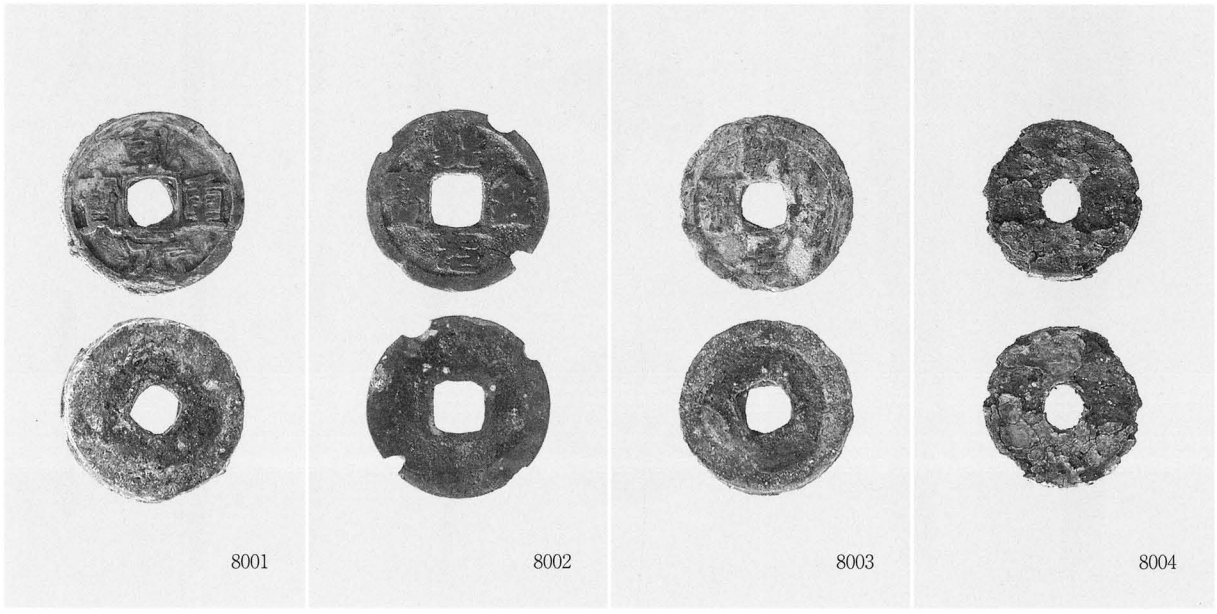

7017

鉄製品　刀子

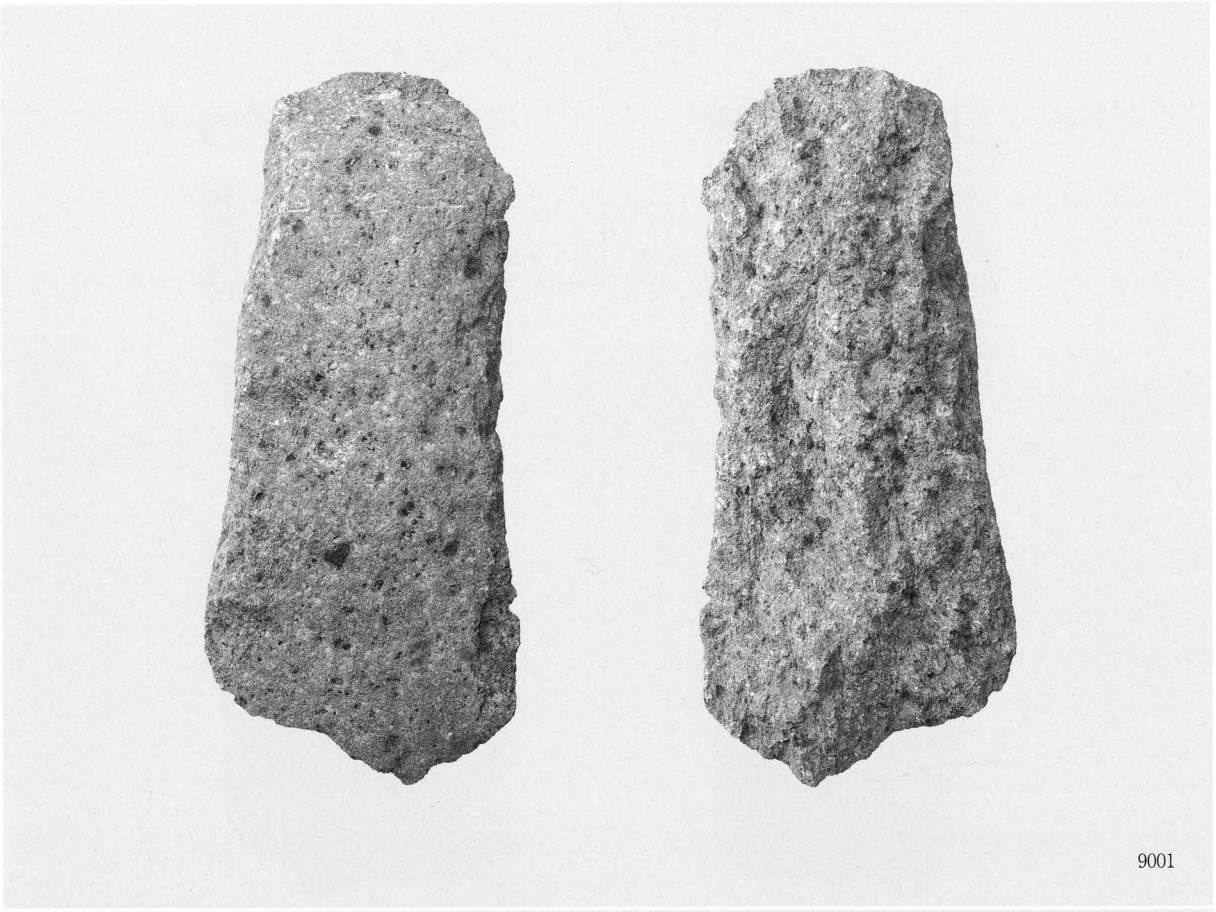
鉄製品　長剣・鉄鏃・紡錘車・鉄釘



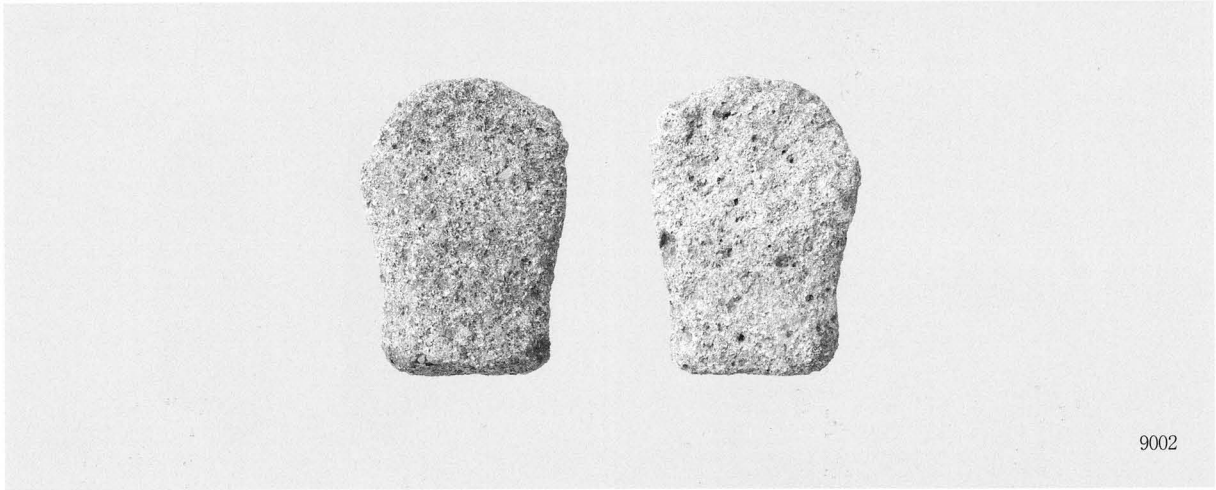
1．鉄製品　用途不明品



2．銅製品　銅銭



9001

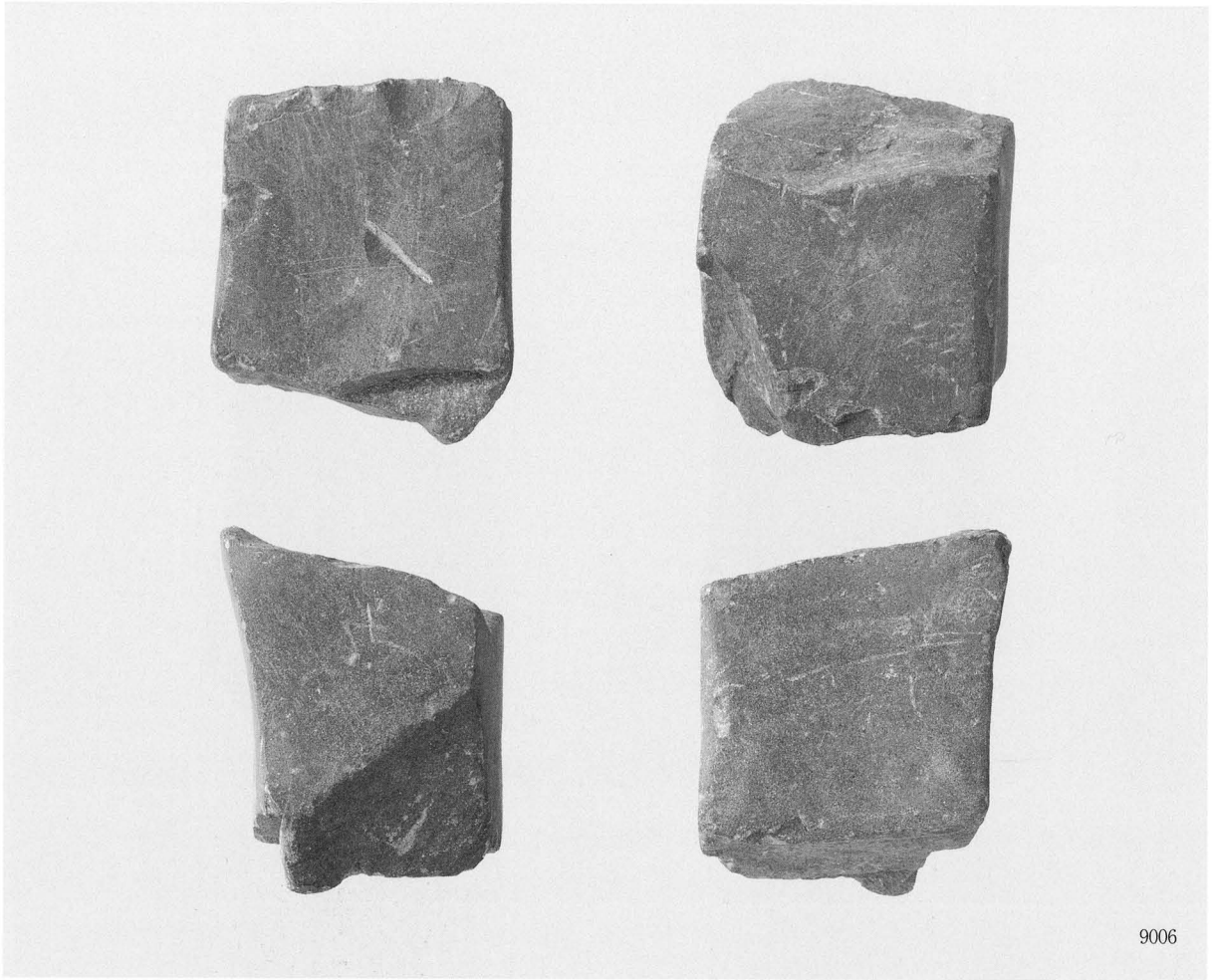


9002

9003

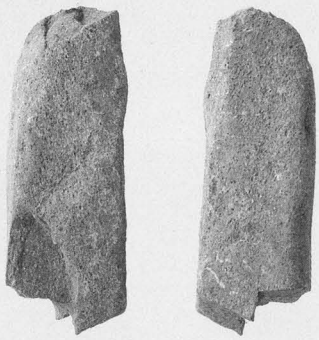
9004

石製品　打製石斧・磨製石斧・勾玉？



9006

9005

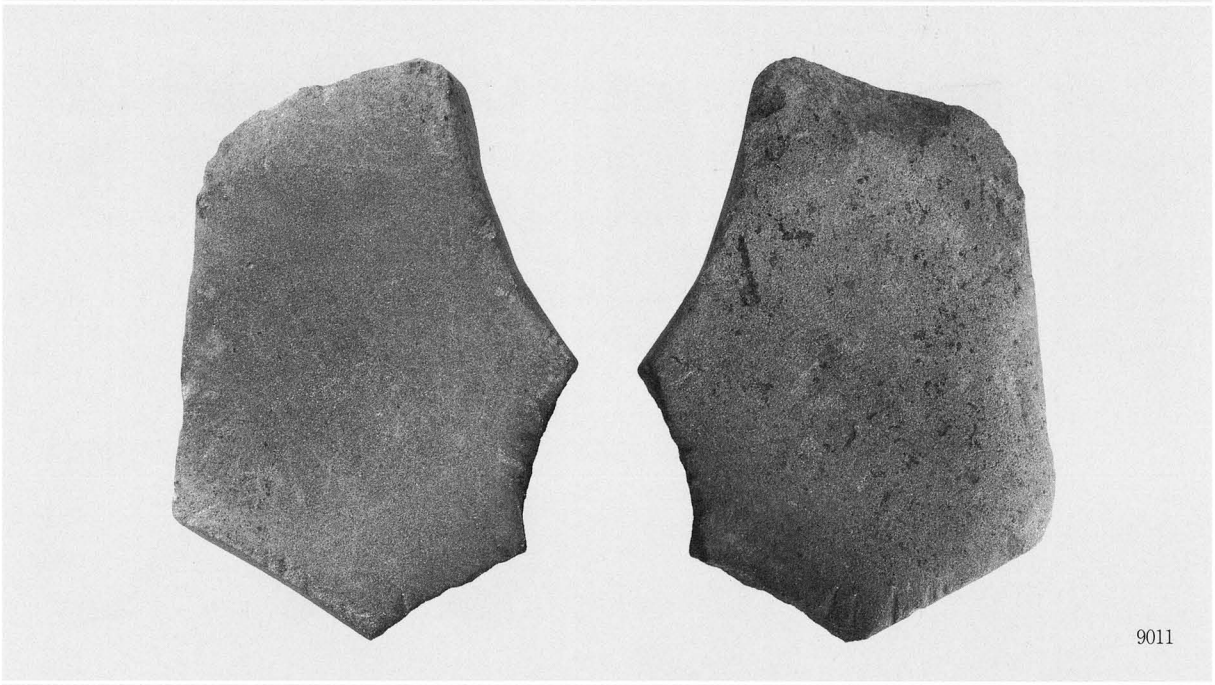


9007

9008

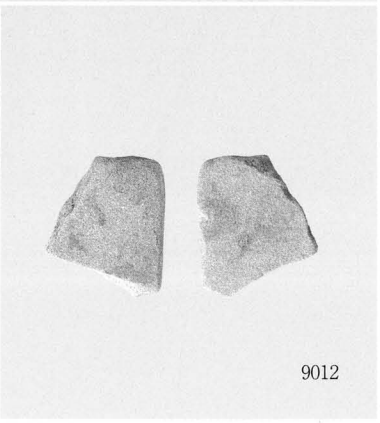
石製品　砥石

9009



9011

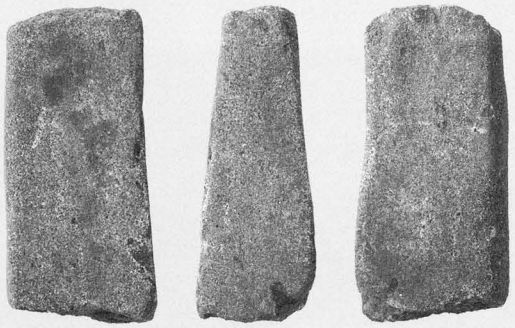
9010



9012

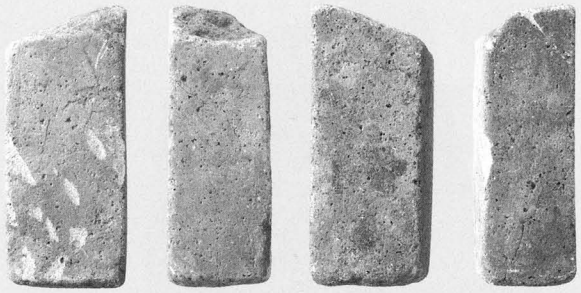
石製品　砥石

図版六四　遺物写真



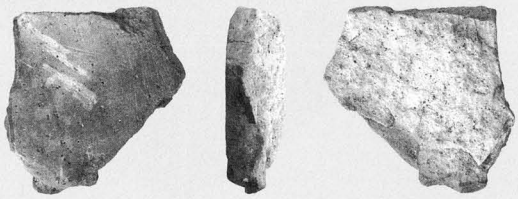
9013

9016



9014

9017



9018

9015

9019

石製品　砥石

高岡市埋蔵文化財調査報告第18冊
常国遺跡調査報告

発行者　高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路７番50号

2008年２月29日

印刷所　平田印刷株式会社
富山県高岡市野村1485番地